

坂出市
障がい者福祉計画および障がい福祉計画
アンケート調査
結果報告書

令和2年8月
坂出市

目次

I	調査概要	1
1	調査目的	1
2	調査設計	1
3	報告書の見方	1
II	調査結果	2
1	回答者について	2
2	対象者について	3
	(1) 性別	3
	(2) 年齢	3
	(3) 居住地区	4
3	心身の状況について	5
	(1) 障がい者手帳について	5
	(2) 障がい区分について	10
	(3) 各種認定等について	12
	(4) 医療について	14
	(5) 支援について	20
4	あなたの生活のことについて	24
	(1) 同居人について	24
	(2) 暮らしの場所について	26
	(3) 日中の過ごし方について	30
	(4) 団体活動について	32
	(5) 暮らしの中で大事にしていること	34
	(6) 自由時間の過ごし方について	36
5	福祉サービスについて	42
	(1) 各種サービスの利用状況と利用希望	42
	(2) 情報の入手について	50
	(3) サービスの利用について	54
6	仕事などについて	58
	(1) 世帯収入について	58
	(2) 経済状況について	60
	(3) 就労について	61
	(4) 就労支援について	76
7	障がい児への療育や教育について	78
	(1) 通所・通学をされていて感じる事	78
	(2) 療育や教育について	80
	(3) 発達支援について	83
8	生活全般について	85
	(1) 困りごとや相談について	85
	(2) 外出について	91

(3) 障がい者差別について	96
(4) 成年後見制度について	101
(5) 近所づきあいについて	105
(6) 災害時の行動について	108
(7) 地域共生社会について	112
(8) 障がい者にとって住みよいまちづくり	113
9 自由記述	115

I 調査概要

1 調査目的

市民の福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識、意向等を把握し、計画策定や施策推進に役立てるための基礎資料とするために実施するものです。

2 調査設計

(1) 調査対象

調査対象者	抽出方法
身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳の所持者	無作為抽出

(2) 実施期間 令和2年6月19日～令和2年7月6日

(3) 調査方法 郵送による配布・回収

(4) 配布・回収状況

配布数	有効回収数	有効回答率
1,400	789	56.4%

※参考：H26調査での回収率は46.9%

3 報告書の見方

- (1) 基数となるべき実数は、(n=〇〇)と表示し、各比率はすべてを100%として百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのために、百分率の合計が100%にならないことがあります。
- (2) 質問文の中に、複数回答が可能な質問がありますが、その場合、回答の合計は調査数を上回る場合があります。
- (3) 図中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合があります。また、グラフ中の数値が0.0%の項目は表示を省略しています。
- (4) 身体・知的・精神の障がい種別クロス集計では、手帳の複数所持者や手帳所持不明者も含まれており、各障がい者別の合計値は全体の合計値と合いません。

Ⅱ 調査結果

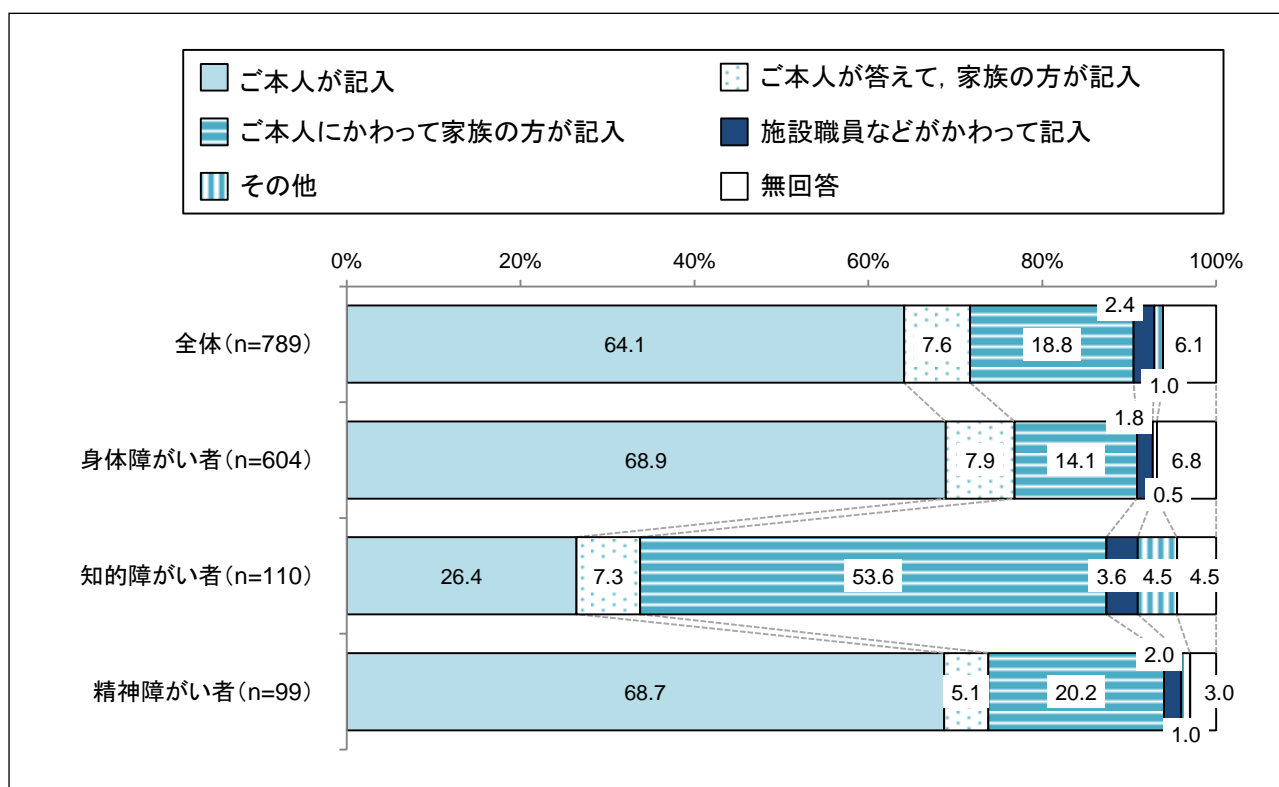
1 回答者について

調査に回答されるのはどなたですか。(1つに〇)

調査の回答者は、「ご本人が記入」(64.1%)が過半数を占めています。次いで、「ご本人にかわって家族の方が記入」(18.8%),「ご本人が答えて、家族の方が記入」(7.6%)と続いています。

障がい別にみると、身体障がい者、精神障がい者では、「ご本人が記入」が過半数を占めていますが、知的障がい者では、「ご本人にかわって家族の方が記入」が過半数を占めています。

図表 1 回答者について (全体, 障がい別)



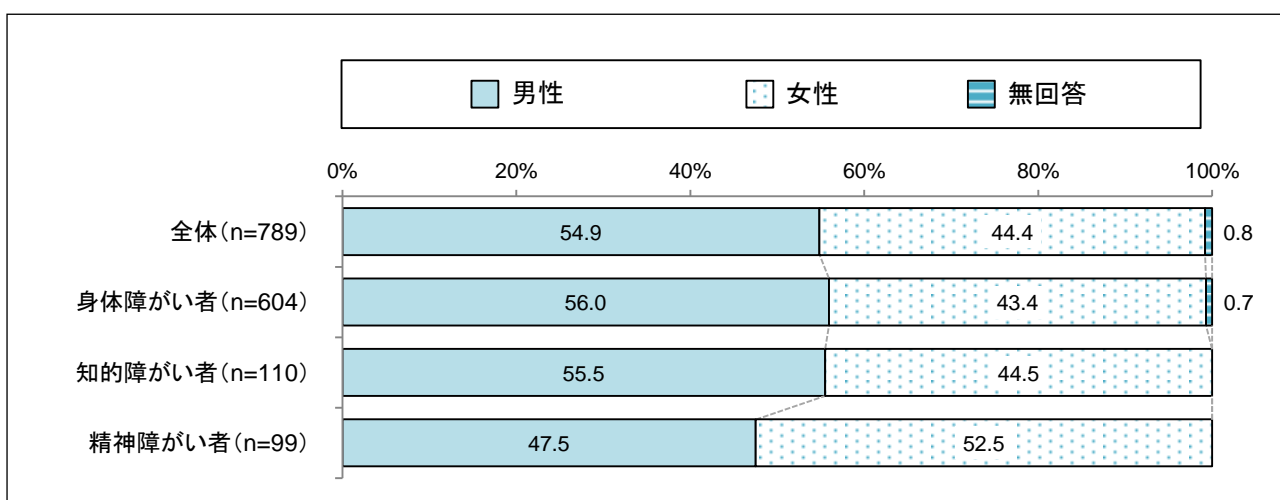
2 対象者について

(1) 性別

問1 あなたの性別を、おうかがいします。(1つに〇)

対象者の男女比をみると、男性が多くなっています。また、身体障がい者、知的障がい者でも同様の傾向がみられます。一方、精神障がい者では女性が多く、男女比が逆転しています。

図表 2 本人の性別 (全体, 障がい別)

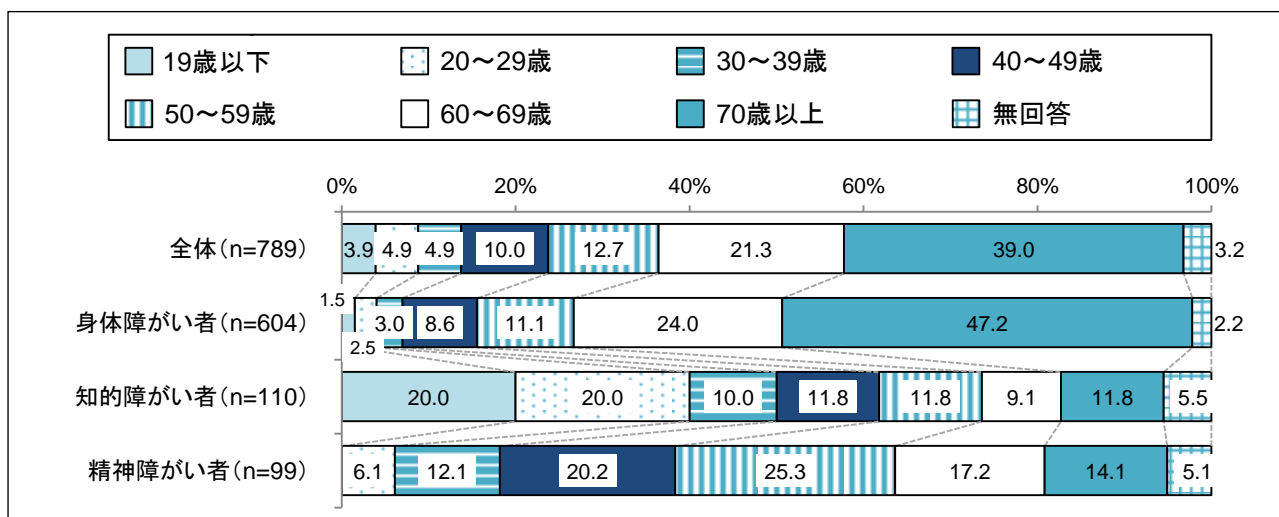


(2) 年齢

問2 あなたの年齢は、満何歳ですか。(令和2年6月1日現在)

年齢をみると、全体及び身体障がい者では、「70歳以上」が最も高くなっています。一方、知的障がい者では、29歳以下が4割を占め、精神障がい者では、「50～59歳」が最も高くなっています。

図表 3 本人の年齢 (全体, 障がい別)

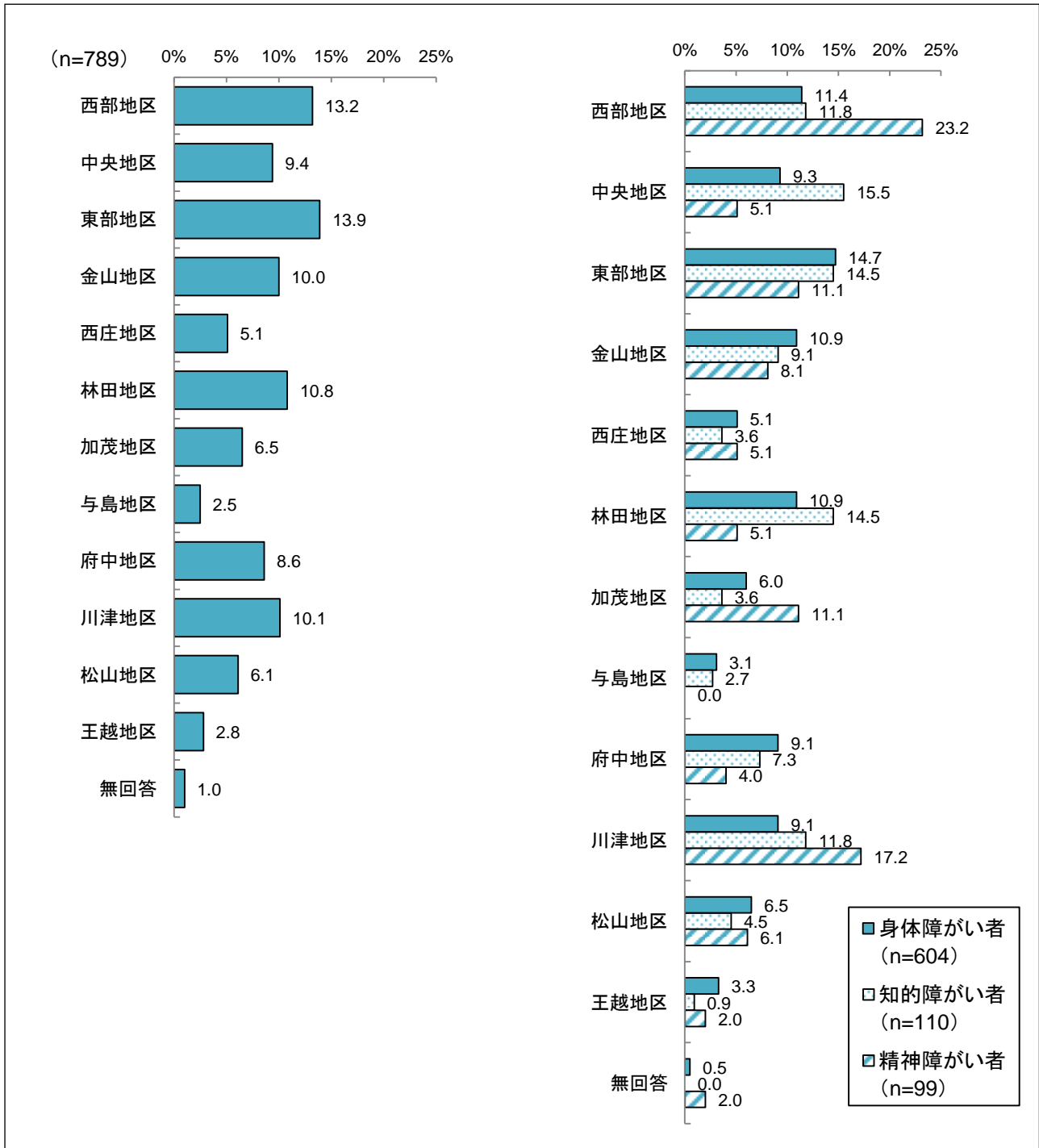


(3) 居住地区

問3 あなたのお住まいはどちらの地区ですか。(1つに○)

居住地区をみると、「東部地区」(13.9%)が最も高く、次いで「西部地区」(13.2%),「林田地区」(10.8%)と続いています。

図表 4 居住地区 (全体, 障がい別)



3 心身の状況について

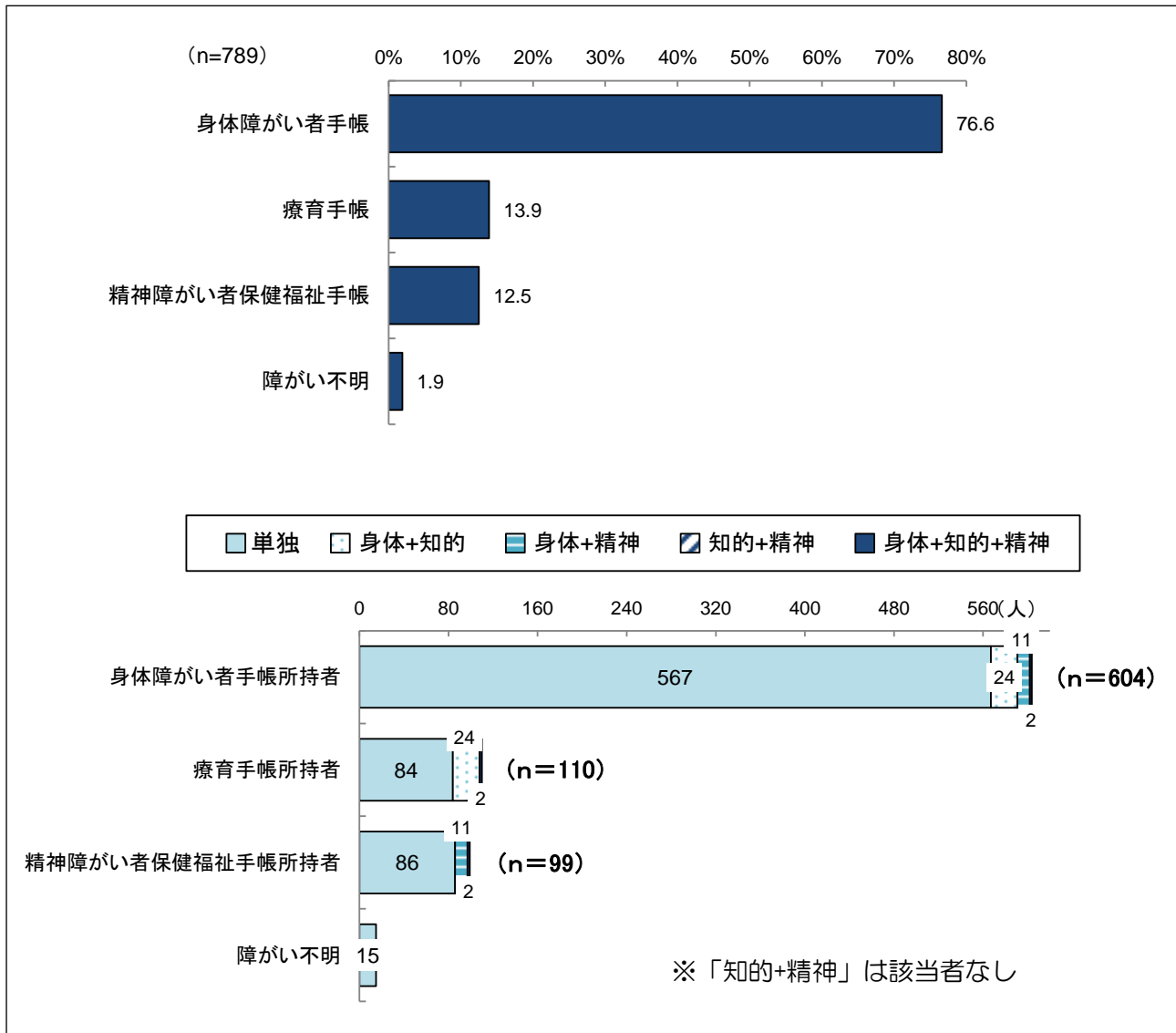
(1) 障がい者手帳について

問4 あなたは次の手帳をお持ちですか。お持ちの手帳の種類に○をつけてください。さらにお持ちの場合は手帳の等級もお答えください。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

障がい者手帳の所持状況をみると、身体障がい者手帳所持者が604人(76.6%)、療育手帳所持者が110人(13.9%)、精神障がい者保健福祉手帳所持者が99人(12.5%)となっています。

図表 5 障がい者手帳の所持状況 (全体)



「※身体障がい者手帳について」

【全体の傾向】

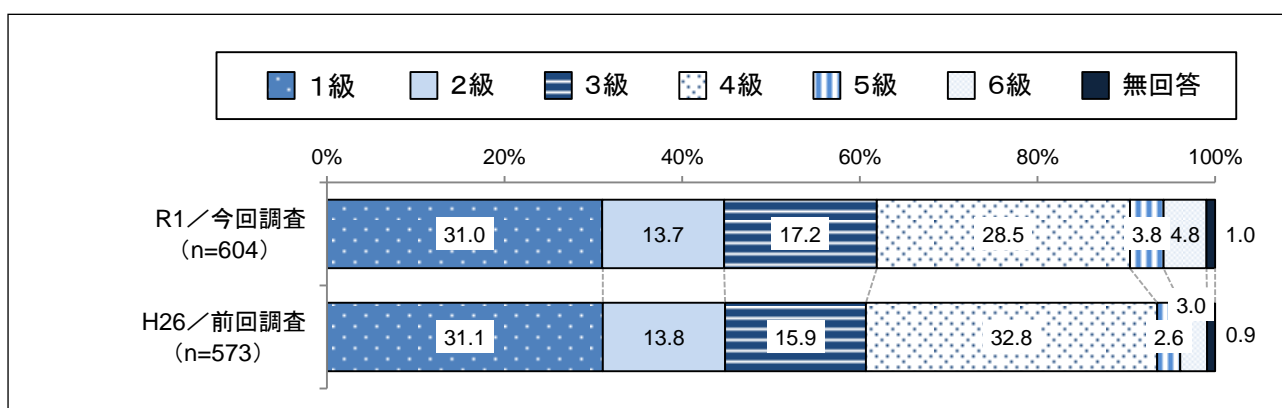
身体障がい者手帳所持者では、「1級」(31.0%)が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「3級」所持者が1.3ポイント増加し、「4級」所持者が4.3ポイント減少しています。

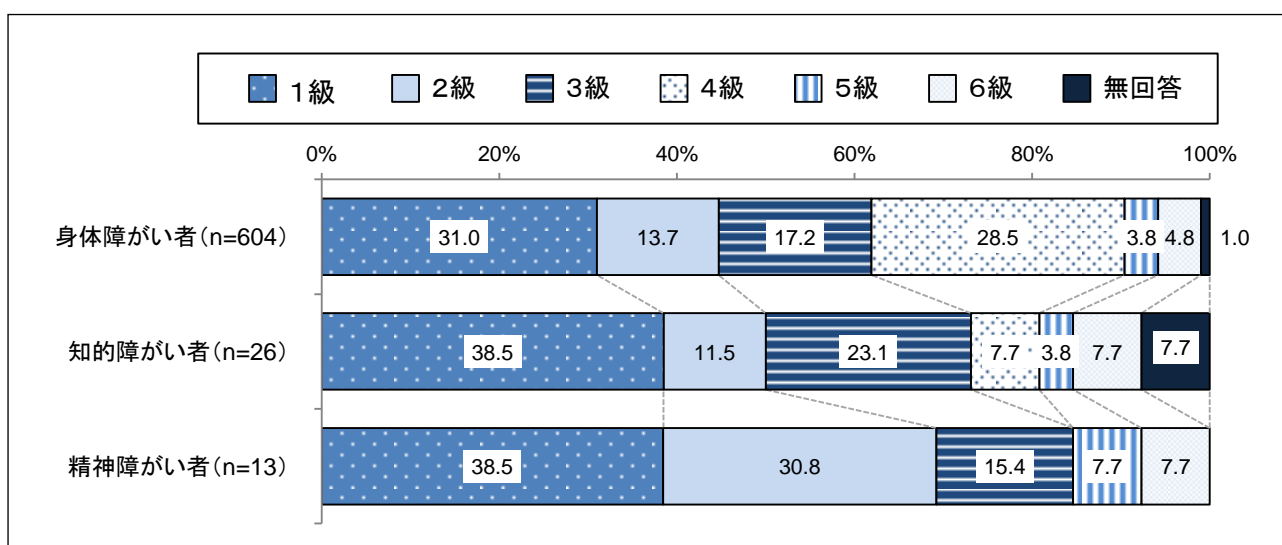
【属性別の傾向】

障がい別にみると、知的障がい者及び精神障がい者で身体障がい者手帳を所持している人では、「1級」所持者がそれぞれ最も高くなっています。また、精神障がい者では「2級」所持者も3割を超えています。

図表 6 身体障がい者手帳の所持状況（全体，前回比較）



図表 7 身体障がい者手帳の所持状況（障がい別）



「※療育手帳について」

【全体の傾向】

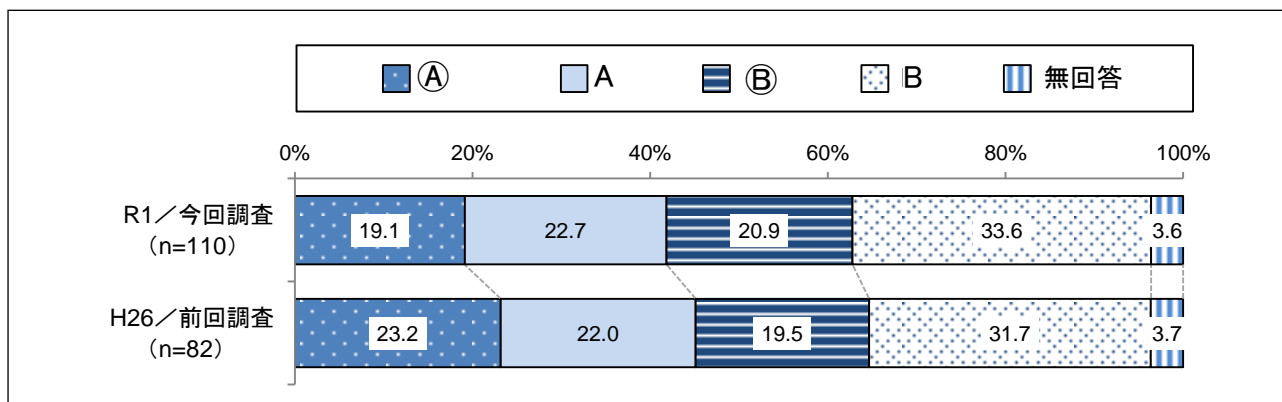
療育手帳所持者では、「B」(33.6%)が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「A」所持者が4.1ポイント減少し、「A」、「B」所持者は増加しています。

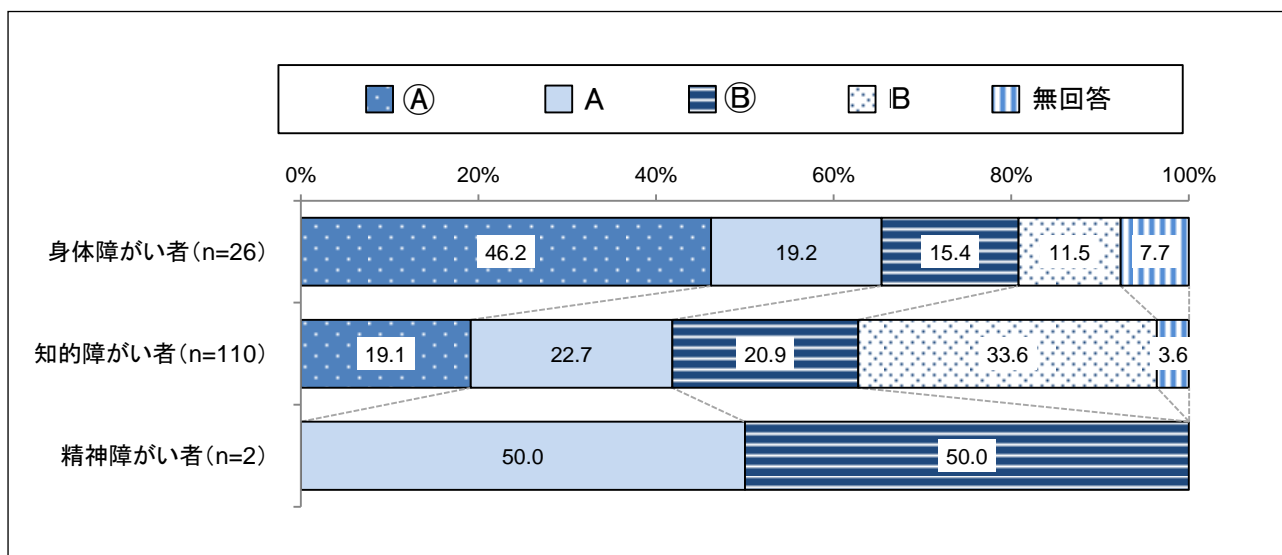
【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者で療育手帳を所持している人では、「A」(46.2%)が最も高くなっています。また、精神障がい者では「A」、「B」所持者がともに5割を占めています。

図表 8 療育手帳の所持状況（全体，前回比較）



図表 9 療育手帳の所持状況（障がい別）



「※精神障がい者保健福祉手帳について」

【全体の傾向】

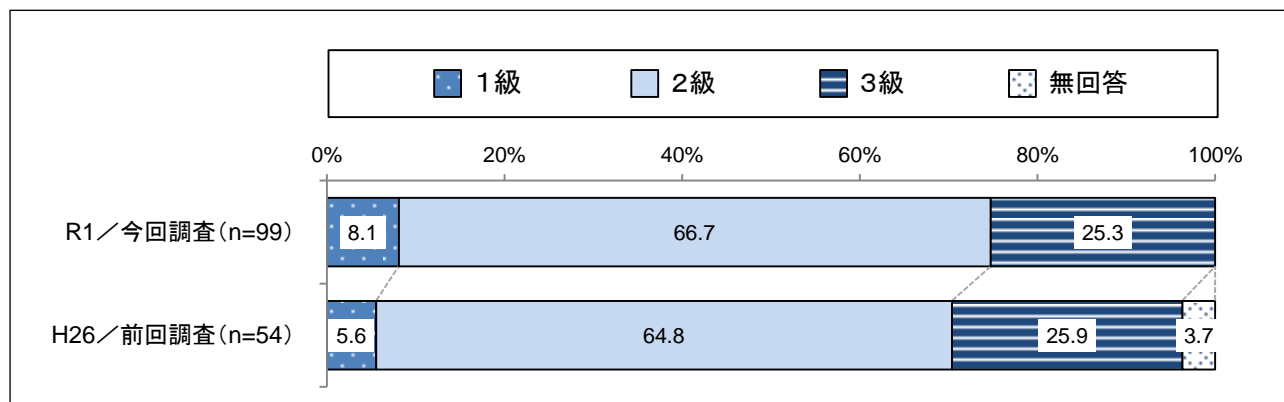
精神障がい者保健福祉手帳所持者では、「2級」(66.7%)が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「1級」、「2級」所持者は増加していますが、「3級」所持者は0.6ポイント減少しています。

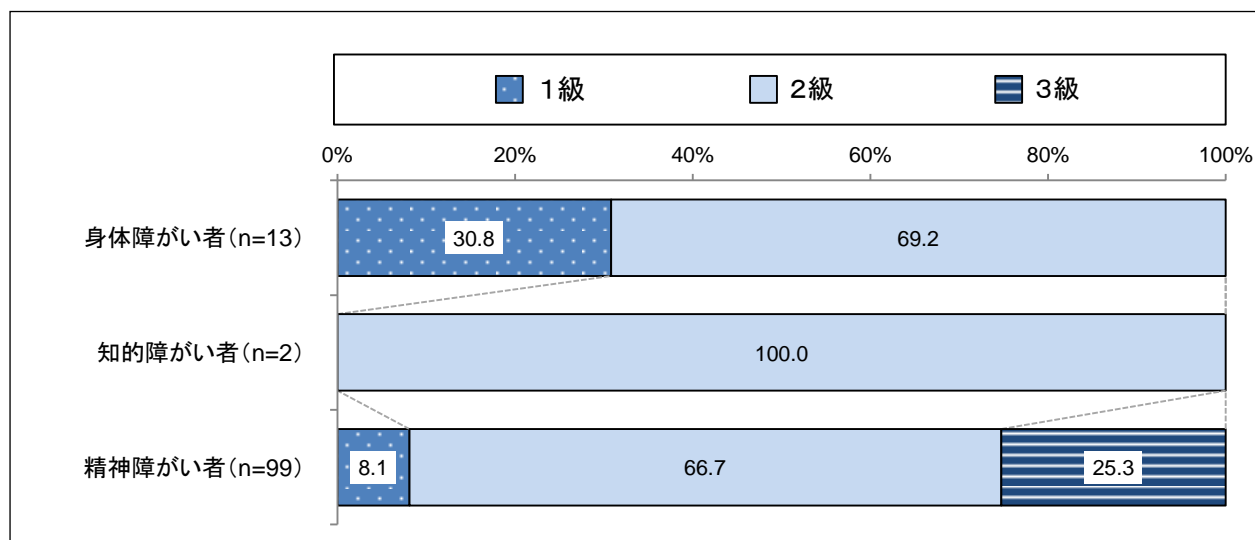
【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者及び知的障がい者で精神障がい者保健福祉手帳を所持している人では、「2級」が最も高くなっています。また、身体障がい者では「1級」所持者も3割を超えています。

図表 10 精神障がい者保健福祉手帳の所持状況（全体、前回比較）



図表 11 精神障がい者保健福祉手帳の所持状況（障がい別）



※身体障がい者手帳をお持ちの方

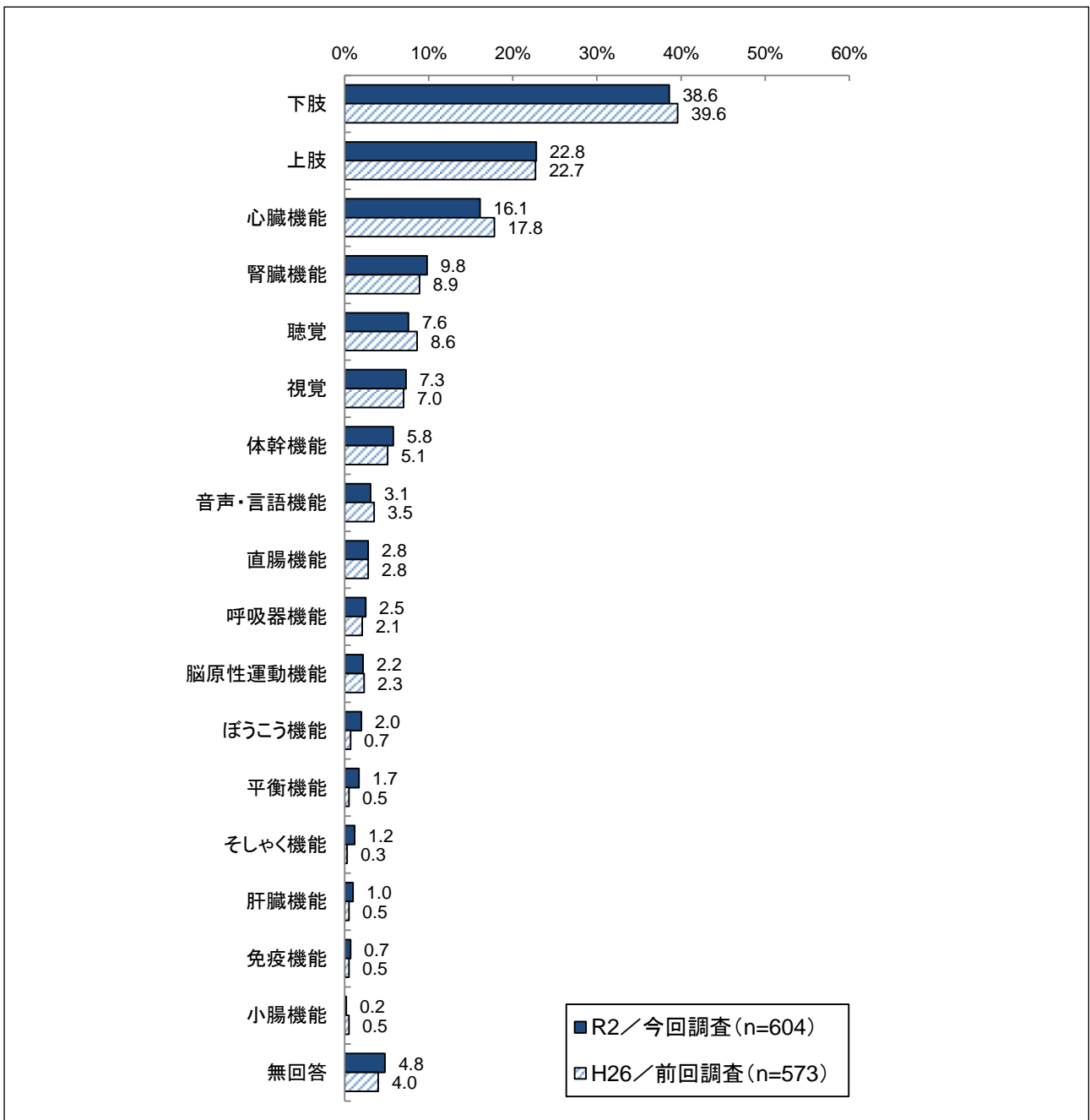
問5 身体障がい者手帳に記載された障がいの種類・部位は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

障がいの部位をみると、「下肢」(38.6%)が最も多く、次いで「上肢」(22.8%),「心臓機能」(16.1%),「腎臓機能」(9.8%),「聴覚」(7.6%)と続いています。

前回調査と比較すると、数字の増減はあるものの、あまり大きな違いはみられません。

図表 12 障がいの種類・部位について (全体, 前回比較/複数回答)



(2) 障がい区分について

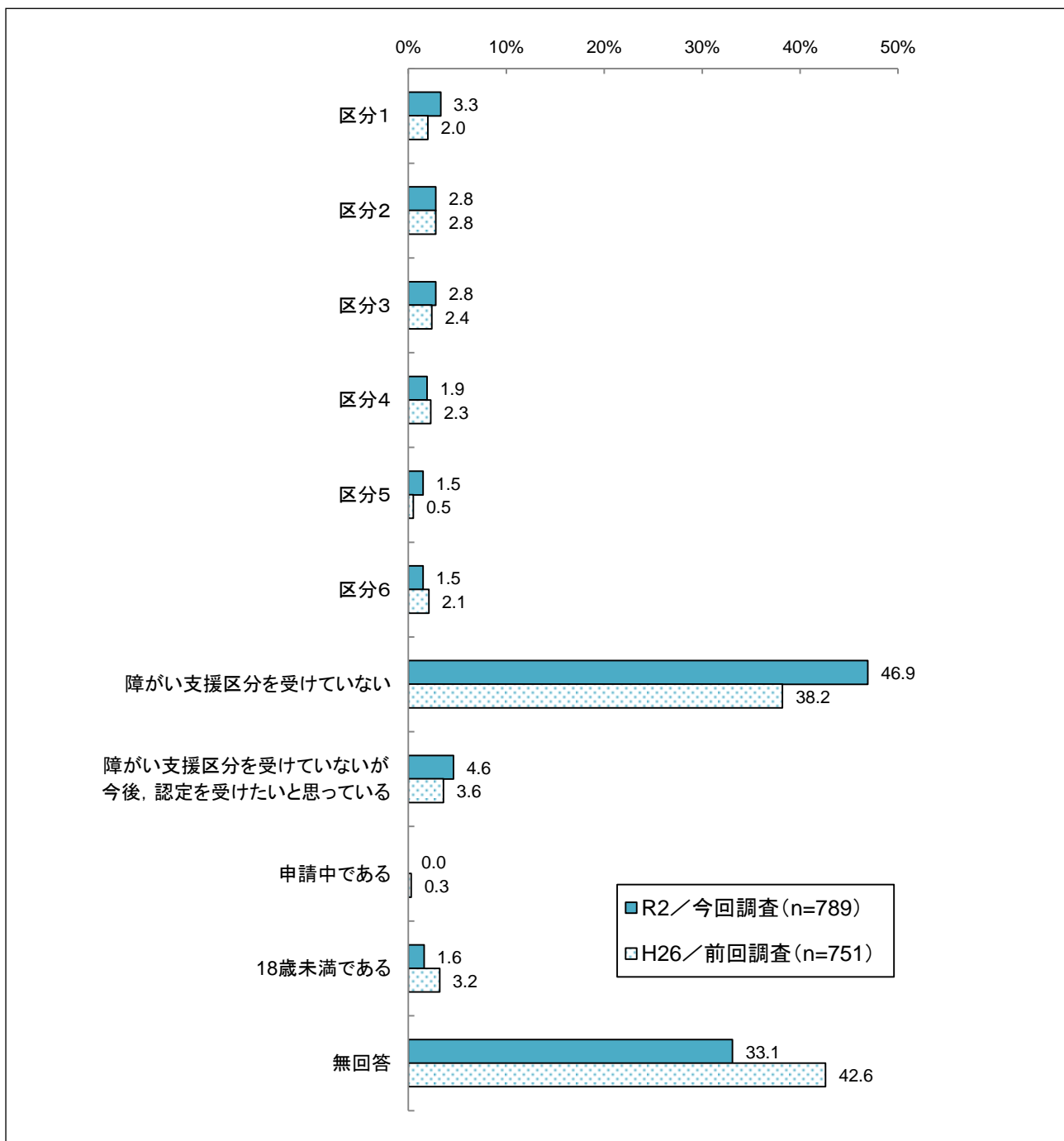
問6 あなたは、障がい支援区分認定を受けていますか。(1つに○)

【全体の傾向】

障がい区分認定の状況を見ると、「障がい支援区分を受けていない」(46.9%)が最も高く、その割合は突出しています。一方、区分認定を受けている人では「区分1」(3.3%)が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「障がい支援区分を受けていない」割合が8.7ポイント増加しています。また、認定を受けたいと思っている人も、僅かですが増加しています。

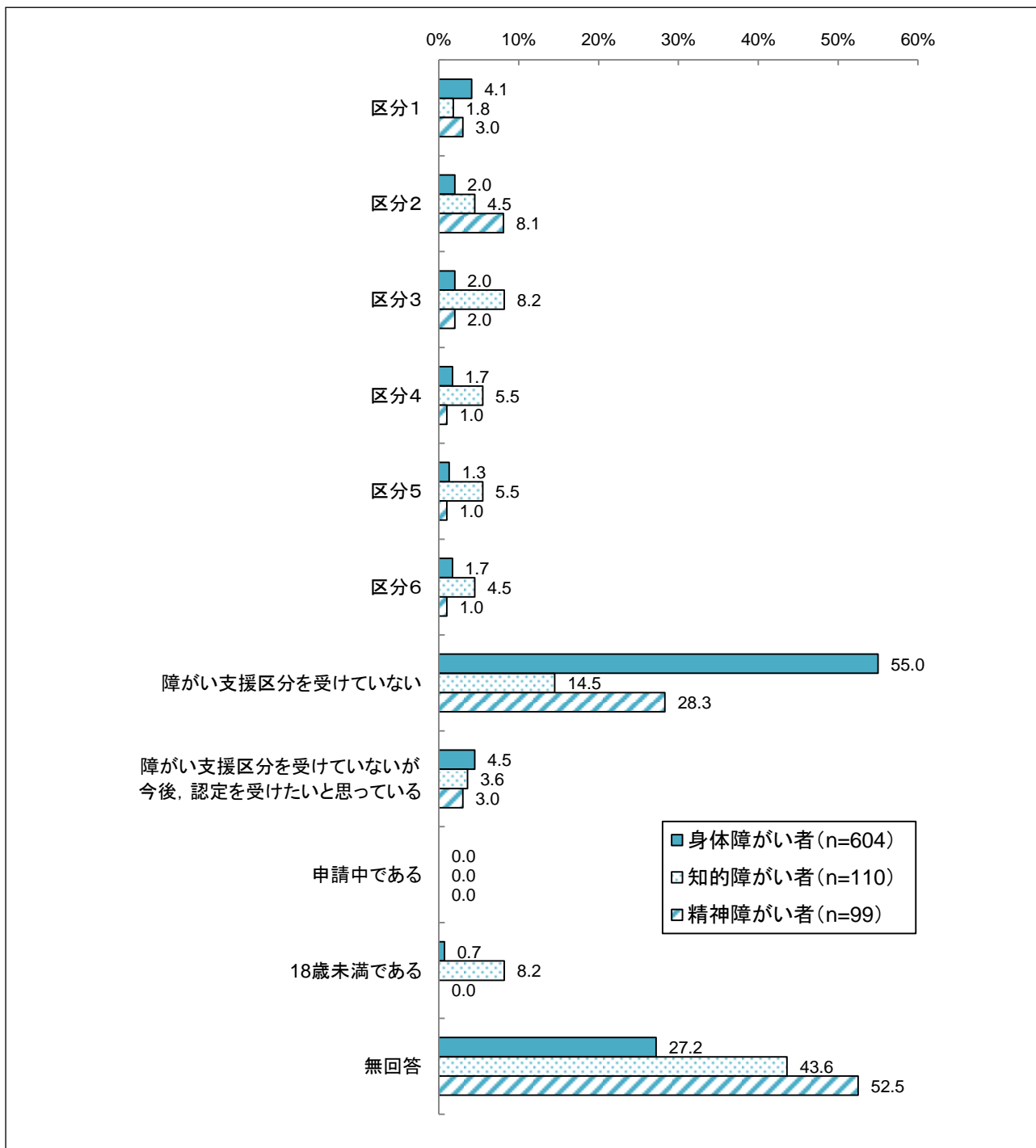
図表 13 障がい支援区分認定（全体、前回比較）



【属性別の傾向】

障がい別にみると、障がいの種類に関わらず「障がい支援区分を受けていない」割合が最も高くなっており、特に身体障がい者でその割合が突出しています。一方、区分認定を受けている人では、身体障がい者で「区分1」、知的障がい者で「区分3」、精神障がい者で「区分2」がそれぞれ最も高くなっています。

図表 14 障がい支援区分認定（障がい別）



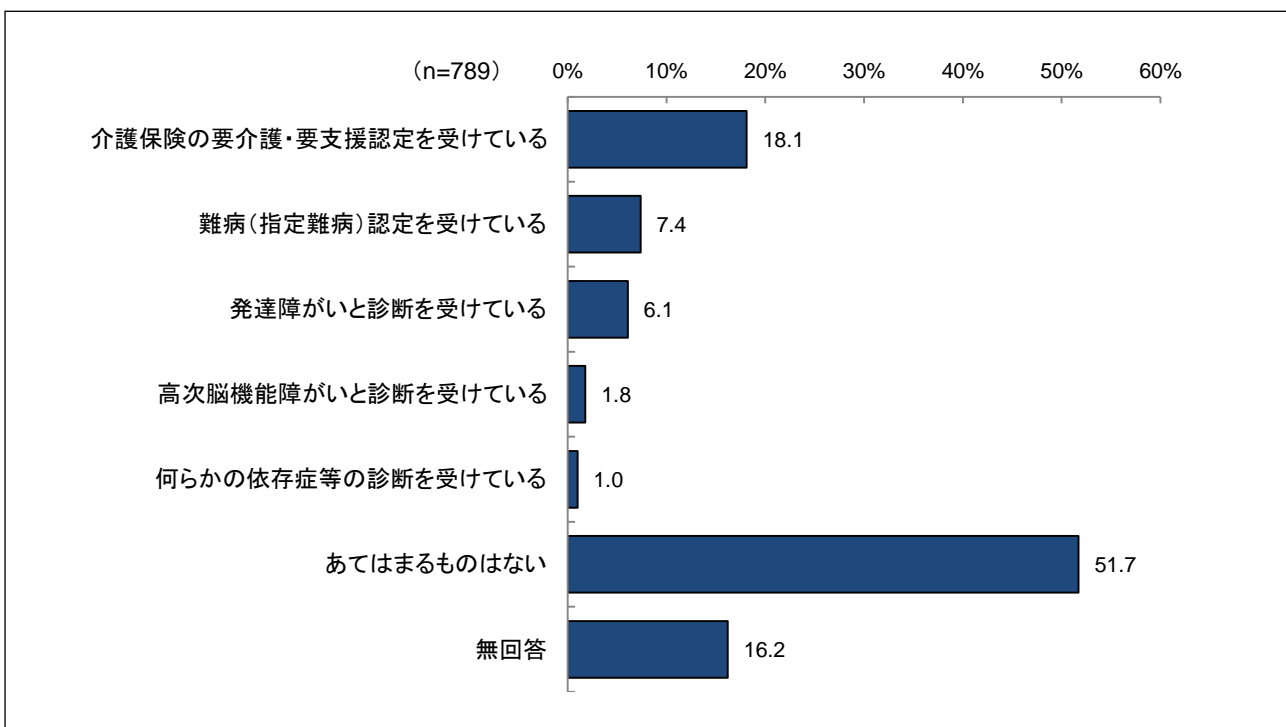
(3) 各種認定等について

問7 あなたは、下記のどちらにあてはまりますか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

各種認定状況等をみると、「介護保険の要介護・要支援認定を受けている」(18.1%)が最も多く、次いで「難病(指定難病)認定を受けている」(7.4%)、「発達障がいと診断を受けている」(6.1%)、「高次脳機能障がいと診断を受けている」(1.8%)、「何らかの依存症等の診断を受けている」(1.0%)と続いています。また、「あてはまるものはない」は51.7%と突出しています。

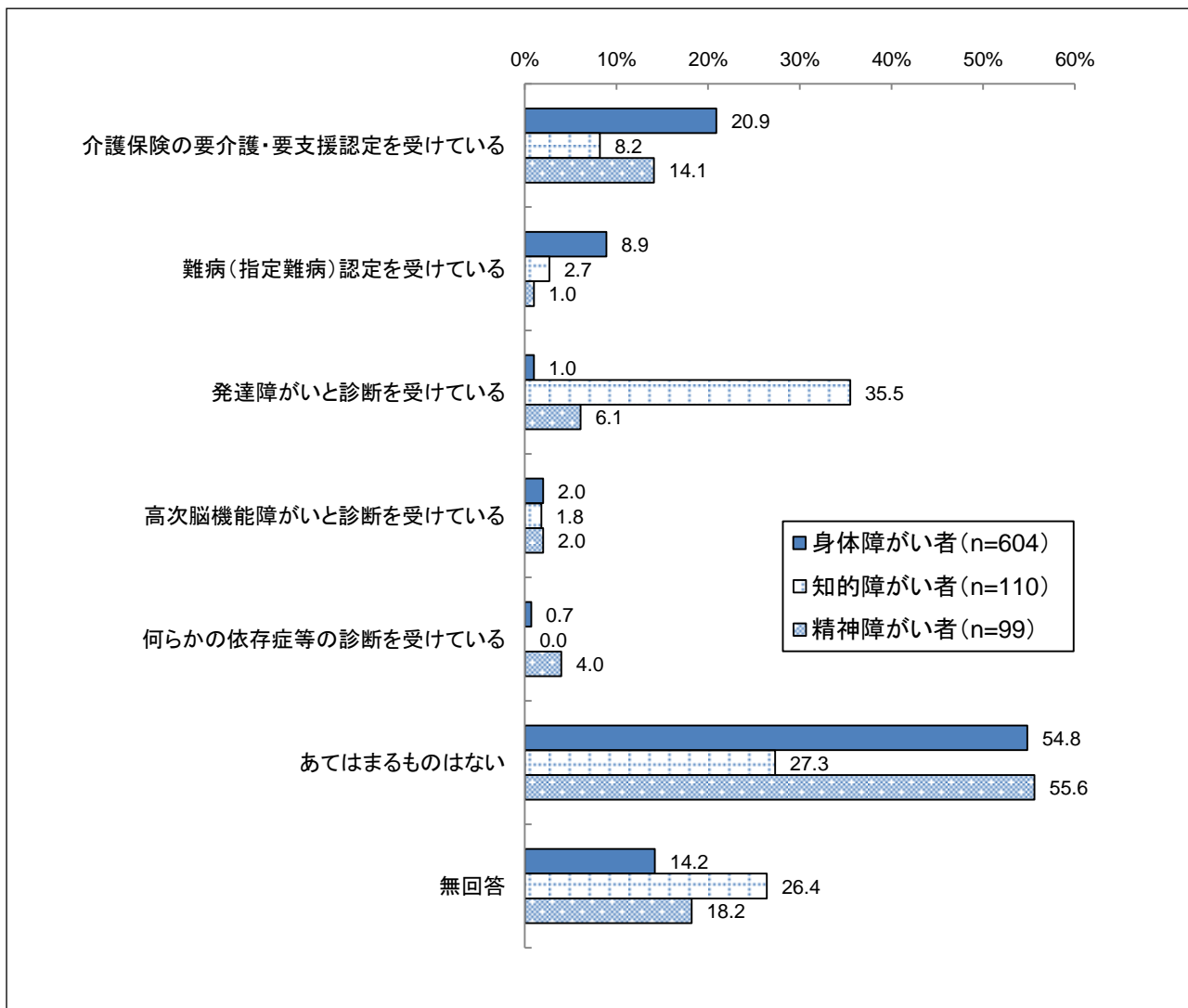
図表 15 各種認定等について (全体/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者及び精神障がい者では「介護保険の要介護・要支援認定を受けている」、知的障がい者では「発達障がいと診断を受けている」がそれぞれ最も多くなっています。

図表 16 各種認定等について（障がい別／複数回答）



(4) 医療について

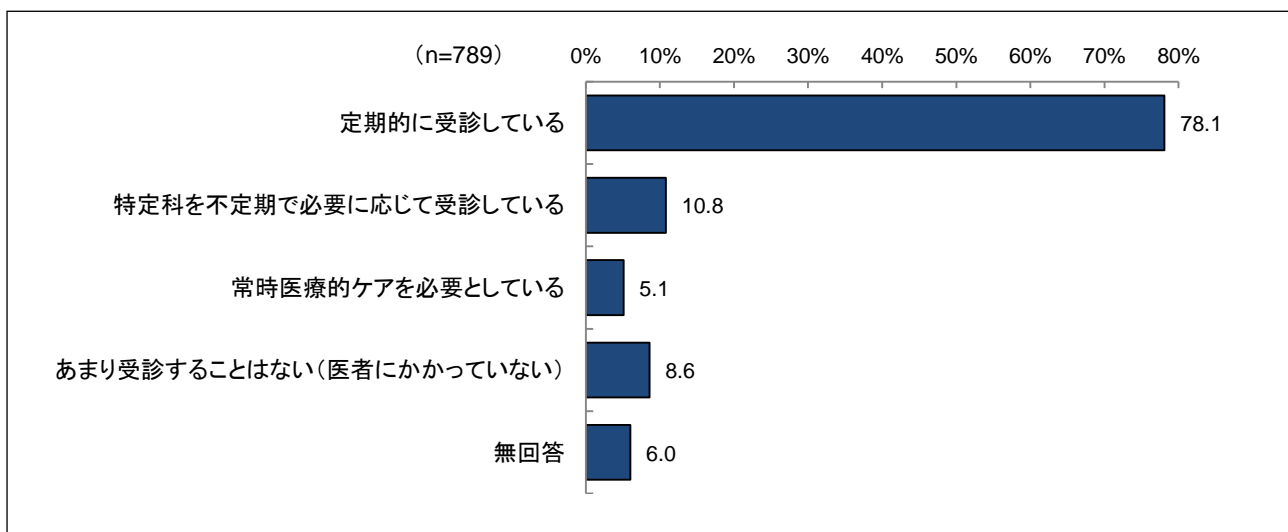
問8 あなたは、定期的に医療機関での受診をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

医療機関の受診状況を見ると、「定期的に受診している」(78.1%)が最も多く、その割合は突出しています。次いで、「特定科を不定期で必要に応じて受診している」(10.8%)、「常時医療的ケアを必要としている」(5.1%)と続いています。

一方、「あまり受診することはない(医者にかかっていない)」は8.6%となっています。

図表 17 定期的な医療機関の受診について (全体/複数回答)

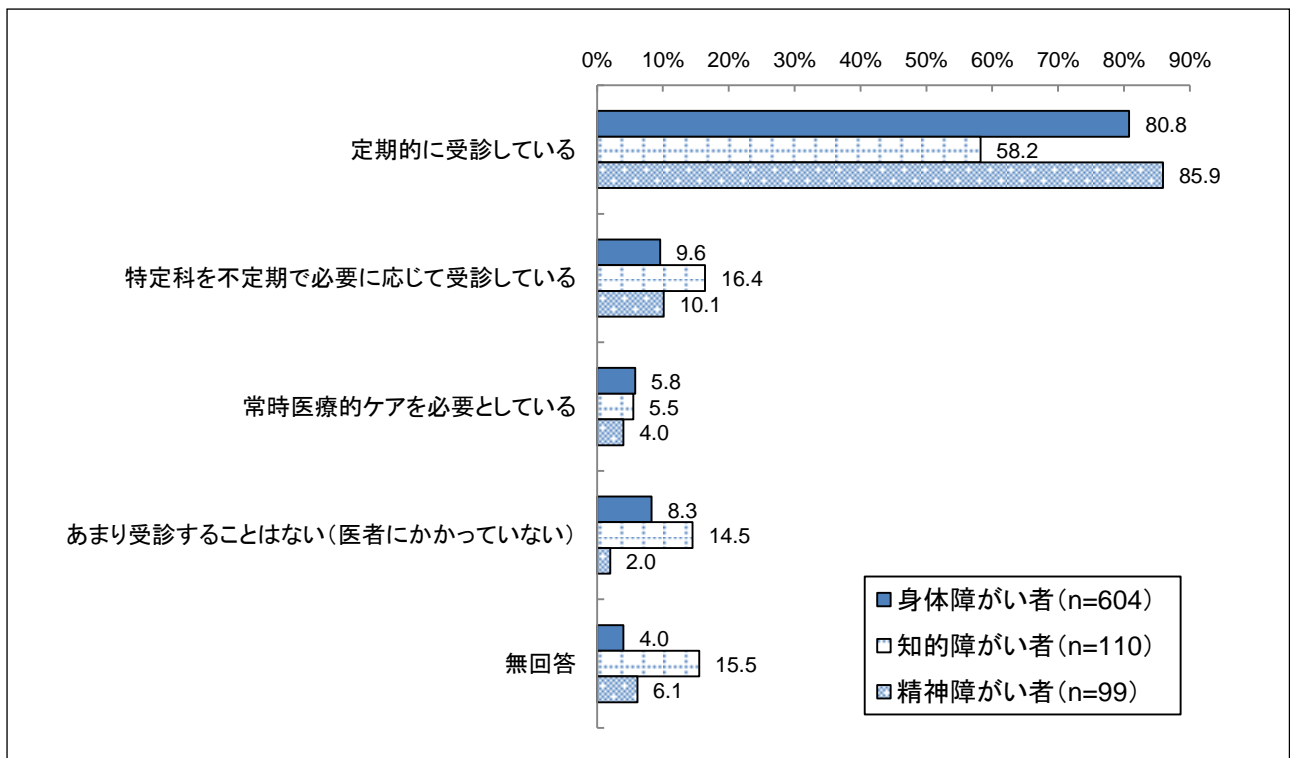


【属性別の傾向】

障がい別にみると、障がいの種類に関わらず「定期的を受診している」が最も多くなっており、知的障がい者では5割、身体障がい者及び精神障がい者では8割を超えています。

一方、「あまり受診することはない（医者にかかっていない）」は知的障がい者が最も多くなっています。

図表 18 定期的な医療機関の受診について（障がい別／複数回答）

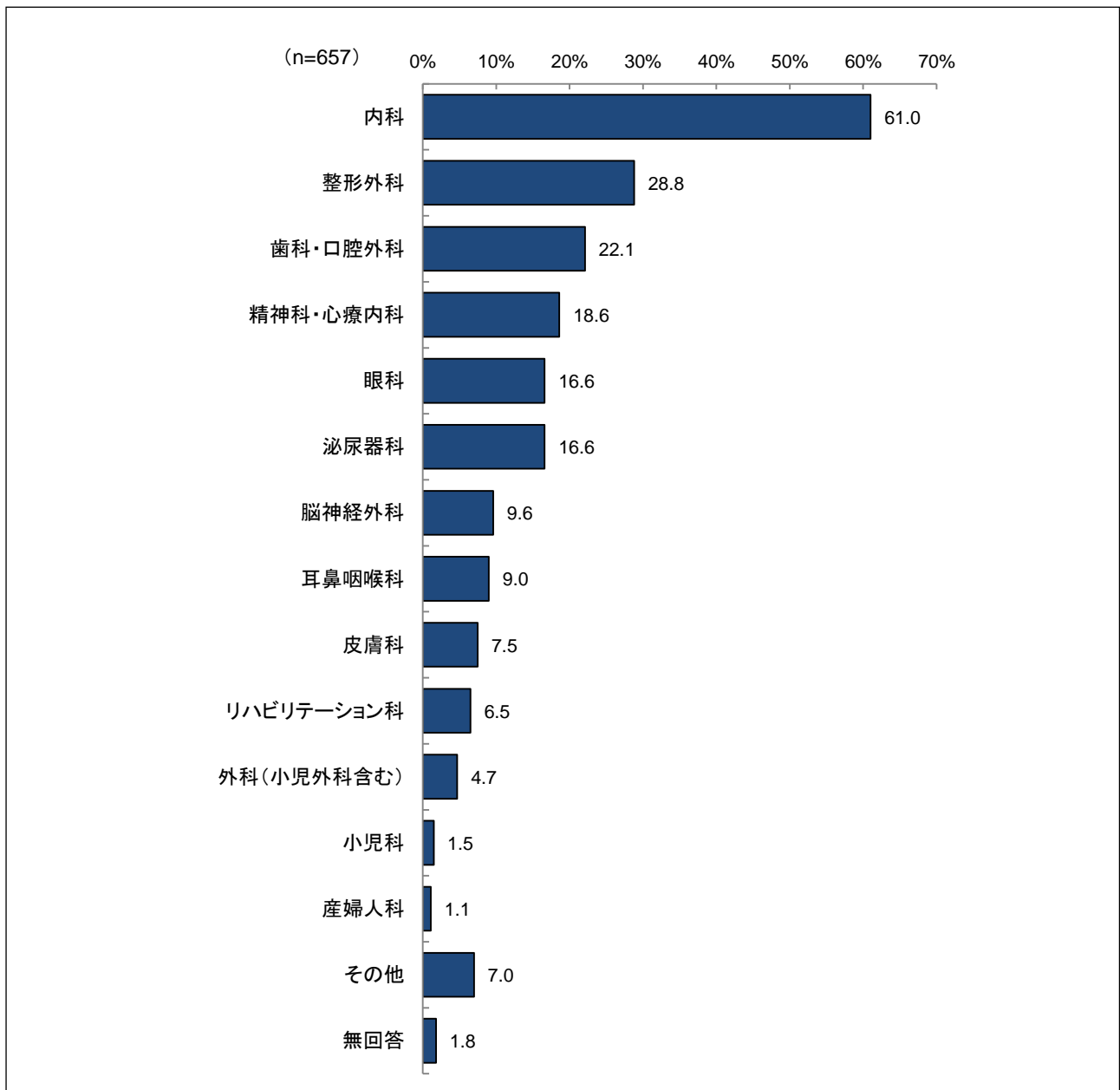


※問8で「定期的に受診している」「特定科を不定期で必要に応じて受診している」と回答した方
問9 あなたがよく受診する診療科は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

よく受診する診療科をみると、「内科」(61.0%)が最も多く、その割合は突出しています。次いで、「整形外科」(28.8%),「歯科・口腔外科」(22.1%),「精神科・心療内科」(18.6%),「眼科」,「泌尿器科」(16.6%)と続いています。

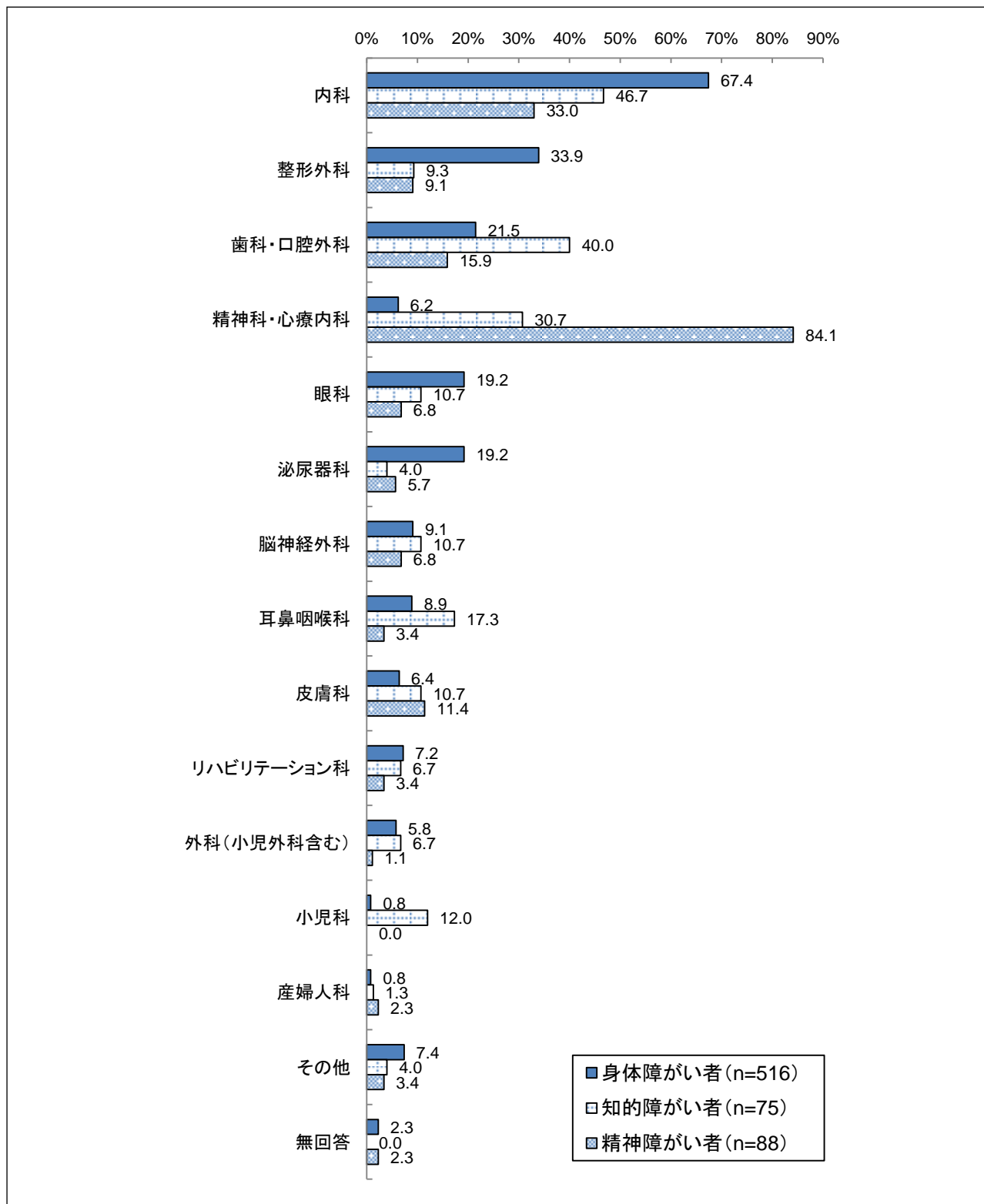
図表 19 よく受診する診療科 (全体/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者及び知的障がい者では「内科」が最も多く、精神障がい者では「精神科・心療内科」の割合が突出しています。また、身体障がい者では「整形外科」、知的障がい者では、「歯科・口腔外科」や「精神科・心療内科」も多くなっています。

図表 20 よく受診する診療科（障がい別／複数回答）



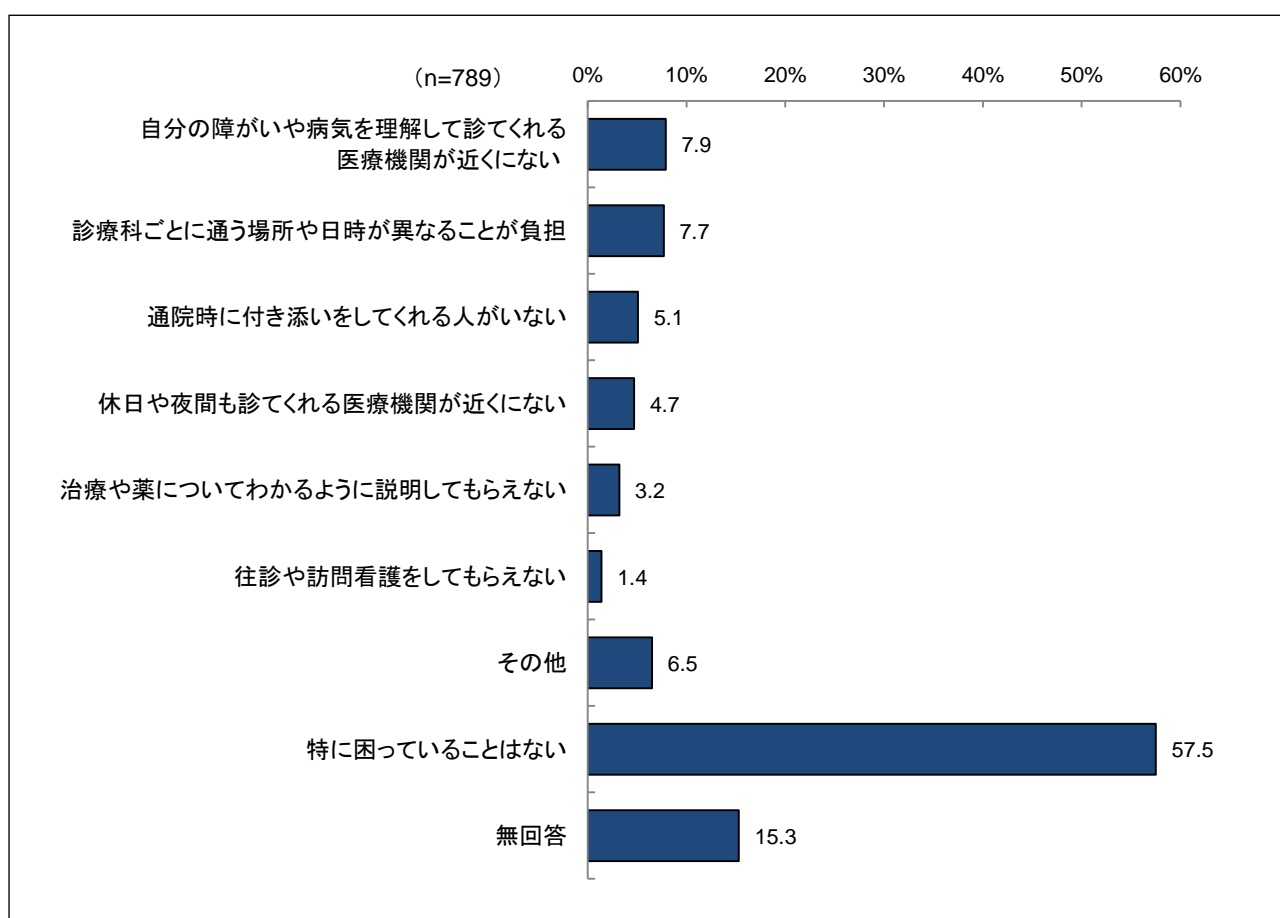
問 10 あなたが、医療について困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

医療について困っていることをみると、「自分の障がいや病気を理解して診てくれる医療機関が近くにない」(7.9%)が多く、次いで「診療科ごとに通う場所や日時が異なることが負担」(7.7%)、「通院時に付き添いをしてくれる人がいない」(5.1%)、「休日や夜間も診てくれる医療機関が近くにない」(4.7%)、「治療や薬についてわかるように説明してもらえない」(3.2%)、「往診や訪問看護をしてもらえない」(3.2%)と続いています。

一方、5割以上の方が、「特に困っていることはない」(57.5%)と回答しています。

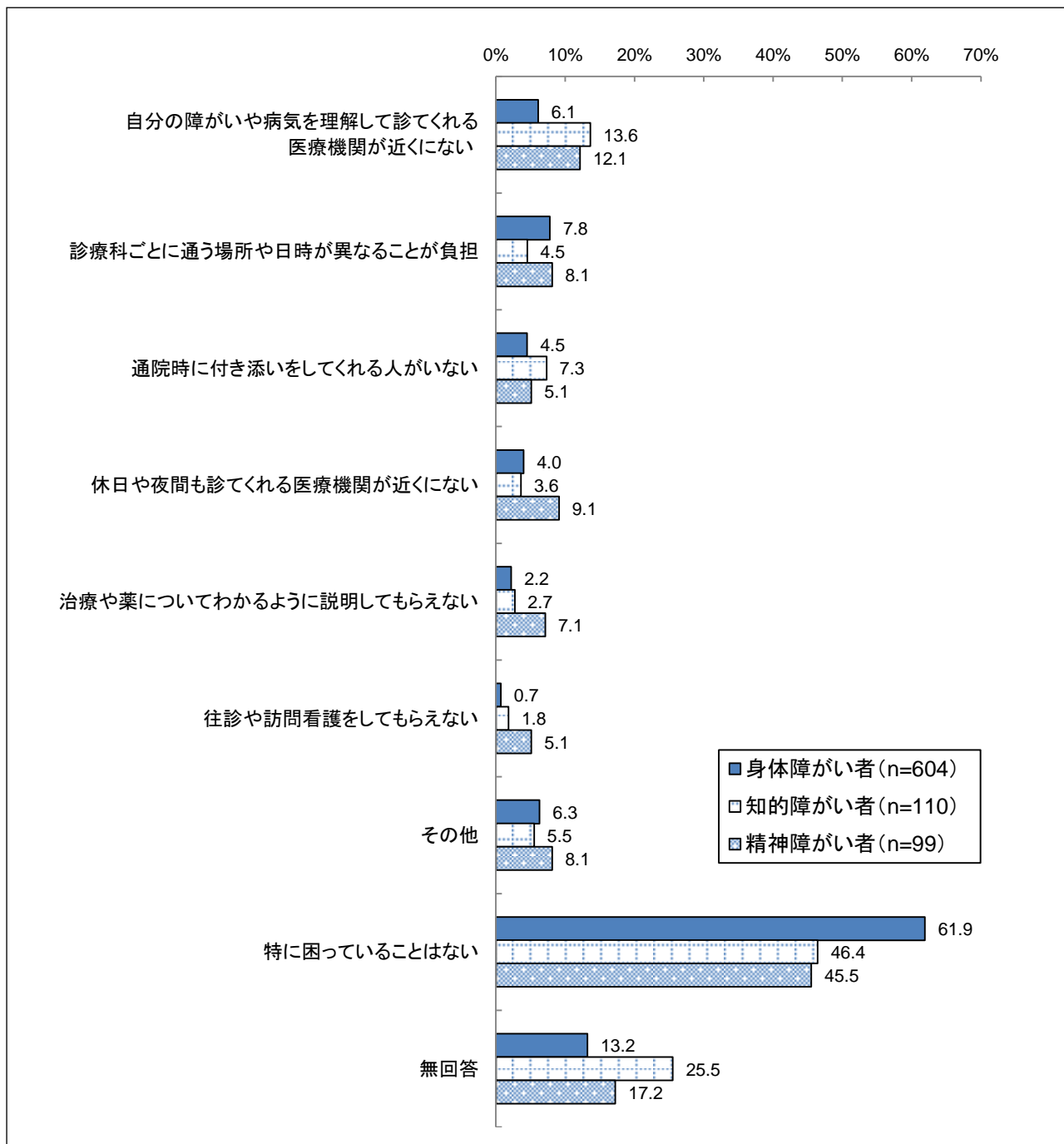
図表 21 医療について困っていること (全体/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「診療科ごとに通う場所や日時が異なることが負担」、知的障がい者及び精神障がい者では「自分の障がいや病気を理解して診てくれる医療機関が近くにない」がそれぞれ多くなっています。

図表 22 医療について困っていること（障がい別／複数回答）



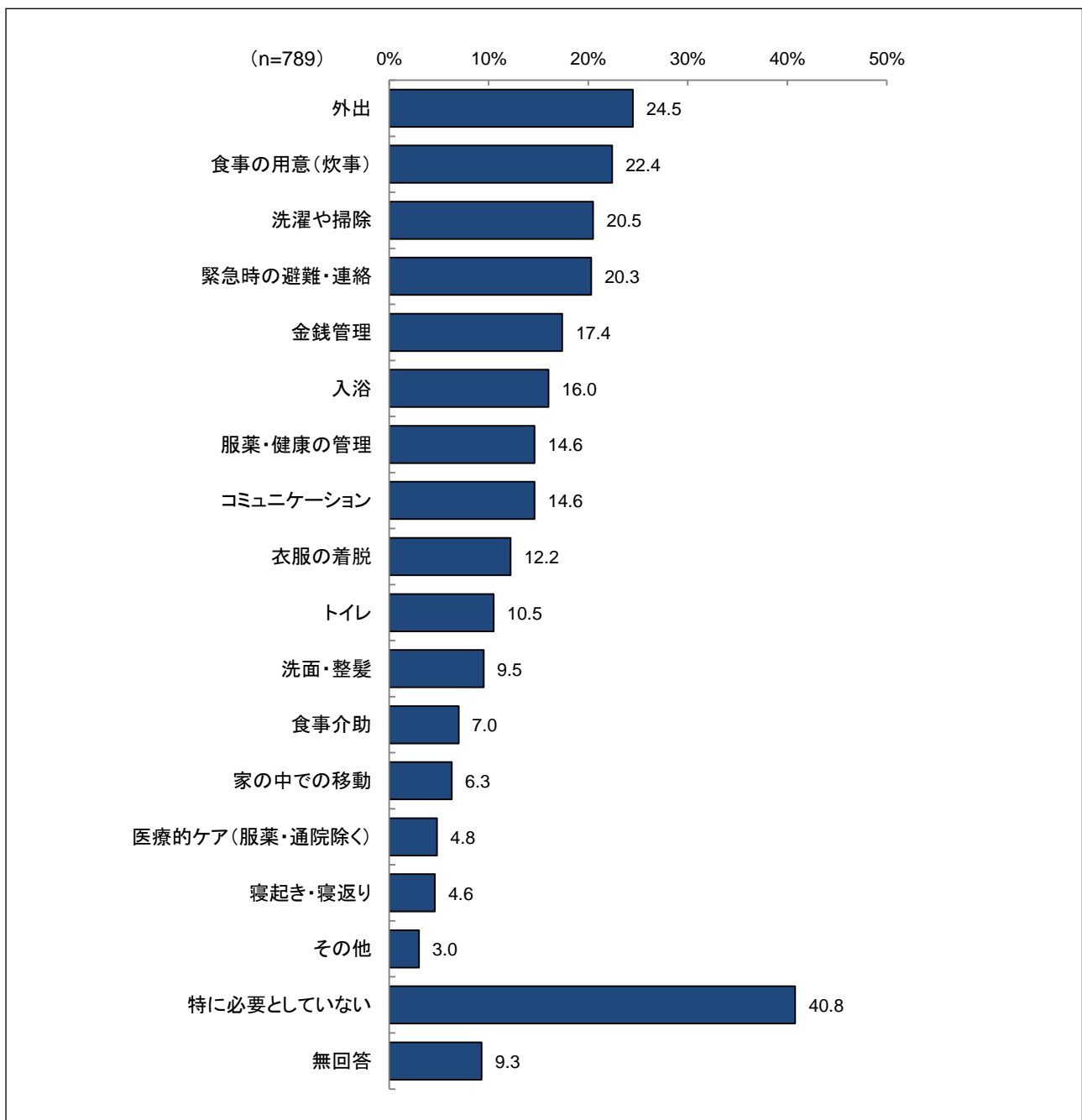
(5) 支援について

問 11 あなたが支援を必要とすることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

必要とする支援をみると、「外出」(24.5%)が多く、次いで「食事の用意(炊事)」(22.4%)、「洗濯や掃除」(20.5%)、「緊急時の避難・連絡」(20.3%)、「金銭管理」(17.4%)と続いています。一方、「特に必要としていない」は40.8%となっています。

図表 23 必要な支援について(全体/複数回答)

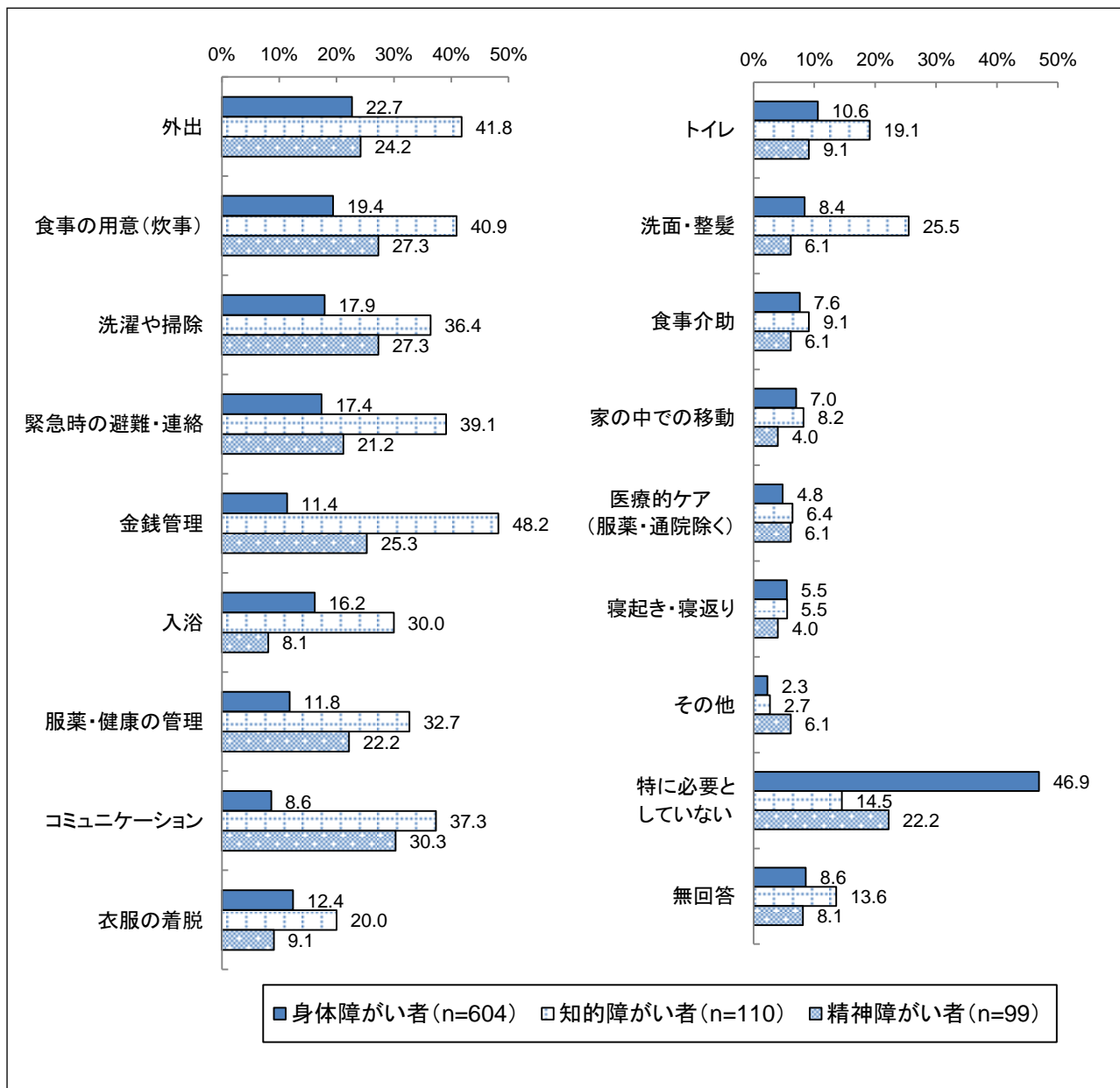


【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「外出」、「食事の用意（炊事）」、知的障がい者では「金銭管理」、「外出」、精神障がい者では「コミュニケーション」、「食事の用意（炊事）」、「洗濯や掃除」などがそれぞれ多くなっています。

また、知的障がい者は、必要としている支援それぞれの割合が、身体障がい者、精神障がい者よりも多い傾向がみられ、「金銭管理」の他にも様々な支援を必要としていることがわかります。

図表 24 必要な支援について（障がい別／複数回答）



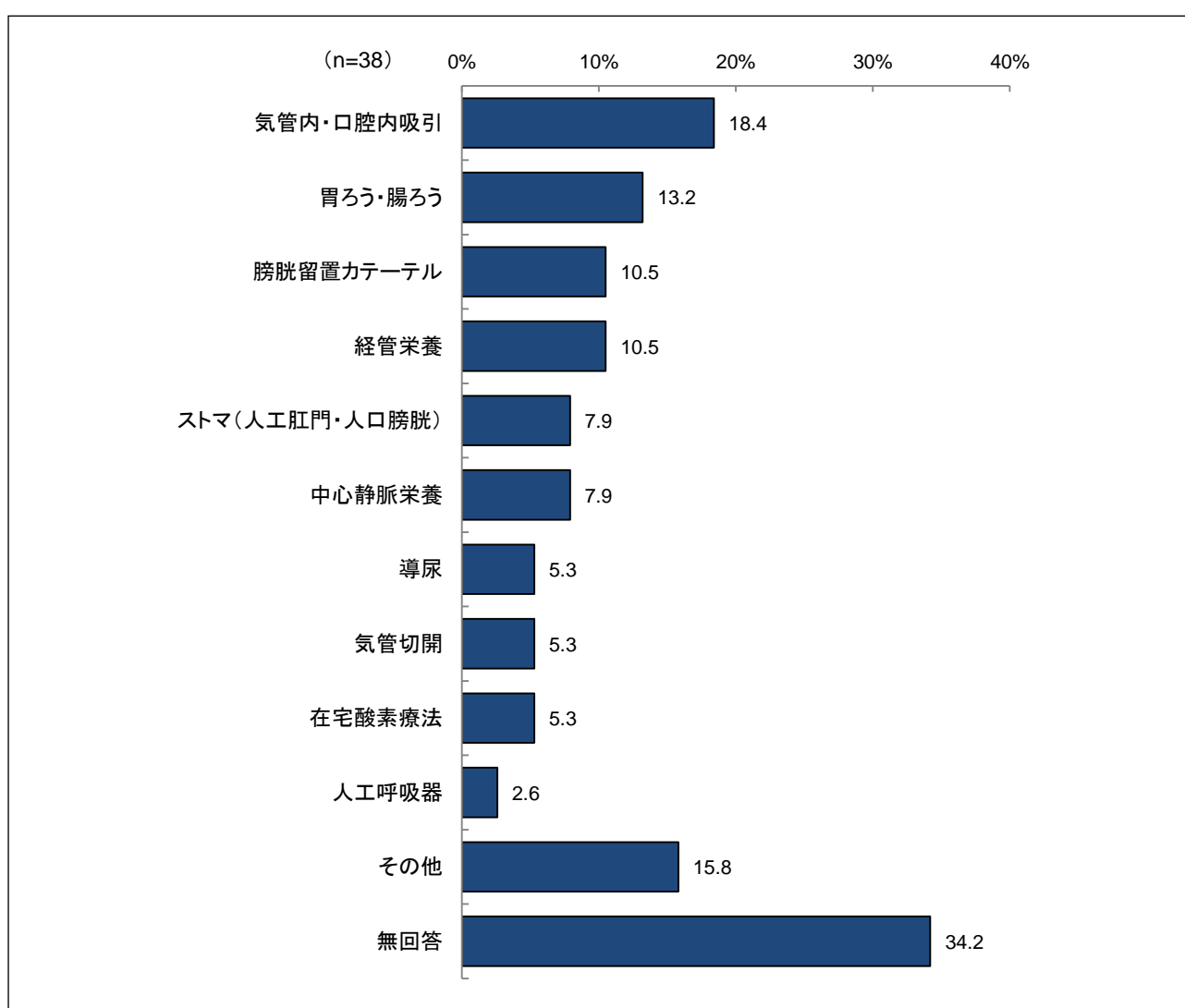
※問 11 で「医療的ケア（服薬・通院を除く）」と回答した方

問 12 あなたは、具体的にどのような医療的ケア（服薬や通院を除く）が必要ですか。（あてはまるものすべてに○）

【全体の傾向】

必要とする医療的ケアをみると、「気管内・口腔内吸引」（18.4%）が最も多く、次いで「胃ろう・腸ろう」（13.2%）、「膀胱留置カテーテル」、「経管栄養」（10.5%）、「ストマ（人工肛門・人口膀胱）」、「中心静脈栄養」（7.9%）、「導尿」、「気管切開」、「在宅酸素療法」（5.3%）、「人工呼吸器」（2.6%）と続いています。

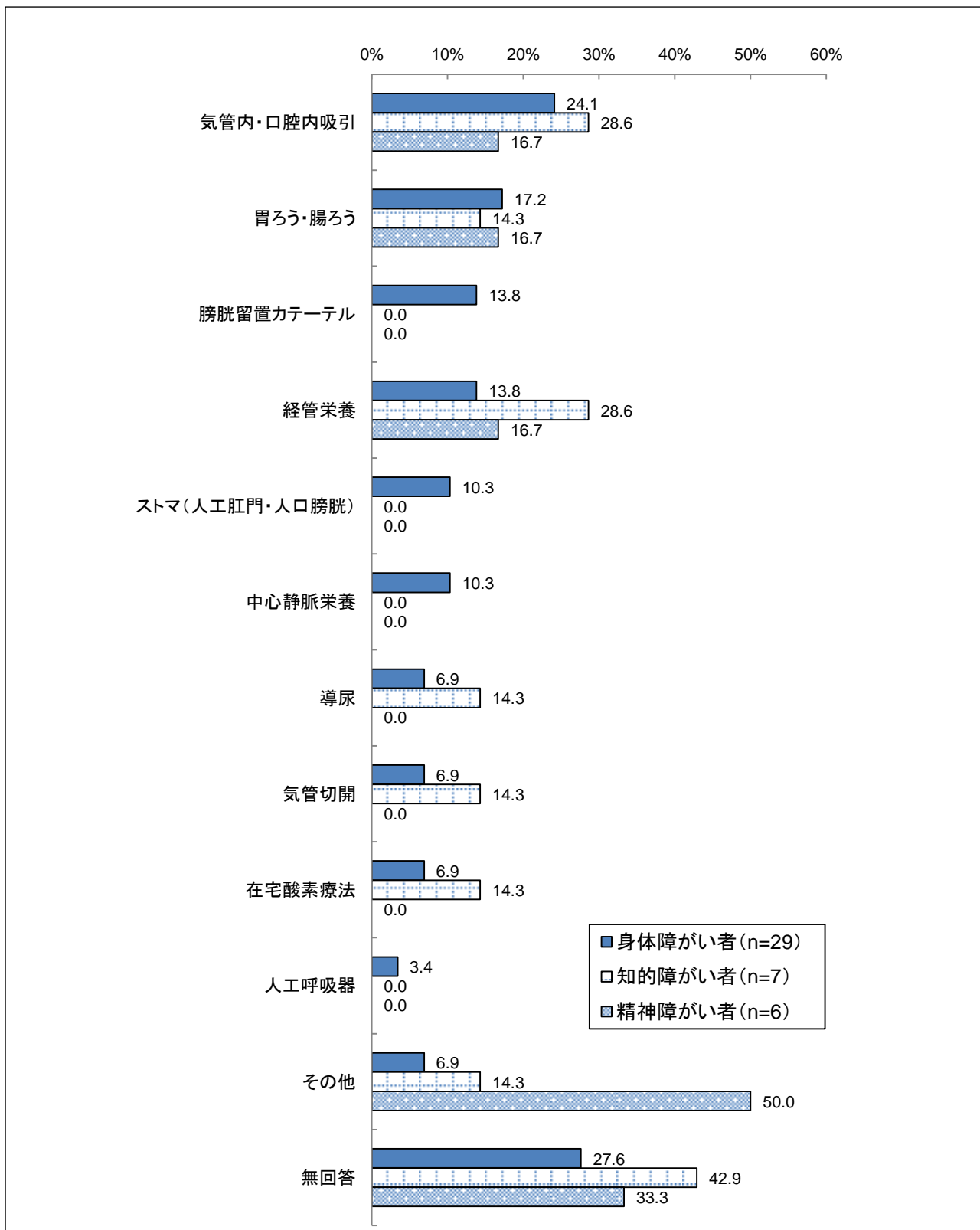
図表 25 必要な医療的ケアについて（全体／複数回答）



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「気管内・口腔内吸引」、知的障がい者では「気管内・口腔内吸引」、「経管栄養」、精神障がい者では「気管内・口腔内吸引」、「胃ろう・腸ろう」、「経管栄養」がそれぞれ多くなっています。

図表 26 必要な医療的ケアについて（障がい別／複数回答）



4 あなたの生活のことについて

(1) 同居人について

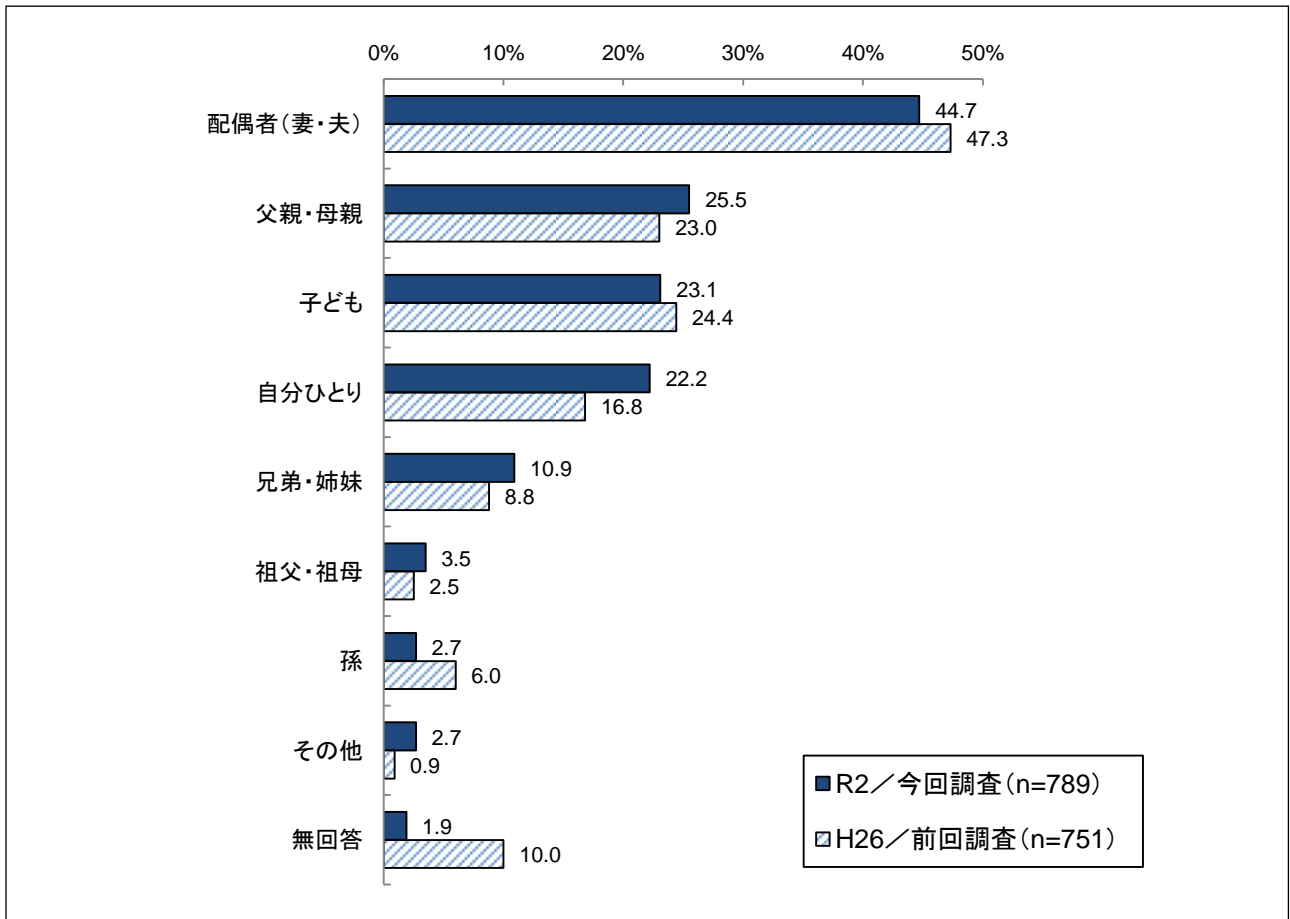
問 13 現在、一緒に暮らしている人は誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

同居人をみると、「配偶者(妻・夫)」(44.7%)が最も多く、次いで「父親・母親」(25.5%),「子ども」(23.1%),「自分ひとり」(22.2%),「兄弟・姉妹」(10.9%)と続いています。

前回調査と比較すると、「自分ひとり」が5.4ポイント増加しています。

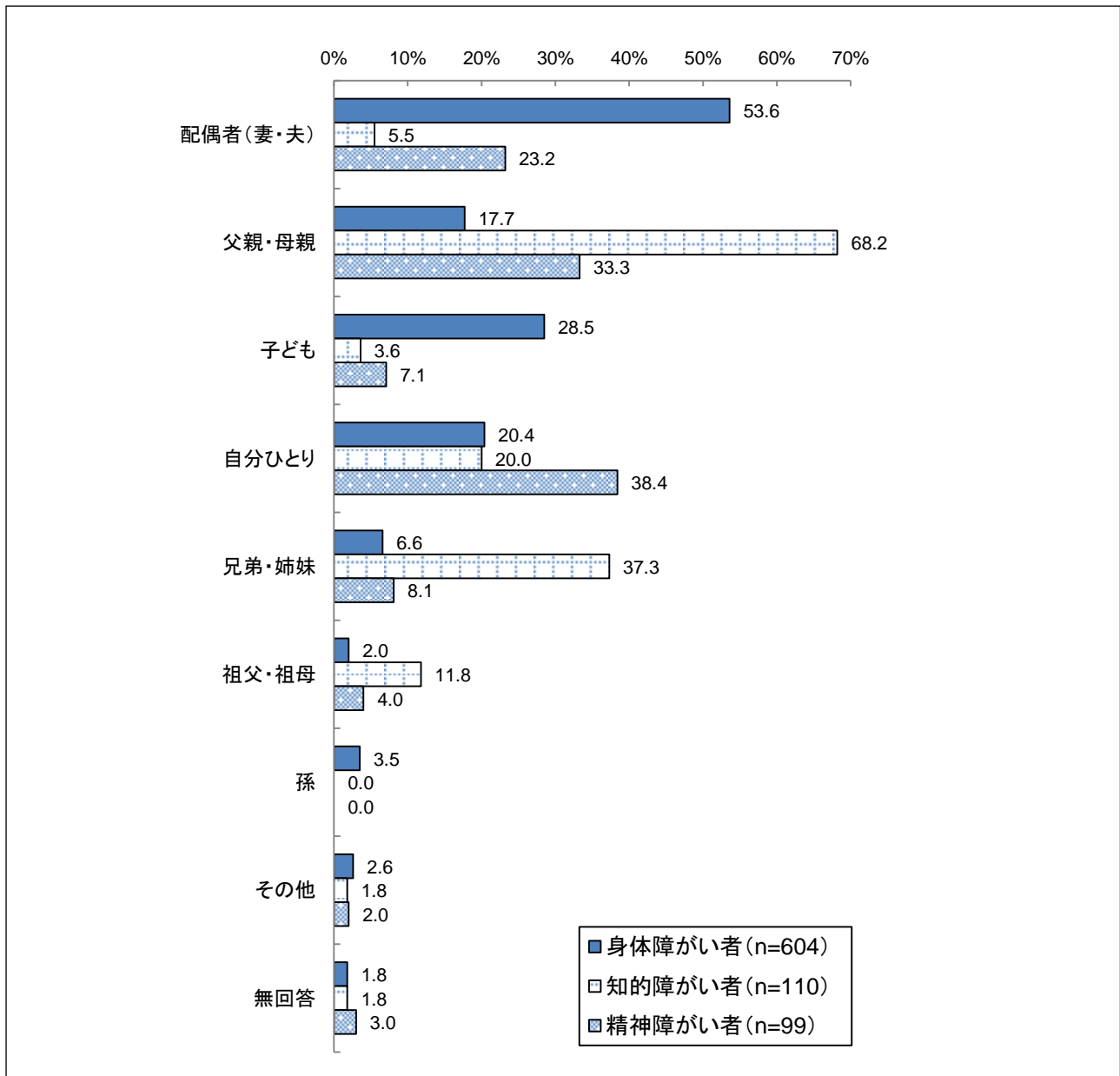
図表 27 同居人について (全体, 前回比較/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「配偶者（妻・夫）」、「子ども」、知的障がい者では、「父親・母親」、「兄弟・姉妹」、精神障がい者では「自分ひとり」、「父親・母親」などとの同居がそれぞれ多くなっており、障がいごとの傾向の違いが見られます。

図表 28 同居人について（障がい別／複数回答）



(2) 暮らしの場所について

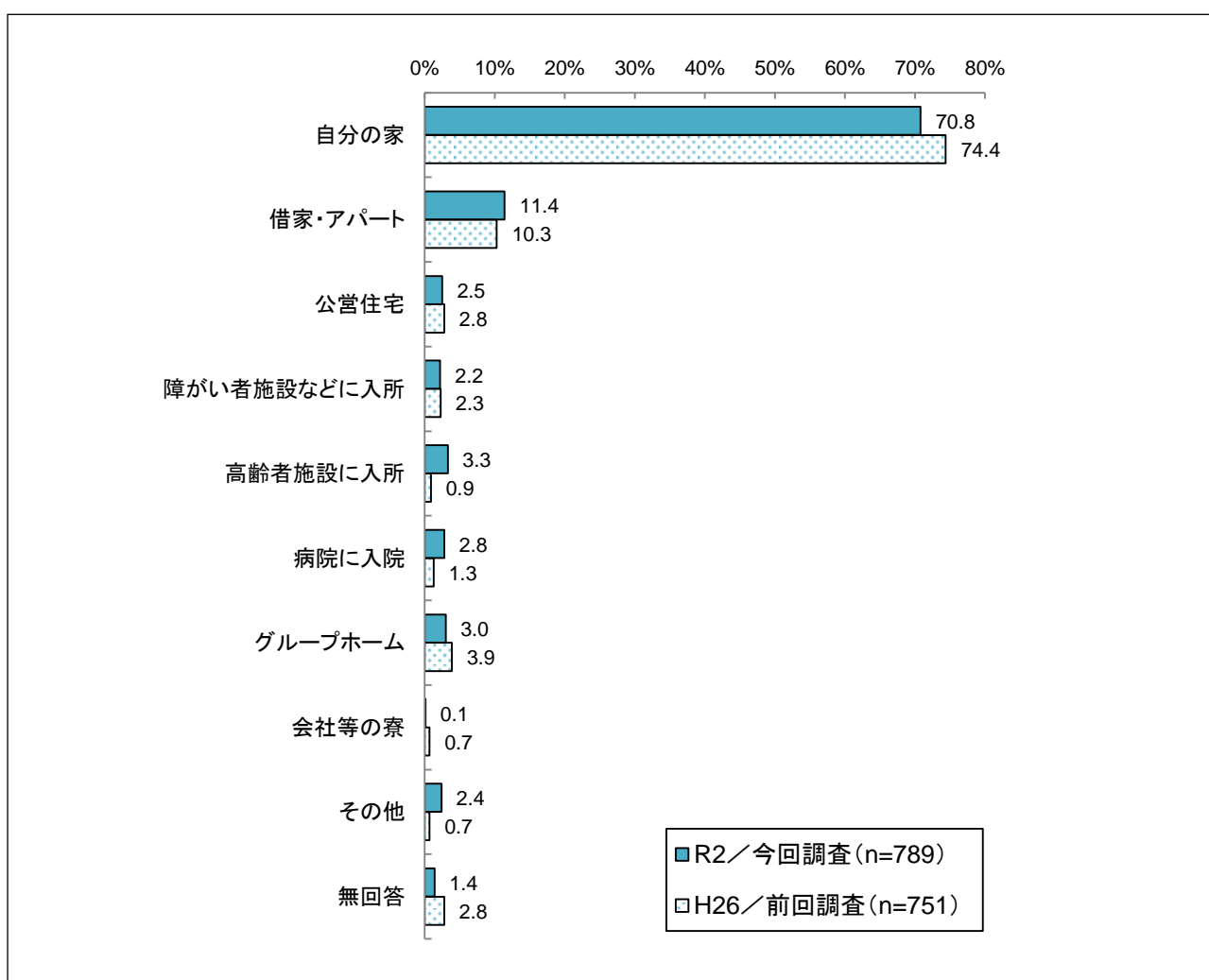
問 14 現在のお住まいとして過ごされている場所はどこですか。(1つに〇)

【全体の傾向】

現在、居住している場所をみると、「自分の家」(70.8%)が最も高く、その割合は突出しています。次いで、「借家・アパート」(11.4%)、「高齢者施設に入所」(3.3%)となっています。

前回調査と比較すると、「自分の家」、「公営住宅」、「障がい者施設などに入所」、「グループホーム」、「会社等の寮」は減少し、「借家・アパート」、「高齢者施設に入所」、「病院に入院」が増加しています。

図表 29 現在の居住場所（全体，前回比較）

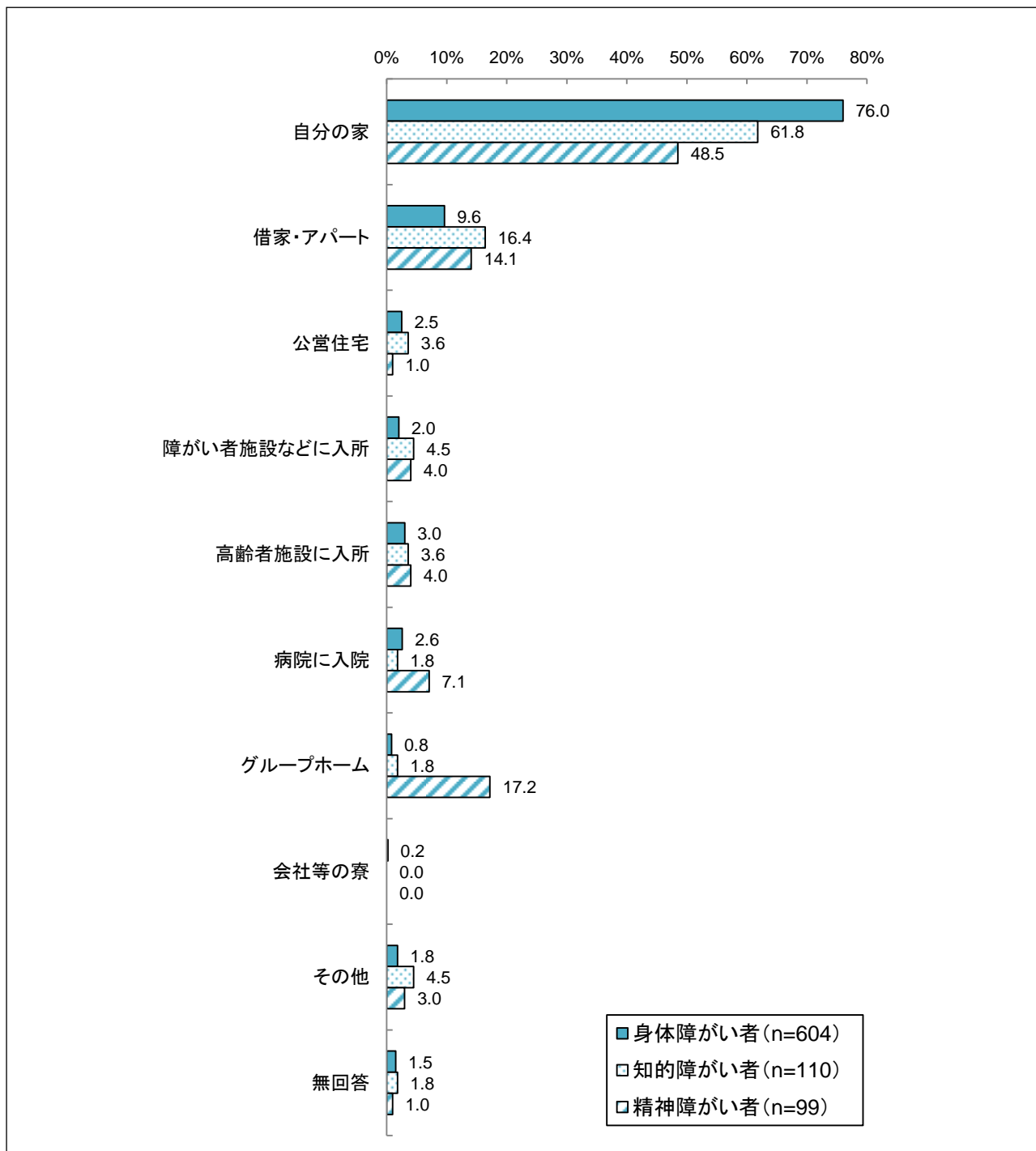


【属性別の傾向】

障がい別にみると、障がいの種類に関わらず「自分の家」が最も高くなっており、身体障がい者では7割、知的障がい者では6割、精神障がい者では4割を超えています。

また、精神障がい者では「グループホーム」の割合が、身体障がい者、知的障がい者と比較して高くなっています。

図表 30 現在の居住場所（障がい別）



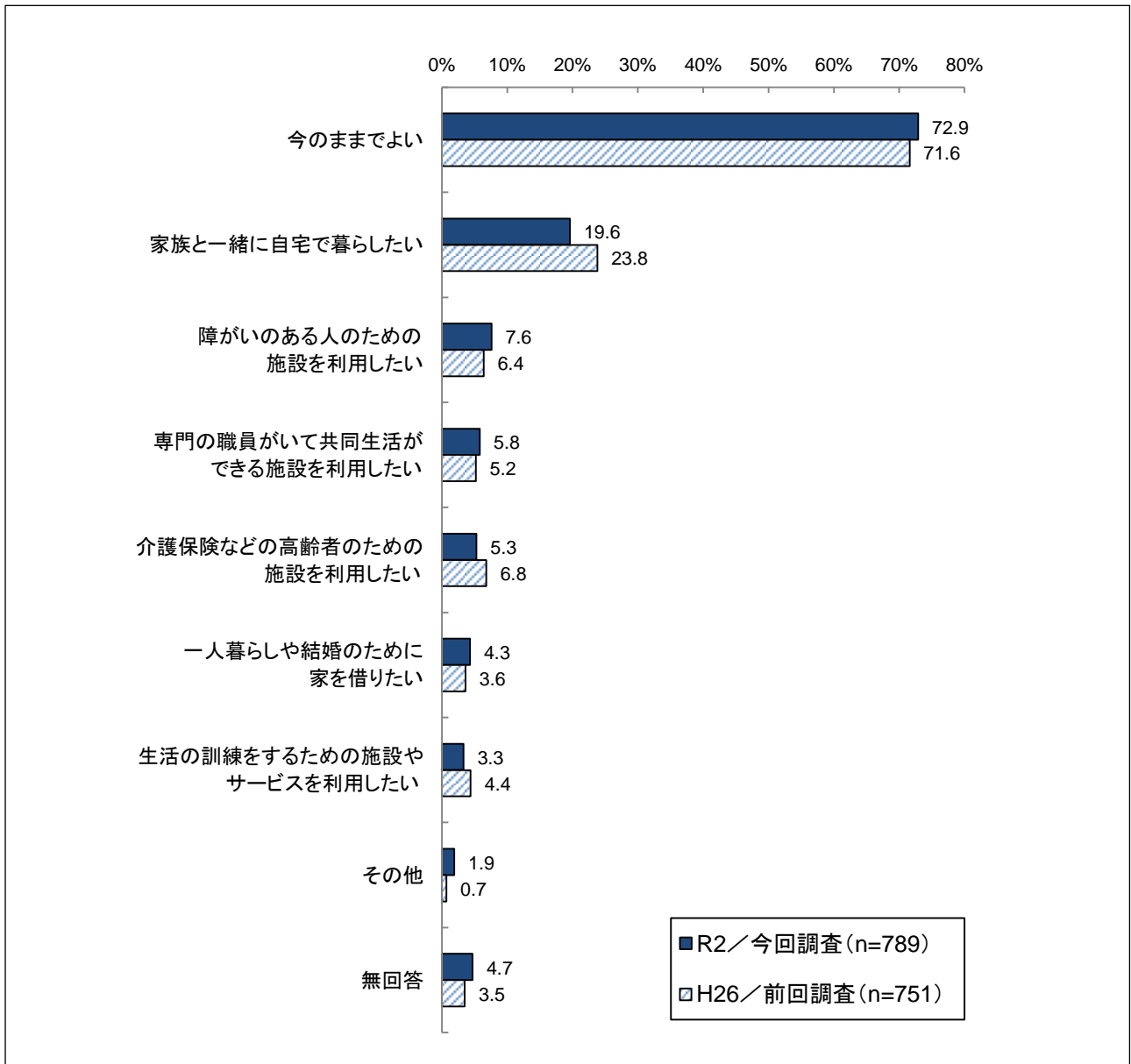
問 15 次にあげるいろいろなお住まいのうち、今後、暮らしたいと思うのはどれですか。
 (あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

今後希望する居住場所をみると、「今のままでよい」(72.9%)が最も多く、その割合は突出しています。次いで、「家族と一緒に自宅で暮らしたい」(19.6%)、「障がいのある人のための施設を利用したい」(7.6%)と続いています。

前回調査と比較すると、「家族と一緒に自宅で暮らしたい」が4.2ポイント減少しており、「介護保険などの高齢者のための施設を利用したい」、「生活の訓練をするための施設やサービスを利用したい」もわずかに減少しています。

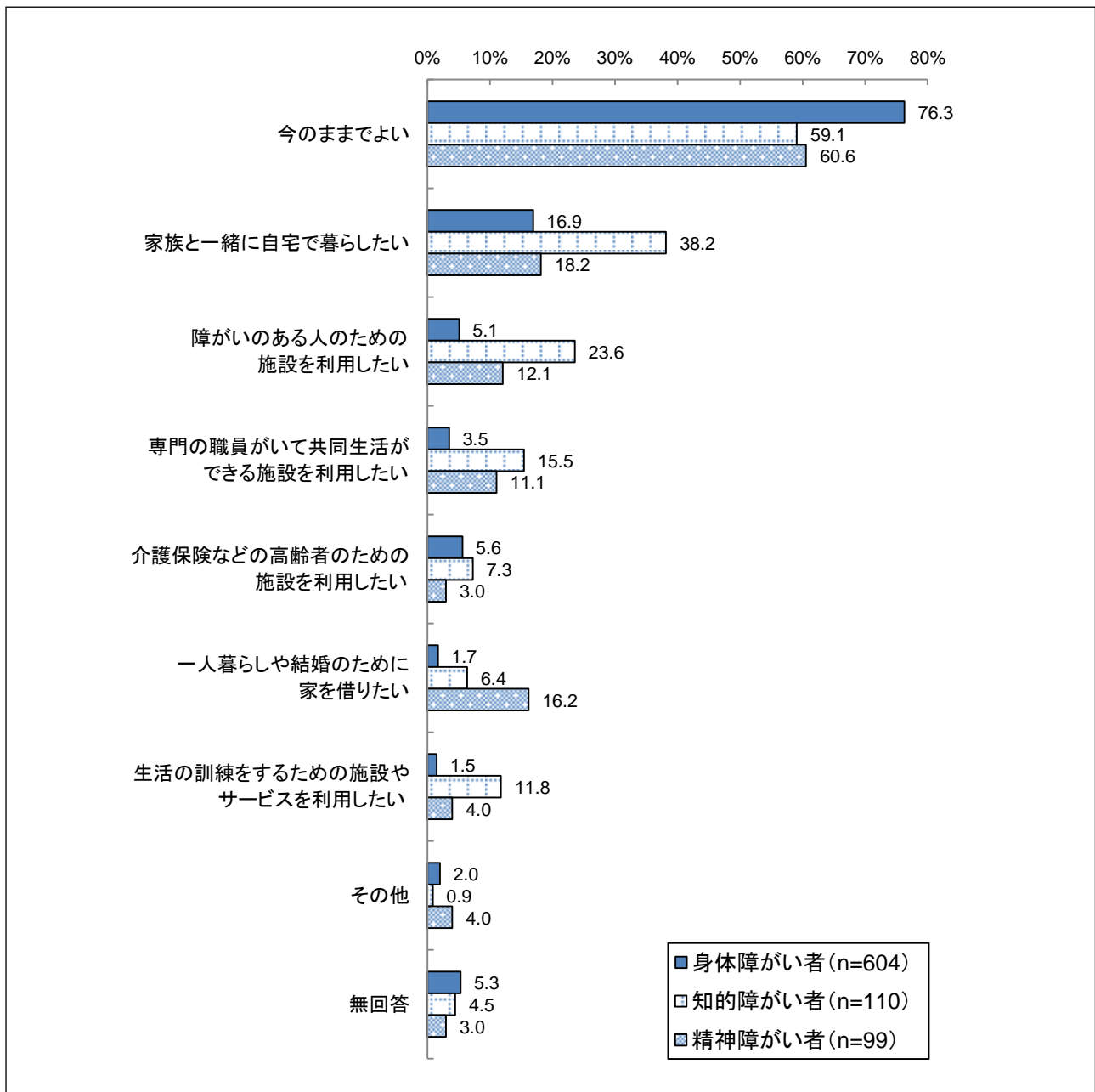
図表 31 今後希望する居住場所（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

障がい別にみると、障がいの種類に関わらず「今のままでよい」が最も多くなっていますが、知的障がい者では、「家族と一緒に自宅で暮らしたい」、「障がいのある人のための施設を利用したい」なども多くなっており、現状とは違った環境や場所を望む人が、身体障がい者、精神障がい者に比べて多いと言えます。

図表 32 今後希望する居住場所（障がい別／複数回答）



(3) 日中の過ごし方について

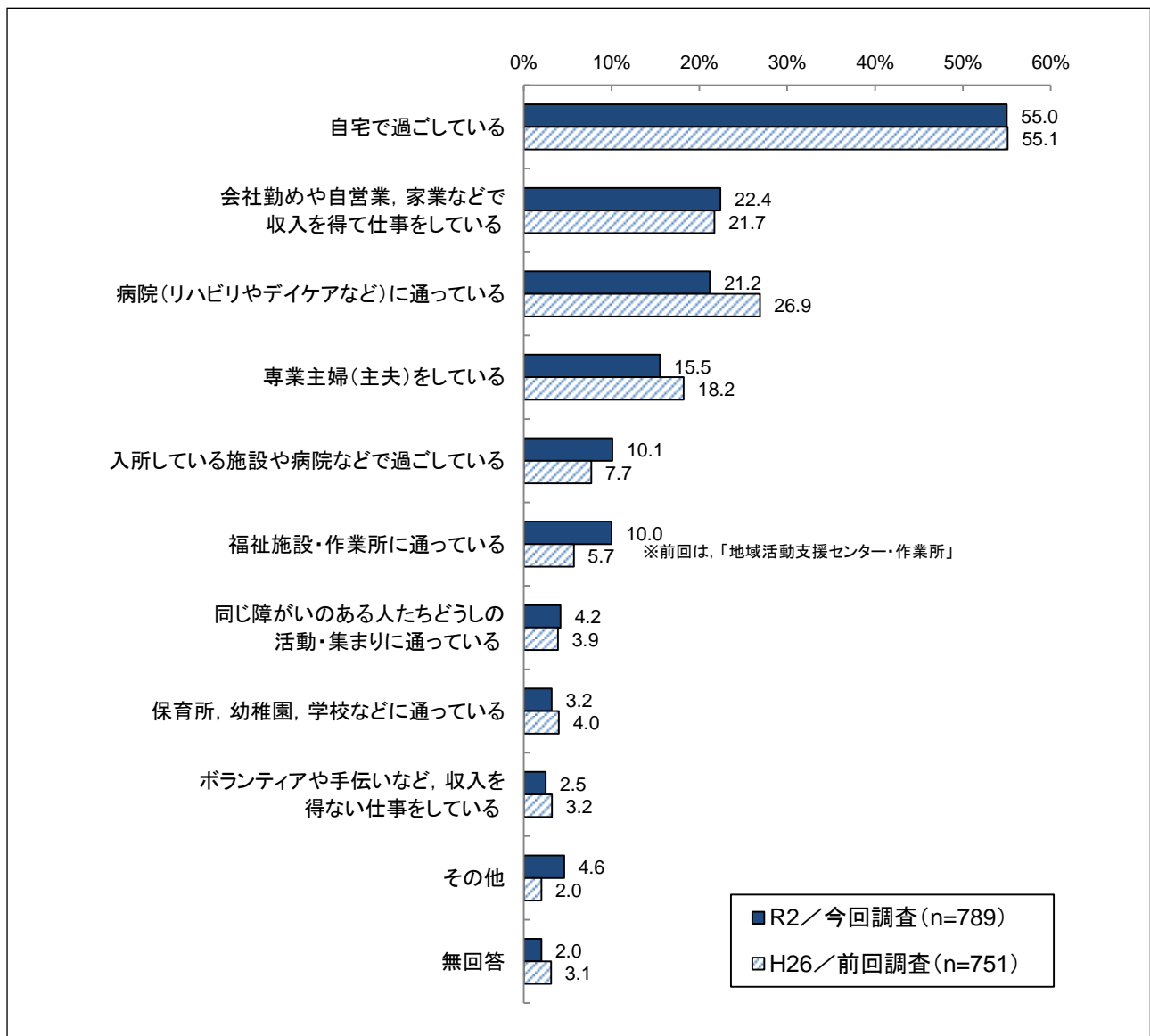
問 16 あなたは、日中をどのように過ごしていますか。(〇は3つまで)

【全体の傾向】

日中の過ごし方をみると、「自宅で過ごしている」(55.0%)が最も多く、次いで「会社勤めや自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」(22.4%),「病院(リハビリやデイケアなど)に通っている」(21.2%),「専業主婦(主夫)をしている」(15.5%),「入所している施設や病院などで過ごしている」(10.1%)と続いています。

前回調査と比較すると、「福祉施設・作業所に通っている」が4.3ポイント増加し、「病院(リハビリやデイケアなど)に通っている」が5.7ポイント減少しています。

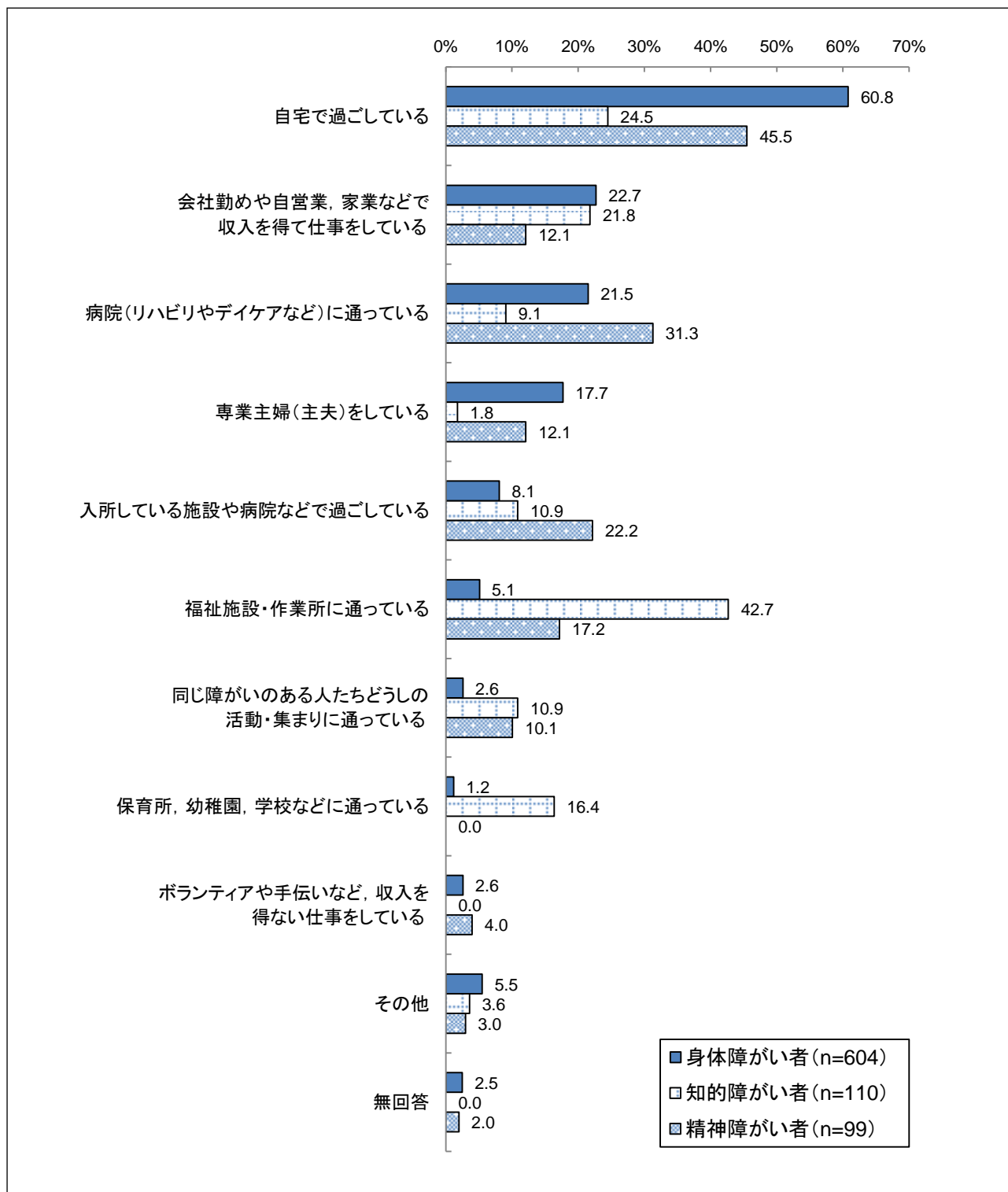
図表 33 日中活動について(全体, 前回比較/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者及び精神障がい者では「自宅で過ごしている」が最も多く、身体障がい者は6割、精神障がい者は4割を超えています。一方、知的障がい者では、「福祉施設・作業所に通っている」が最も多くなっています。

図表 34 日中活動について（障がい別／複数回答）



(4) 団体活動について

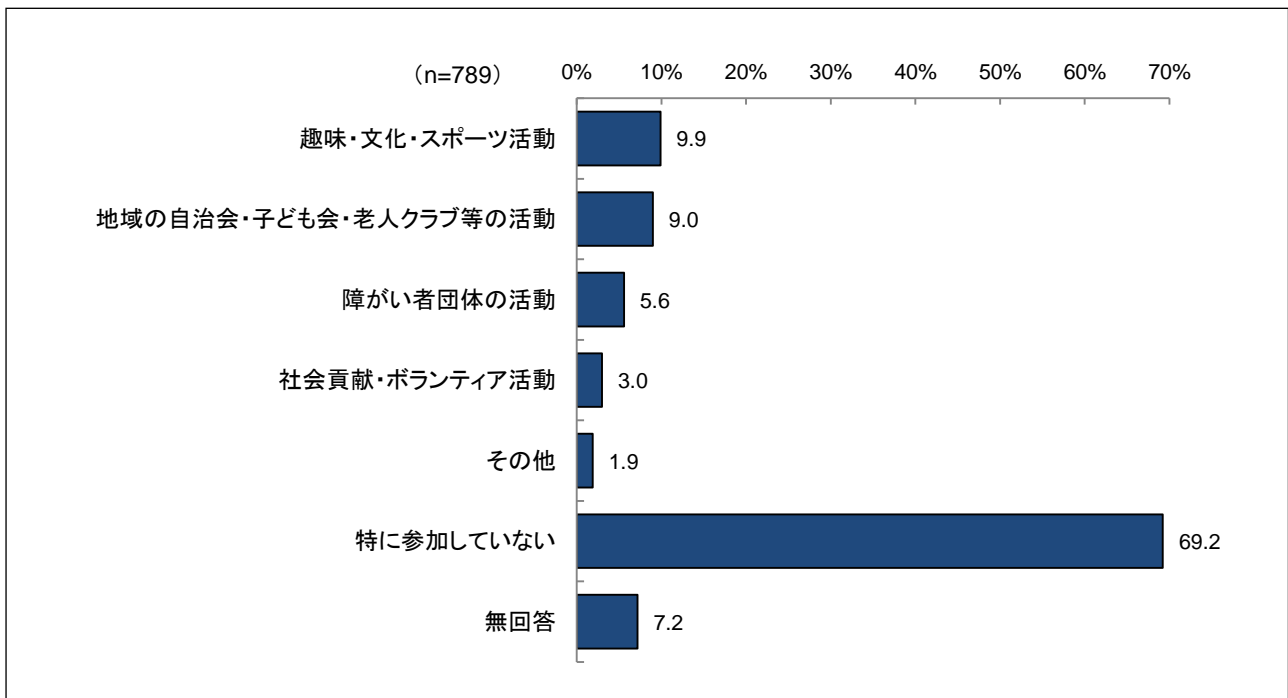
問 17 あなたが、仕事以外で参加している団体活動等は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

仕事以外で参加している団体活動をみると「趣味・文化・スポーツ活動」(9.9%)が多く、次いで、「地域の自治会・子ども会・老人クラブ等の活動」(9.0%)、「障がい者団体の活動」(5.6%)、「社会貢献・ボランティア活動」(3.0%)と続いています。

また、「特に参加していない」は69.2%となっており、約7割の人が仕事以外の団体活動には参加していないと回答しています。

図表 35 団体活動について (全体/複数回答)

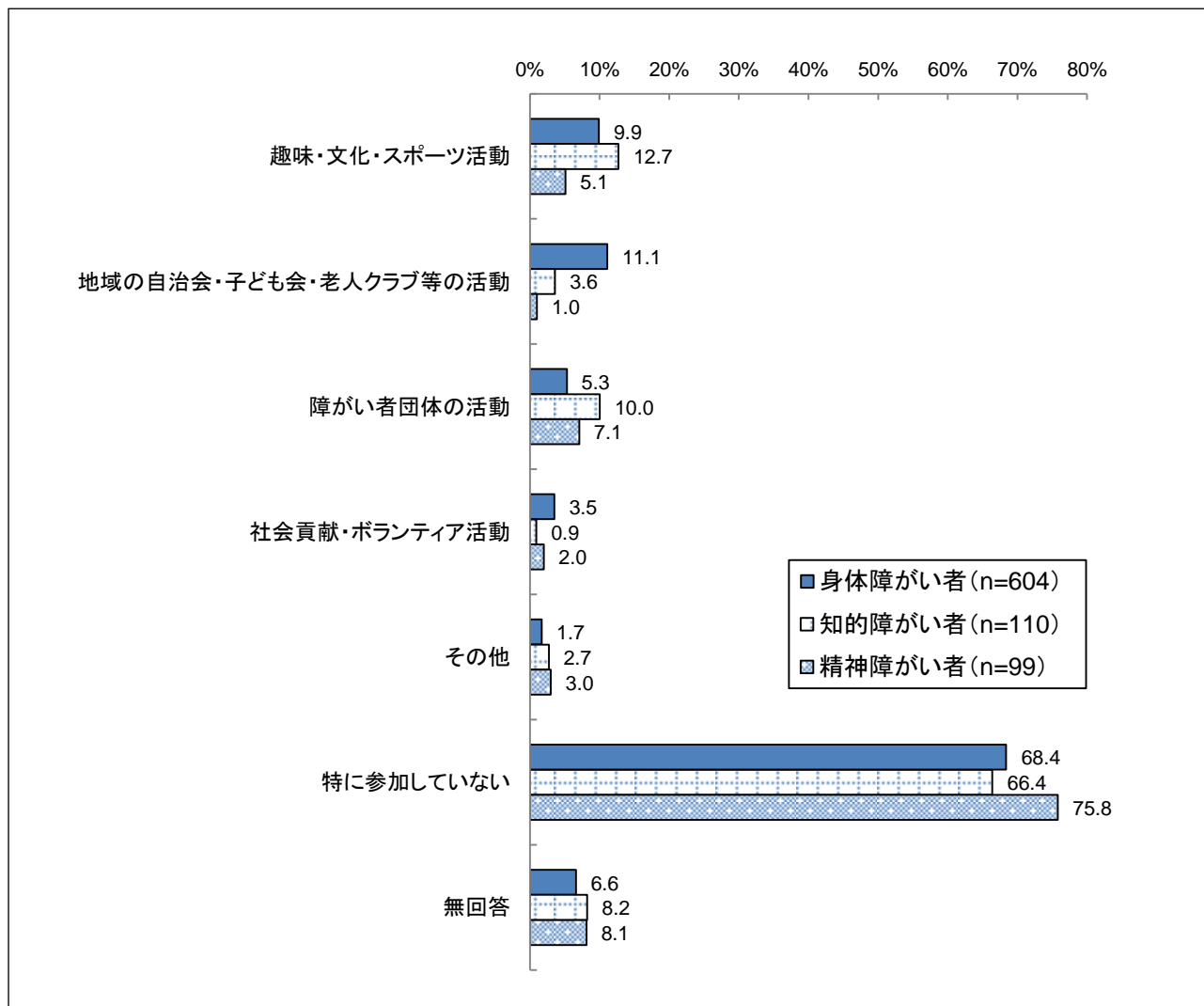


【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「地域の自治会・子ども会・老人クラブ等の活動」、知的障がい者では「趣味・文化・スポーツ活動」、精神障がい者では「障がい者団体の活動」がそれぞれ多くなっています。

また、「特に参加していない」は身体障がい者で 68.4%、知的障がい者で 66.4%、精神障がい者で 75.8%となっています。

図表 36 団体活動について（障がい別／複数回答）



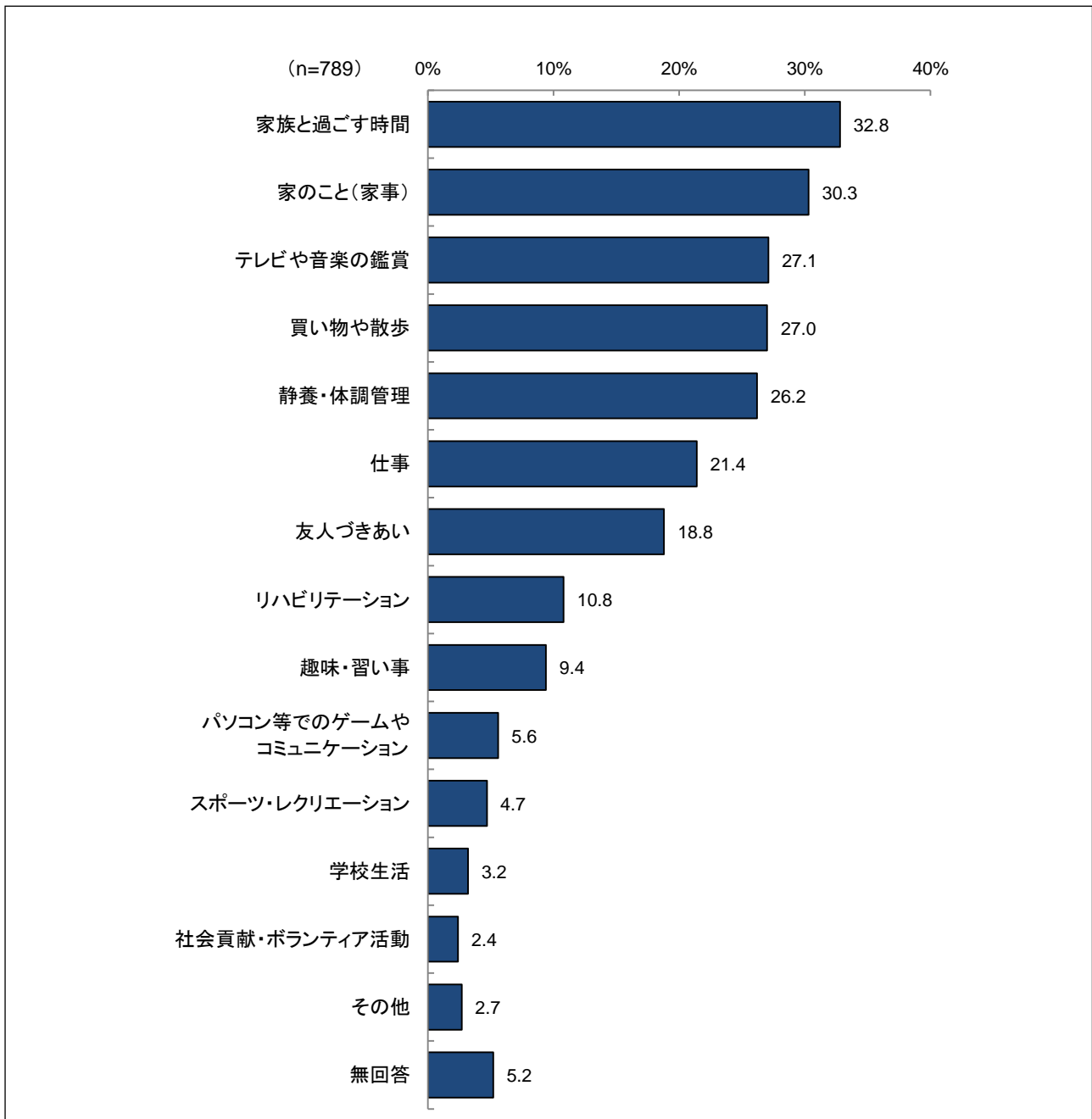
(5) 暮らしの中で大事にしていること

問 18 現在、あなたが暮らしの中で特に大事にしていること何ですか。(〇は3つまで)

【全体の傾向】

暮らしの中で大事にしていることをみると、「家族と過ごす時間」(32.8%)が最も多く、次いで「家のこと(家事)」(30.3%)、「テレビや音楽の鑑賞」(27.1%)、「買い物や散歩」(27.0%)、「静養・体調管理」(26.2%)と続いています。

図表 37 暮らしの中で特に大事にしていること (全体/複数回答)



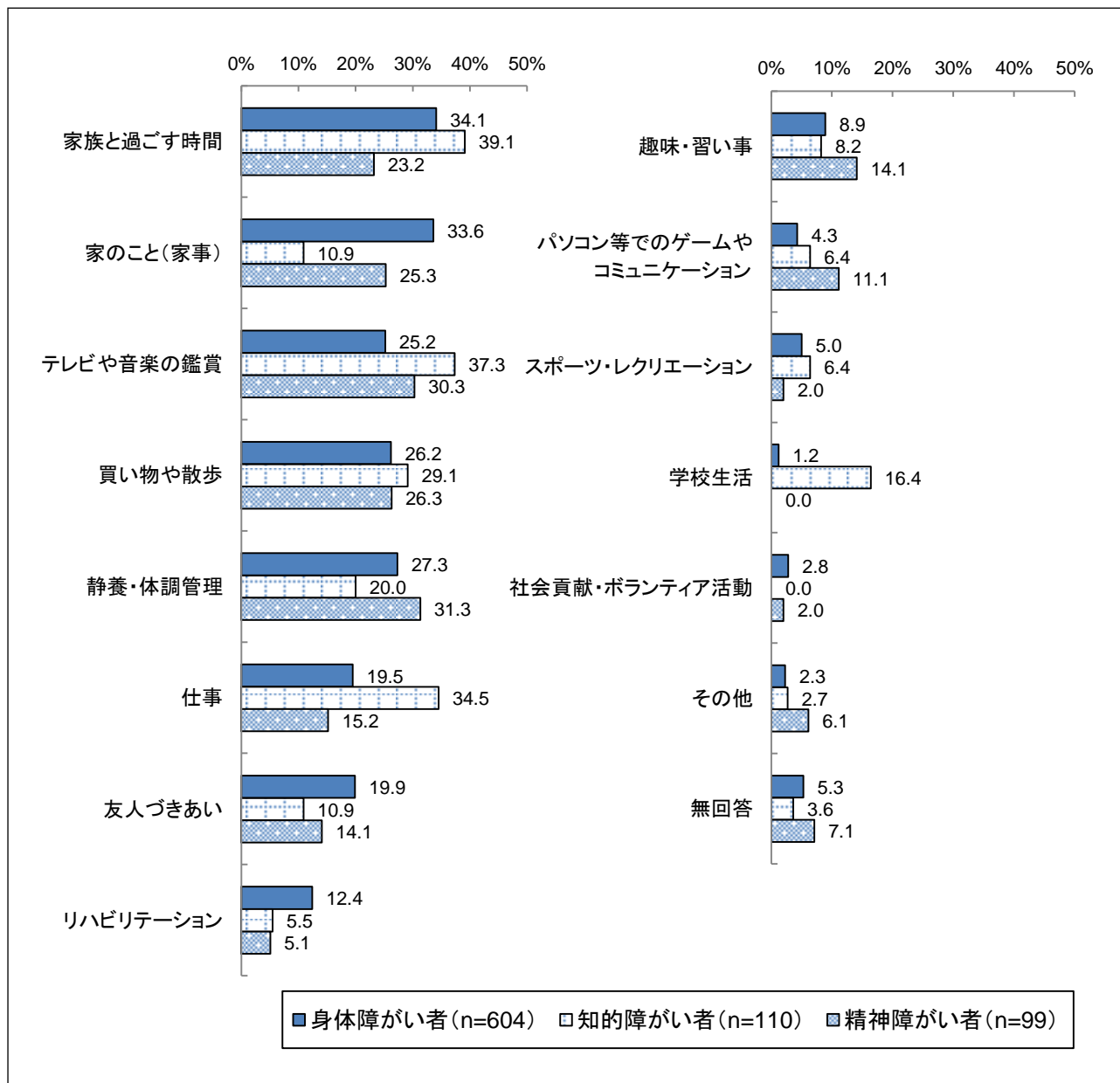
【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「家族と過ごす時間」、「家のこと（家事）」、「静養・体調管理」などを大事にする人が多くなっています。

知的障がい者では、「家族と過ごす時間」、「テレビや音楽の鑑賞」、「仕事」なども多くなっており、「学校生活」も身体障がい者や精神障がい者と比較するとその割合は、突出しています。

精神障がい者では、「静養・体調管理」、「テレビや音楽の鑑賞」、「買物や散歩」が多くなっています。

図表 38 暮らしの中で特に大事にしていること（障がい別／複数回答）



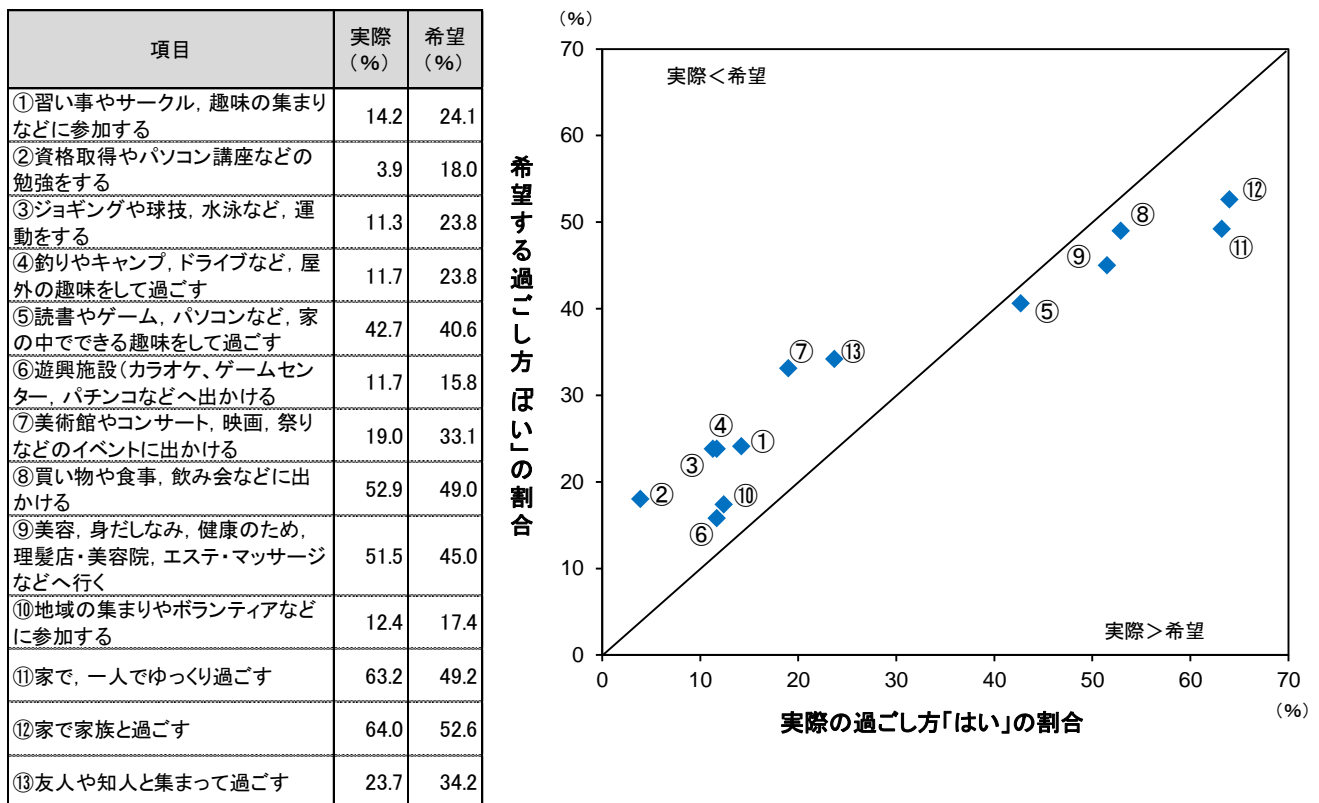
(6) 自由時間の過ごし方について

問 19 あなたは、自由時間をどのように過ごしていますか。また、どのように過ごしたいですか。
(それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

【全体の傾向】

自由時間の過ごし方の実際と希望を比較すると、実際の「はい」の割合よりも、希望の「はい」の割合が大きい(実際<希望) 代表的なものは、「①習い事やサークル、趣味の集まりなどに参加する」、「②資格取得やパソコン講座などの勉強をする」、「③ジョギングや球技、水泳など、運動をする」、「④釣りやキャンプ、ドライブなど屋外の趣味をして過ごす」、「⑦美術館やコンサート、映画、祭りなどのイベントに出かける」、「⑬友人や知人と集まって過ごす」などとなっています。

図表 39 自由時間の過ごし方の実際と希望 (全体)



【属性別の傾向】

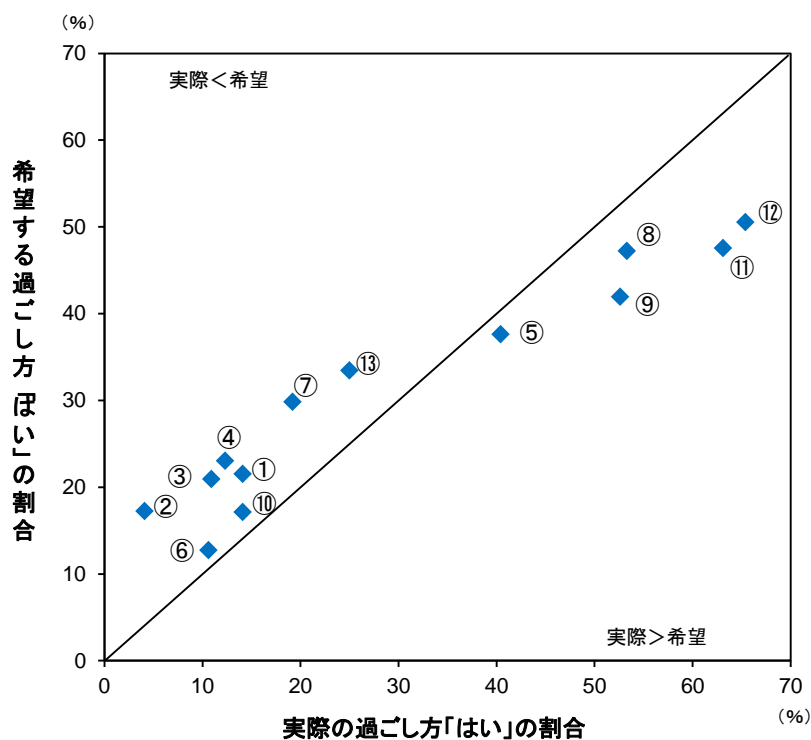
障がい別にみると、障がいの種類に関わらず、「②資格取得やパソコン講座などの勉強をする」、「③ジョギングや球技、水泳など、運動をする」、「④釣りやキャンプ、ドライブなど屋外の趣味をして過ごす」、「⑦美術館やコンサート、映画、祭りなどのイベントに出かける」、「⑬友人や知人と集まって過ごす」などは、実際<希望の領域にあり、希望通りに過ごせていない人が多くみられます。

特に、知的障がい者では「⑦美術館やコンサート、映画、祭りなどのイベントに出かける」については、その傾向が強くなっています。

また、精神障がい者では、「⑪家で、一人でゆっくり過ごす」を除いたすべての項目が、実際<希望の領域に属しており、身体、知的障がい者に比べて、自由時間を希望通りに過ごせていない傾向がみられます。

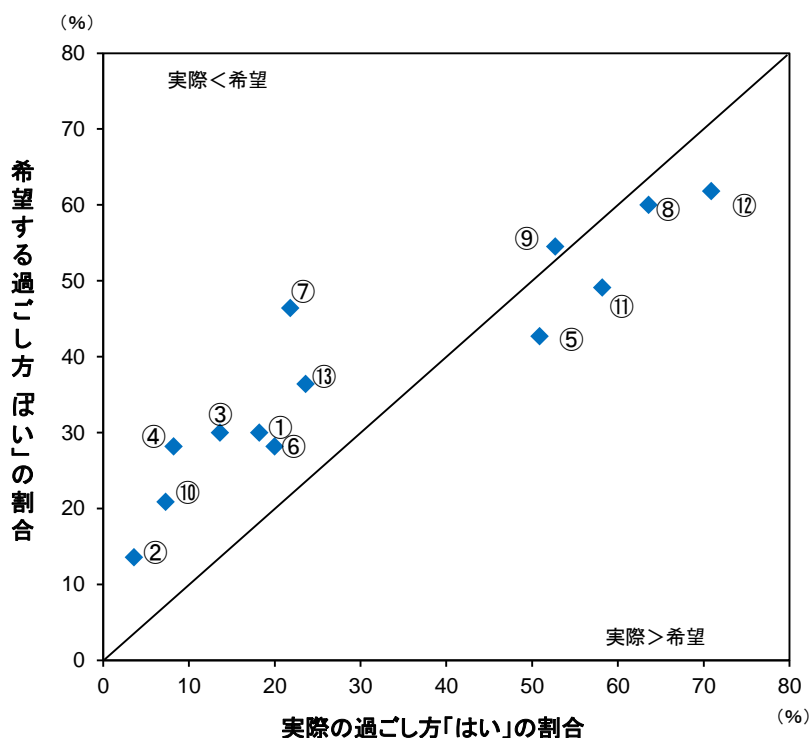
図表 40 自由時間の過ごし方の実際と希望（身体障がい者）

項目	実際 (%)	希望 (%)
①習い事やサークル、趣味の集まりなどに参加する	14.1	21.5
②資格取得やパソコン講座などの勉強をする	4.1	17.2
③ジョギングや球技、水泳など、運動をする	10.9	20.9
④釣りやキャンプ、ドライブなど、屋外の趣味をして過ごす	12.3	23.0
⑤読書やゲーム、パソコンなど、家の中でできる趣味をして過ごす	40.4	37.6
⑥遊興施設（カラオケ、ゲームセンター、パチンコなど）へ出かける	10.6	12.7
⑦美術館やコンサート、映画、祭りなどのイベントに出かける	19.2	29.8
⑧買い物や食事、飲み会などに出かける	53.3	47.2
⑨美容、身だしなみ、健康のため、理髪店・美容院、エステ・マッサージなどへ行く	52.6	41.9
⑩地域の集まりやボランティアなどに参加する	14.1	17.1
⑪家で、一人でゆっくり過ごす	63.1	47.5
⑫家で家族と過ごす	65.4	50.5
⑬友人や知人と集まって過ごす	25.0	33.4



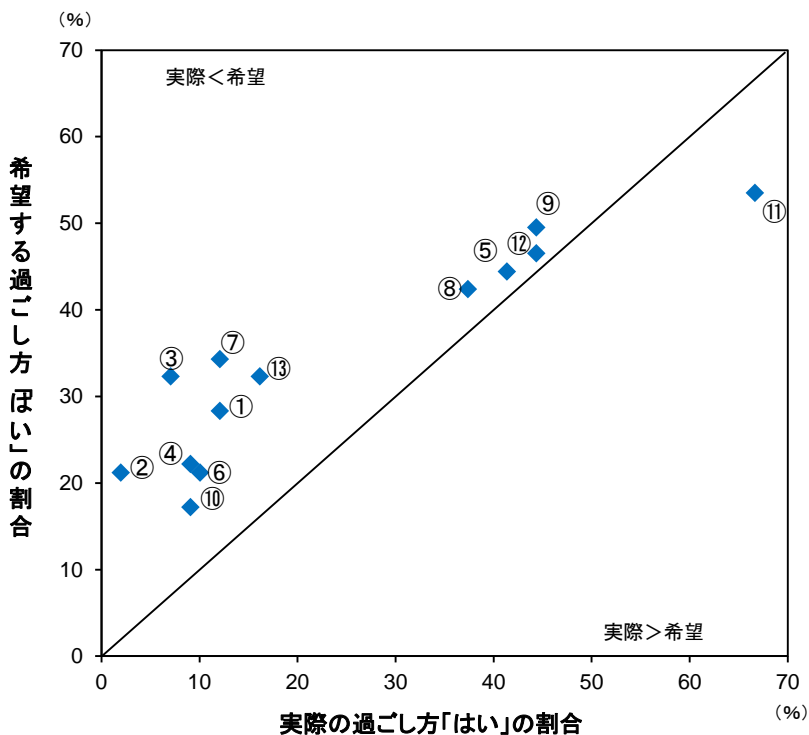
図表 41 自由時間の過ごし方の実際と希望（知的障がい者）

項目	実際 (%)	希望 (%)
① 習い事やサークル、趣味の集まりなどに参加する	18.2	30.0
② 資格取得やパソコン講座などの勉強をする	3.6	13.6
③ ジョギングや球技、水泳など、運動をする	13.6	30.0
④ 釣りやキャンプ、ドライブなど、屋外の趣味をして過ごす	8.2	28.2
⑤ 読書やゲーム、パソコンなど、家の中でできる趣味をして過ごす	50.9	42.7
⑥ 遊興施設（カラオケ、ゲームセンター、パチンコなど）へ出かける	20.0	28.2
⑦ 美術館やコンサート、映画、祭りなどのイベントに出かける	21.8	46.4
⑧ 買い物や食事、飲み会などに出かける	63.6	60.0
⑨ 美容、身だしなみ、健康のため、理髪店・美容院、エステ・マッサージなどへ行く	52.7	54.5
⑩ 地域の集まりやボランティアなどに参加する	7.3	20.9
⑪ 家で、一人でゆっくり過ごす	58.2	49.1
⑫ 家で家族と過ごす	70.9	61.8
⑬ 友人や知人と集まって過ごす	23.6	36.4



図表 42 自由時間の過ごし方の実際と希望（精神障がい者）

項目	実際 (%)	希望 (%)
① 習い事やサークル、趣味の集まりなどに参加する	12.1	28.3
② 資格取得やパソコン講座などの勉強をする	2.0	21.2
③ ジョギングや球技、水泳など、運動をする	7.1	32.3
④ 釣りやキャンプ、ドライブなど、屋外の趣味をして過ごす	9.1	22.2
⑤ 読書やゲーム、パソコンなど、家の中でできる趣味をして過ごす	41.4	44.4
⑥ 遊興施設（カラオケ、ゲームセンター、パチンコなど）へ出かける	10.1	21.2
⑦ 美術館やコンサート、映画、祭りなどのイベントに出かける	12.1	34.3
⑧ 買い物や食事、飲み会などに出かける	37.4	42.4
⑨ 美容、身だしなみ、健康のため、理髪店・美容院、エステ・マッサージなどへ行く	44.4	49.5
⑩ 地域の集まりやボランティアなどに参加する	9.1	17.2
⑪ 家で、一人でゆっくり過ごす	66.7	53.5
⑫ 家で家族と過ごす	44.4	46.5
⑬ 友人や知人と集まって過ごす	16.2	32.3



※実際に、希望通りに過ごすために必要だと思うこと（代表的な意見を抜粋して掲載しています。）

健康な体や健康問題の解決, 医療 60件
精神の健全が必要
運動制限がなくなること
体が自由に動かず、一人では行動できないのでなかなか自分の思うような過ごし方はできない。
いつも元気で健康であること
体力を戻すための努力
健康上の問題が無くなること。新型コロナが収まってくれれば。
体の一部を失っているため、希望はするが実現できない。
自分一人で行動できる知識や経験、健康などが必要。
自分の平衡機能を少しでも取り戻す為のリハビリを行う。
足の筋力の強化
集団の場所には体がついていけず無理。今は動けるので自分なりに動きたいが、外から見えない病気なので周りに理解されず、それが辛い。
体力・筋力が必要。薬が効いて少しでも体の動きが楽になれば、動かしてみたい。
喘息持ちで目も悪い為、マイペースで出来ることがあれば良い。
身体的な症状の安定と治療
心の余裕や体力
適切で効果の高いレベルの治療
医療の進歩
もっと医学が発達して、病気そのものが治るようになったら良い。
聴力が悪いため、他人の話が十分聞き取れない。
若い時の体調の管理と継続が大事。

金銭, 時間など 41件
金銭/携帯電話/友達や家族/一人で過ごせる空間/楽しみ
一日の時間を大切にする
金銭, 自由, 時間, 知識
生活の為に仕事をして収入を得ているが将来不安なために無理して仕事をしている。その結果、体に負担がかかり、寝込んだり、通院している為大きく時間とお金が必要。
お金→仕事に出なくても良い時間
心と身体のバランスを取るために余暇も必要
子どもの空き時間がある事
お金がもっと欲しい。司法書士の所にお金がいってしまうので、手元に自由なお金がない。
自由な時間・金銭的なもの
自分だけの時間。年を取ると運転も困難になり行動範囲が狭まるので、近所との関わりが大切になる。
仕事が出来ないのでお金がなく、運転が苦手なので交流の場などに足を運ばない。
お金・時間がない。少し余裕ができてから考えたい。
自分の自由がないので、我慢もお互いでは私が辛いです。

本人の意識や考え方 29件
能力, コミュニケーション力, 信頼感, 勇気, 強さ
自分がそれをやりたいという気持ちにならなければ, 実際にそう過ごしたいと思うだけになる。
心の持ちよう (めんどくさく思ってしまう。)
本人の意識改革と家族や福祉サービスの方, 友人などとのきっかけづくり。
気持ちの問題 (やる気)
自分が積極的に行動する
世間の人々の目が怖い
自分自身が興味をもてるかどうか。
車いすでも自分で出来る事を増やす。車の運転など。
自ら進んで参加すること

人間関係, コミュニケーションの機会の提供 24件
積極性と多くの人間関係を築くこと
周囲の理解や協力
発達障がいを理解している先生
手伝って相談してくれる方
同じ病気を持つ人と話がしてみたい。
友人知人の理解と偏見を取り除く。
サークルや集まりが市内にあまりない。運動サークルも少ないし, 平日の夜に近くでしているものがない。
家族のサポート以外で, できれば同世代の人と関われる機会があればよい。
友人とのコミュニケーション

福祉や介護などの公的サービス(支援) 24件
支援してもらえる人的サポート, 金銭管理, 他人とのコミュニケーションサポート。(当人と同居者が同じ年齢の為, 将来的なサポートという理由)
視覚障がいがある為, 介護者が必要。スマホやパソコン等の講習する場所が必要。(情報収集の為)
体の自由が利かない為, 介助が必要。
一緒に出掛けてくれる人 (家族以外)
行動するときの移動手段の援助
デイサービス利用時に理髪, 爪切りなどの身だしなみがサービスとして可能になればよい。
一人では難しいので, 支援していただく方が必要です。家族がいつも支援できるわけではないので, 公的な支援があると助かります。
スキルアップの為の支援
家で過ごしたいが, 家族は高齢な為介護できない。

集まれる場所（整備含む）18件
社会とのつながりのあるサークル，集まり活動する場がないので多く作ってほしい。
自治会内の集会場
外出先のトイレ（車椅子使用者用）広い幅の駐車場（車椅子使用者用）
目が不自由でも安全に歩ける道や公園が必要。
障がい者でも受け入れてくれる環境や設備が整っている。見守りの方がいる。
コンサートや映画館などは（車いす用のスペースはあるか）長時間じっとしてられないので3～4人席のブースのようなものがあると利用しやすい。

情報提供，イベント企画 18件
安く講座を受けられたり，コンサートに出かけたりできるといい。
スポーツする為に，自分の体に丁度いいものが見つけにくい。
近くで映画や祭りがあれば出かけた。
習い事やサークルの案内をしてほしいです。
市が高齢者を対象に，健康管理・パソコン・趣味的園芸講座等イベントの企画をしてほしい。
一人で参加できる行事。地域の中で支援者と共に定期的に利用できるイベント。

移動(交通)手段の支援 17件
車椅子を使用しており循環バスも以前のように乗れなくなりました。特に目的もなくタクシーで出かけるのはもったいないと妻に言われます。
便利な交通手段
前は運転しどこでも行けましたが，手放してからは足がなくどこへも行けません。買い物は近くのコンビニか，市内を動く場合，行きは知人に乗せてもらい，帰りはタクシーで帰ります。バスがあれば助かります。
どこへ行くのも車がないと不便なので，出かけるのが面倒になる。又，事故を起こすのも不安で，交通の便をよくしてほしい。
車の免許等の移動手段・友人
自家用車と運転者

その他 13件
特別支援学級担当の先生の研修をしっかり行ってほしい。熱意や知識のある先生もいますが，障がいに対する知識や理解の浅い先生も多くいます。市内全般的に，学級担任をするには経験の足りない先生が担任を持っているように感じるとの話をよく聞く。（子どもの通う学校のことではない）
ボランティアで指導が出来る人
不自由な身体でも取得できる資格
家族と過ごすことの役割分担が必要。家族に頼る気持ちも必要。
趣味が必要

5 福祉サービスについて

(1) 各種サービスの利用状況と利用希望

問 20 つぎの各種サービスについて、利用していますか、また今後利用したいですか。
(それぞれについてあてはまるもの1つに○)

【全体の傾向】

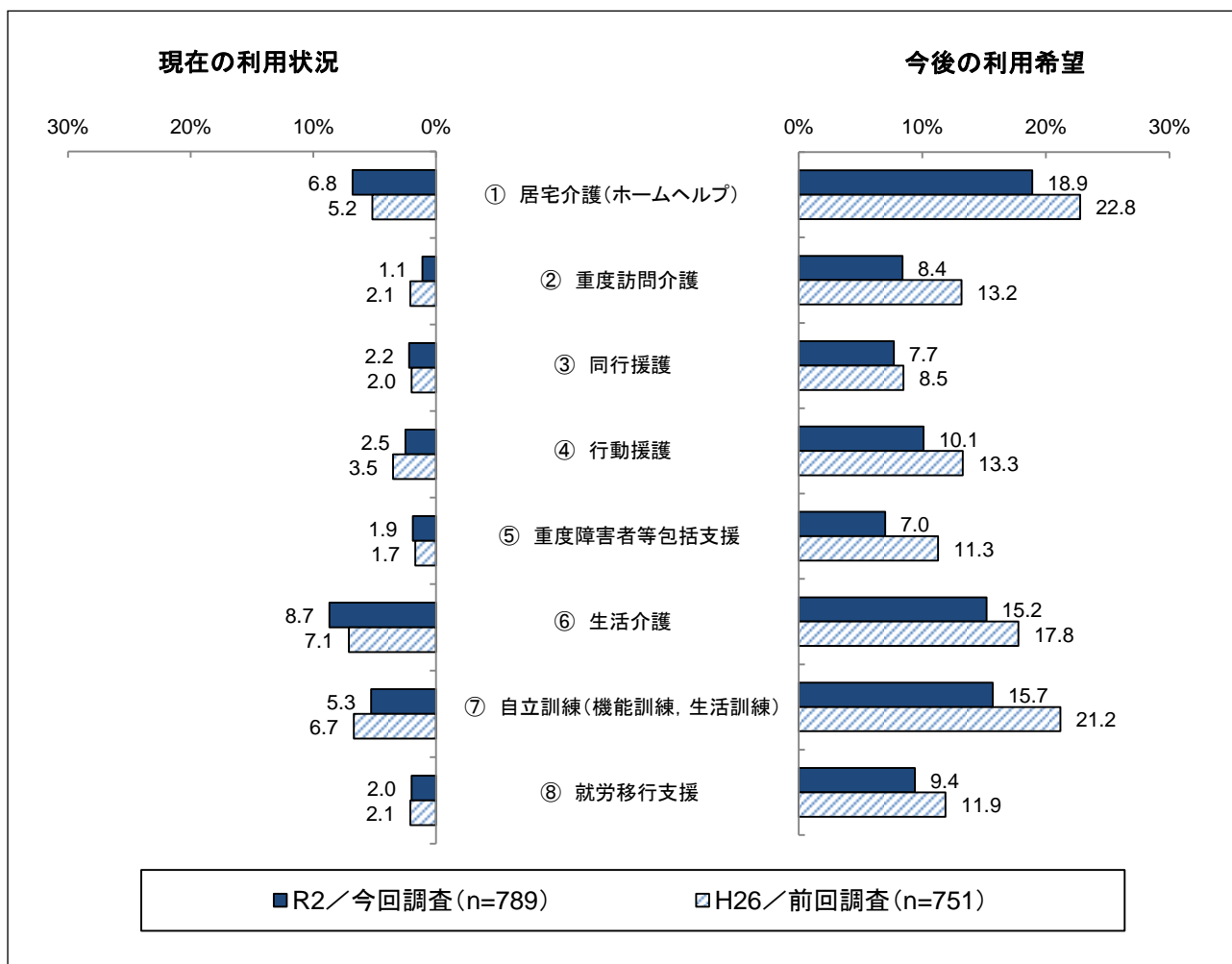
現在のサービスの利用状況についてみると、「⑳相談支援」が9.4%と最も高く、次いで「㉔生活介護」(8.7%)、「㉑居宅介護」(6.8%)となっています。

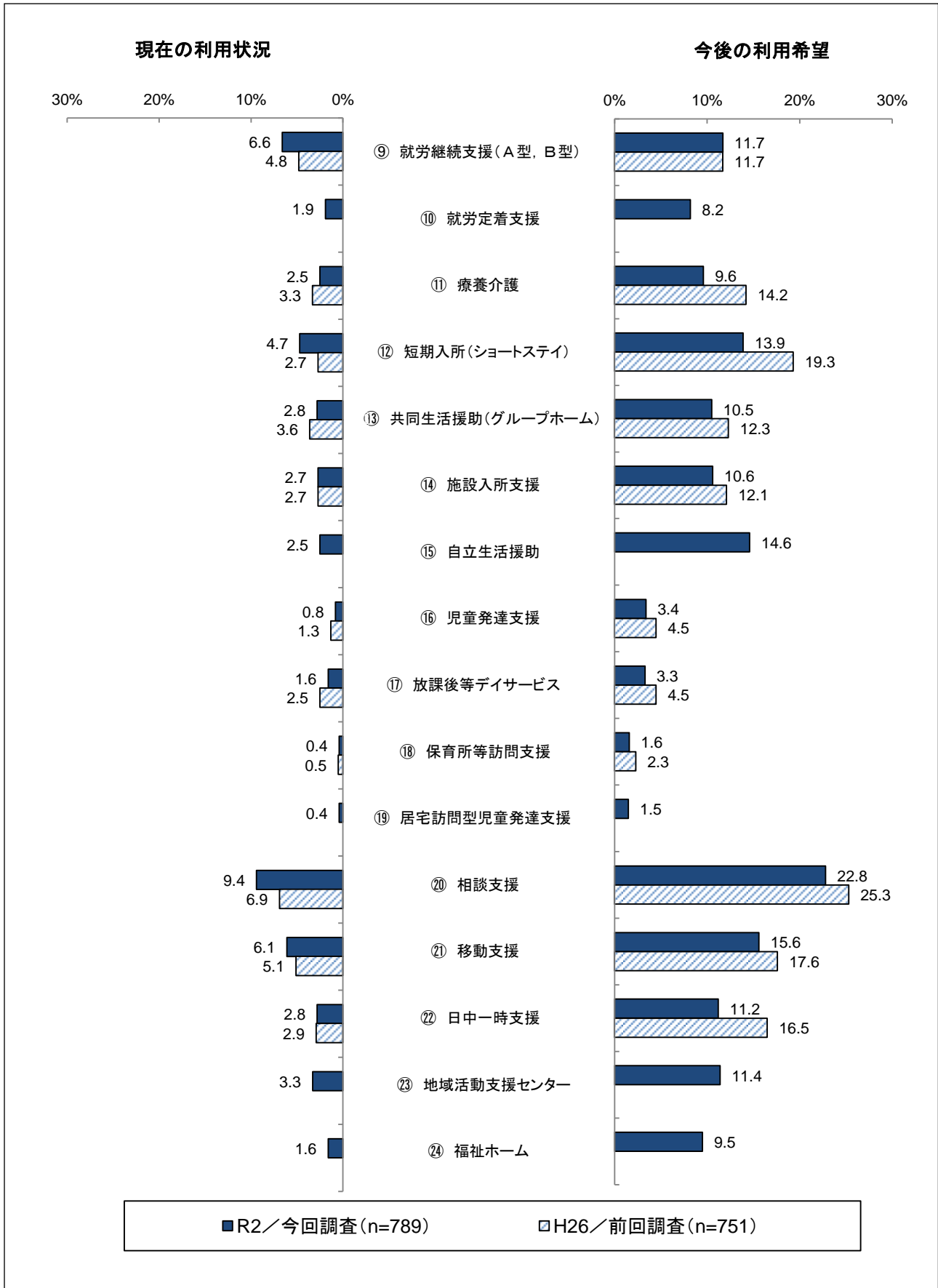
今後の利用希望については、「㉔相談支援」が22.8%と最も高く、次いで「㉑居宅介護」(18.9%)、「㉕自立訓練」(15.7%)となっています。

前回調査と比較すると、現在の利用状況は概ね同様の傾向となっていますが、今後の利用希望の割合は、減少傾向がみられます。

また、現在の利用状況に比べて、今後の利用希望の割合が大きく上回っているサービスは、「㉔相談支援」(13.4ポイント)、「㉕自立生活援助」、「㉑居宅介護」(ともに12.1ポイント)、「㉕自立訓練」(10.4ポイント)などとなっています。

図表 43 現在の利用状況と今後の利用希望（全体、前回比較）





※⑩就労定着支援, ⑮自立生活援助, ⑲居宅訪問型児童発達支援, ㉓地域活動支援センター, ㉔福祉ホームは前回調査での該当項目無し

【属性別の傾向】

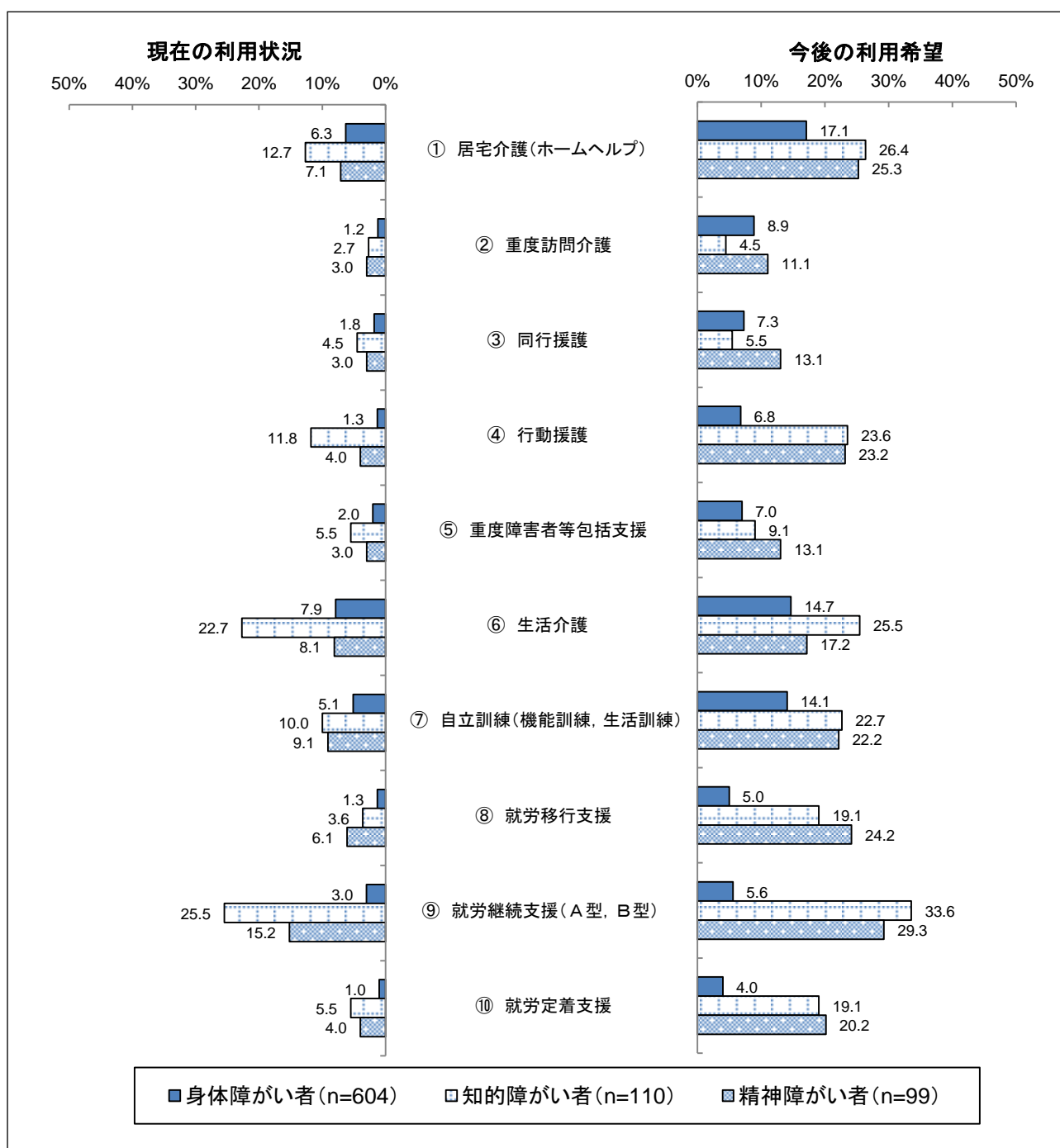
障がい別にみると、現在利用者が多いサービスは、身体障がい者では、「⑥生活介護」、知的障がい者では「⑩就労継続支援」、「⑪移動支援」、精神障がい者では「⑩就労継続支援」、「⑨就労継続支援」、「⑬共同生活援助」となっています。

今後の利用希望者が最も多いサービスは、障がいの種類に関わらず「⑩就労継続支援」となっています。

また、知的障がい者では「⑪移動支援」、「⑨就労継続支援」、「⑫短期入所」、精神障がい者では「⑨就労継続支援」、「⑮自立生活援助」などの利用希望者も多くなっています。

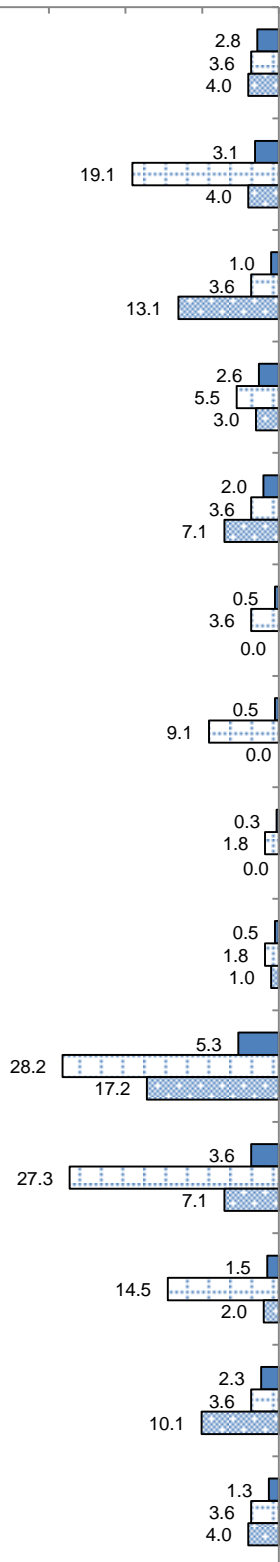
現在の利用状況と今後の利用希望の割合の差が最も大きいサービスは、身体障がい者では「⑩就労継続支援」、知的障がい者及び精神障がい者では「⑮自立生活援助」となっています。

図表 44 現在の利用状況と今後の利用希望（障がい別）



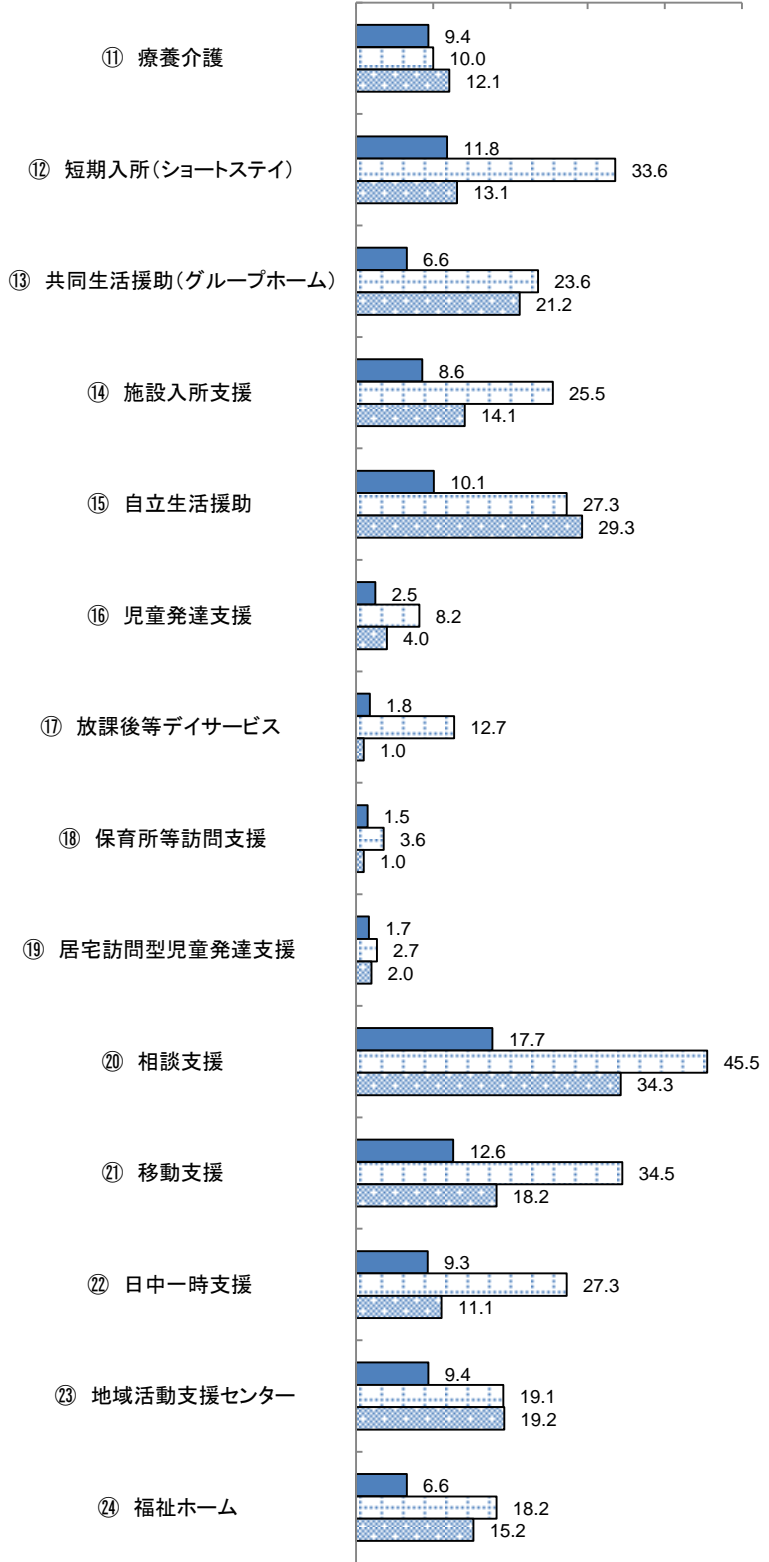
現在の利用状況

50% 40% 30% 20% 10% 0%



今後の利用希望

0% 10% 20% 30% 40% 50%

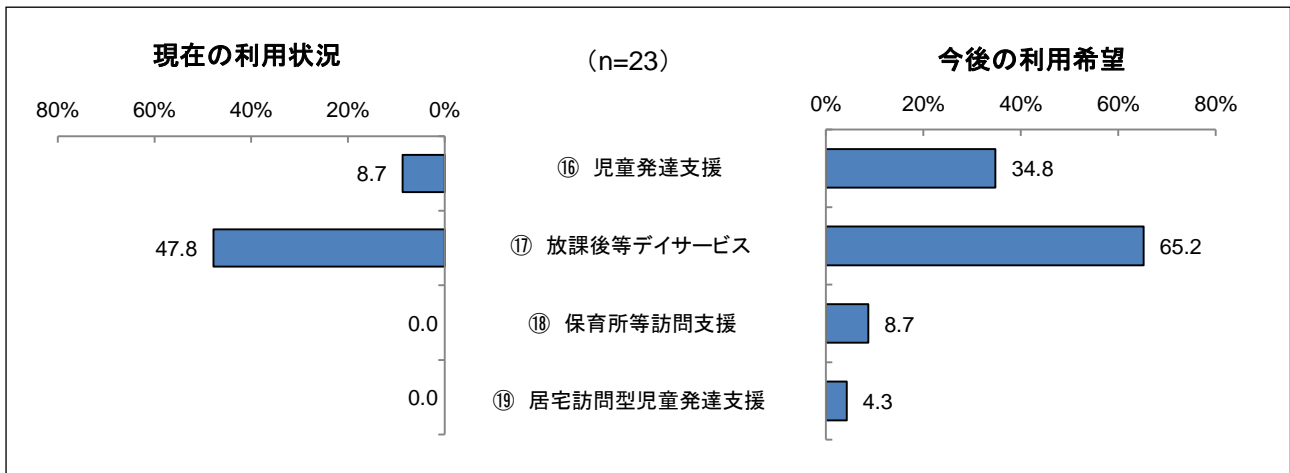


■身体障がい者 (n=604) □知的障がい者 (n=110) ▨精神障がい者 (n=99)

【全体の傾向：18歳未満の回答者のみ】

18歳未満の回答者における、利用状況等については、「⑩児童発達支援」については、現在の利用者は8.7%と割合は低くなっていますが、今後の利用希望者は34.8%と3割を超えています。また、「⑪放課後等デイサービス」については、現在の利用者も47.8%と4割を超えています。今後の利用希望者は65.2%とさらに上回っています。

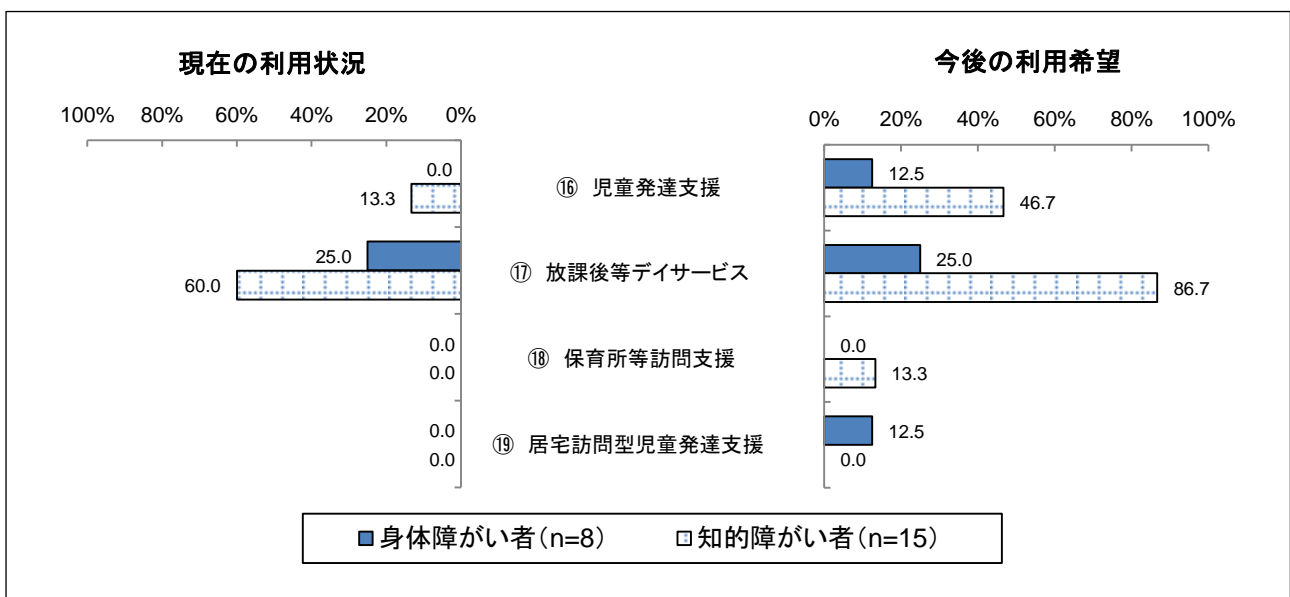
図表 45 現在の利用状況と今後の利用希望（全体：18歳未満のみ）



【属性別の傾向：18歳未満の回答者のみ】

障がい別にみると、知的障がい者では、「⑩児童発達支援」の現在の利用者は13.3%と低いのにに対し、今後の利用希望者は46.7%と4割を超えています。また「⑪放課後等デイサービス」では、現在の利用者が60.0%に対し、今後の利用希望者は86.7%と8割を超えています。

図表 46 現在の利用状況と今後の利用希望（障がい別：18歳未満のみ）



※精神障がい者：18歳未満の回答者無し

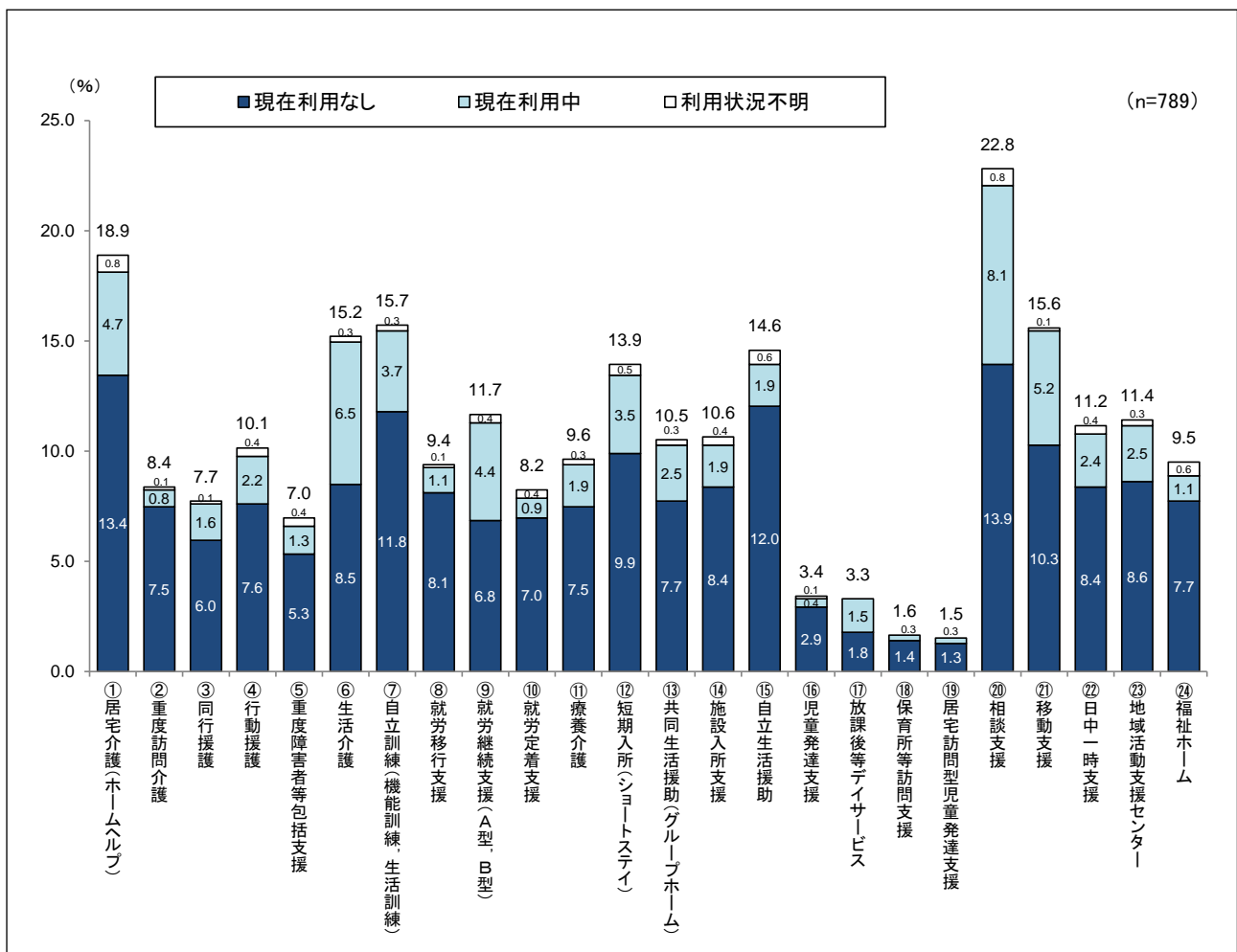
【現在利用していないが、今後利用を希望する割合】

今後利用を希望する人の、半数以上が現在サービスを利用していない人となっています。

「①居宅介護」、「⑦自立訓練」、「⑳相談支援」、「㉑移動支援」などでは、新規利用希望者（現在サービスを利用していないが今後利用希望がある）、また、継続利用希望者（現在利用中であり、今後も利用したい）の割合も多くなっているため、今後利用希望者の割合は全体的に多くなっています。

一方、「⑮自立生活援助」については、今後利用希望者 14.6%のうち、継続利用希望者はわずか 1.9%と低く、現在利用できている人は少ない状況ですが、新規利用希望者が 12.0%と多くなっています。

図表 47 今後利用希望する割合の内訳（全体）



※小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、内訳の合計が「今後利用希望する割合」の合計と差異がある場合があります。

【属性別の傾向】

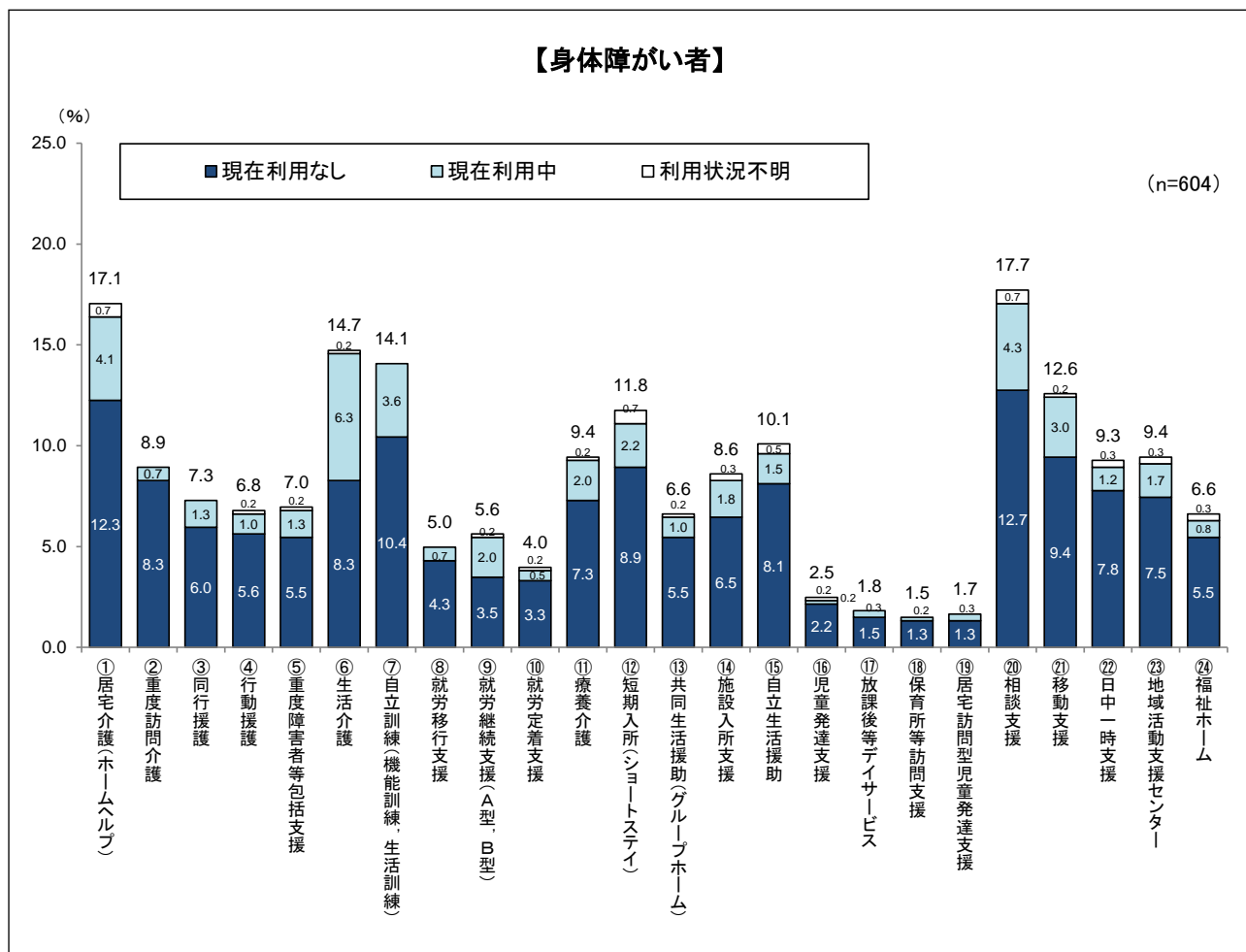
現在利用していないが、今後利用を希望する人の割合を障がい別にみると、身体障がい者では、「⑳相談支援」(12.7%)が最も多く、次いで「①居宅介護」(12.3%)、「自立訓練」(10.4%)と続いています。

知的障がい者では、「⑮自立生活援助」(24.5%)が最も多く、次いで「⑭施設入所支援」(20.0%)、「⑫短期入所」、「⑬共同生活援助」(18.2%)と続いています。

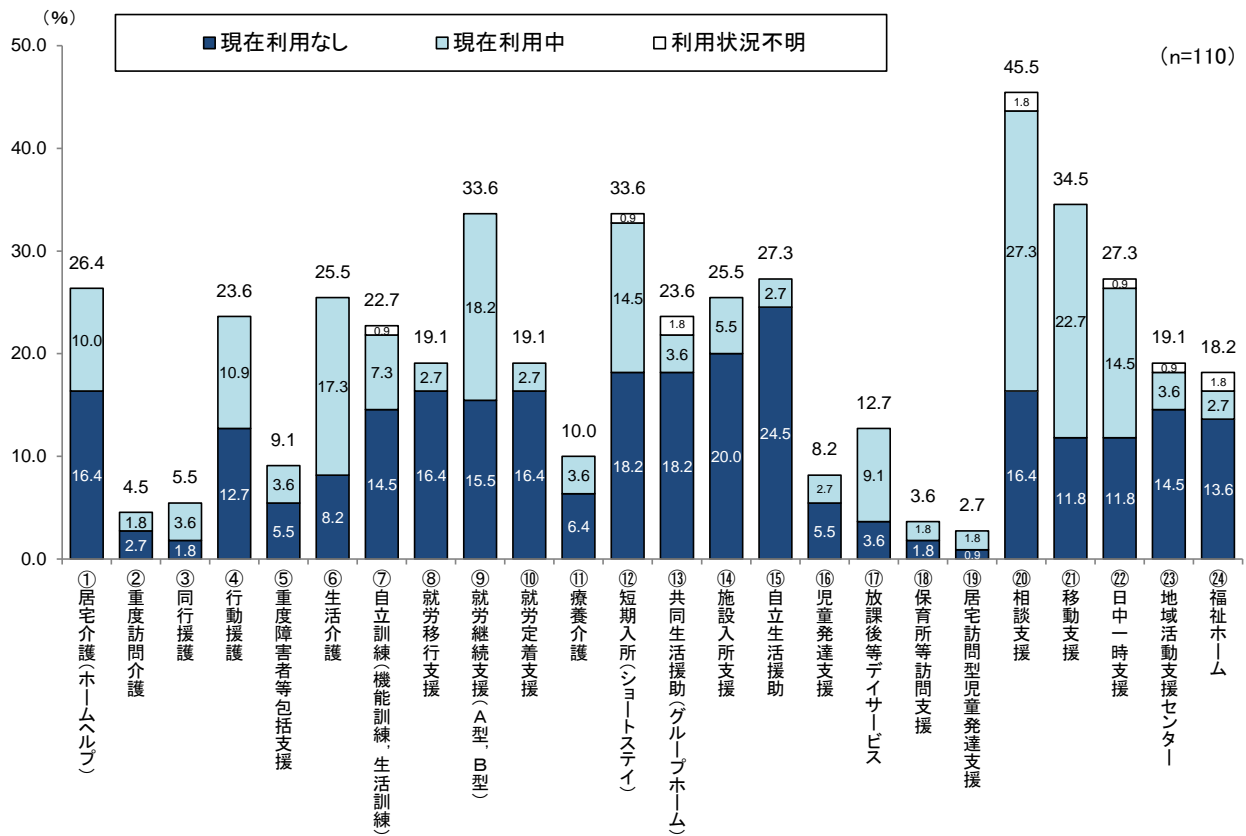
また、知的障がい者では、「⑳相談支援」をはじめとして、現在も利用していて引き続き利用を希望している人が多い傾向がみられます。

精神障がい者では、「⑮自立生活援助」(22.2%)が最も多く、次いで「⑧就労移行支援」、「⑳相談支援」(19.2%)、「④行動援護」(18.2%)と続いています。

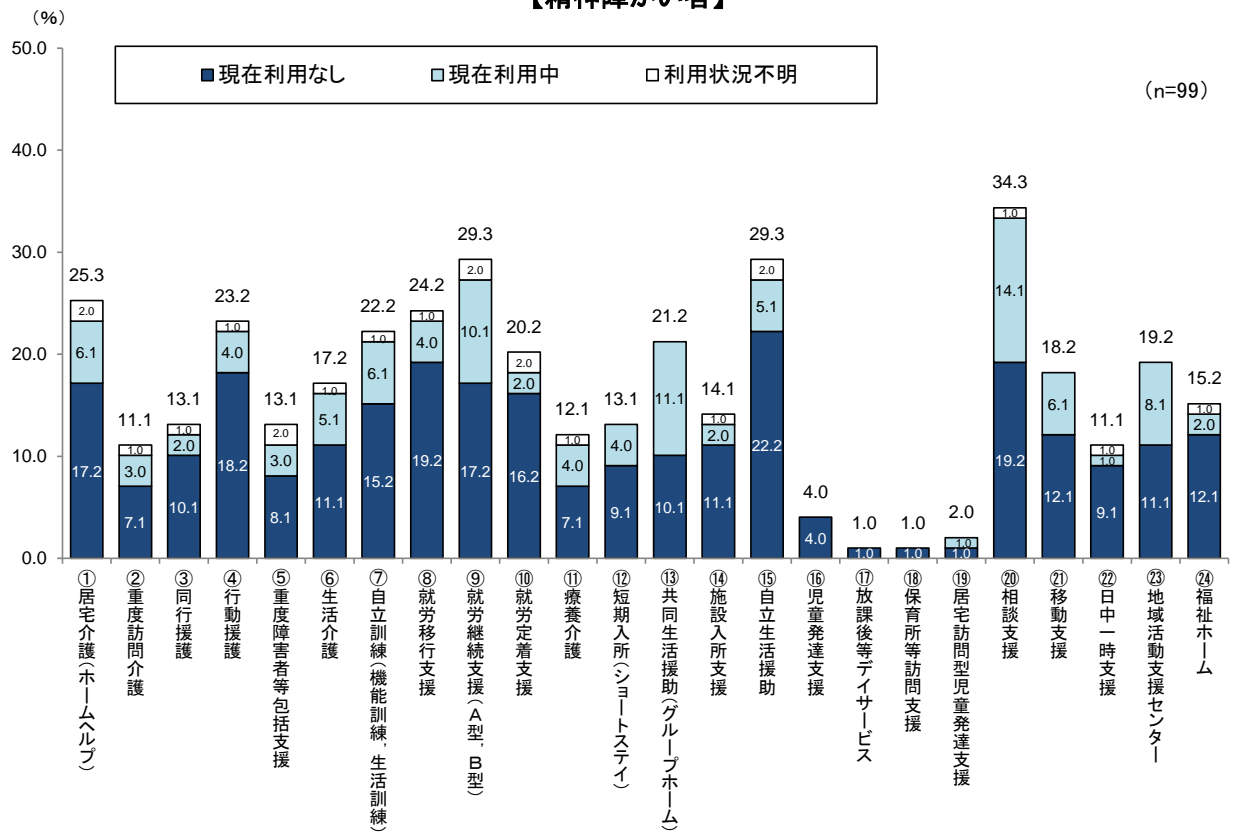
図表 48 今後利用希望する割合の内訳（障がい別）



【知的障がい者】



【精神障がい者】



(2) 情報の入手について

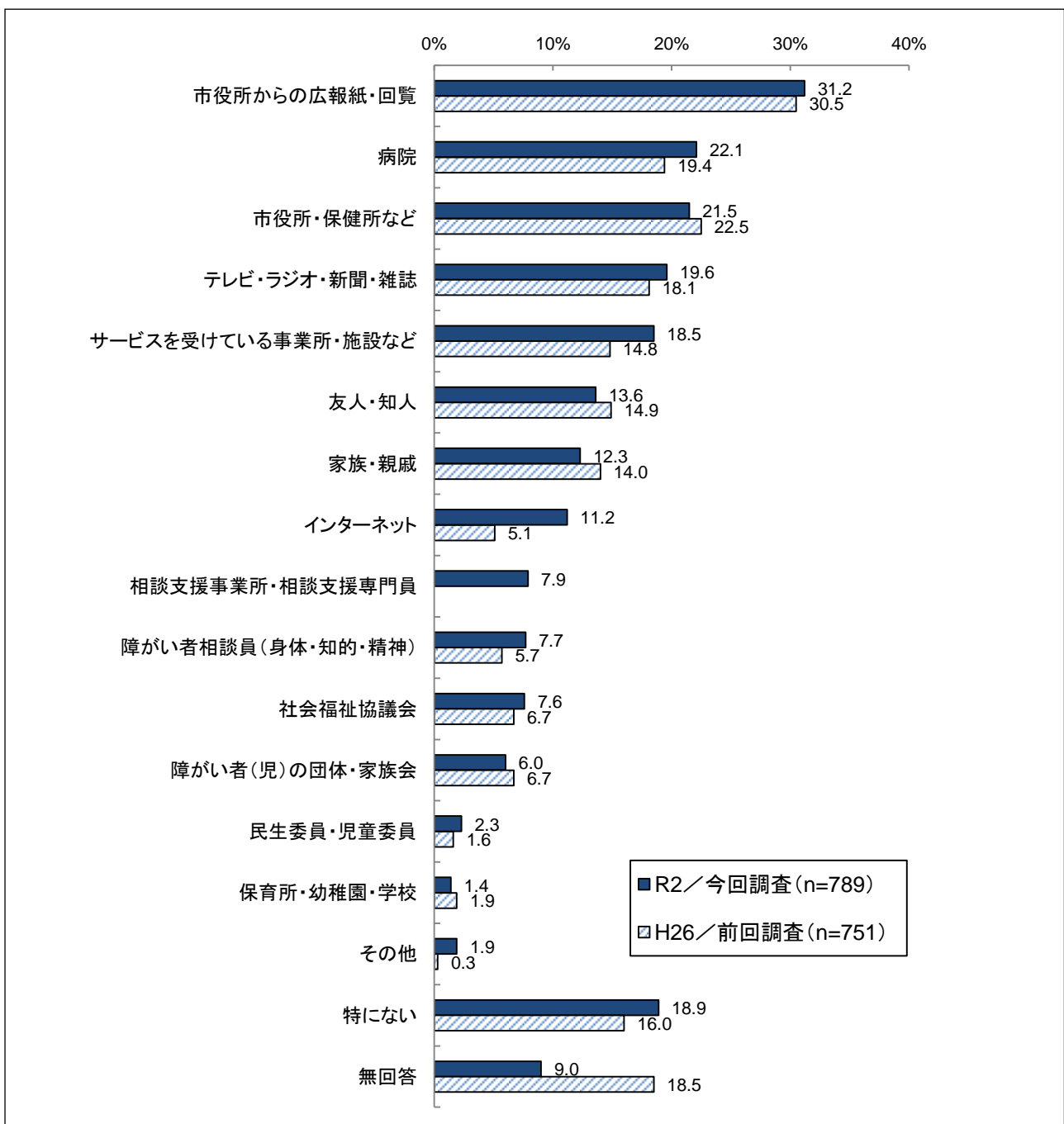
問 21 サービスに関する情報をどこから入手していますか。(〇は5つまで)

【全体の傾向】

サービスに関する情報の入手先をみると、「市役所からの広報紙・回覧」(31.2%)が最も多く、次いで、「病院」(22.1%),「市役所・保健所など」(21.5%),「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」(19.6%),「サービスを受けている事業所・施設など」(18.5%)と続いています。

前回調査と比較すると、「インターネット」が6.1ポイント増加しており、増加幅が最大となっています。

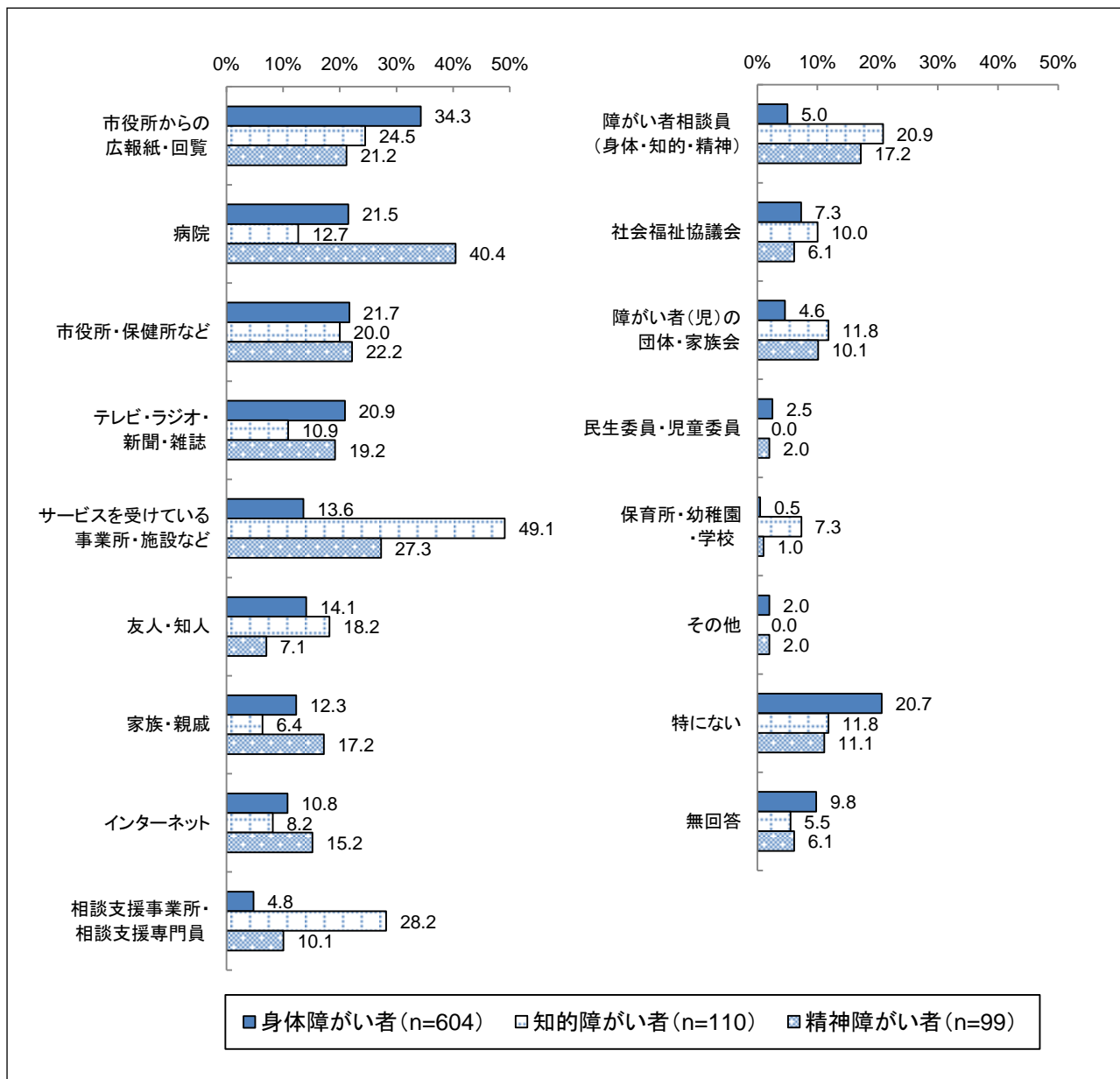
図表 49 サービスに関する情報の入手先 (全体, 前回比較/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「市役所からの広報紙・回覧」、知的障がい者では「サービスを受けている事業所・施設など」、精神障がい者では「病院」がそれぞれ最も多くなっています。

図表 50 サービスに関する情報の入手先（障がい別／複数回答）



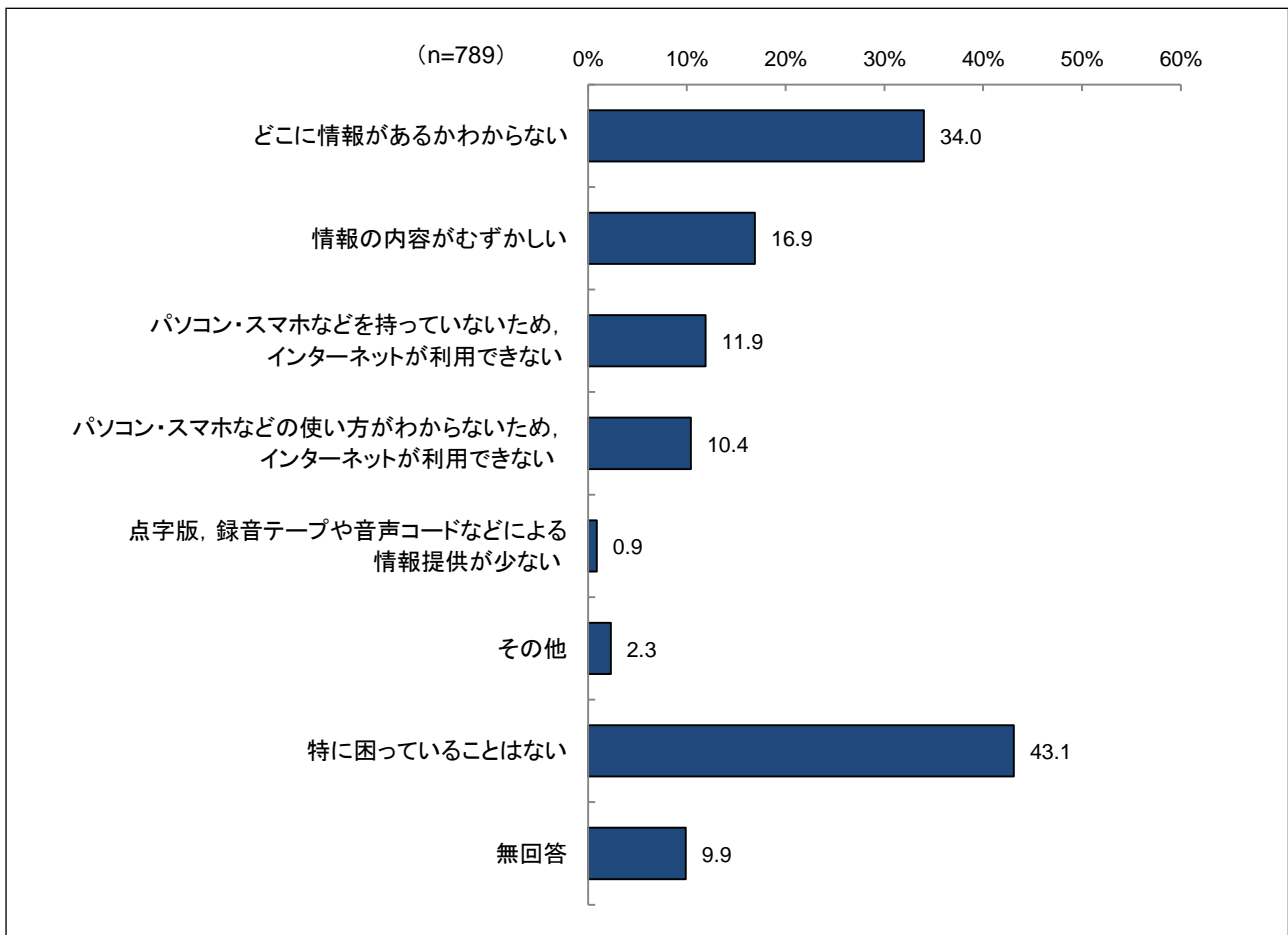
問 22 福祉に関する情報の入手についてあなたが困っていることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

情報を入手する際に困っていることをみると、「どこに情報があるかわからない」(34.0%)が多く、次いで「情報の内容がむずかしい」(16.9%)、「パソコン・スマホなどを持っていないため、インターネットが利用できない」(11.9%)、パソコン・スマホなどの使い方がわからないため、インターネットが利用できない」(10.4%)、「点字版、録音テープや音声コードなどによる情報提供が少ない」(0.9%)と続いています。

一方、「特に困っていることはない」は43.1%となっています。

図表 51 福祉に関する情報の入手で困っていること (全体/複数回答)

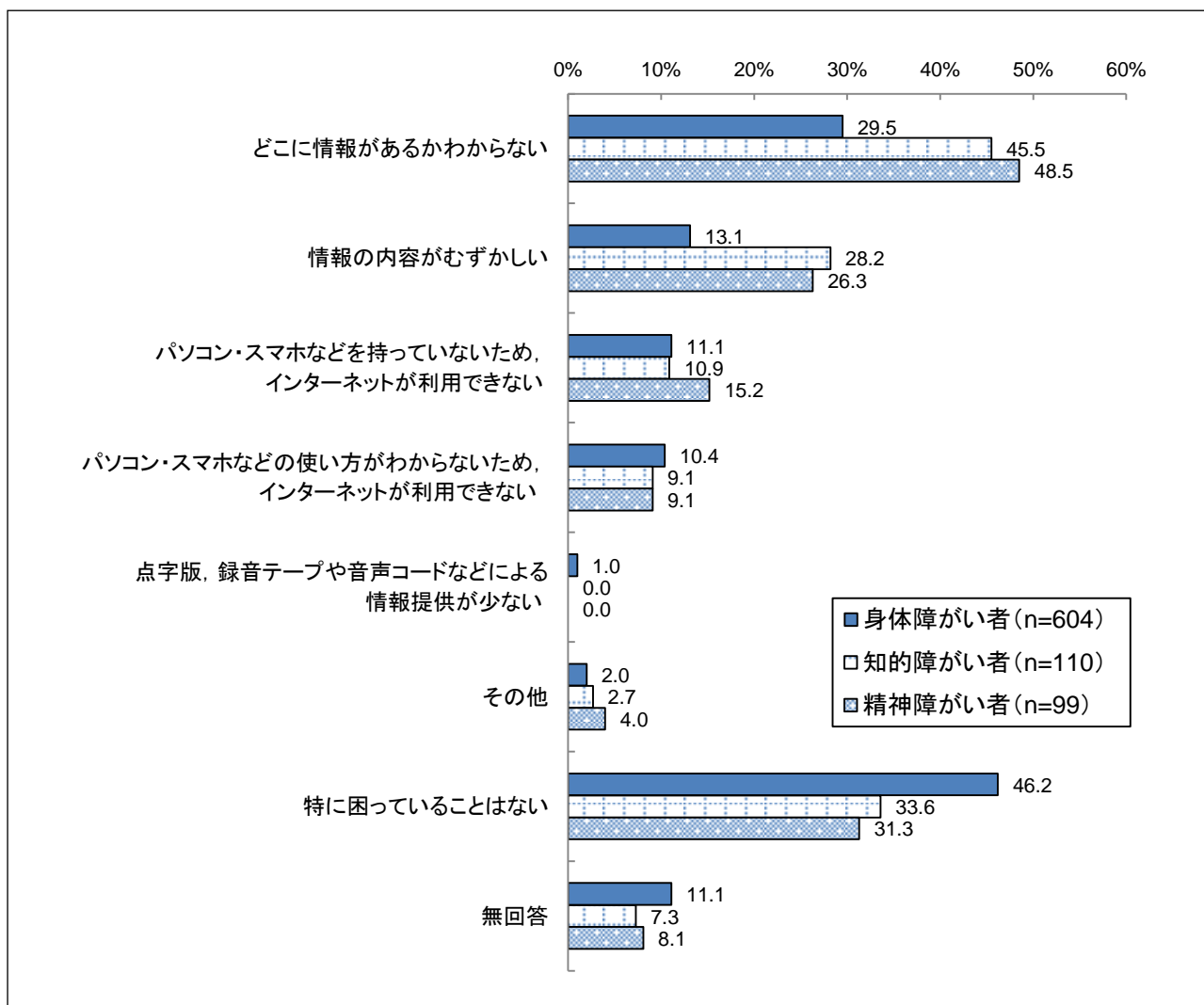


【属性別の傾向】

障がい別にみると、知的障がい者、精神障がい者では、「どこに情報があるかわからない」、「情報の内容がむずかしい」が特に多くなっています。

また、「特に困っていることはない」は身体障がい者で46.2%、知的障がい者で33.6%、精神障がい者で31.3%となっています。

図表 52 福祉に関する情報の入手で困っていること（障がい別／複数回答）



(3) サービスの利用について

問 23 これまでサービスの利用について不満や困ったことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

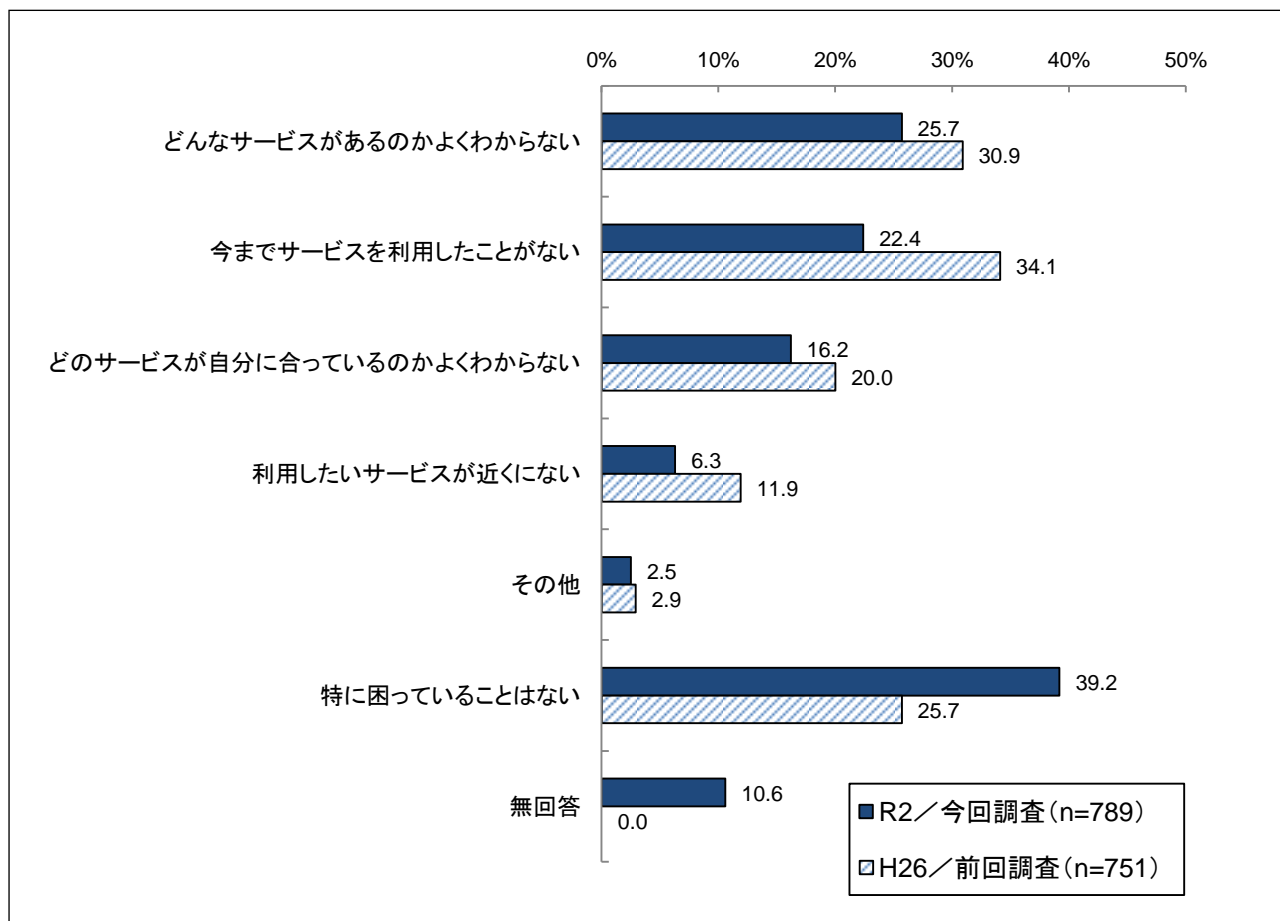
【全体の傾向】

サービスの利用について不満や困ったことがあったかをみると、「どんなサービスがあるのかよくわからない」(25.7%)が多く、次いで「今までサービスを利用したことがない」(22.4%),「どのサービスが自分に合っているのかよくわからない」(16.2%),「利用したいサービスが近くにない」(6.3%)と続いています。

一方、「特に困っていることはない」は39.2%となっています。

前回調査と比較すると、「今までサービスを利用したことがない」が10ポイント以上減少しています。また、「特に困っていることはない」が13.5ポイント増加しています。

図表 53 サービス利用についての不満など (全体, 前回比較/複数回答)



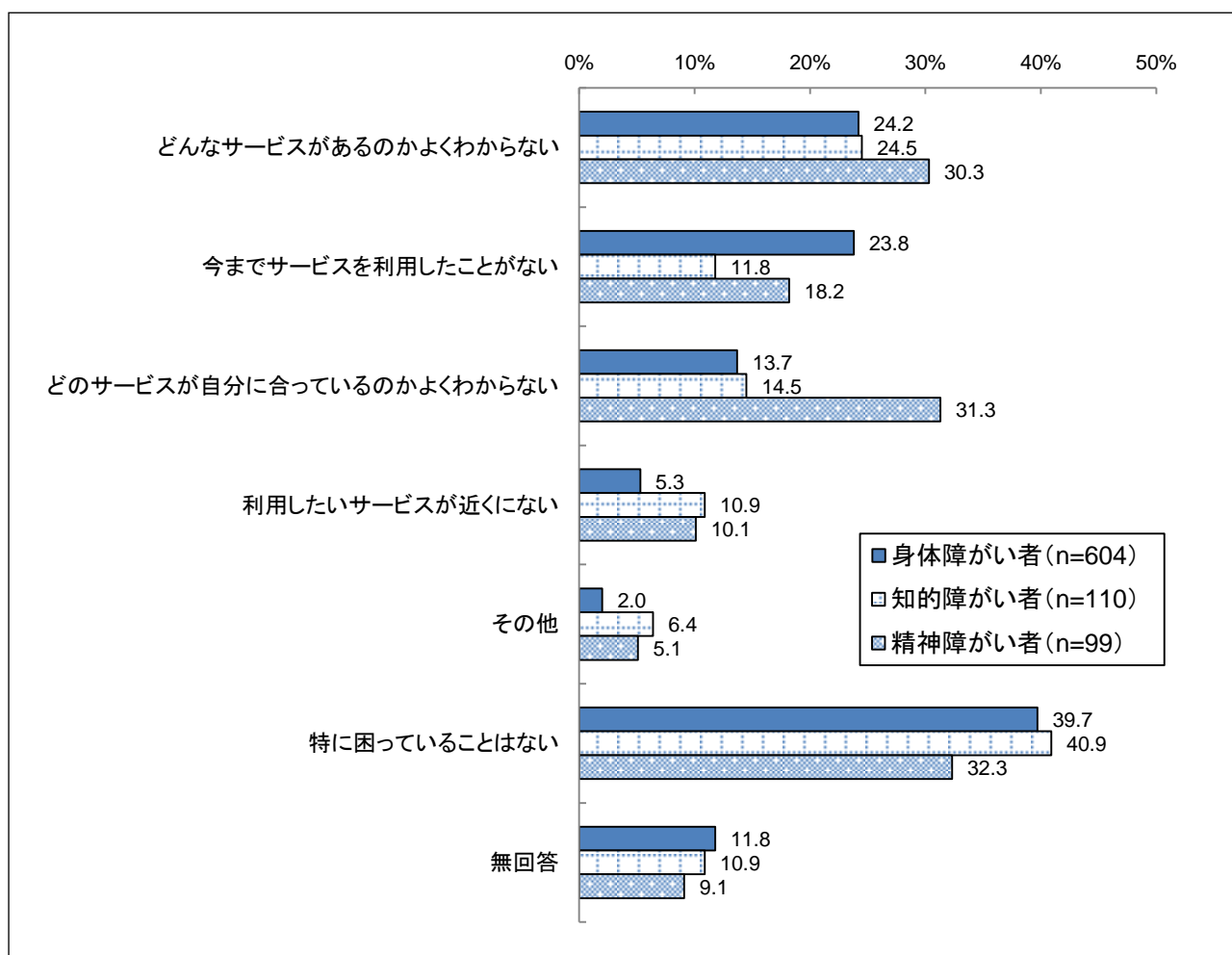
【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者及び知的障がい者では「どんなサービスがあるのかよくわからない」が多く、さらに身体障がい者では「今までサービスを利用したことがない」も多くなっています。

精神障がい者では「どのサービスが自分に合っているのかよくわからない」、「どんなサービスがあるのかよくわからない」が多く、3割を超えています。

また、「特に困っていることはない」は身体障がい者で39.7%、知的障がい者で40.9%、精神障がい者で32.3%となっています。

図表 54 サービス利用についての不満など（障がい別／複数回答）

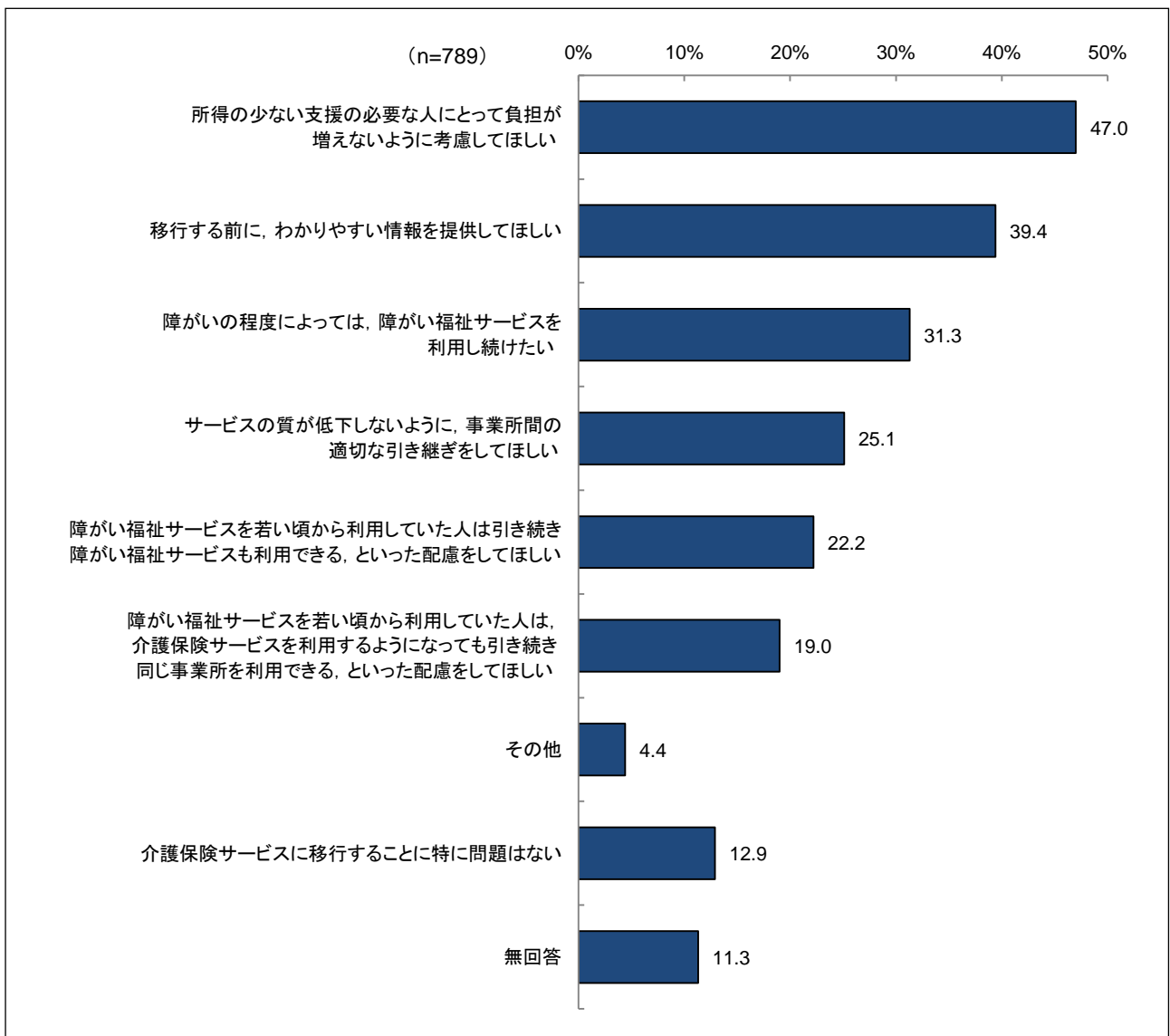


問 24 あなたは、65 歳になると、原則として障がい福祉サービスから介護保険サービスに移行することについて、どのように考えますか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

サービスの移行についての考えをみると、「所得の少ない支援の必要な人にとって負担が増えないように考慮してほしい」(47.0%) が最も多く、次いで「移行する前に、わかりやすい情報を提供してほしい」(39.4%)、「障がいの程度によっては、障がい福祉サービスを利用し続けたい」(31.3%)、「サービスの質が低下しないように、事業所間の適切な引き継ぎをしてほしい」(25.1%)、「障がい福祉サービスを若い頃から利用していた人は引き続き障がい福祉サービスも利用できる、といった配慮をしてほしい」(22.2%) と続いています。

図表 55 サービスの移行についての考え (全体/複数回答)

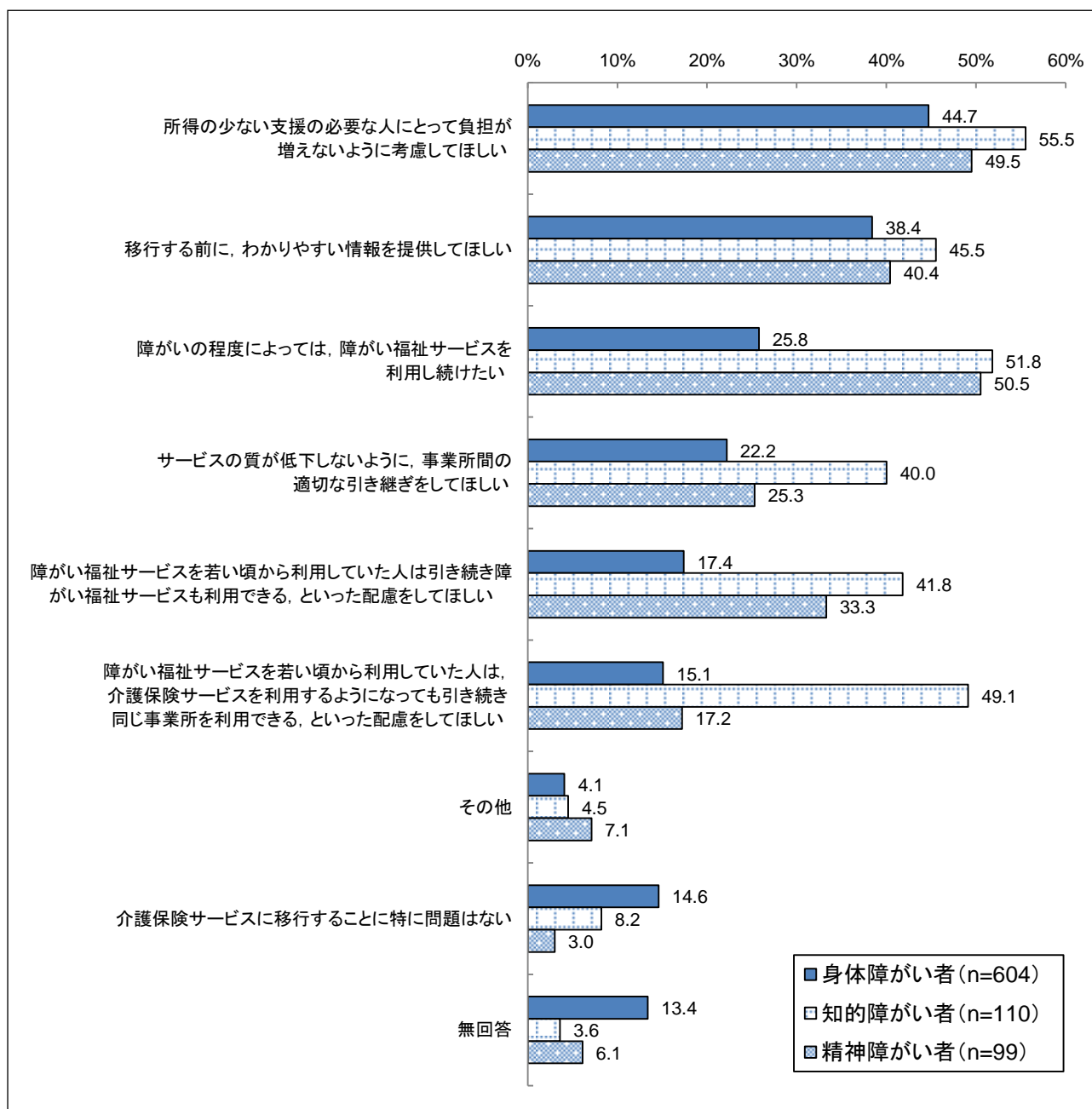


【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者及び知的障がい者では「所得の少ない支援の必要な人にとって負担が増えないように考慮してほしい」、精神障がい者では「障がいの程度によっては、障がい福祉サービスを利用し続けたい」がそれぞれ最も多くなっています。

また、知的障がい者は、身体障がい者及び精神障がい者に比べてそれぞれの意見の割合が高く、特に「障がい福祉サービスを若い頃から利用していた人は、介護保険サービスを利用するようになっても引き続き同じ事業所を利用できる、といった配慮をしてほしい」と考える割合が突出しています。

図表 56 サービスの移行についての考え（障がい別／複数回答）



6 仕事などについて

(1) 世帯収入について

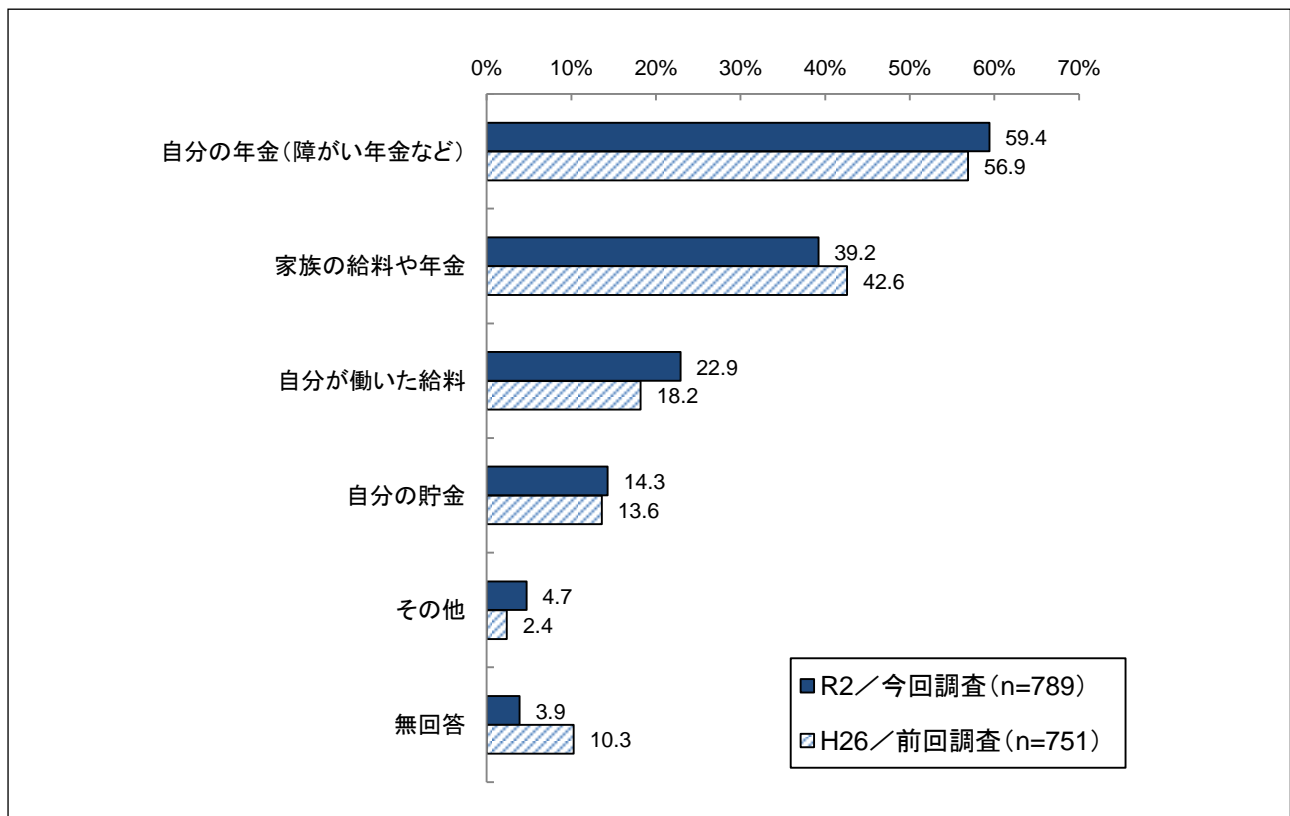
問 25 あなたの世帯の主な収入源は何ですか。(〇は2つまで)

【全体の傾向】

世帯の主な収入源をみると、「自分の年金（障がい年金など）」（59.4%）が最も多く、次いで「家族の給料や年金」（39.2%）、「自分が働いた給料」（22.9%）、「自分の貯金」（14.3%）と続いています。

前回調査と比較すると、全体的に増加傾向にある中で、「家族の給料や年金」のみが 3.4 ポイント減少しています。

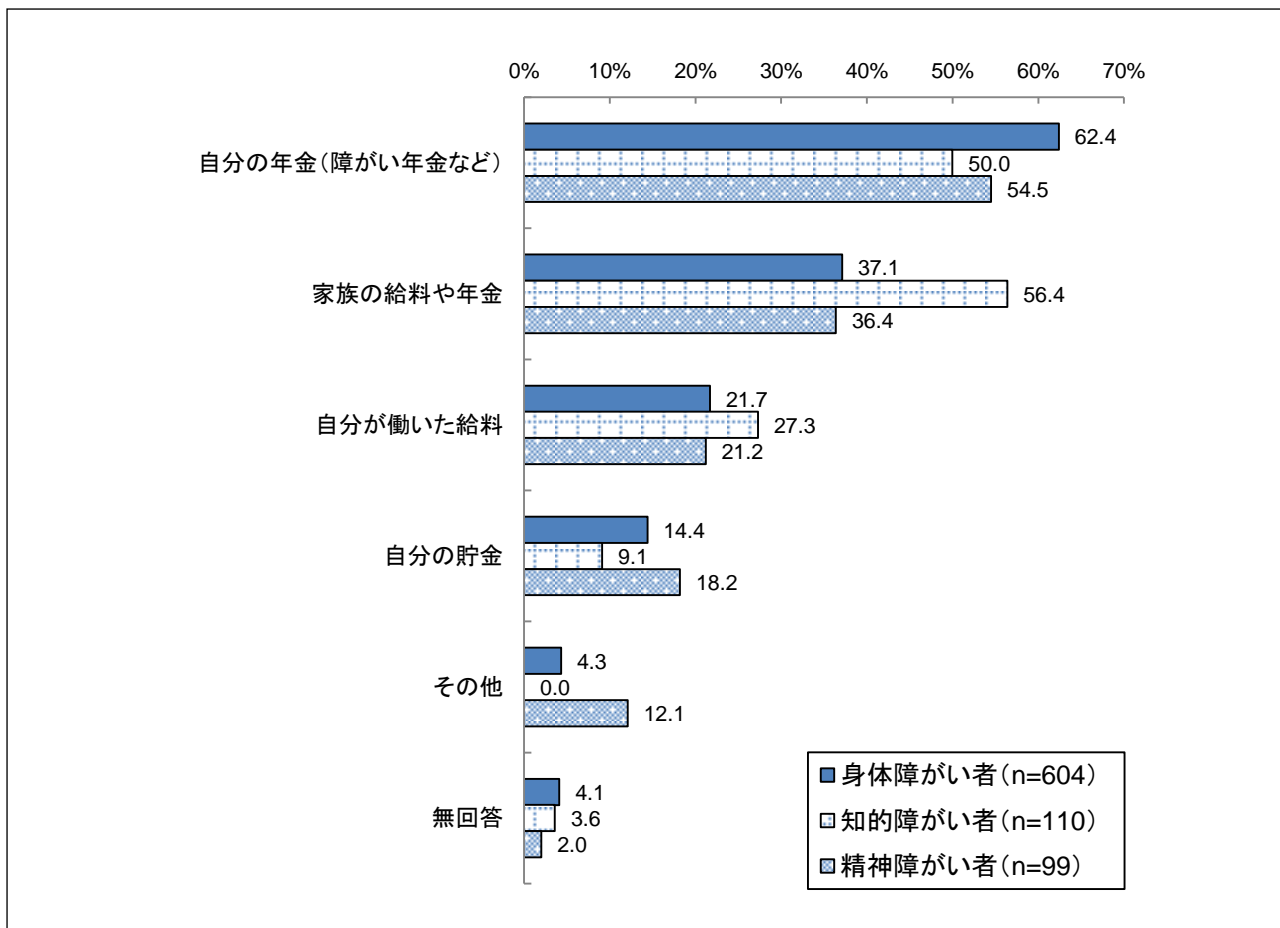
図表 57 世帯の収入源について（全体，前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者及び精神障がい者では「自分の年金（障がい年金など）」、知的障がい者では「家族の給料や年金」がそれぞれ最も多くなっています。

図表 58 世帯の収入源について（障がい別／複数回答）



(2) 経済状況について

問 26 あなたの経済的な生活状況は、次のどれに近いと思いますか。(1つに〇)

【全体の傾向】

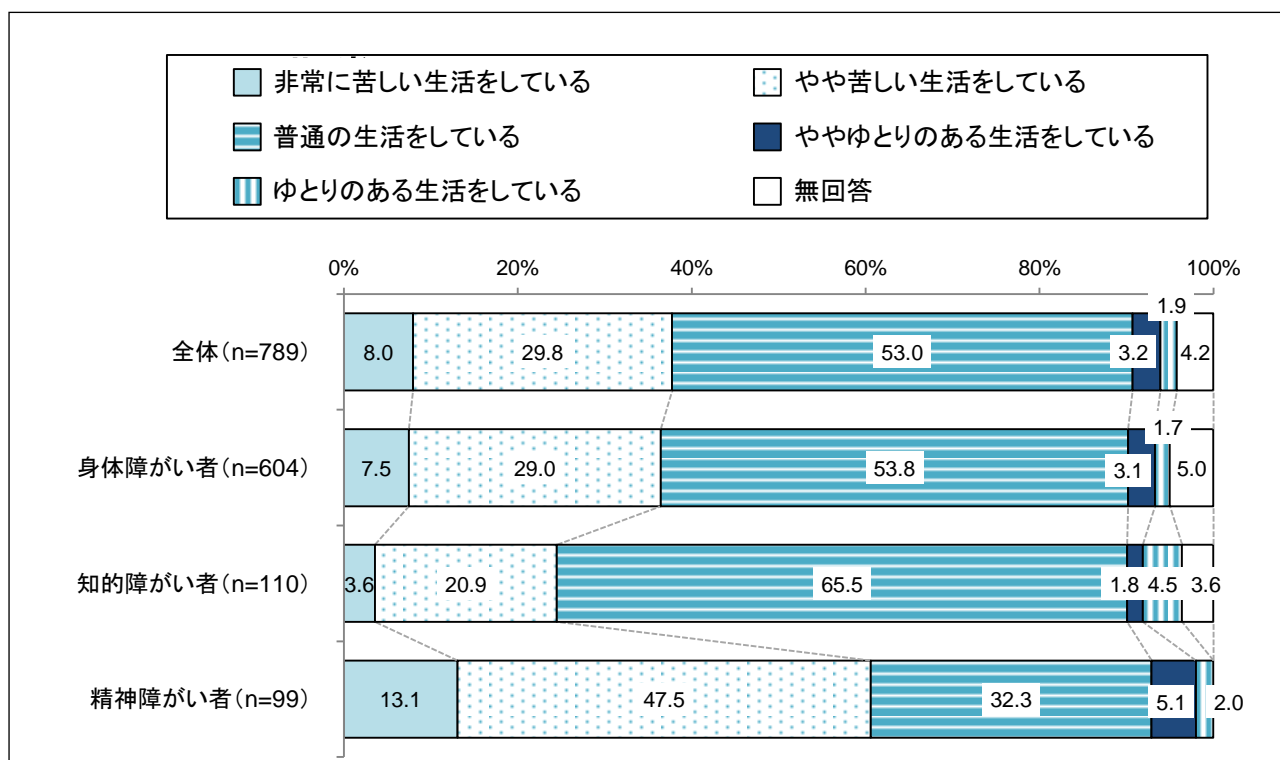
生活状況についてみると、「普通の生活をしている」(53.0%)が最も高く、次いで「やや苦しい生活をしている」(29.8%),「非常に苦しい生活をしている」(8.0%)と続いています。

また、「やや苦しい生活をしている」と「非常に苦しい生活をしている」を合わせた『苦しい生活をしている』人は37.8%となっている一方で、「ややゆとりのある生活をしている」と「ゆとりのある生活をしている」を合わせた『ゆとりのある生活をしている』人は5.1%と1割以下にとどまっています。

【属性別の傾向】

障がい別にみると、『苦しい生活をしている』の割合は精神障がい者で特に高くなっており、その割合は6割を超えています。

図表 59 現在の生活状況について (全体, 障がい別)



(3) 就労について

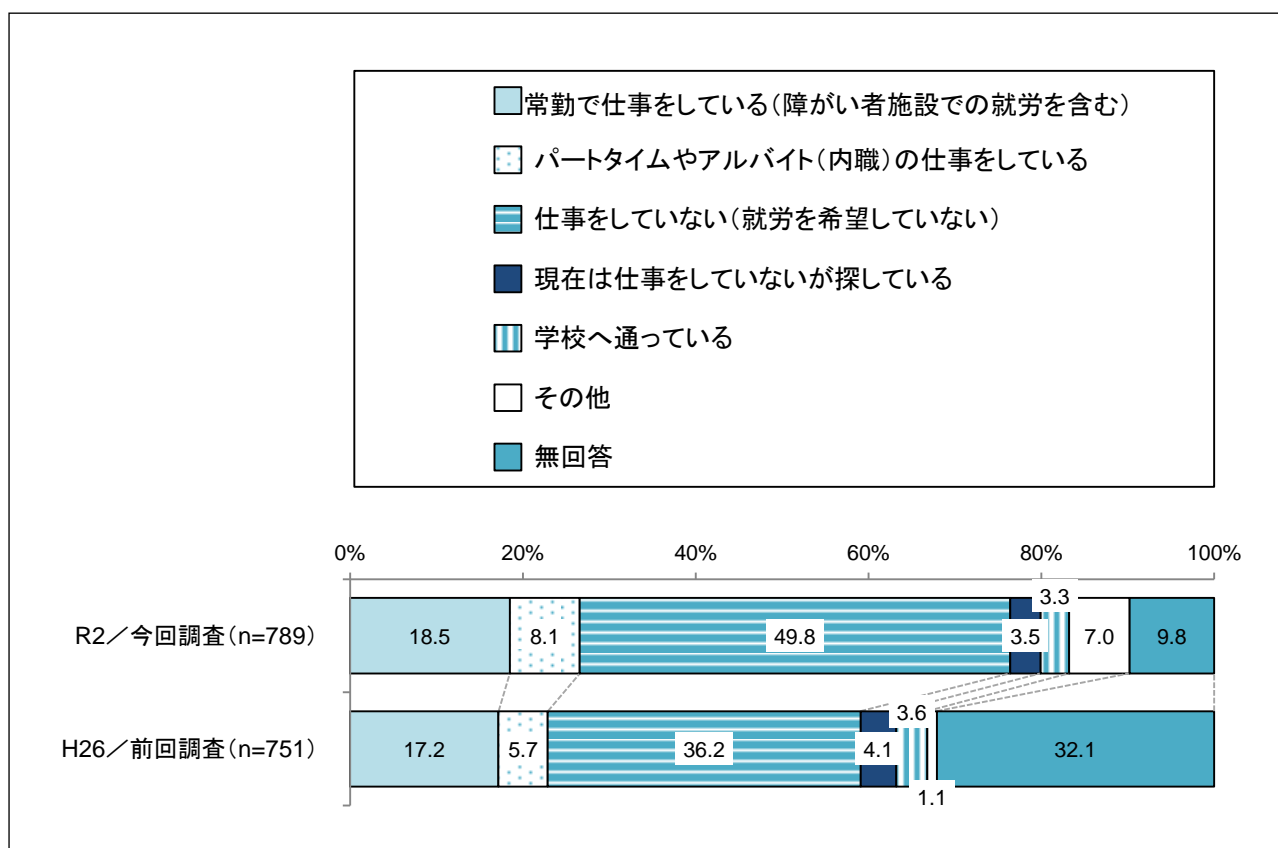
問 27 就労の状況や形態は次のどれですか。(1つに○)

【全体の傾向】

就労状況や形態をみると、「仕事をしていない(就労を希望していない)」(49.8%)が最も高く、次いで、「常勤で仕事をしている(障がい者施設での就労を含む)」(18.5%),「パートタイムやアルバイト(内職)の仕事をしている」(8.1%)と続いており、何らかの形で『就労している』人は全体の26.6%を占めています。

前回調査と比較すると、『就労している』人の割合3.7ポイントが増加しています。

図表 60 就労状況について(全体, 前回比較)

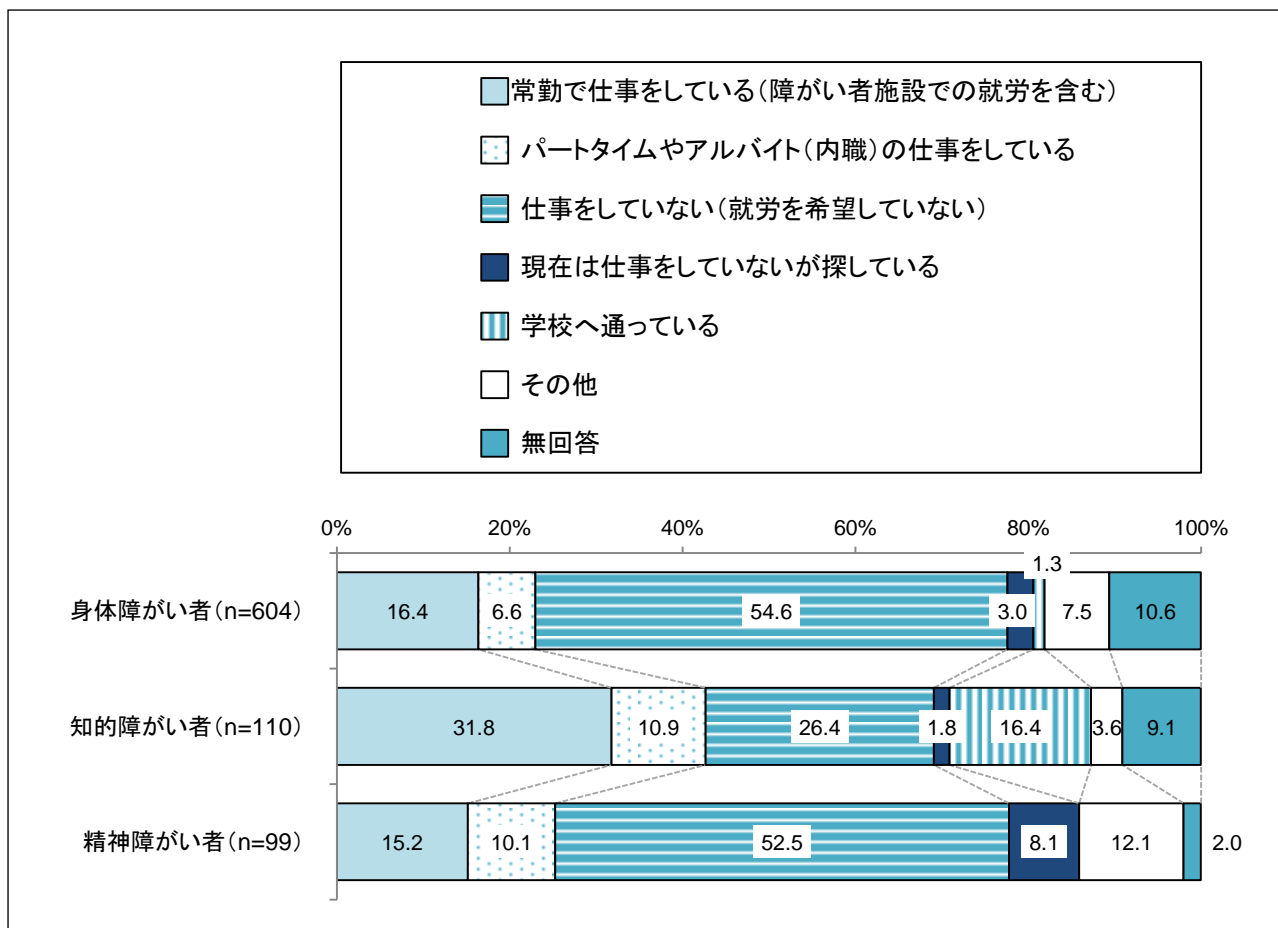


【属性別の傾向】

障がい別にみると、『就労している』人の割合は、身体障がい者では、23.0%、知的障がい者では42.7%、精神障がい者では25.3%となっており、知的障がい者で最も高くなっています。

また、常勤で仕事をしている人は、知的障がい者では31.8%と3割を超えています。

図表 61 就労状況について（障がい別）



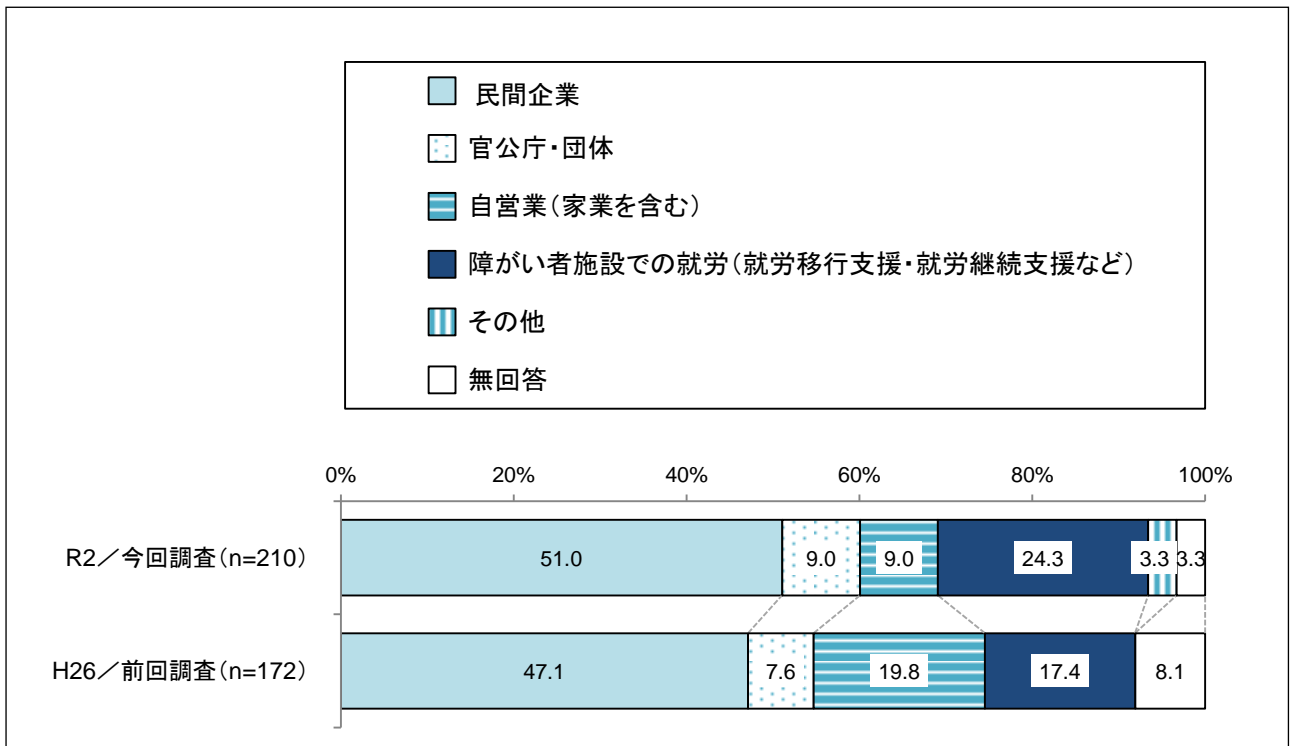
※問 27で「常勤で仕事をしている」、「パートタイムやアルバイトの仕事をしている」と回答した方
 問 27-1 就労先は次のどれですか。(1つに〇)

【全体の傾向】

就労者の就労先をみると、「民間企業」が51.0%と最も高く、次いで「障がい者施設での就労（就労移行支援・就労継続支援など）」（24.3%）と続いています。

前回調査と比較すると、「障がい者施設での就労（就労移行支援・就労継続支援など）」が6.9ポイント増加しています。

図表 62 就労先について（全体，前回比較）

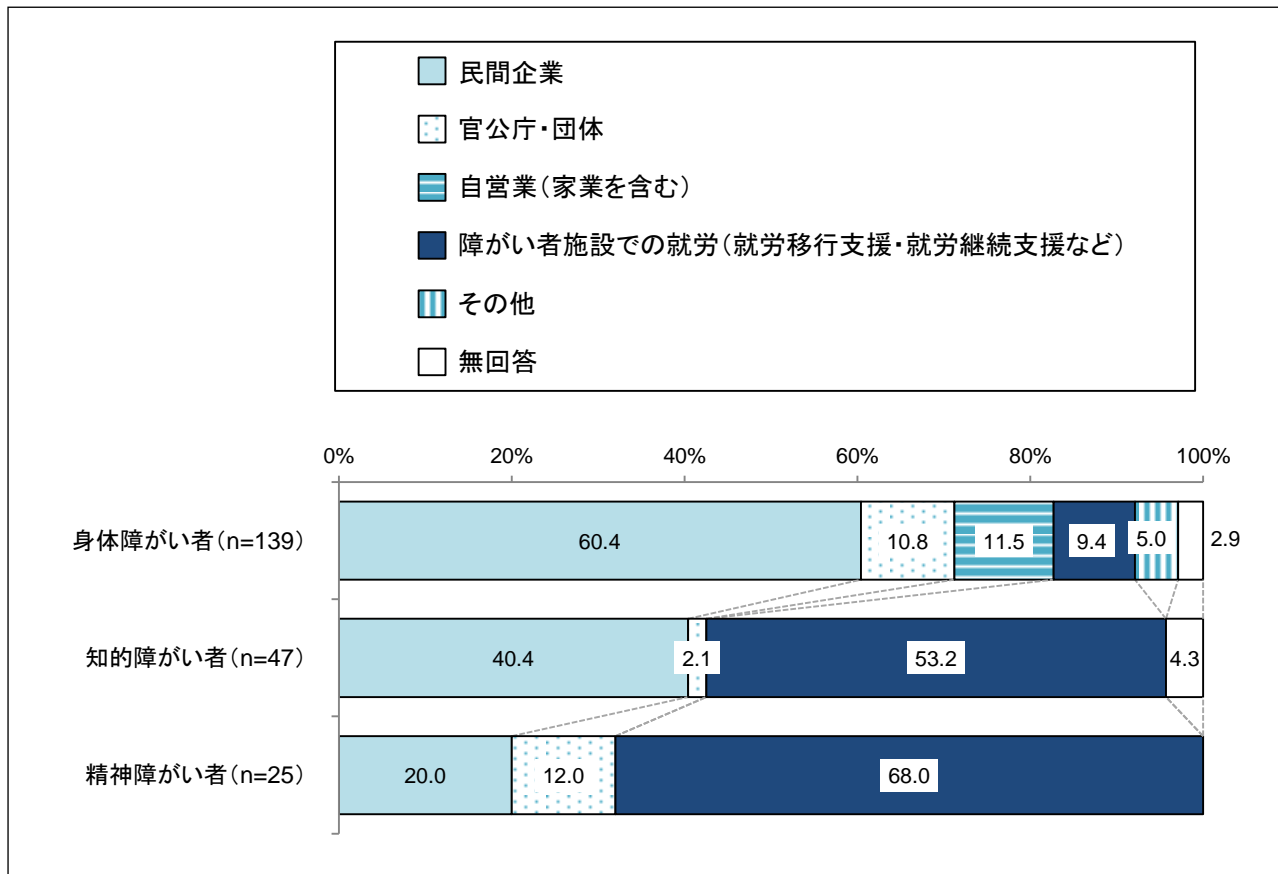


【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者の就労先は、「民間企業」が6割以上を占め、知的障がい者及び精神障がい者では「障がい者施設での就労（就労移行支援・就労継続支援など）」が5割以上を占めています。

また、「自営業（家業を含む）」は身体障がい者で11.5%、「官公庁・団体」は身体障がい者、精神障がい者では1割程度を占めていますが、知的障がい者では2.1%とやや低くなっています。

図表 63 就労先について（障がい別）

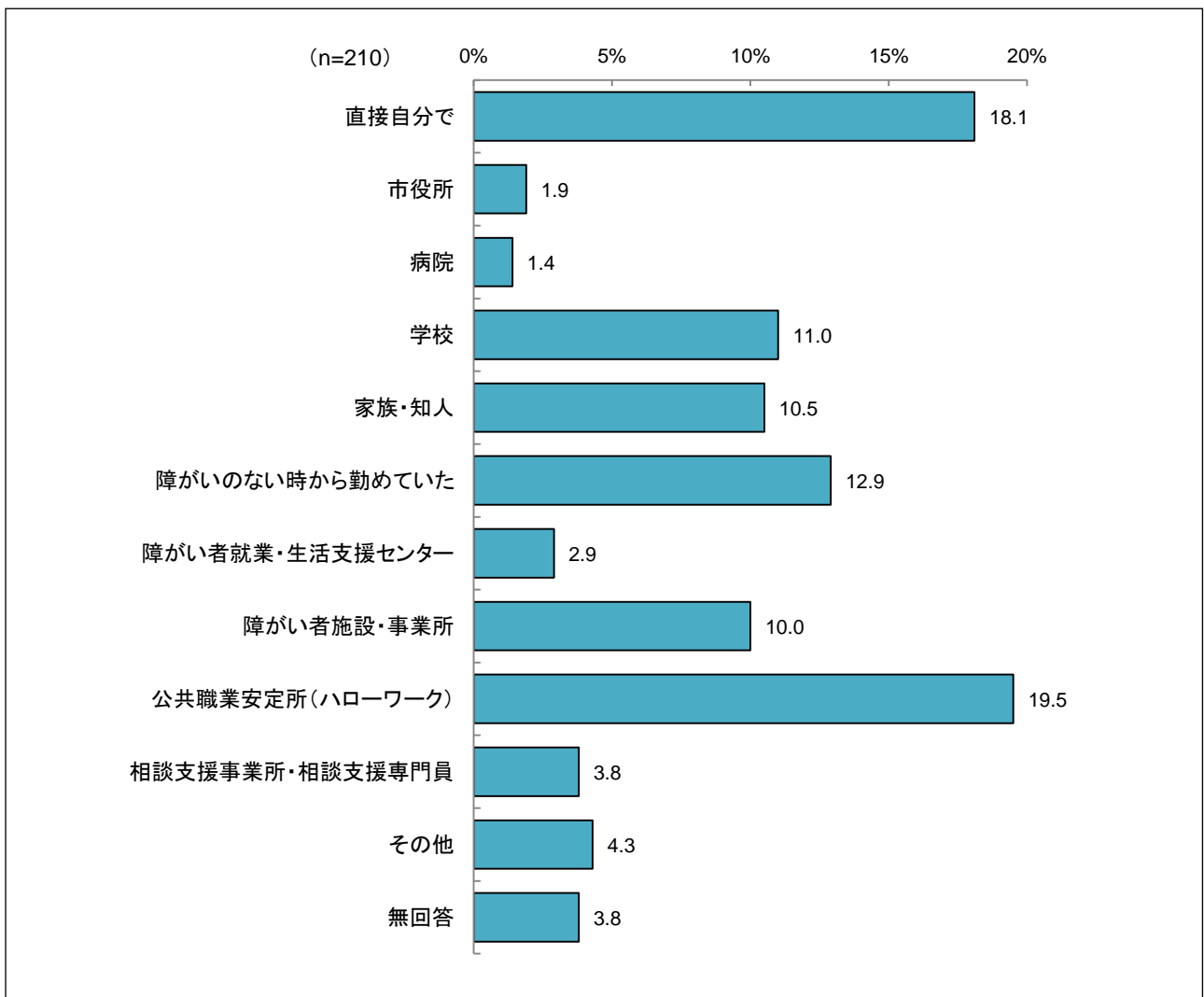


※問 27で「常勤で仕事をしている」、「パートタイムやアルバイトの仕事をしている」と回答した方
問 27-2 あなたは、今の仕事はどのようにして探しましたか。(1つに〇)

【全体の傾向】

今の仕事を探した方法をみると、「公共職業安定所（ハローワーク）」（19.5%）が最も高く、次いで「直接自分で」（18.1%）、「障がいのない時から勤めていた」（12.9%）、「学校」（11.0%）、「家族・知人」（10.5%）、「障がい者施設・事業所」（10.0%）と続いています。

図表 64 仕事を探した方法（全体）

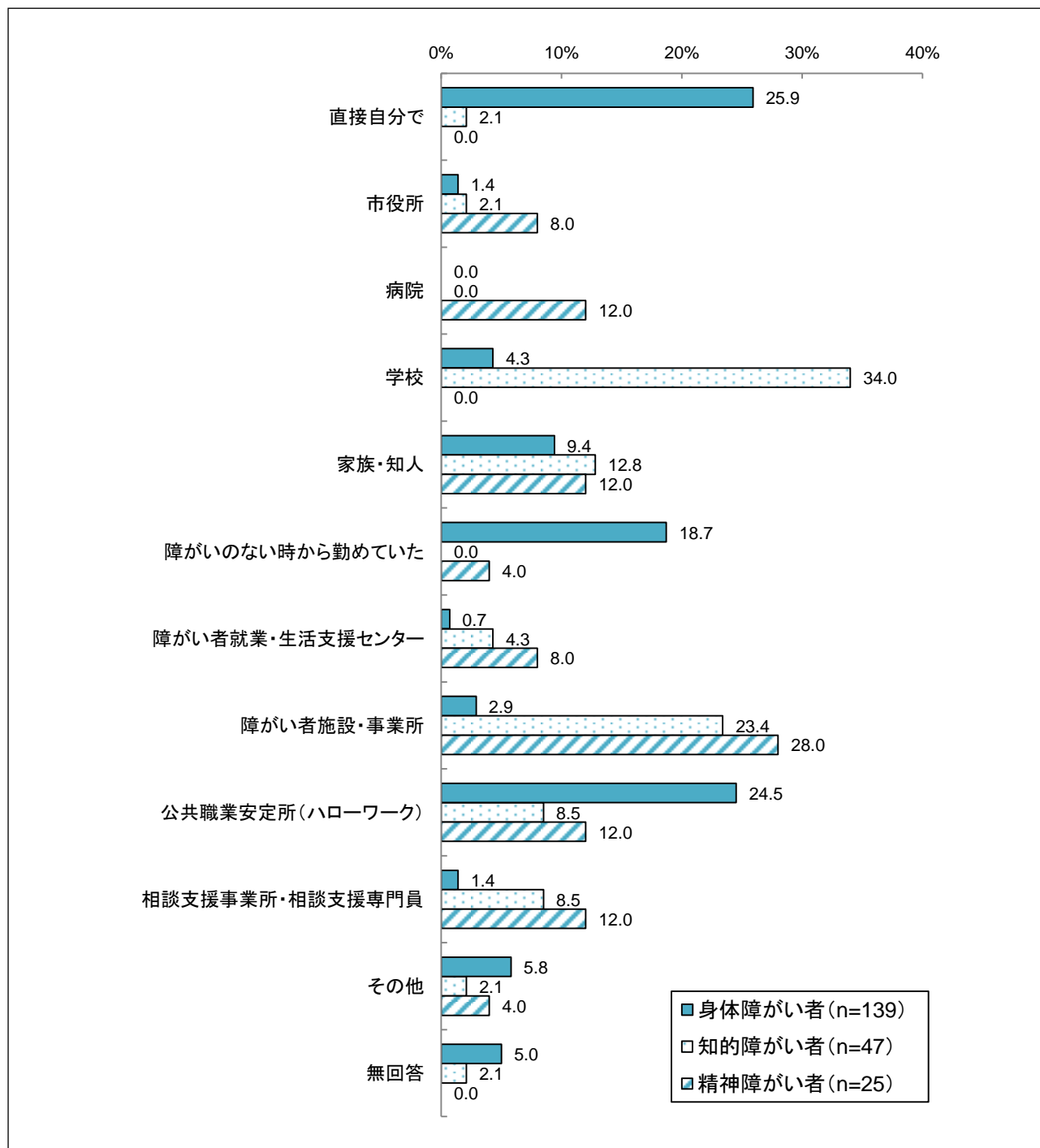


【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「直接自分で」、「公共職業安定所（ハローワーク）」、「障がいのない時から勤めていた」など自分自身で探す方法が主な方法となっています。

知的障がい者では「学校」、「障がい者施設・事業所」、「家族・知人」など、精神障がい者では「障がい者施設・事業所」などの割合が高く、誰かに紹介してもらう方法が主な方法となっています。

図表 65 仕事を探した方法（障がい別）



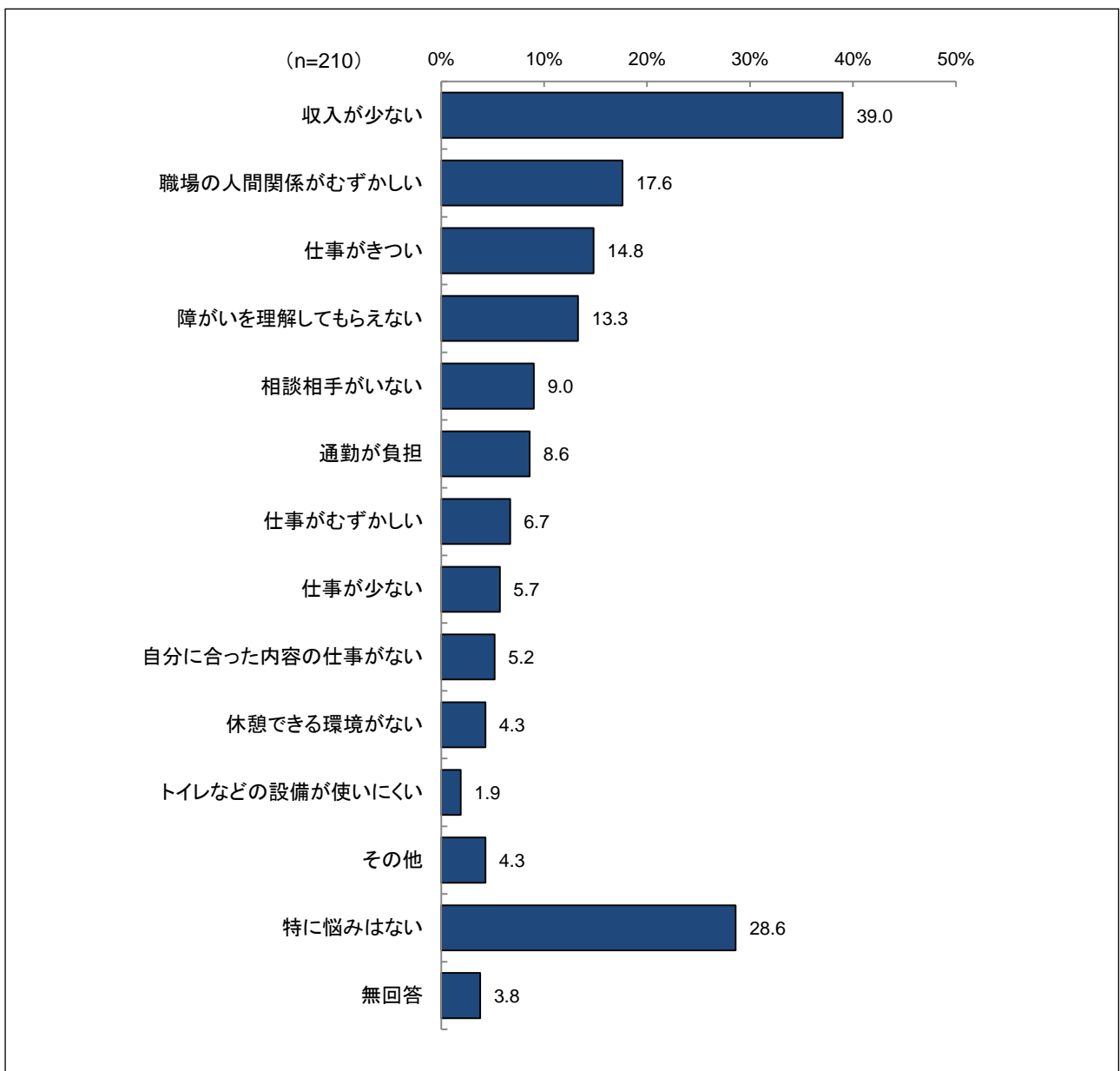
※問 27で「常勤で仕事をしている」、「パートタイムやアルバイトの仕事をしている」と回答した方
問 27-3 仕事をする上での悩みはありますか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

仕事をする上での悩みをみると、「収入が少ない」(39.0%)が最も多くなっています。また、「職場の人間関係がむずかしい」(17.6%)、「仕事がきつい」(14.8%)、「障がいを理解してもらえない」(13.3%)、「相談相手がない」(9.0%)なども多くなっています。

一方、「特に悩みはない」は28.6%となっており、全体では第2位となっています。

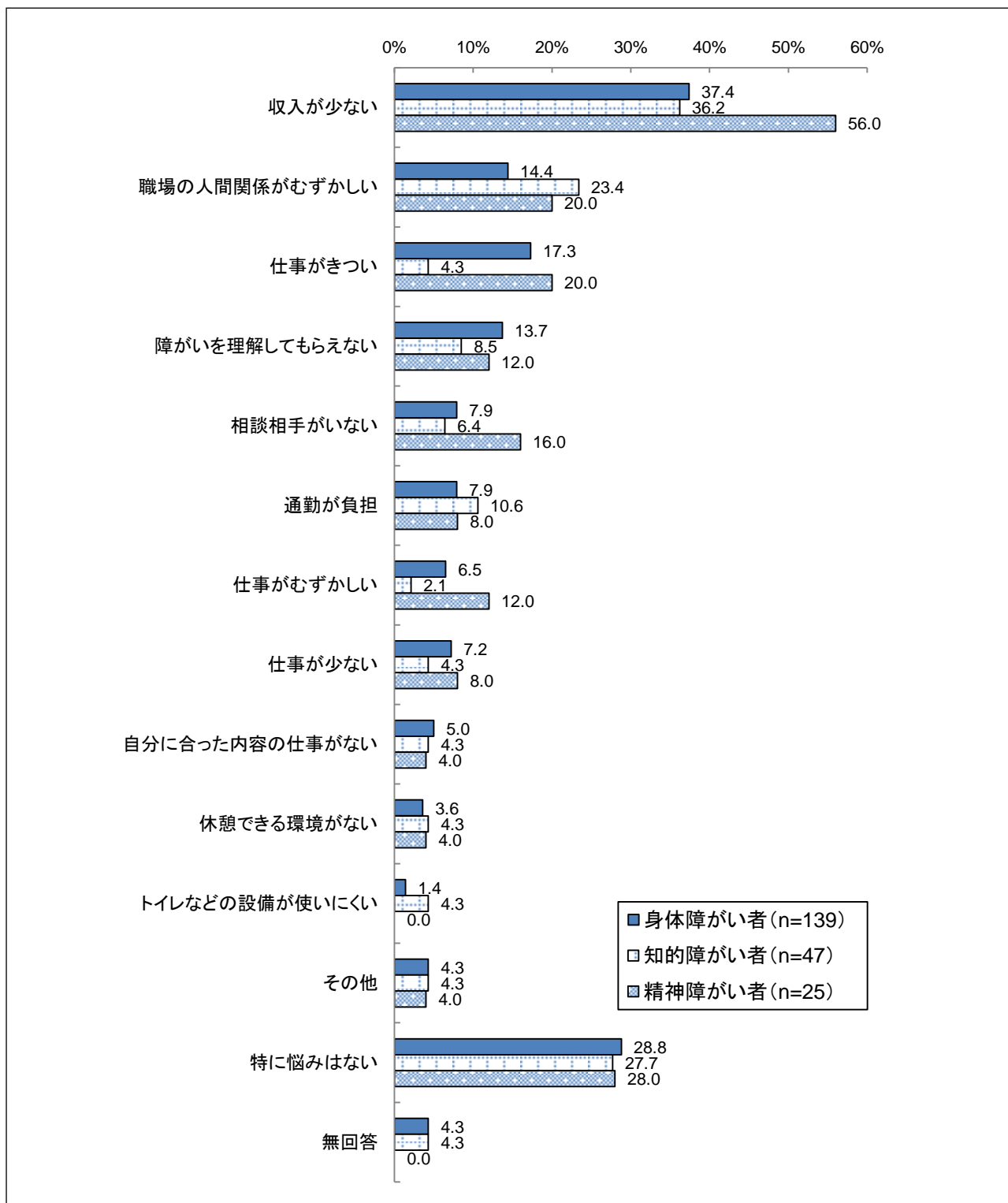
図表 66 仕事での悩みについて (全体/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、障がいの種類に関わらず、「収入が少ない」が最も多く、「職場の人間関係がむずかしい」なども共通の悩みとなっています。さらに、精神障がい者では「相談相手がない」、「仕事がむずかしい」といった内容に関する部分で悩んでいる人の割合が、身体障がい者及び知的障がい者と比べて多くなっています。

図表 67 仕事での悩みについて（障がい別／複数回答）



※問 27で「仕事をしていない」と回答した方

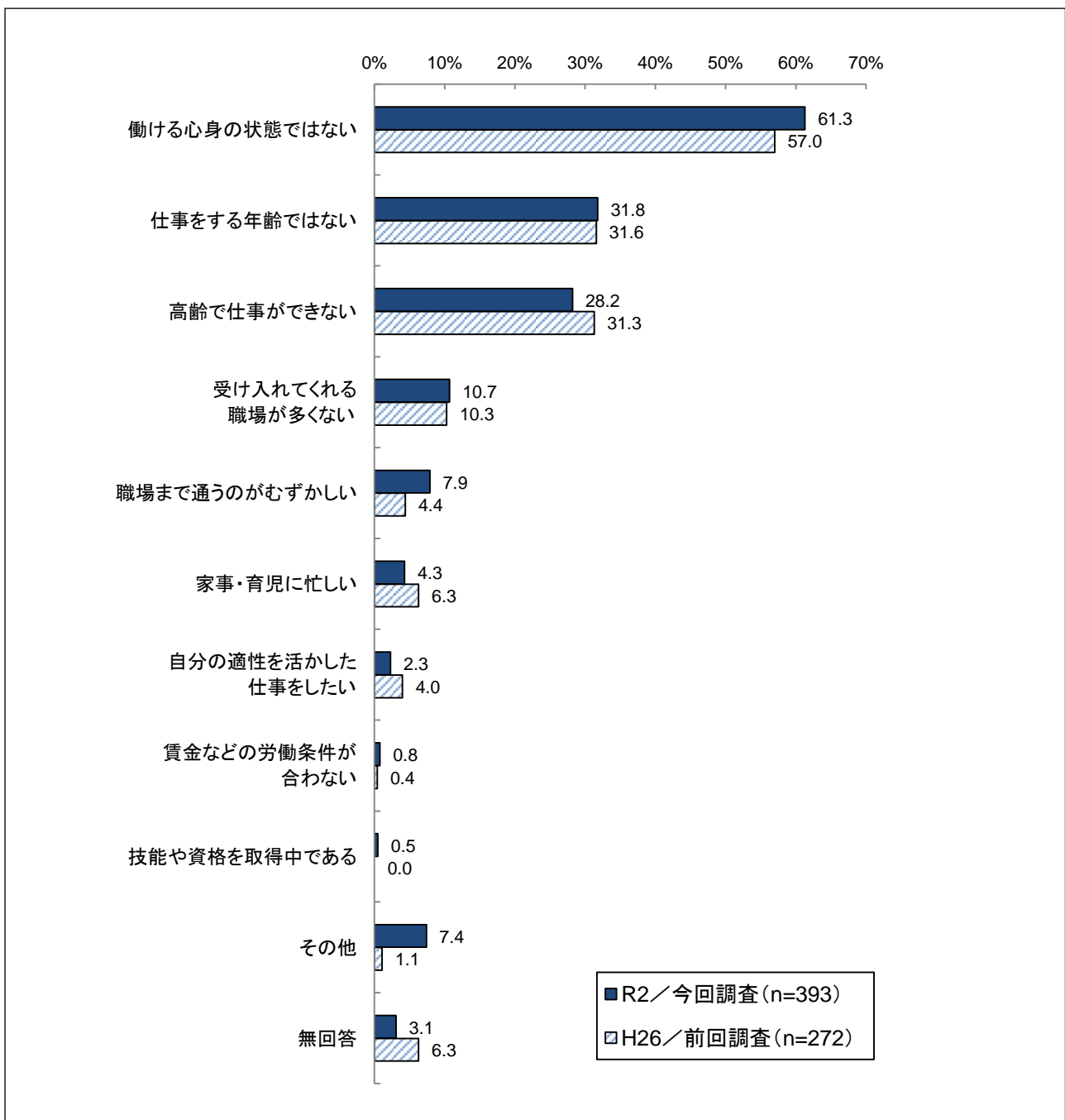
問 27-4 現在仕事をしていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

現在仕事をしていない理由をみると、「働ける心身の状態ではない」(61.3%)が最も多く、次いで「仕事をする年齢ではない」(31.8%)、「高齢で仕事ができない」(28.2%)、「受け入れてくれる職場が多くない」(10.7%)、「職場まで通うのがむずかしい」(7.9%)と続いています。

前回調査と比較すると、「働ける心身の状態ではない」が4.3ポイント増加しています。

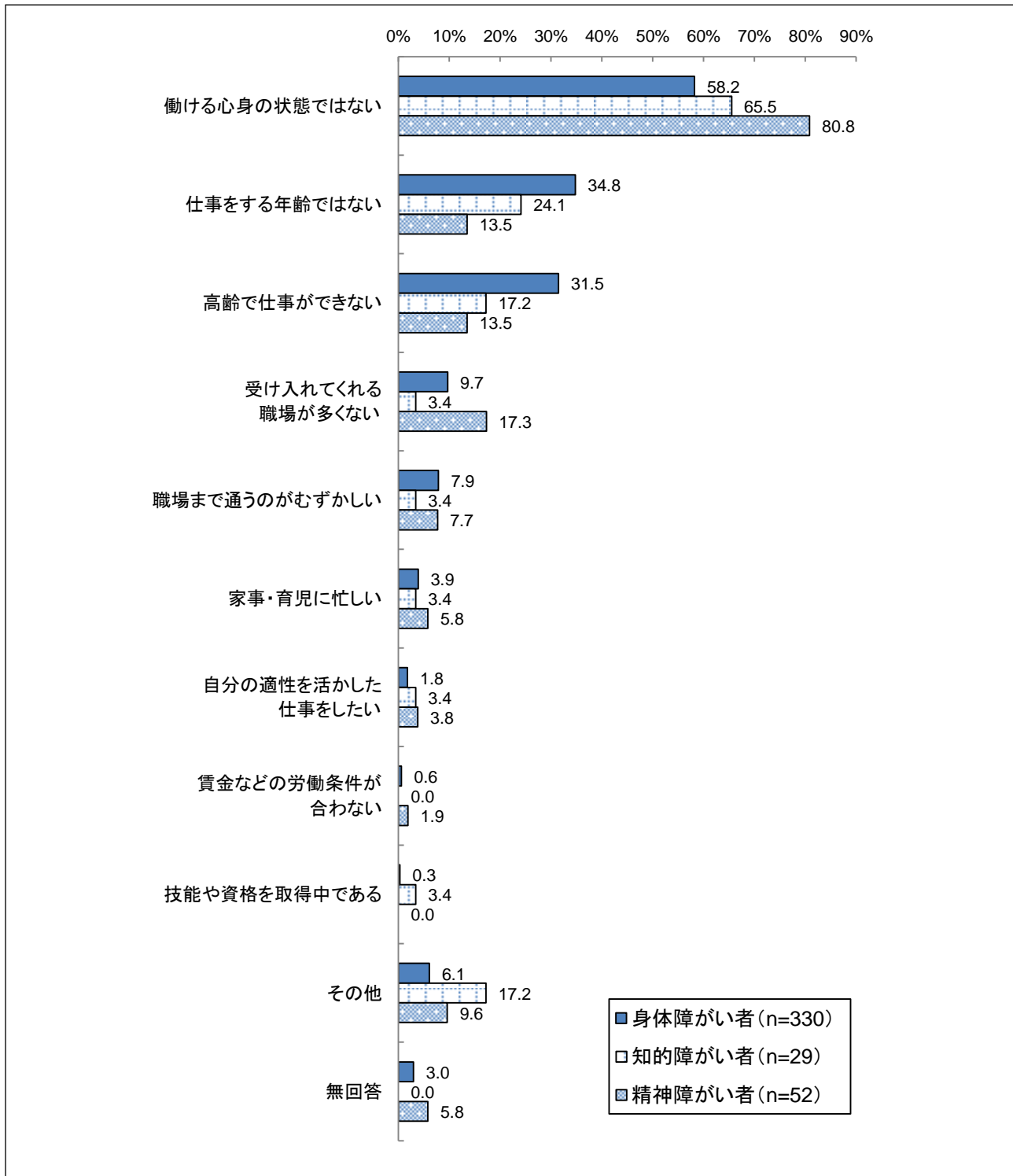
図表 68 仕事をしていない理由（全体，前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

障がい別にみると、障がいの種類に関わらず、「働ける心身の状態ではない」が最も多く、特に精神障がい者では8割を超えています。また、身体障がい者では「仕事をする年齢ではない」や「高齢で仕事ができない」も比較的多く、3割を超えています。

図表 69 仕事をしていない理由（障がい別／複数回答）



※問 27 で「現在は仕事をしていないが探している」、「学校へ通っている」と回答した方
 問 27-5 あなたはどのような就労形態で仕事をしたいですか。(1つに〇)

【全体の傾向】

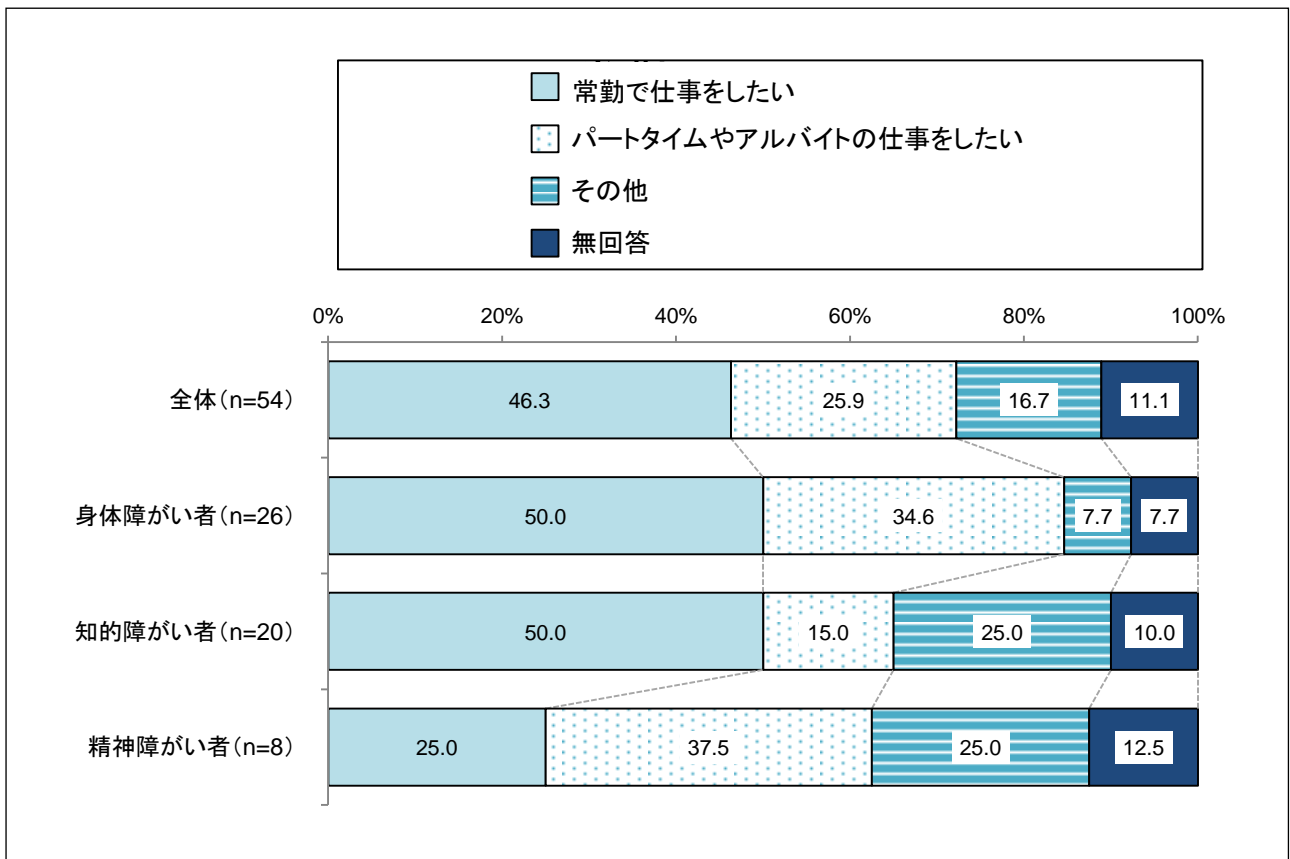
現在仕事を探している、または、通学中の人が希望する就労形態をみると、「常勤で仕事をしたい」が 46.3%、「パートタイムやアルバイトの仕事をしたい」が 25.9%となっています。

【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者及び知的障がい者では5割が「常勤で仕事をしたい」と回答しています。

一方、精神障がい者では「パートタイムやアルバイトの仕事をしたい」(37.5%)が「常勤で仕事をしたい」(25.0%)を上回っています。

図表 70 希望就労形態（全体，障がい別）



※問 27で「現在は仕事をしていないが探している」、「学校へ通っている」と回答した方

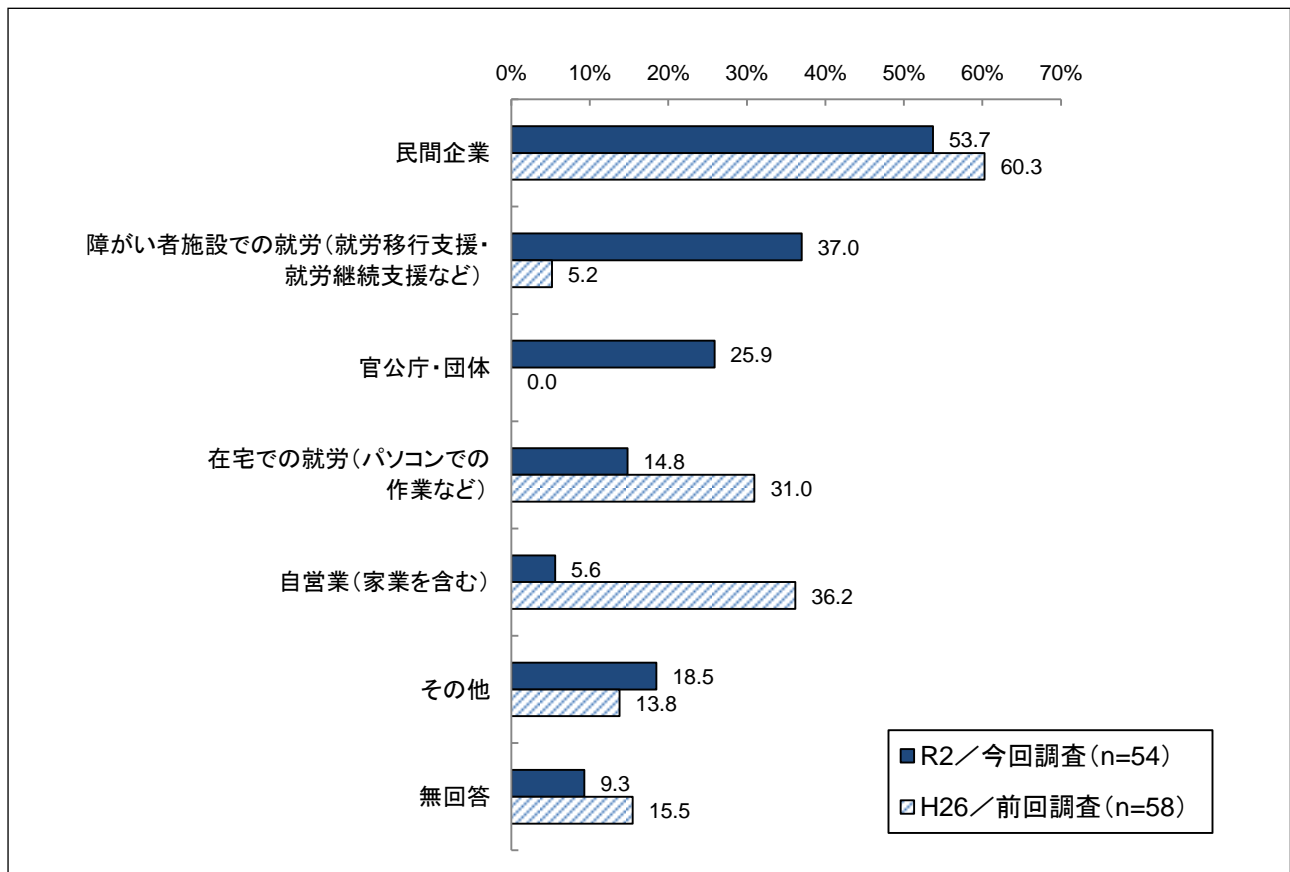
問 27-6 あなたはどのような就労先を希望しますか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

現在仕事を探している、または、通学中の人が希望する就労先をみると、「民間企業」(53.7%)が最も多く、次いで「障がい者施設での就労(就労移行支援・就労継続支援など)」(37.0%)、「官公庁・団体」(25.9%)、「在宅での就労(パソコンでの作業など)」(14.8%)、「自営業(家業を含む)」(5.6%)と続いています。

前回調査と比較すると、「障がい者施設での就労(就労移行支援・就労継続支援など)」が大きく増加しており、一方で「自営業(家業を含む)」が大きく減少しています。

図表 71 就労先の希望(全体, 前回比較/複数回答)

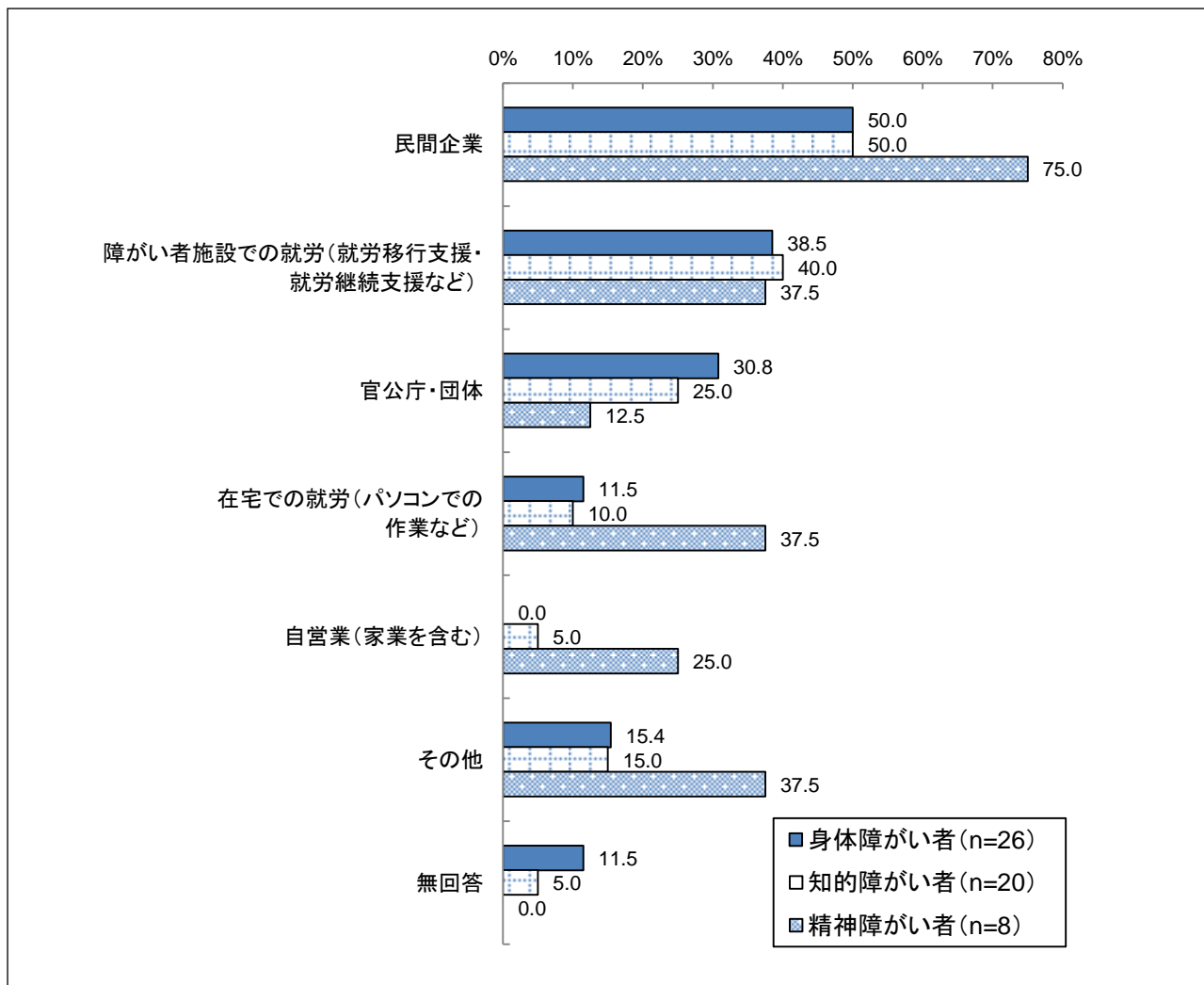


【属性別の傾向】

障がい別にみると、障がいの種類に関わらず、「民間企業」が最も多くなっています。特に、精神障がい者では希望者が7割を超えています。

また、精神障がい者では「在宅での就労（パソコンでの作業など）」や「自営業（家業を含む）」が身体障がい者及び知的障がい者と比べて多くなっています。

図表 72 就労先の希望（障がい別／複数回答）

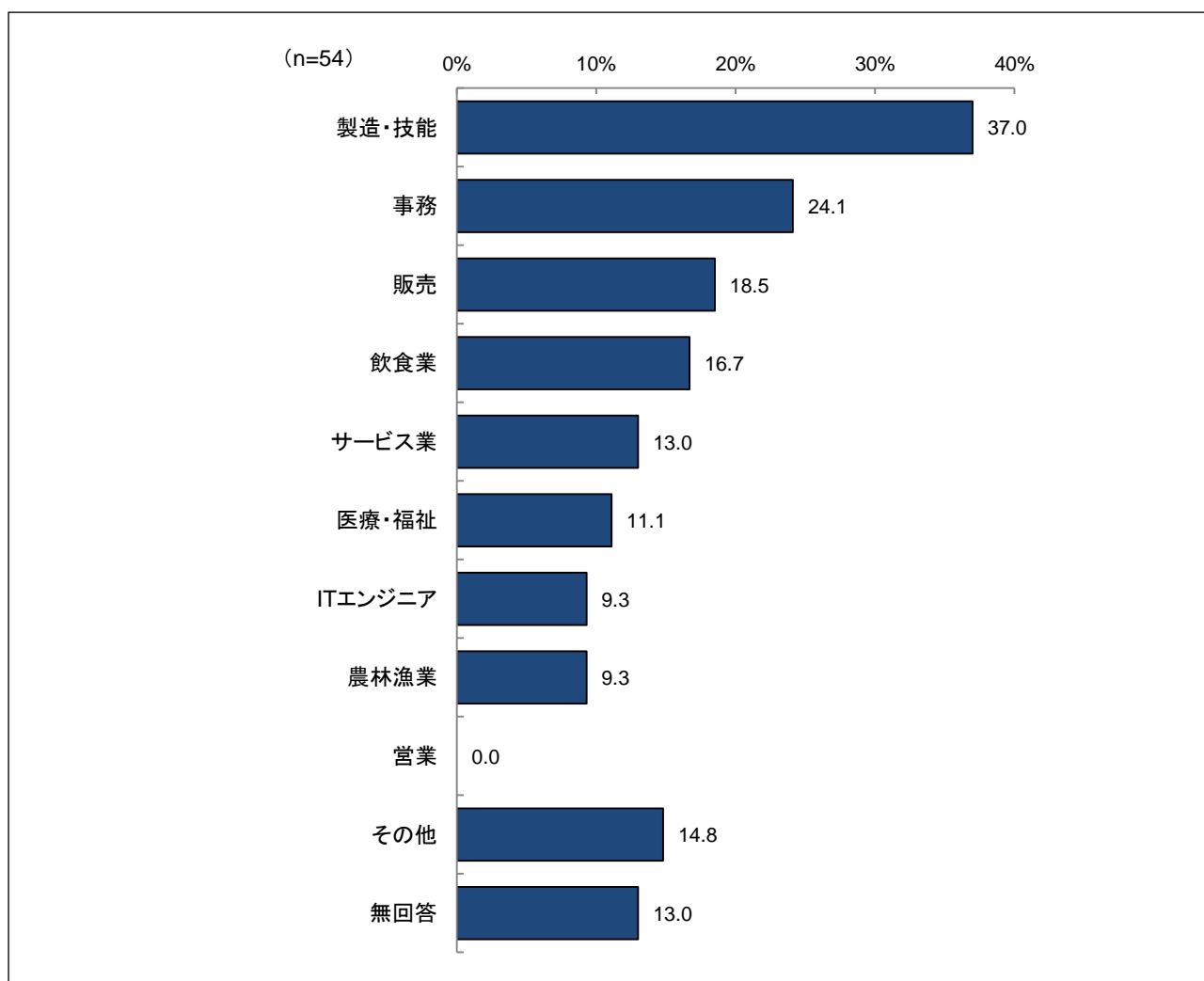


※問 27で「現在は仕事をしていないが探している」、「学校へ通っている」と回答した方
問 27-7 あなたはどのような職種・分野を希望しますか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

現在仕事を探している、または、通学中の人が、希望する職種・分野をみると、「製造・技能」(37.0%)が最も多く、次いで「事務」(24.1%)、「販売」(18.5%)、「飲食業」(16.7%)、「サービス業」(13.0%)と続いています。

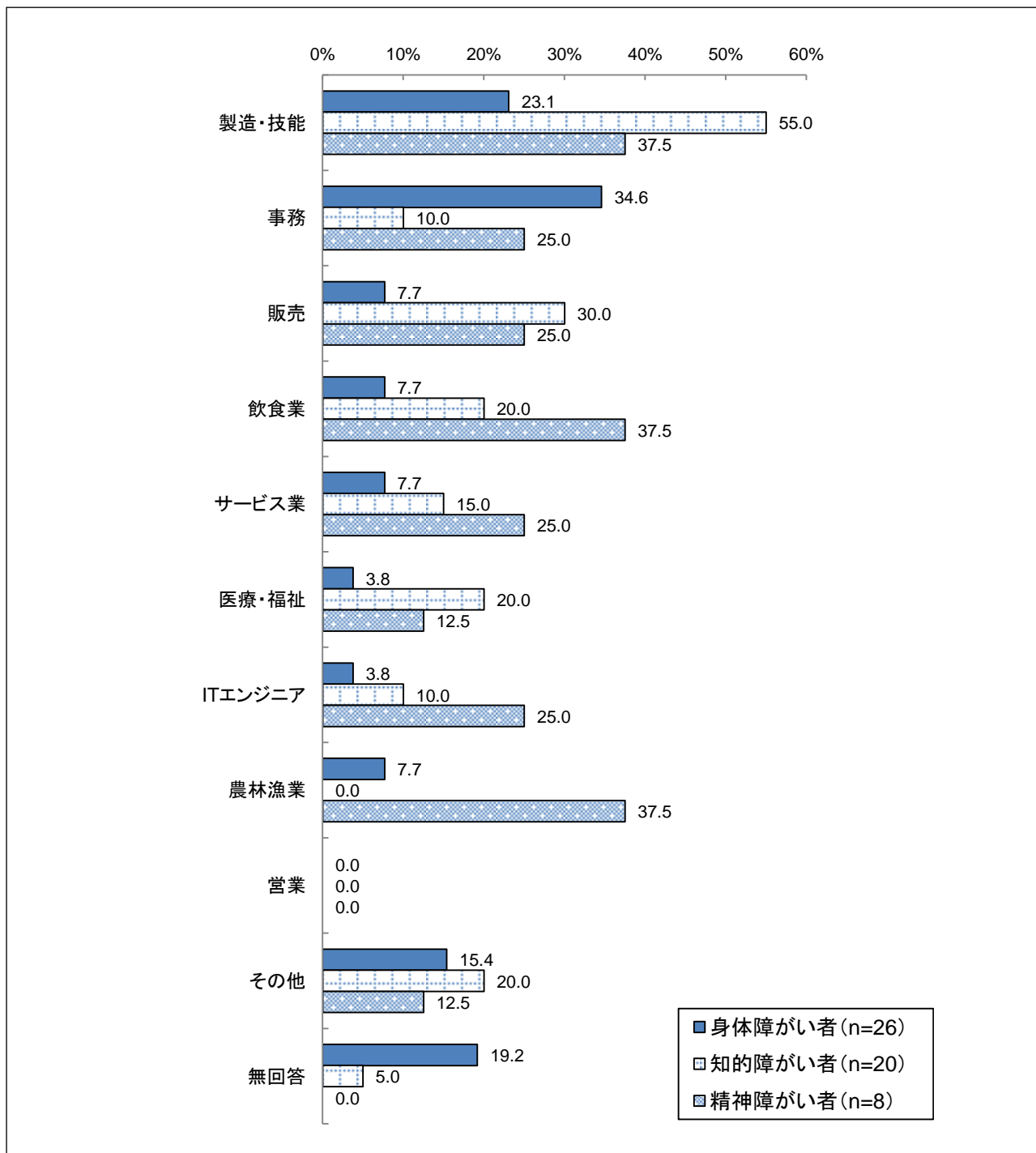
図表 73 職種・分野の希望 (全体/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「事務」、「製造・技能」、知的障がい者では「製造・技能」、「販売」、精神障がい者では「製造・技能」、「飲食業」、「農林漁業」などが多くなっています。

図表 74 職種・分野の希望（障がい別／複数回答）



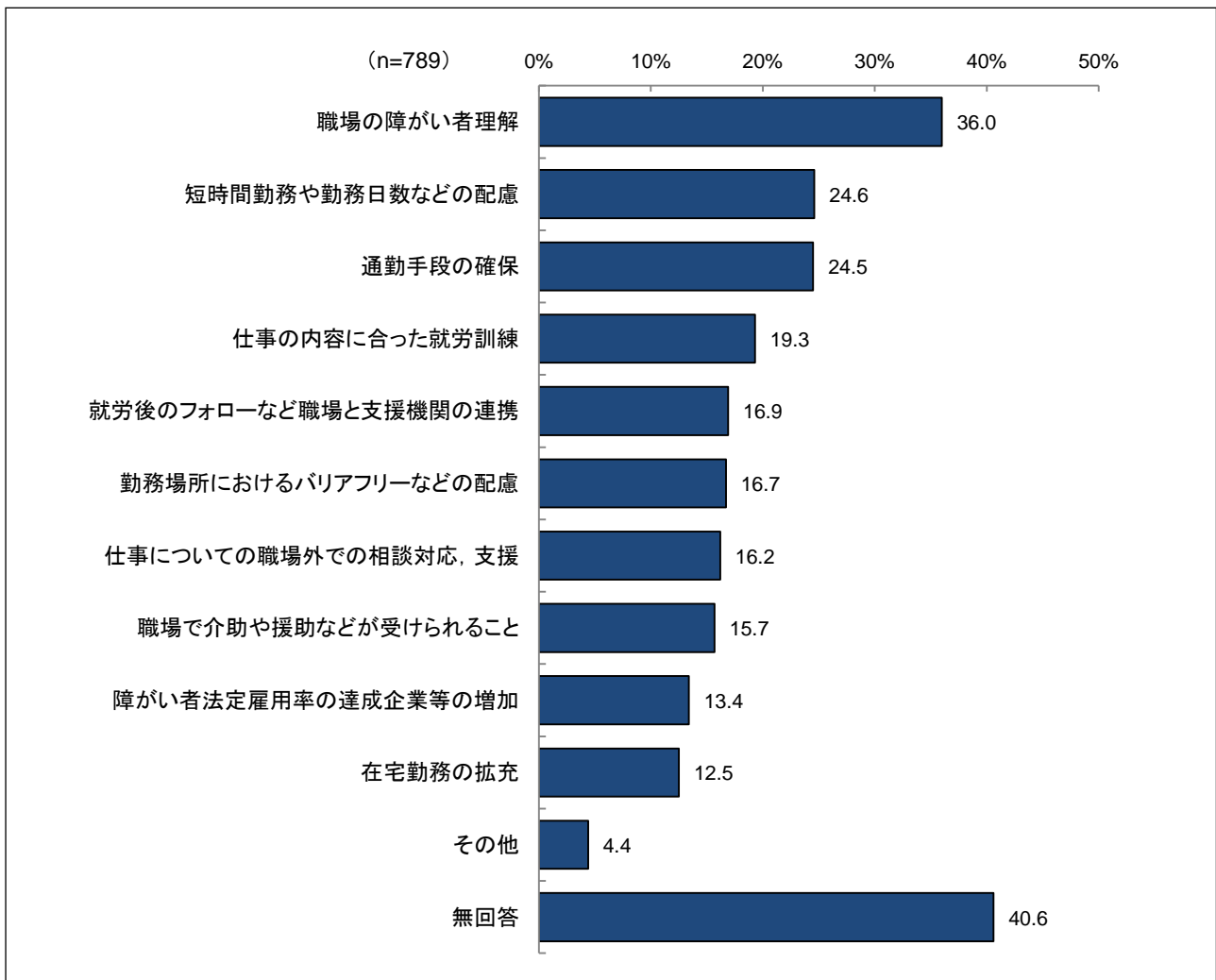
(4) 就労支援について

問 28 あなたは、障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

障がい者の就労支援として必要だと思うことをみると、「職場の障がい者理解」(36.0%)が最も多く、次いで「短時間勤務や勤務日数などの配慮」(24.6%)、「通勤手段の確保」(24.5%)、「仕事の内容に合った就労訓練」(19.3%)、「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携」(16.9%)と続いています。

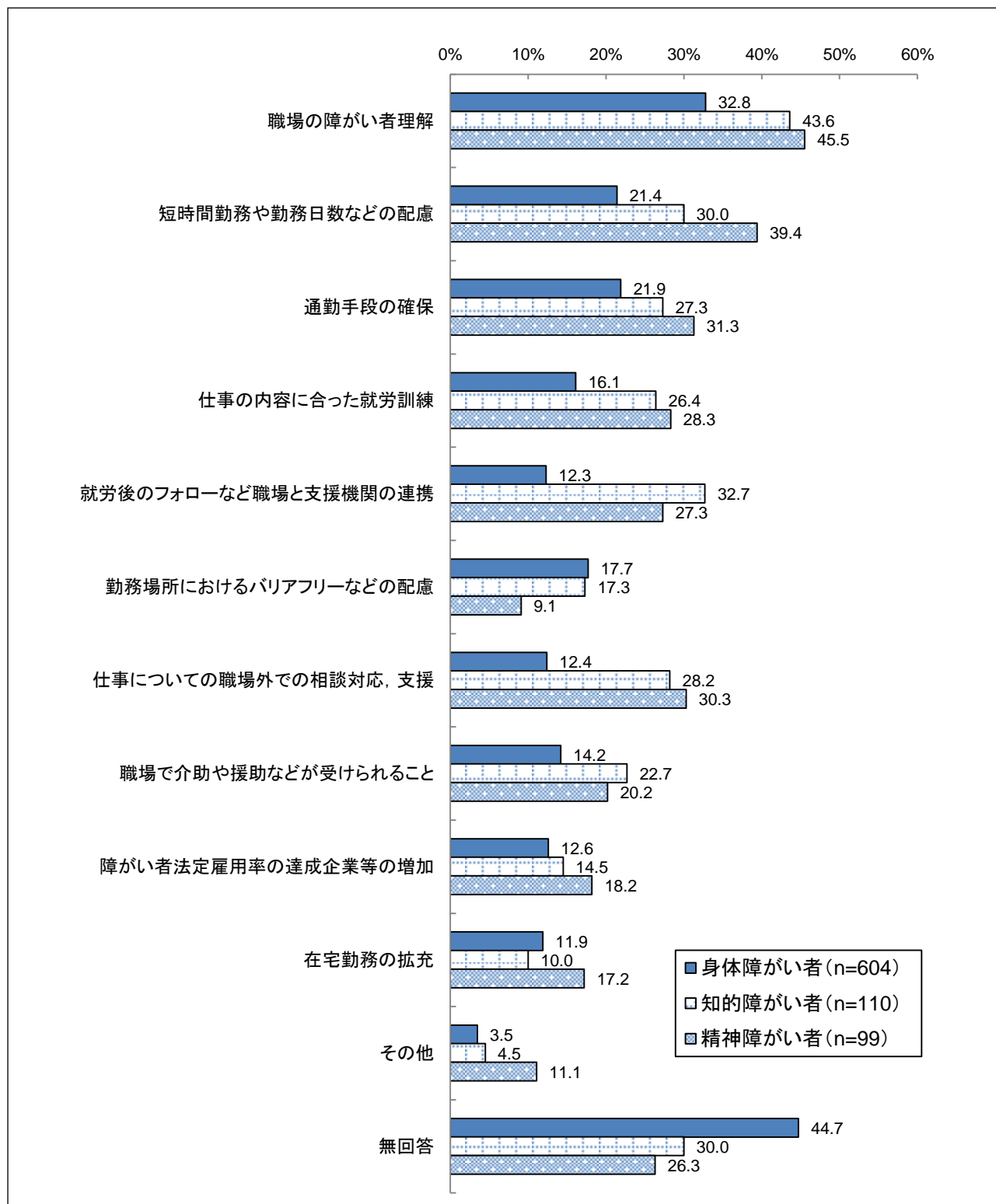
図表 75 就労支援として必要だと思うもの(全体/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、障がいの種類に関わらず、「職場の障がい者理解」が最も多くなっています。また、知的障がい者では「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携」、精神障がい者では「短時間勤務や勤務日数などの配慮」なども多くなっています。

図表 76 就労支援として必要だと思うもの（障がい別／複数回答）



7 障がい児への療育や教育について

(1) 通所・通学をしていて感じること

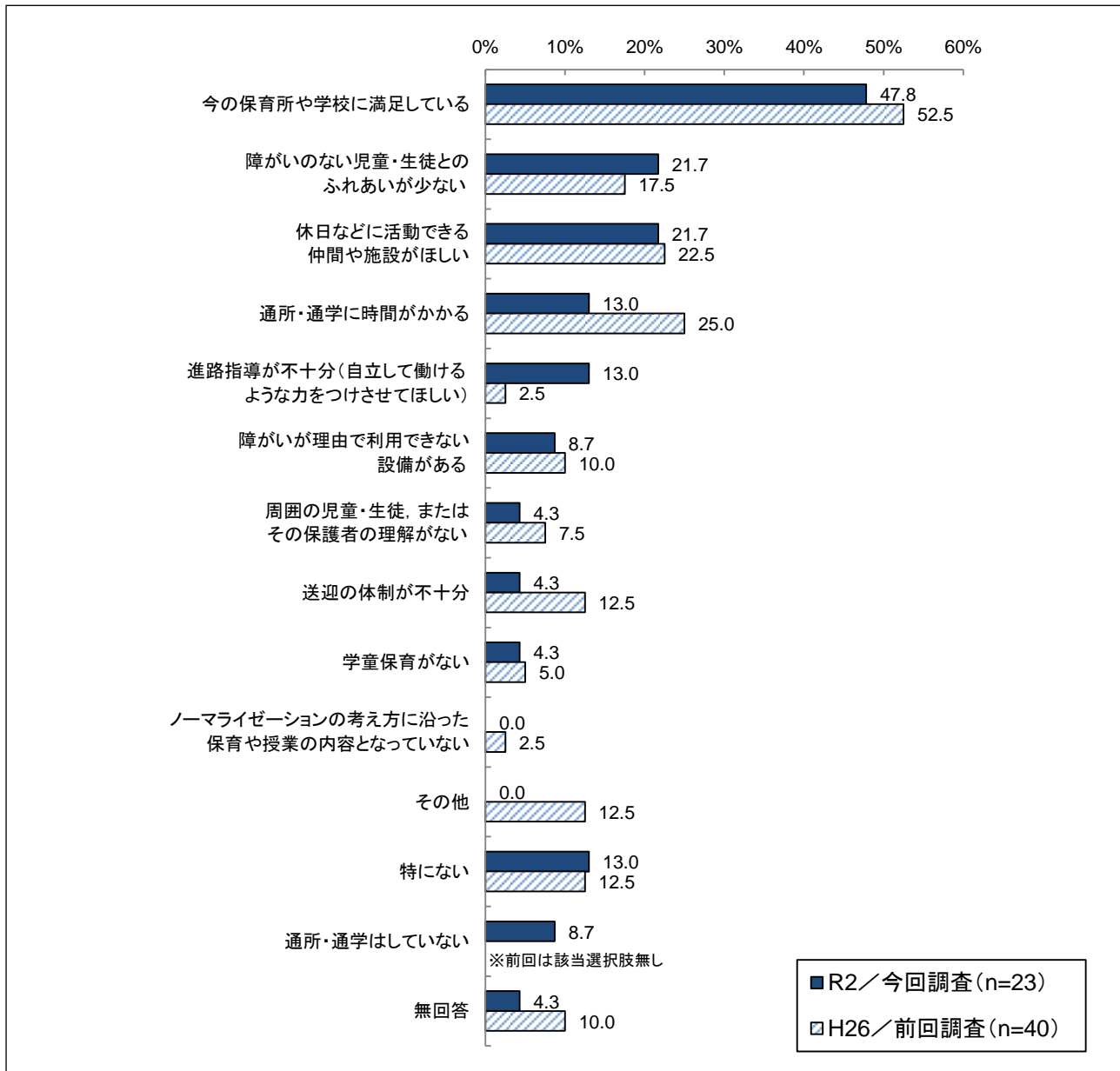
問 29 通所・通学していて、感じていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

通所・通学していて感じることをみると、「今の保育所や学校に満足している」(47.8%)が最も多く、その割合は突出しています。

前回調査と比較すると、「進路指導が不十分(自立して働けるような力をつけさせてほしい)」の割合が大幅に増加し、「通所・通学に時間がかかる」、「送迎の体制が不十分」の割合は減少しています。

図表 77 通所・通学していて感じること(全体, 前回比較/複数回答)



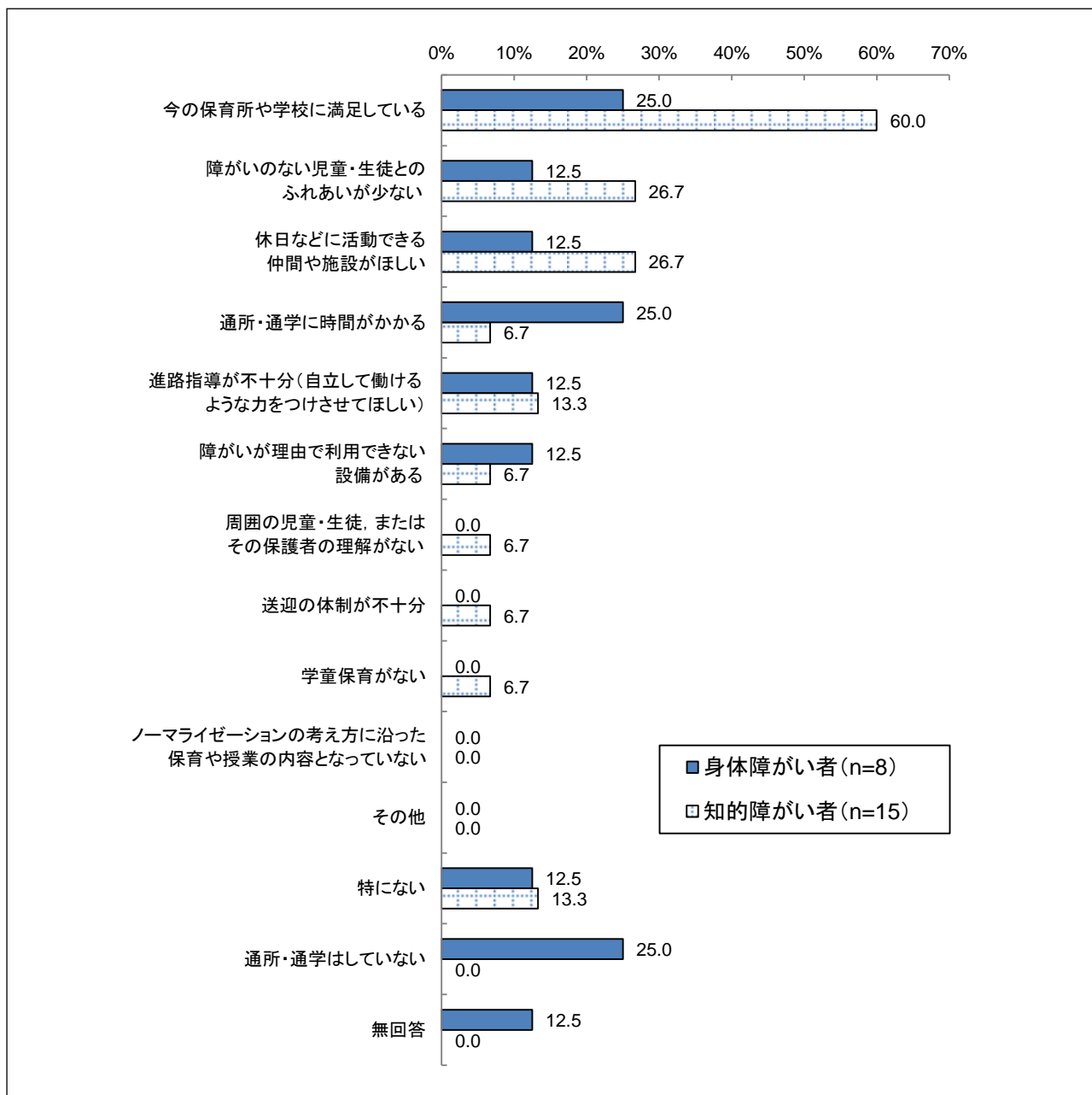
※無回答が多いため、18歳未満の回答に限定

【属性別の傾向】

障がい別にみると、知的障がい者では「今の保育所や学校に満足している」が60.0%と最も多く、その割合は突出しています。次いで「障がいのない児童・生徒とのふれあいが少ない」、「休日などに活動できる仲間や施設がほしい」（ともに26.7%）など人間関係に関することも多くなっています。

また、身体障がい者では「通所・通学に時間がかかる」の割合が、知的障がい者に比べて多くなっています。

図表 78 通所・通学して感じること（障がい別／複数回答）



※精神障がい者：18歳未満の回答者無し

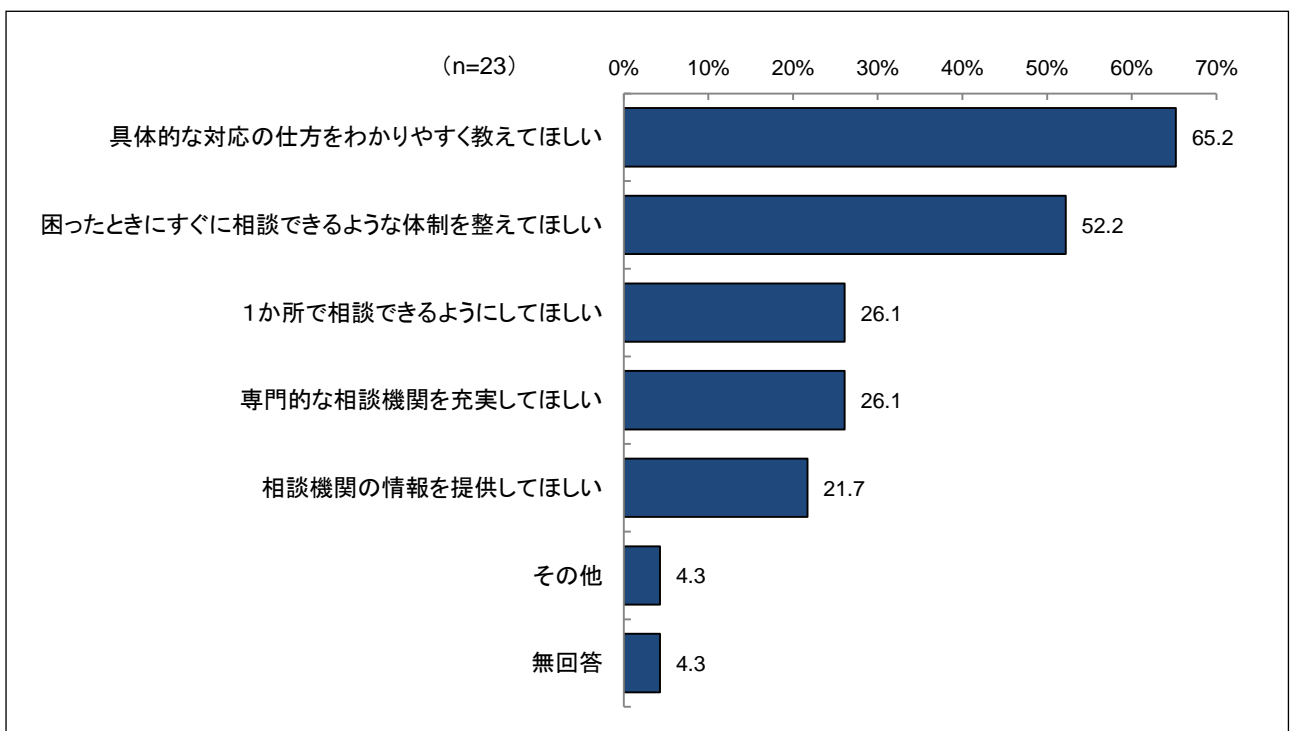
(2) 療育や教育について

問 30 あなたは療育や教育に関する相談について望むことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

療育や教育に関する相談で望むことをみると、「具体的な対応の仕方をわかりやすく教えてほしい」(65.2%)が最も多く、次いで「困ったときにすぐに相談できるような体制を整えてほしい」(52.2%)、「1か所で相談できるようにしてほしい」、「専門的な相談機関を充実してほしい」(ともに 26.1%)、「相談機関の情報を提供してほしい」(21.7%)と続いています。

図表 79 療育や教育に関する相談について望むこと (全体/複数回答)



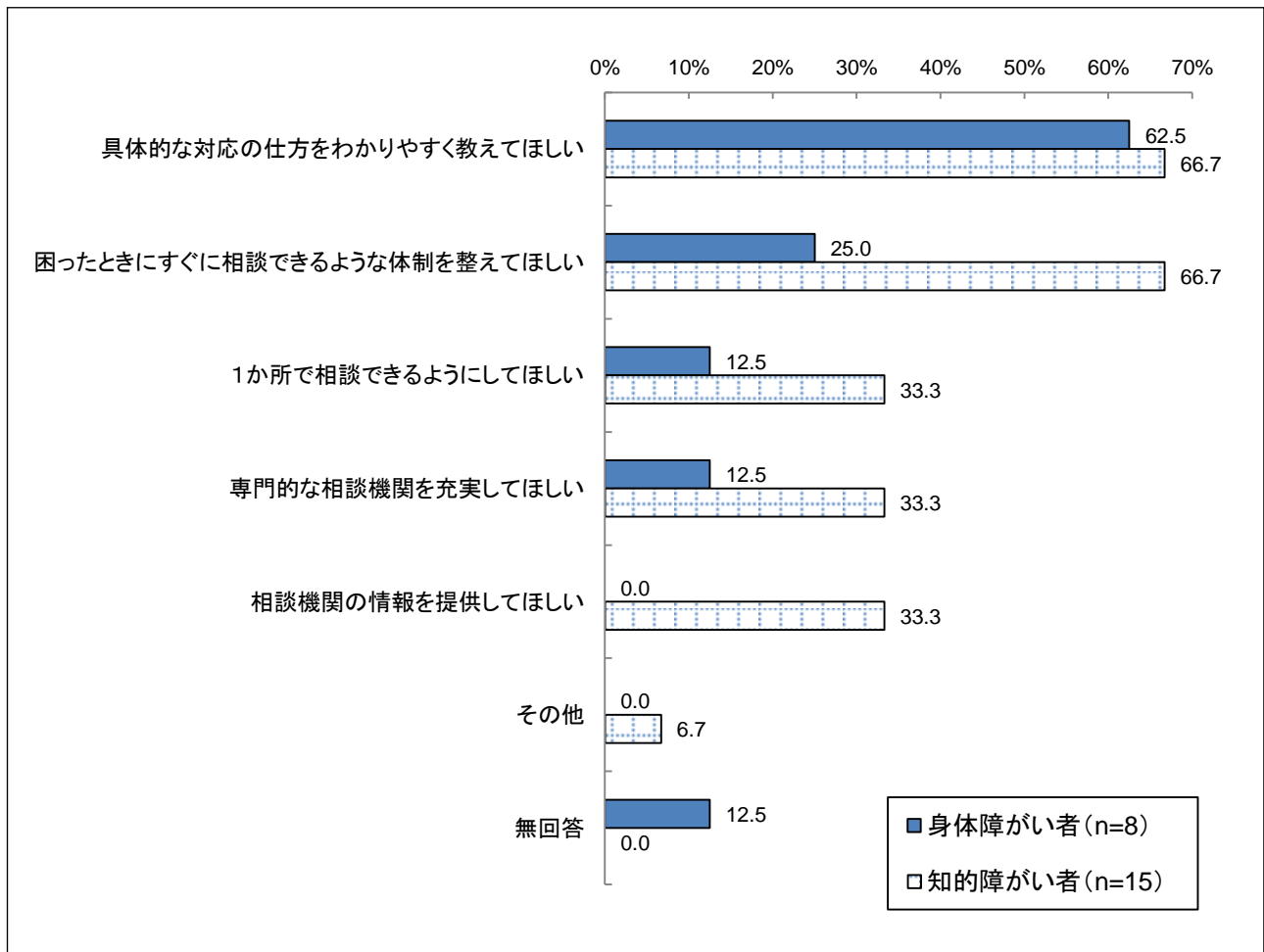
※無回答が多いため、18歳未満の回答に限定

【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では、「具体的な対応の仕方をわかりやすく教えてほしい」が62.5%と最も多く、その割合は突出しています。次いで、「困ったときにすぐに相談できるような体制を整えてほしい」が25.0%などとなっています。

知的障がい者では、「具体的な対応の仕方をわかりやすく教えてほしい」、「困ったときにすぐに相談できるような体制を整えてほしい」がともに66.7%と6割を超えています。

図表 80 療育や教育に関する相談について望むこと（障がい別／複数回答）



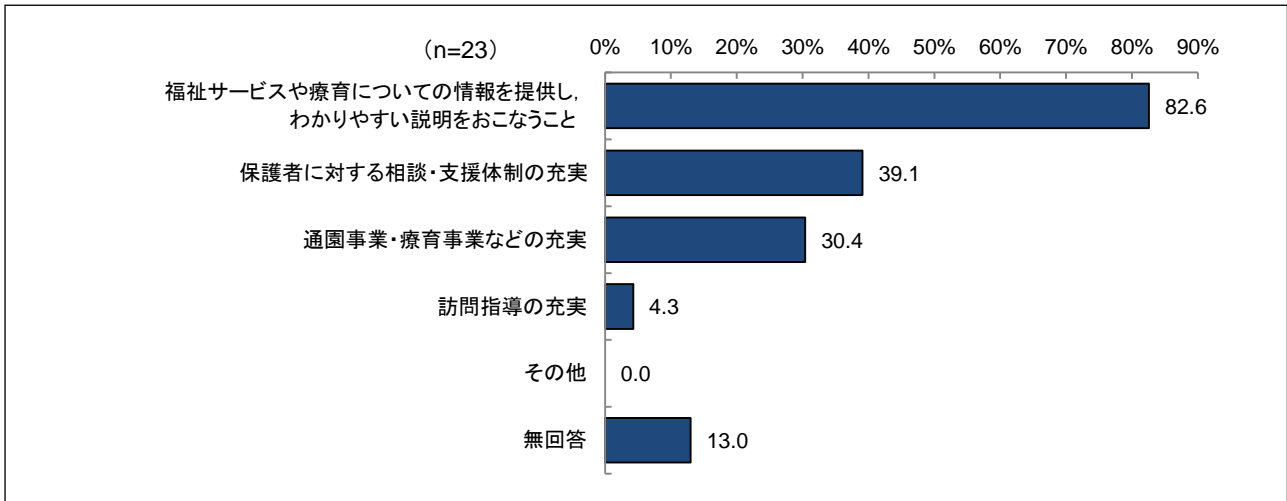
※精神障がい者：18歳未満の回答者無し

問 31 あなたは乳幼児期における母子保健や療育に関わることでどのようなことを望みますか。
 (あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向：18歳未満】

乳幼児期における母子保健や療育に関わることで望むことをみると、「福祉サービスや療育についての情報を提供し、わかりやすい説明をおこなうこと」(82.6%)が最も多く、次いで「保護者に対する相談・支援体制の充実」(39.1%)、「通園事業・療育事業などの充実」(30.4%)となっています。

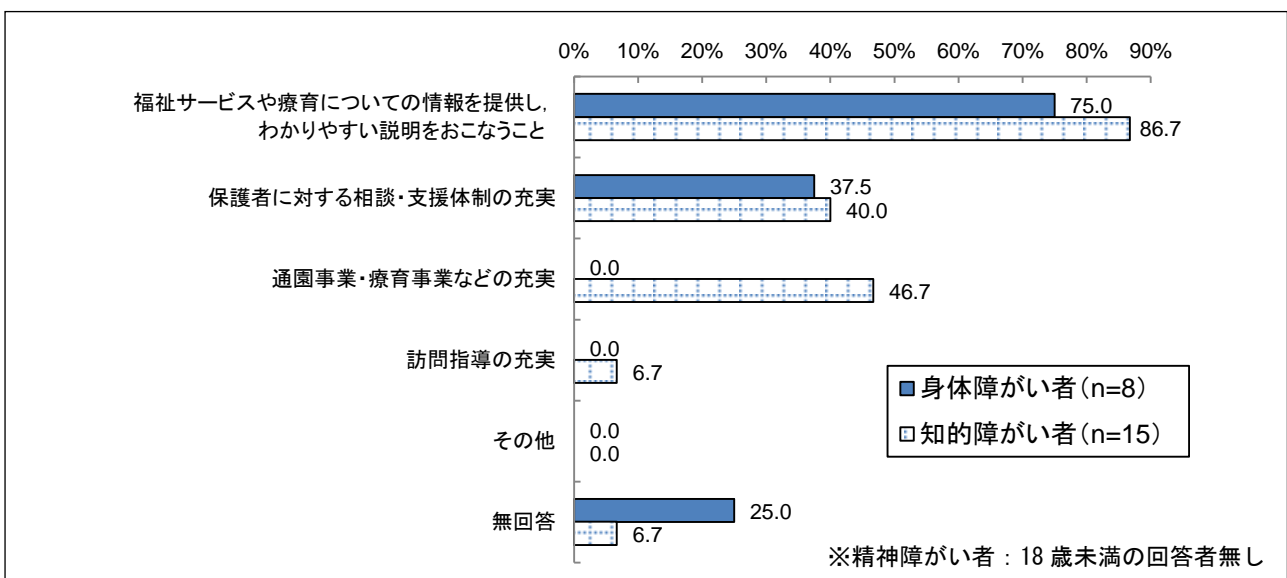
図表 81 母子保健や療育に関わることで望むこと (全体/複数回答)



【属性別の傾向：18歳未満】

障がい別にみると、身体、知的障がい者ともに「福祉サービスや療育についての情報を提供し、わかりやすい説明をおこなうこと」、「保護者に対する相談・支援体制の充実」が多くなっています。さらに知的障がい者では、「通園事業・療育事業などの充実」(46.7%)も4割を超え、身体障がい者に比べて、支援を望む人は多い傾向がみられます。

図表 82 母子保健や療育に関わることで望むこと (障がい別/複数回答)



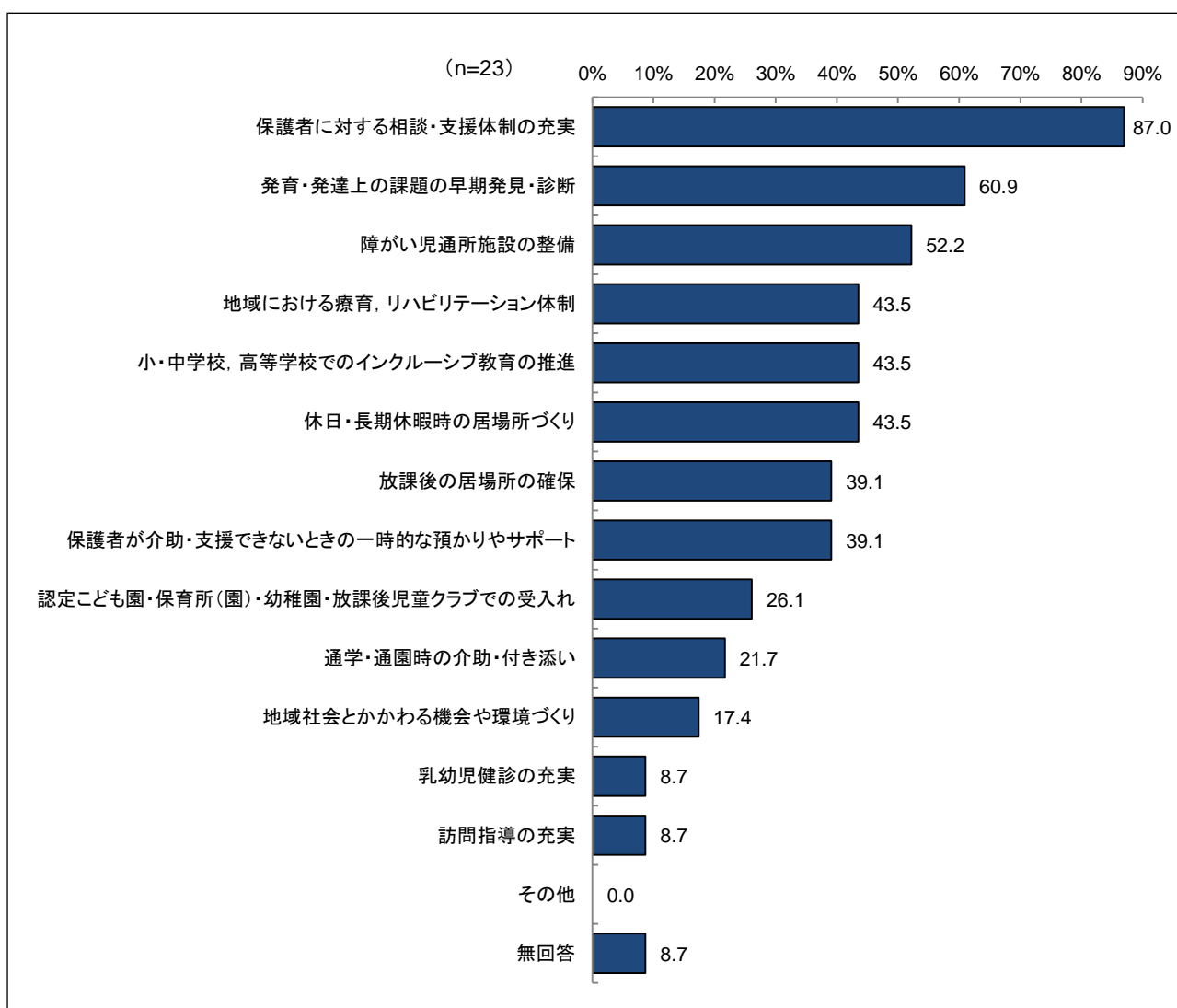
(3) 発達支援について

問 32 発達に課題のある子どものための施策やサービスなどで、あなたが特に重要と思うものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向：18歳未満】

発達に課題のある子どものための施策等で重要だと思うものについてみると、「保護者に対する相談・支援体制の充実」(87.0%)が最も多く、次いで「発育・発達上の課題の早期発見・診断」(60.9%)、「障がい児通所施設の整備」(52.2%)、「地域における療育, リハビリテーション体制」, 「小・中学校, 高等学校でのインクルーシブ教育の推進」, 「休日・長期休暇時の居場所づくり」(同率 43.5%)となっています。

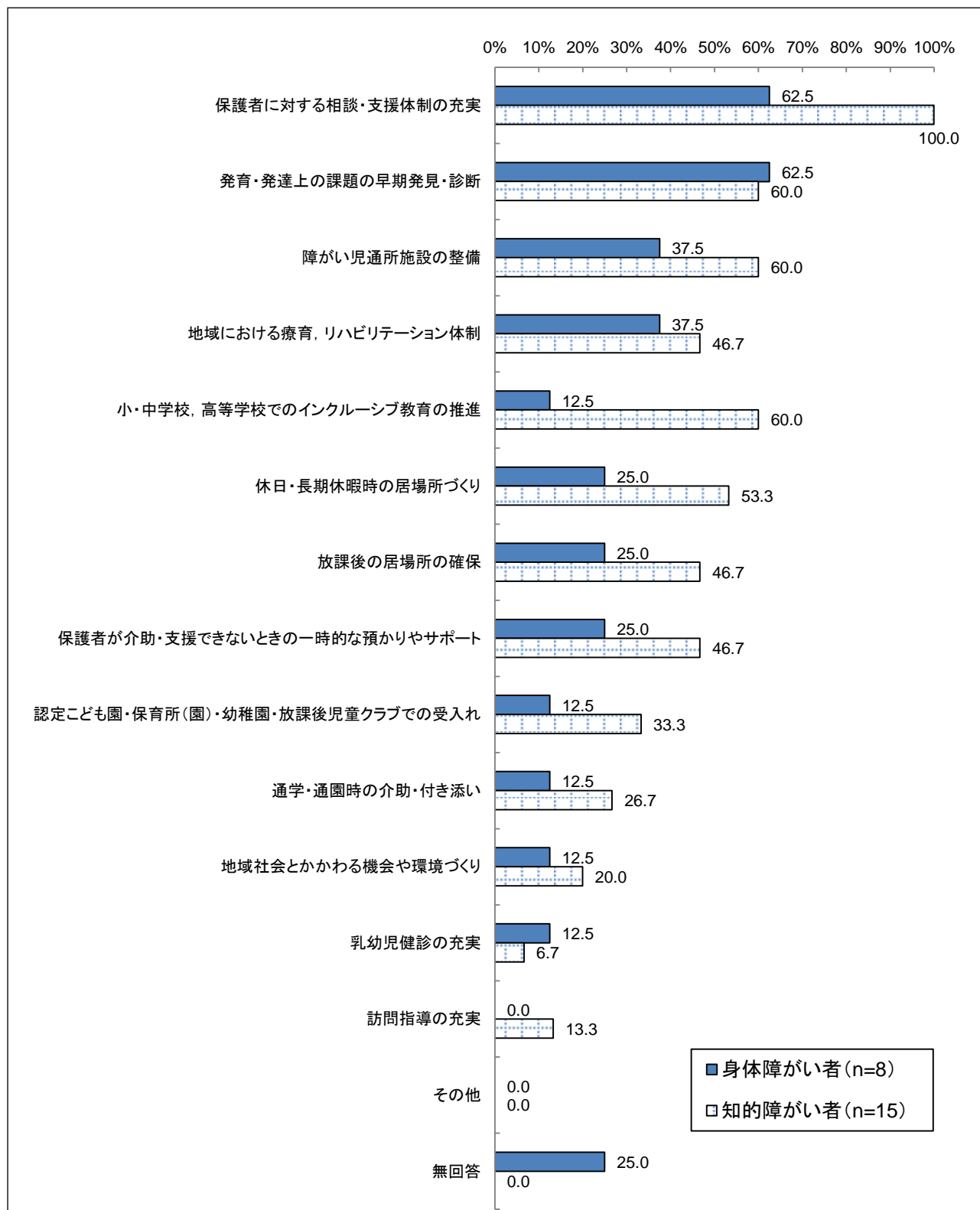
図表 83 発達支援の施策・サービスで重要と思うもの(全体/複数回答)



【属性別の傾向：18歳未満】

障がい別にみると、第1位から第3位までの順位に大きな違いはみられませんが、その割合に大差がみられます。「発育・発達上の課題の早期発見・診断」、「乳幼児健診の充実」については、身体障がい者の割合が上回っていますが、それ以外の項目については知的障がい者が上回っており、支援やサポートを重要だと感じる人が多い傾向がみられます。

図表 84 発達支援の施策・サービスで重要と思うもの（障がい別／複数回答）



8 生活全般について

(1) 困りごとや相談について

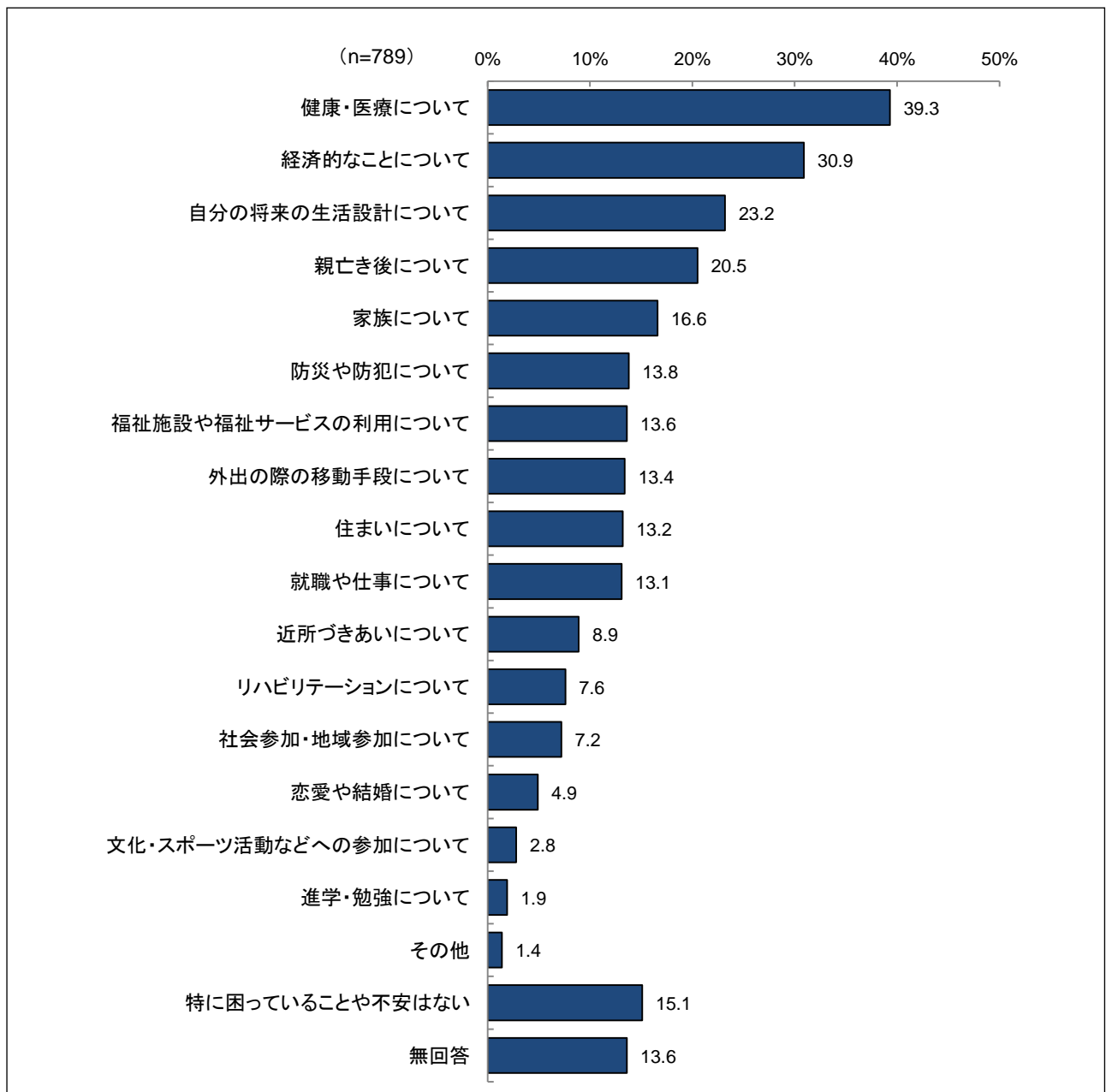
問 33 現在あなたが困ったり、不安に思っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

現在困ったり、不安に思っていることについてみると、「健康・医療について」が39.3%と最も多く、次いで「経済的なことについて」(30.9%)、「自分の将来の生活設計について」(23.2%)、「親亡き後について」(20.5%)、「家族について」(16.6%)などとなっています。

また、「特に困っていることはない」は15.1%で全体では第6位となっています。

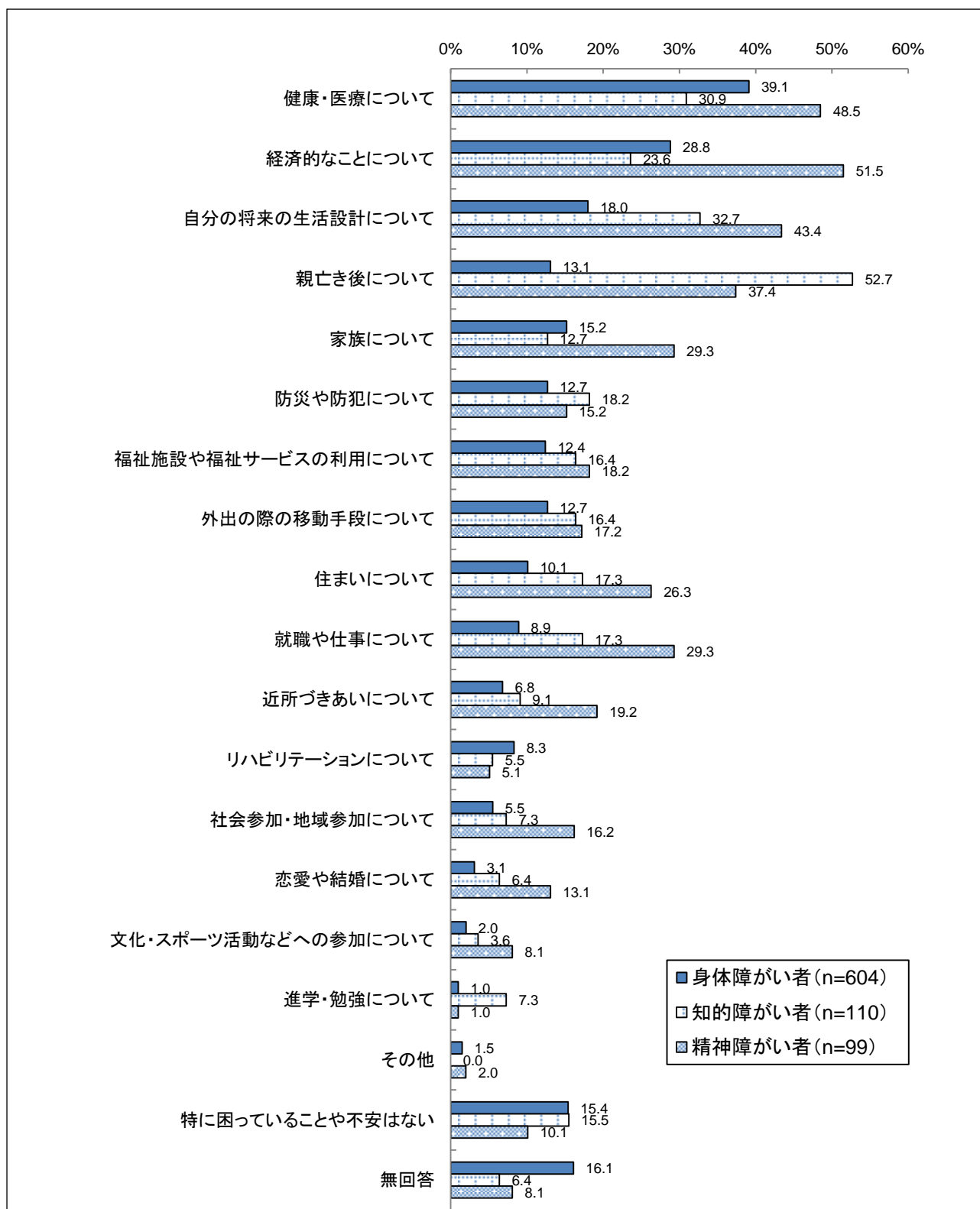
図表 85 困りごとや不安に思っていること (全体/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では、全体と概ね同様の傾向となっています。知的障がい者では、「親亡き後について」(52.7%)、「自分の将来の生活設計について」(32.7%)など将来への不安が多くみられます。精神障がい者では、「経済的なことについて」(51.5%)が最も多く、次いで「健康・医療について」(48.5%)となっています。

図表 86 困りごとや不安に思っていること（障がい別／複数回答）



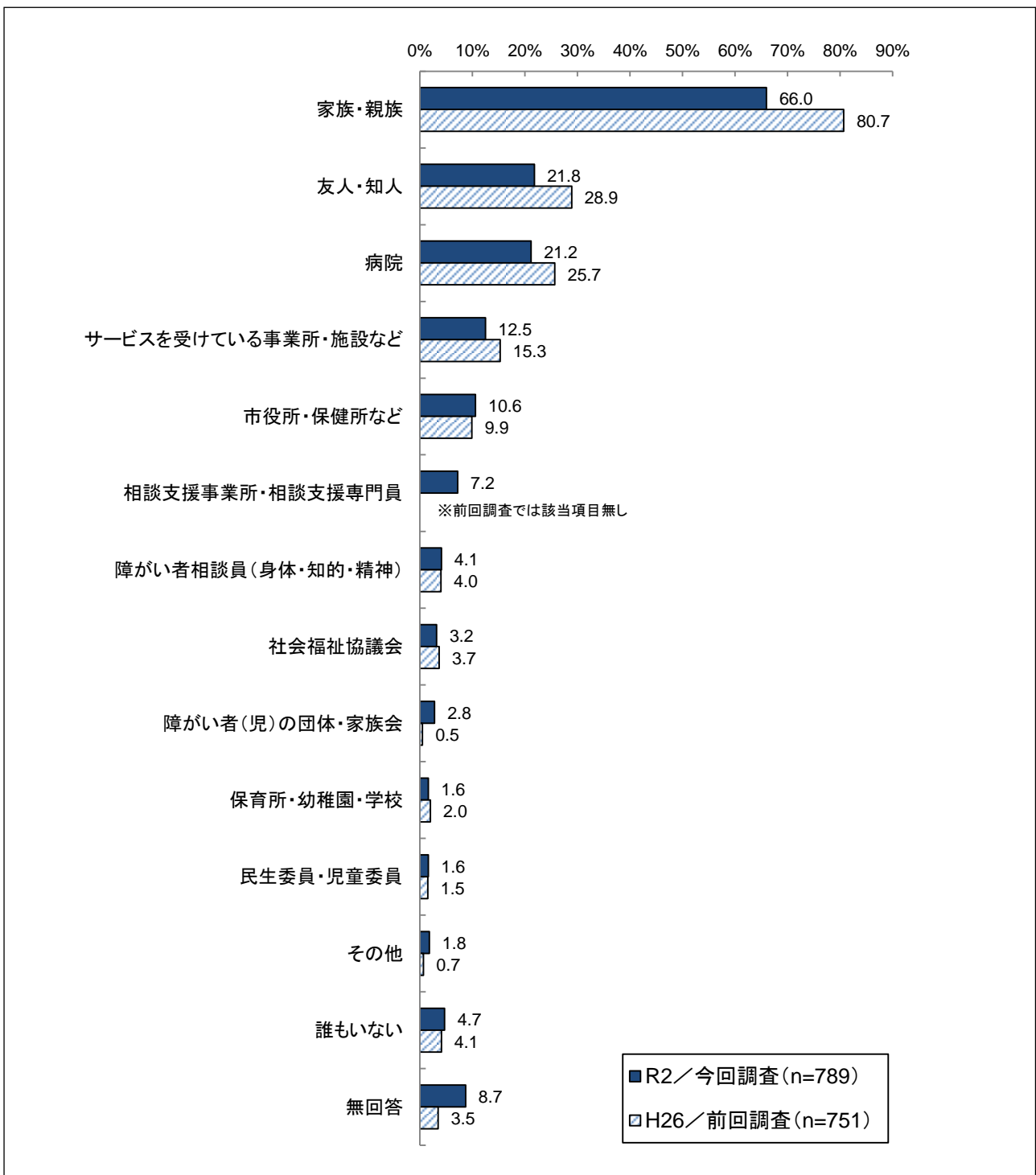
問 34 悩みや困ったことを相談するのは誰ですか。(〇は3つまで)

【全体の傾向】

悩みや困ったことを相談する相手についてみると、「家族・親族」が66.0%と最も多く、その割合は突出しています。次いで「友人・知人」(21.8%),「病院」(21.2%)となっています。

前回調査と比較すると、「家族・親族」の割合は14.7ポイント大きく減少しており、また、「友人・知人」、「病院」などの割合も減少しています。

図表 87 悩みの相談相手 (全体, 前回比較/複数回答)

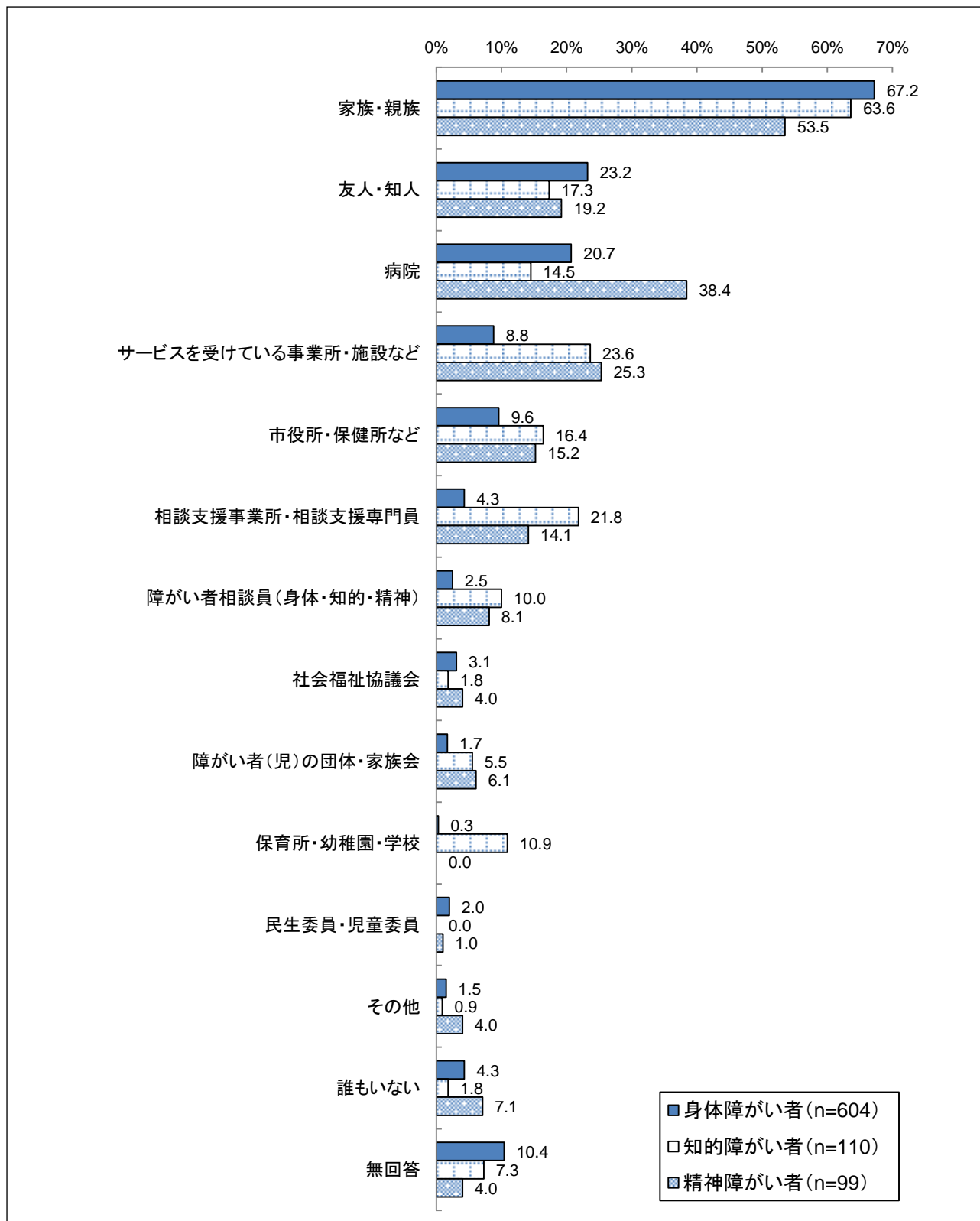


【属性別の傾向】

障がい別にみると、障がいの種類に関わらず、「家族・親族」が最も多くなっています。

また、知的及び精神障がい者では、「サービスを受けている事業所・施設など」、さらに知的障がい者では「相談支援事業所・相談支援専門員」、精神障がい者では、「病院」も多くなっています。

図表 88 悩みの相談相手（障がい別／複数回答）

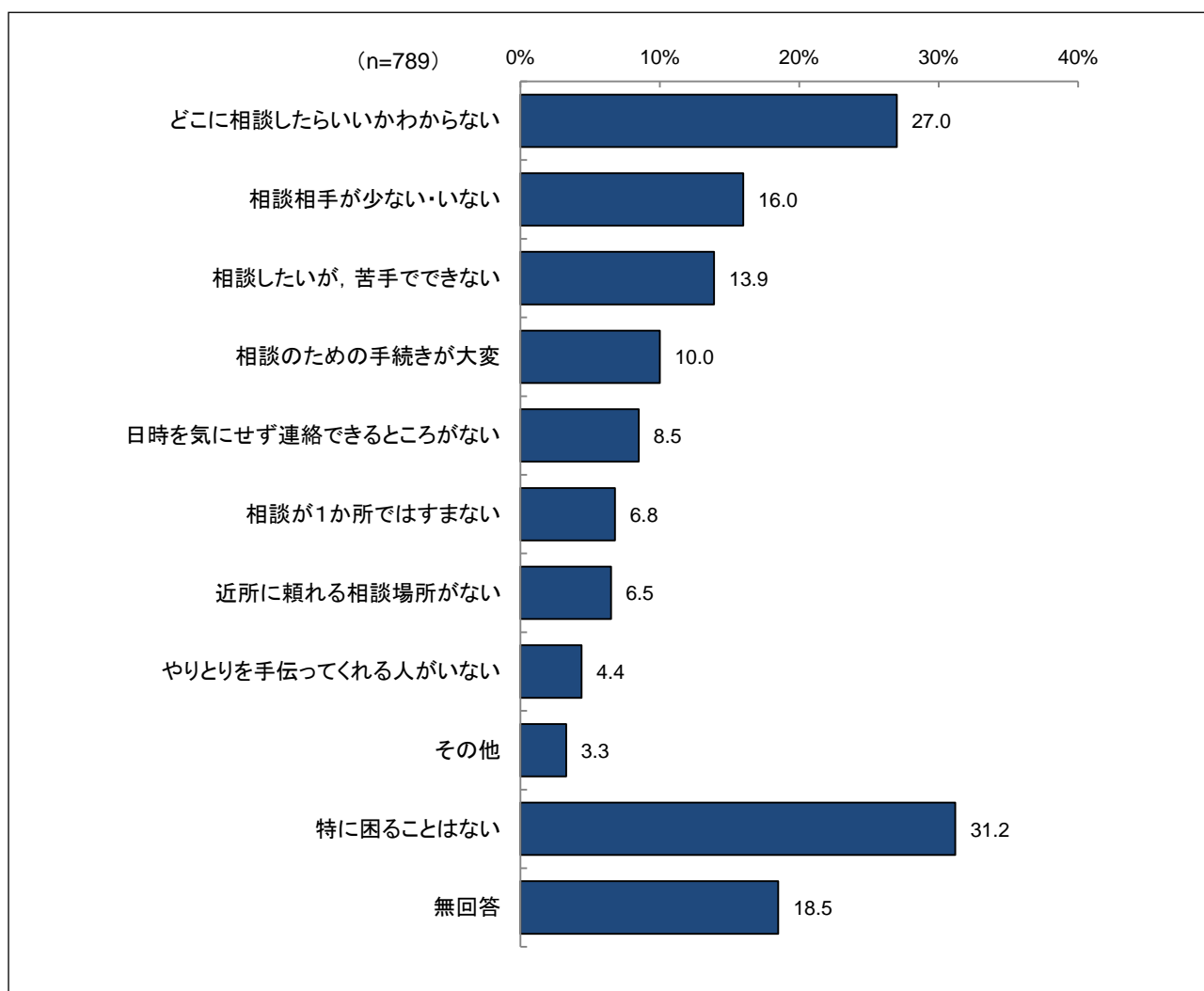


問 35 あなたが相談したい時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

相談時に困ることについてみると、「どこに相談したらいいかわからない」が27.0%と多く、次いで「相談相手が少ない・いない」(16.0%)、「相談したいが、苦手でできない」(13.9%)、「相談のための手続きが大変」(10.0%)、「日時を気にせず連絡できるところがない」(8.5%)などとなっています。また、「特に困っていることはない」は31.2%となっており、全体の第1位となっています。

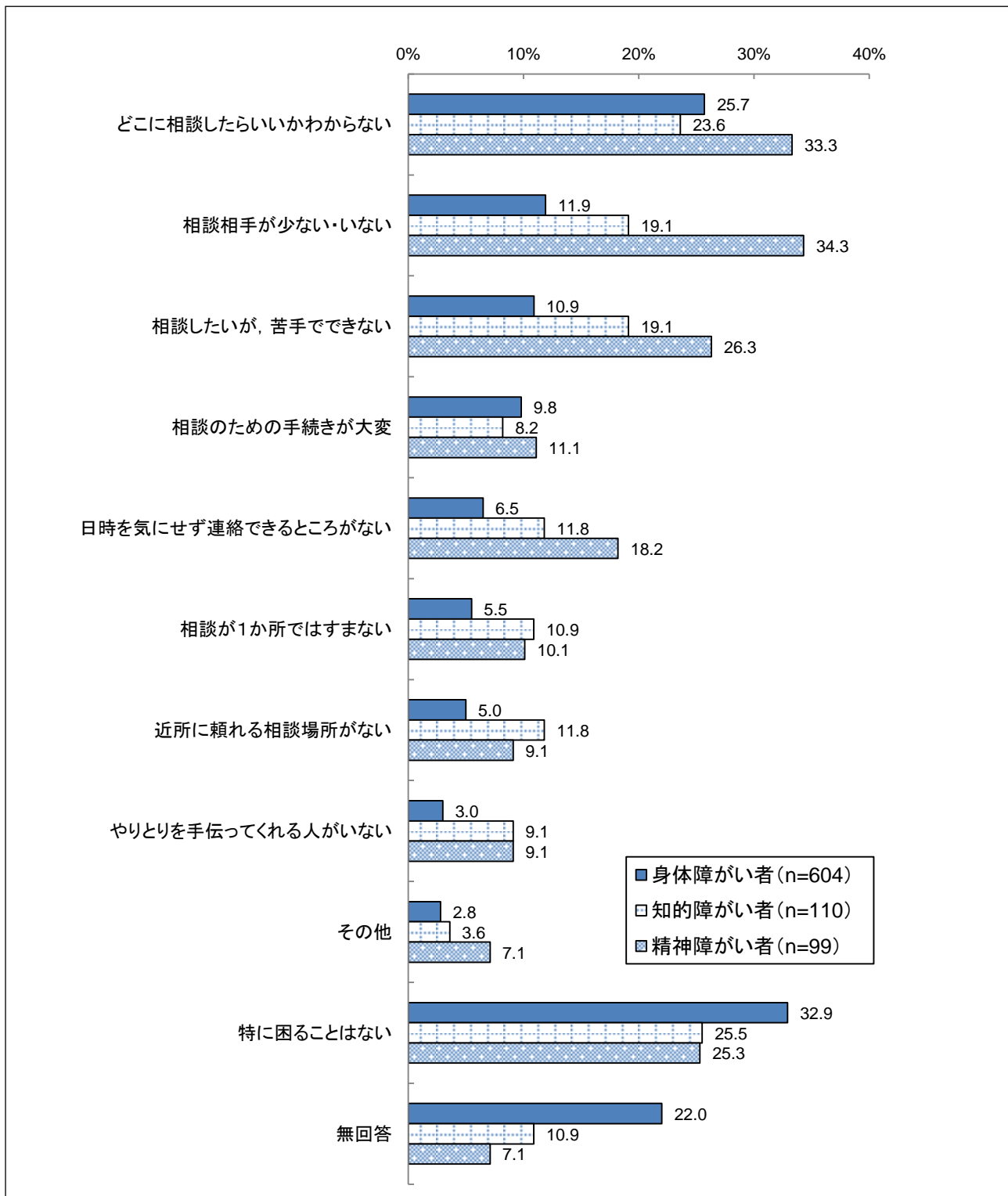
図表 89 相談時に困ること (全体/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、上位3位までの順位に大差はみられませんが、その割合は違いがみられます。特に、精神障がい者では、「どこに相談したらいいかわからない」は33.3%、「相談相手が少ない・いない」は34.3%とともに3割を超えており、「相談したいが、苦手できない」も26.3%と多く、身体及び知的障がい者に比べてその割合は突出しています。

図表 90 相談時に困ること（障がい別／複数回答）



(2) 外出について

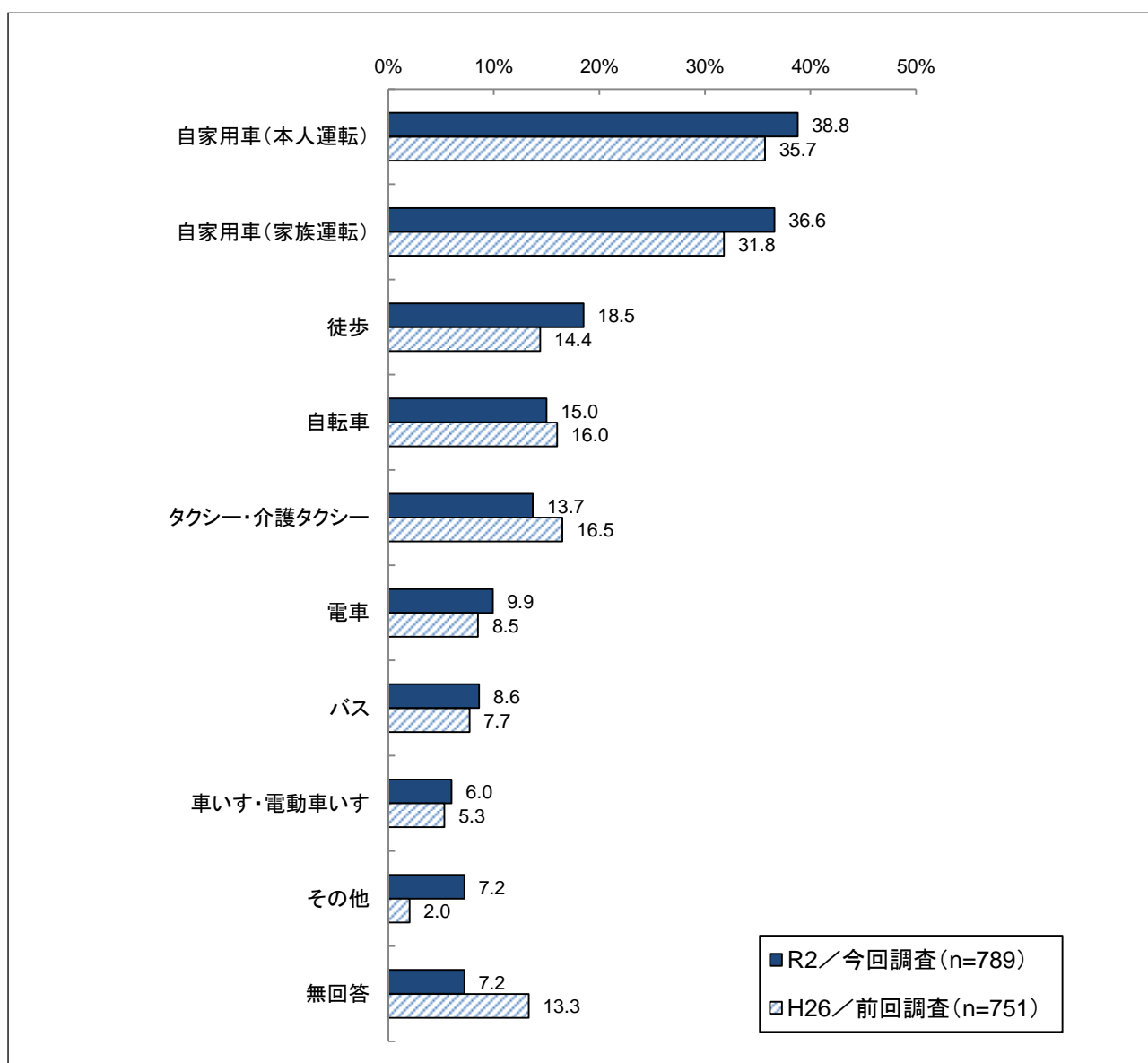
問 36 通勤や通学，施設や病院への通院など，外出する際の交通手段は何ですか。(〇は3つまで)

【全体の傾向】

通勤や通学，通院等の外出する際の交通手段についてみると，「自家用車（本人運転）」が 38.8%と最も多く，次いで「自家用車（家族運転）」（36.6%）となっており，自家用車での移動が多くなっています。続いて，「徒歩」（18.5%），自転車（15.0%），「タクシー・介護タクシー」（13.7%）などとなっています。

前回調査と比較すると，「自家用車（本人運転）」が 3.1 ポイント，「自家用車（家族運転）」が 4.8 ポイント，「徒歩」が 4.1 ポイント増加しています。

図表 91 外出時の交通手段（全体，前回比較／複数回答）

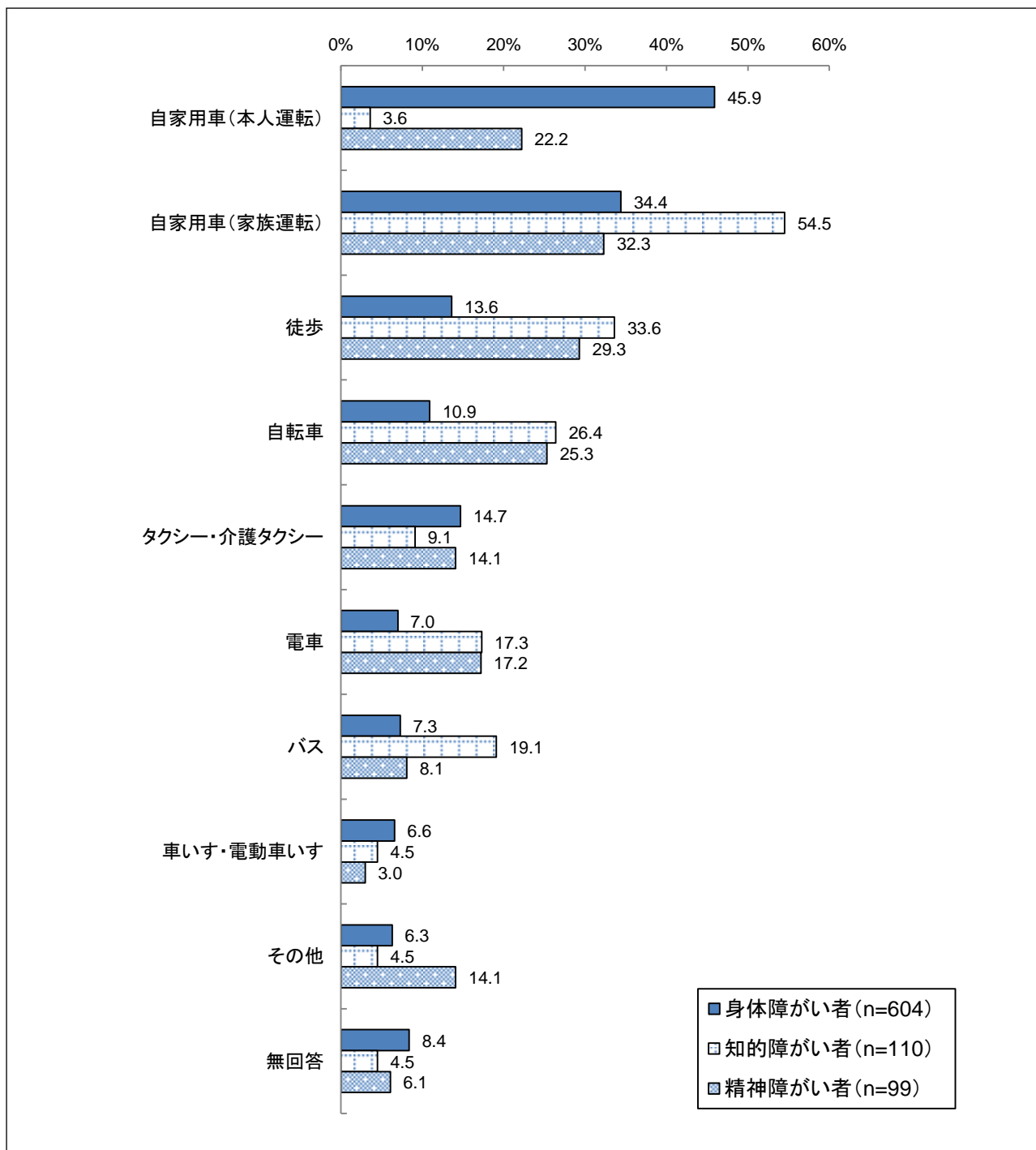


【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では、「自家用車（本人運転）」が最も多く、知的障がい者及び精神障がい者では「自家用車（家族運転）」が最も多くなっています。

また、知的障がい者、精神障がい者では「徒歩」、「自転車」、「電車」などの移動手段も多く、さらに知的障がい者では「バス」の利用者も多くみられます。

図表 92 外出時の交通手段（障がい別／複数回答）



問 37 現在どのくらいの頻度で外出していますか。(1つに〇)

【全体の傾向】

外出の頻度をみると、「週1～2日くらい」が22.2%と最も高く、次いで「週3～4日くらい」(20.9%)、「毎日」(17.9%)、「週5～6日くらい」(17.7%)となっています。一方、「ほとんど外出しない」は10.9%と約1割を占めています。

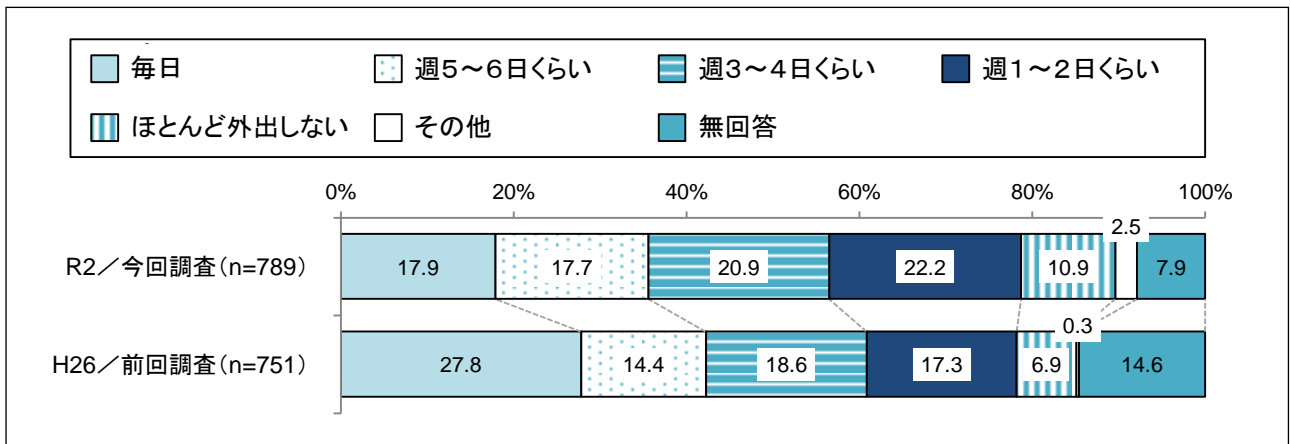
前回調査と比較すると、「毎日」外出する人の割合は減少し、週1～6日くらい外出する人の割合が増加しています。また、「ほとんど外出しない」の割合も増加しています。

【属性別の傾向】

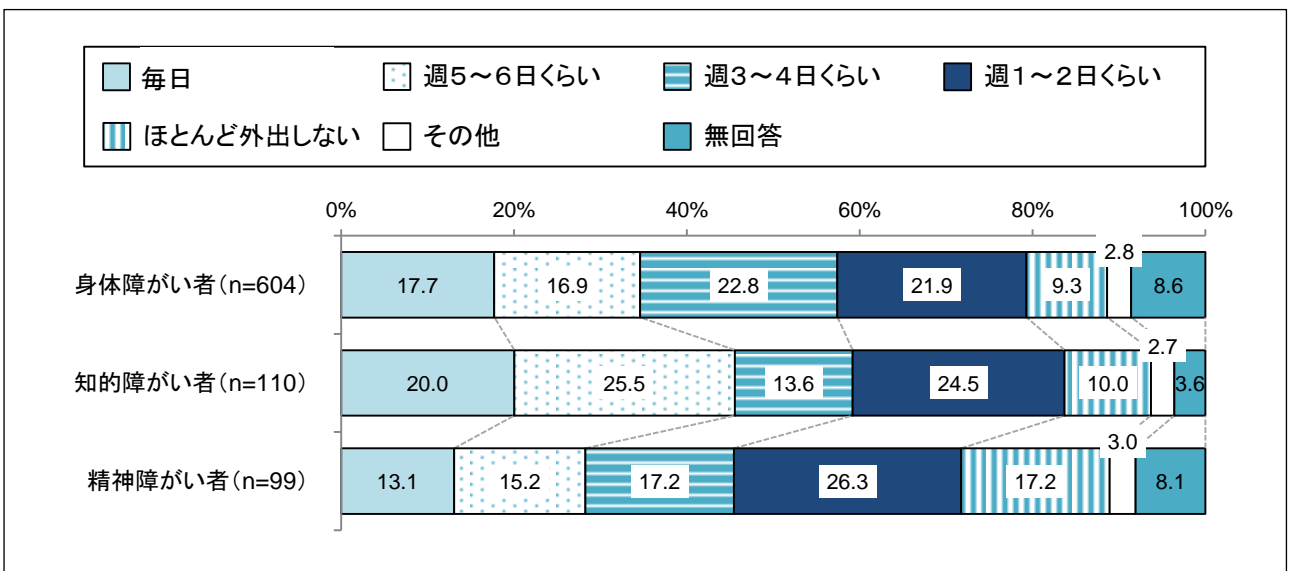
障がい別にみると、身体障がい者では「週3～4日くらい」、知的障がい者では「週5～6日くらい」、精神障がい者では「週1～2日くらい」が最も高くなっています。

また、精神障がい者では「ほとんど外出しない」が17.2%となっており、身体及び知的障がい者に比べて高くなっています。

図表 93 外出の頻度について（全体，前回比較）



図表 94 外出の頻度について（障がい別）



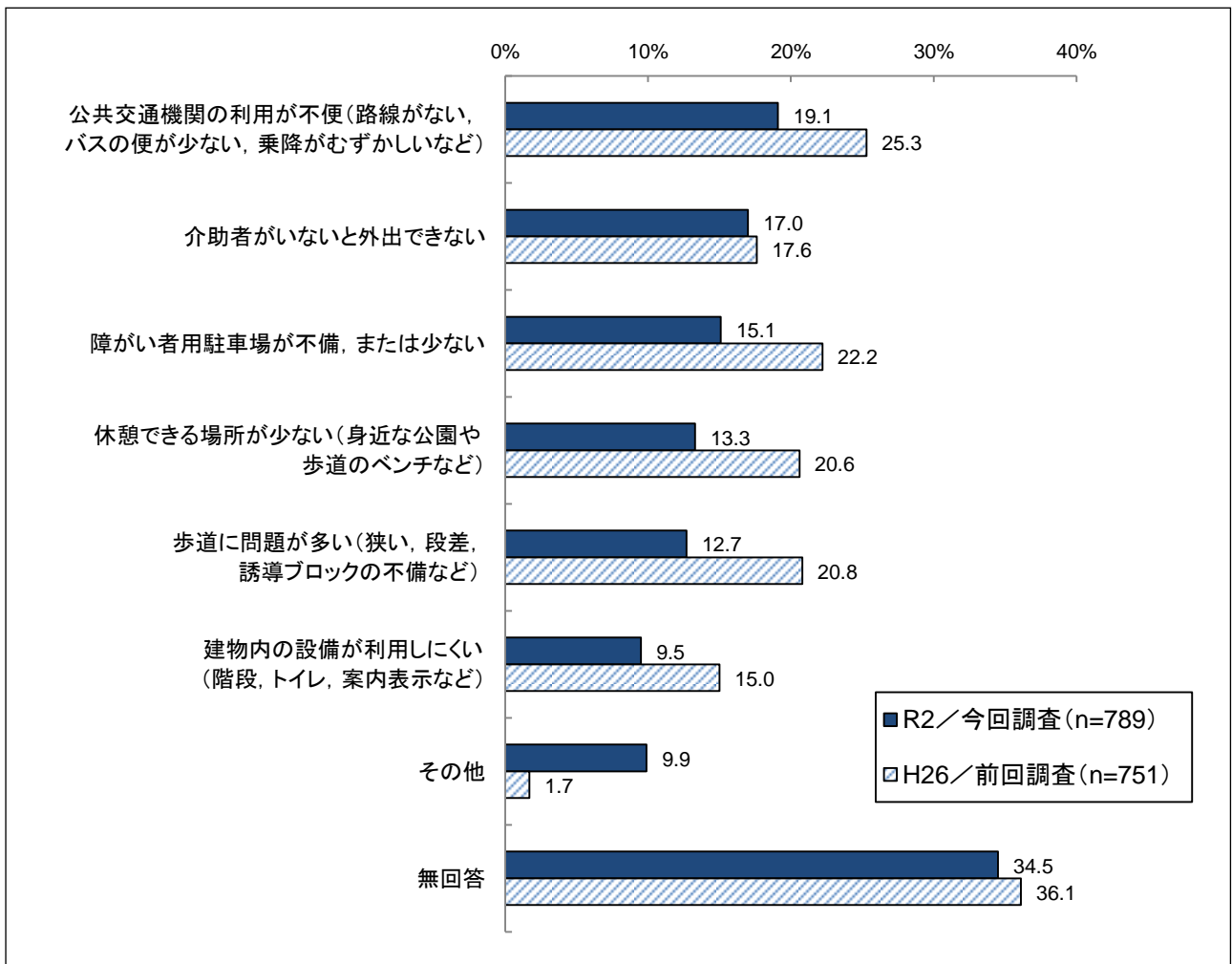
問 38 外出のとき、不便に感じたり困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

外出時に不便に感じたり、困ることについてみると、「公共交通機関の利用が不便」が19.1%と最も多く、次いで「介助者がいないと外出できない」(17.0%)、「障がい者用駐車場が不備、または少ない」(15.1%) などとなっています。

前回調査と比較すると、いずれの項目も大きく減少しています。一方、「その他」の割合は増加しており、内容では「特に不便なことはない」、「自分の車の運転が心配」、「車や自転車での事故が心配」、「電車の遅延時などに、放送が聞こえない」、「移動手段が限られている」などがあげられています。

図表 95 外出時に不便に感じる事（全体、前回比較／複数回答）



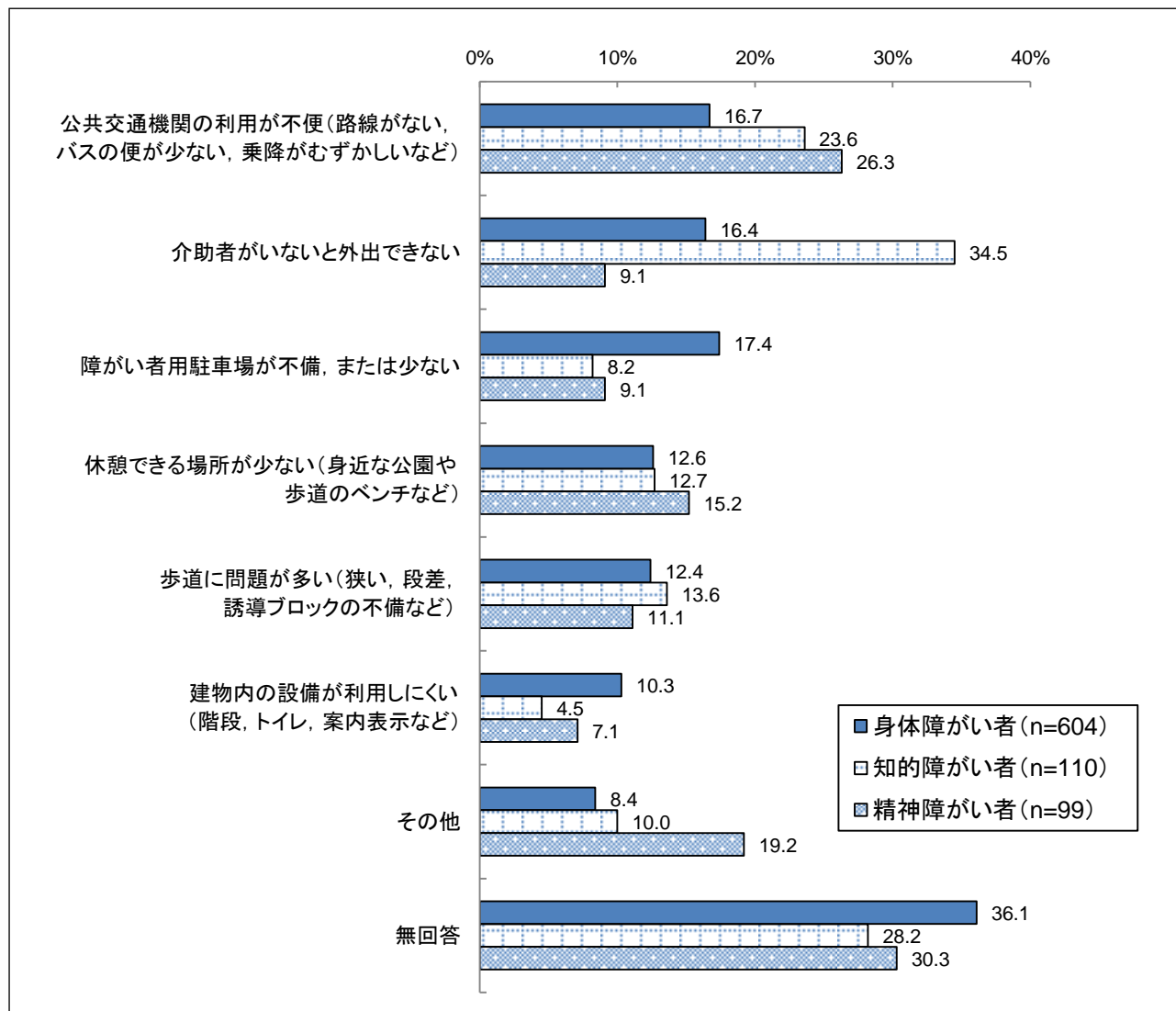
【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では「障がい者用駐車場が不備、または少ない」が最も多く、知的、精神障がい者に比べて約2倍の割合となっています。

また、知的障がい者では「介助者がいないと外出できない」の割合が最も多く、3割以上の人が外出時には、必ず介助者が必要だと回答しています。

また、精神障がい者では「公共交通機関の利用が不便」が最も多くなっています。

図表 96 外出時に不便に感じること（障がい別／複数回答）



(3) 障がい者差別について

問 39 あなたは「障害者差別解消法」について知っていますか。(1つに○)

【全体の傾向】

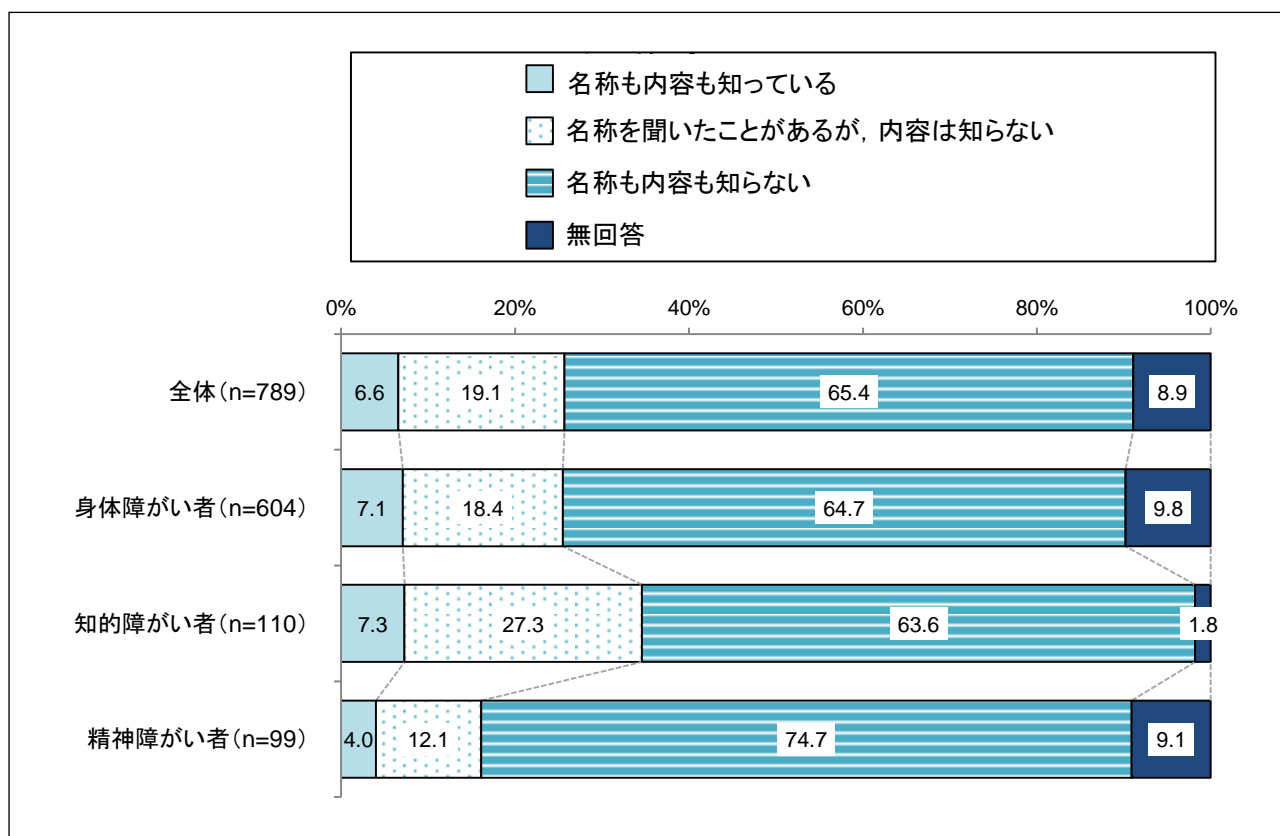
「障害者差別解消法」の認知状況についてみると、「名称も内容も知っている」は6.6%にとどまり、「名称を聞いたことがあるが、内容は知らない」が19.1%、「名称も内容も知らない」は65.4%となっています。

【属性別の傾向】

障がい別にみると、「名称も内容も知っている」の割合は、身体障がい者で7.1%、知的障がい者で7.3%、精神障がい者で4.0%となっています。

また、「名称を聞いたことがあるが、内容は知らない」の割合は、知的障がい者で最も高く、27.3%となっています。次いで身体障がい者で18.4%、精神障がい者で12.1%となっています。

図表 97 障害者差別解消法の認知状況（全体、障がい別）



問 40 あなたは障害者差別解消法で求められる「合理的配慮」について知っていますか。(1つに〇)

【全体の傾向】

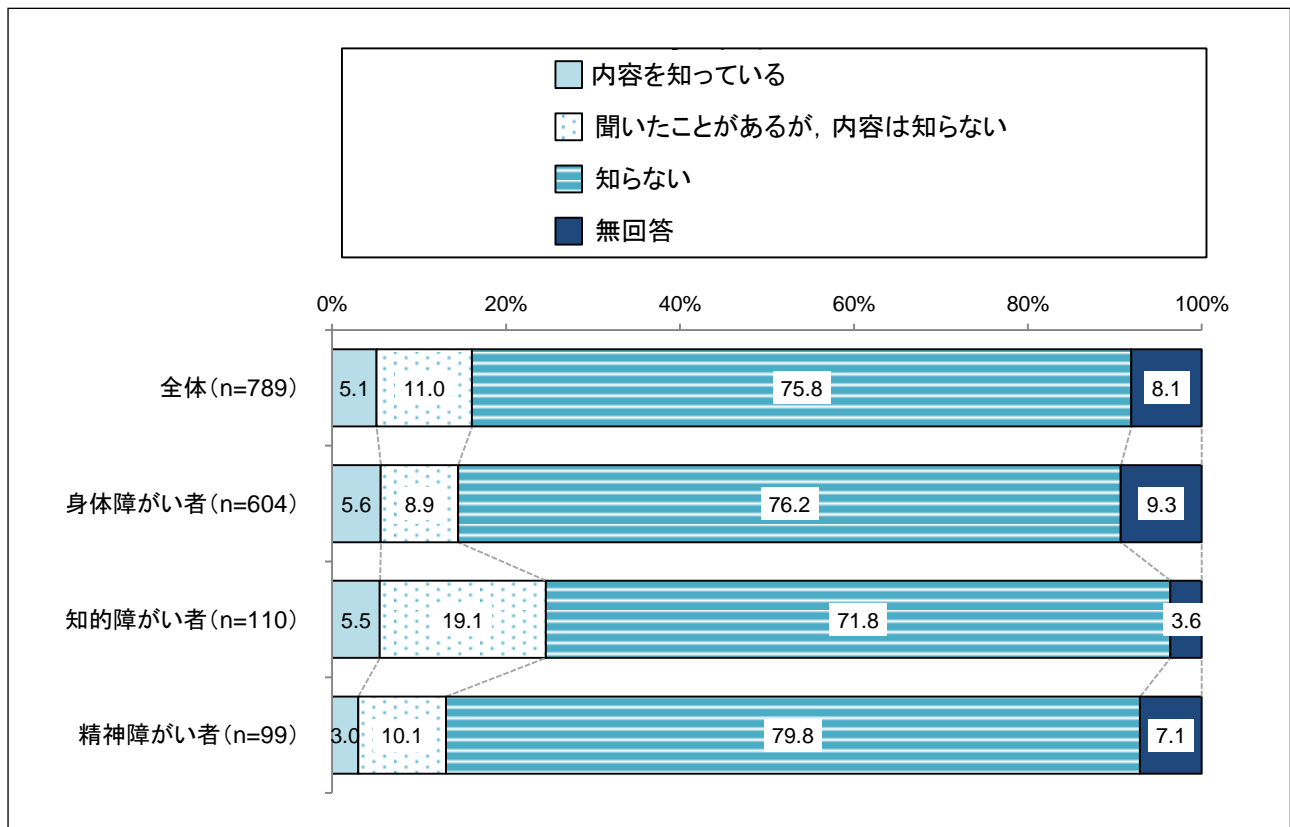
障害者差別解消法で求められる「合理的配慮」の認知状況についてみると、「内容を知っている」は5.1%にとどまり、「聞いたことがあるが、内容は知らない」が11.0%、「知らない」は75.8%となっています。

【属性別の傾向】

障がい別にみると、「内容を知っている」の割合は、身体障がい者で5.6%、知的障がい者で5.5%、精神障がい者で3.0%となっています。

また、「聞いたことがあるが、内容は知らない」の割合は、知的障がい者で最も高く、19.1%となっています。次いで精神障がい者で10.1%、身体障がい者で8.9%となっています。

図表 98 「合理的配慮」の認知状況（全体、障がい別）



問 41 あなたは、障がいがあることで差別や嫌な思いをする（した）ことがありますか。（1つに〇）

【全体の傾向】

障がいがあることで、差別や嫌な思いをする（した）ことがあるかについてみると、「よくある」が9.8%、「たまにある」が35.0%、「ない」が46.9%となっています。

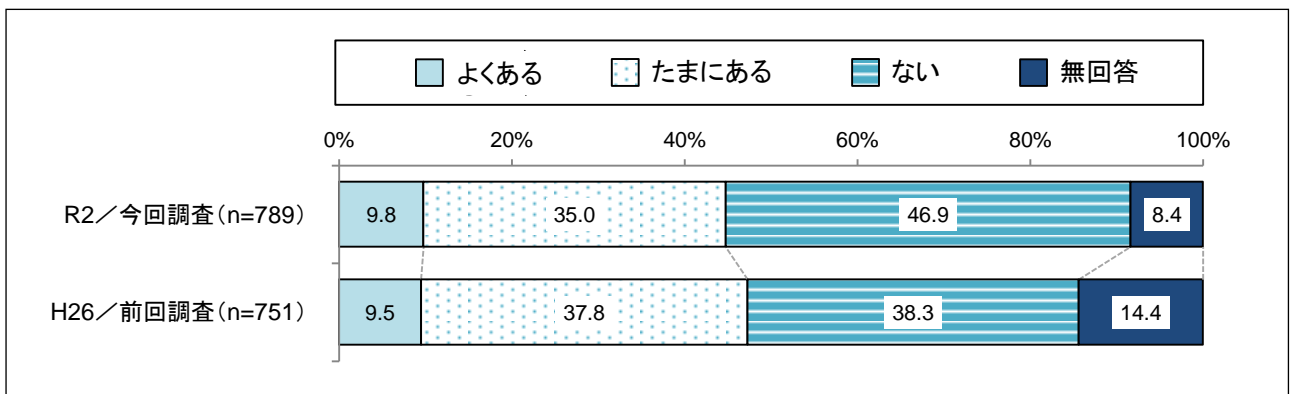
前回調査と比較すると、「たまにある」が2.8ポイント減少し、「ない」が8.6ポイント増加しています。

【属性別の傾向】

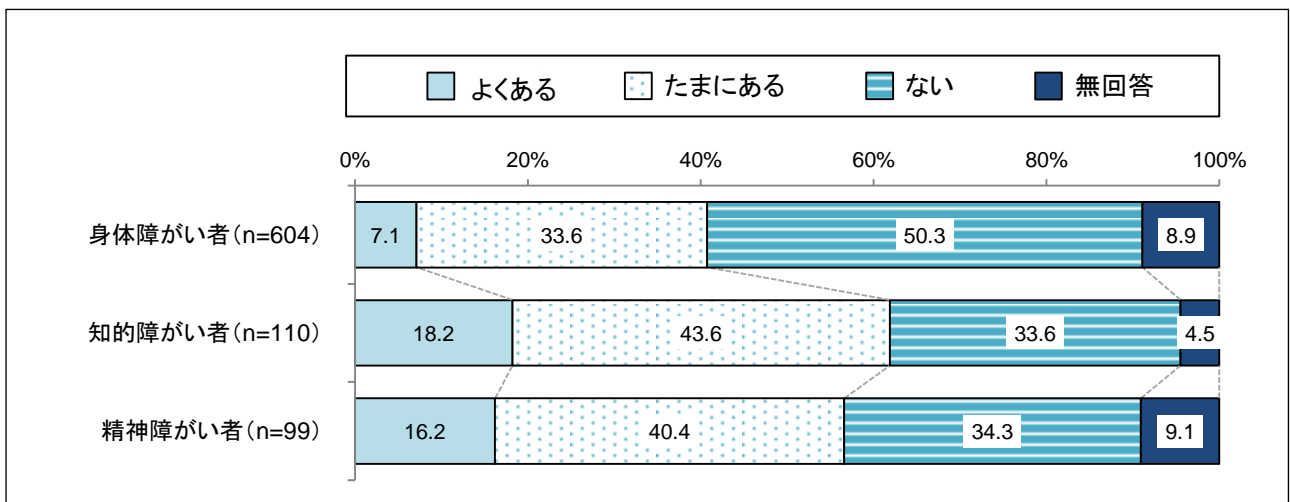
障がい別にみると、「よくある」の割合は、知的障がい者で最も高く、18.2%となっています。次いで精神障がい者で16.2%、身体障がい者で7.1%となっています。

また、「たまにある」を合わせると、知的障がい者では約6割、精神障がい者でも5割以上の方が、差別や嫌な思いをした経験があると回答しています。

図表 99 差別を受けた経験について（全体，前回比較）



図表 100 差別を受けた経験について（障がい別）



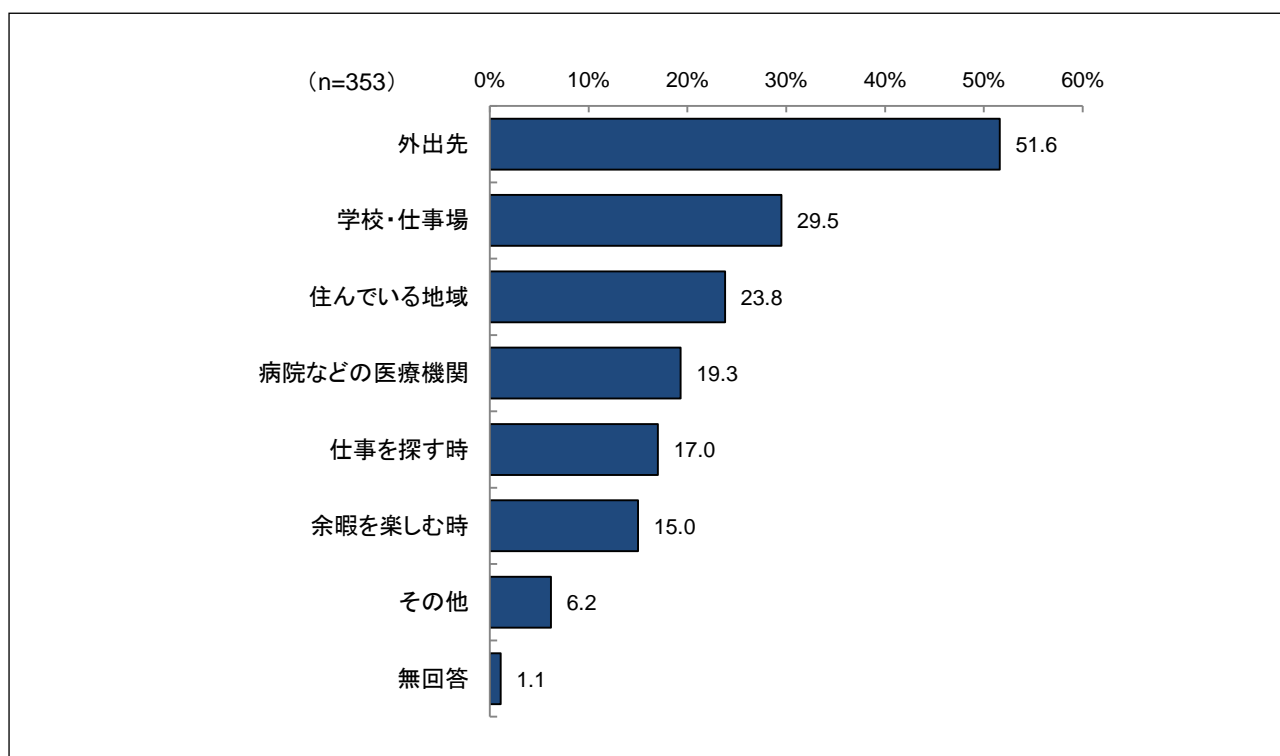
※問 41 で「よくある」または「たまにある」と回答した方

問 42 どのような場所で、差別や嫌な思いをしましたか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

どのような場所で、差別や嫌な思いをしたかについてみると、「外出先」が51.6%と最も多く、次いで「学校・仕事場」(29.5%)、「住んでいる地域」(23.8%)、「病院などの医療機関」(19.3%)、「仕事を探す時」(17.0%)、「余暇を楽しむ時」(15.0%)となっています。

図表 101 差別を受けた場所 (全体/複数回答)



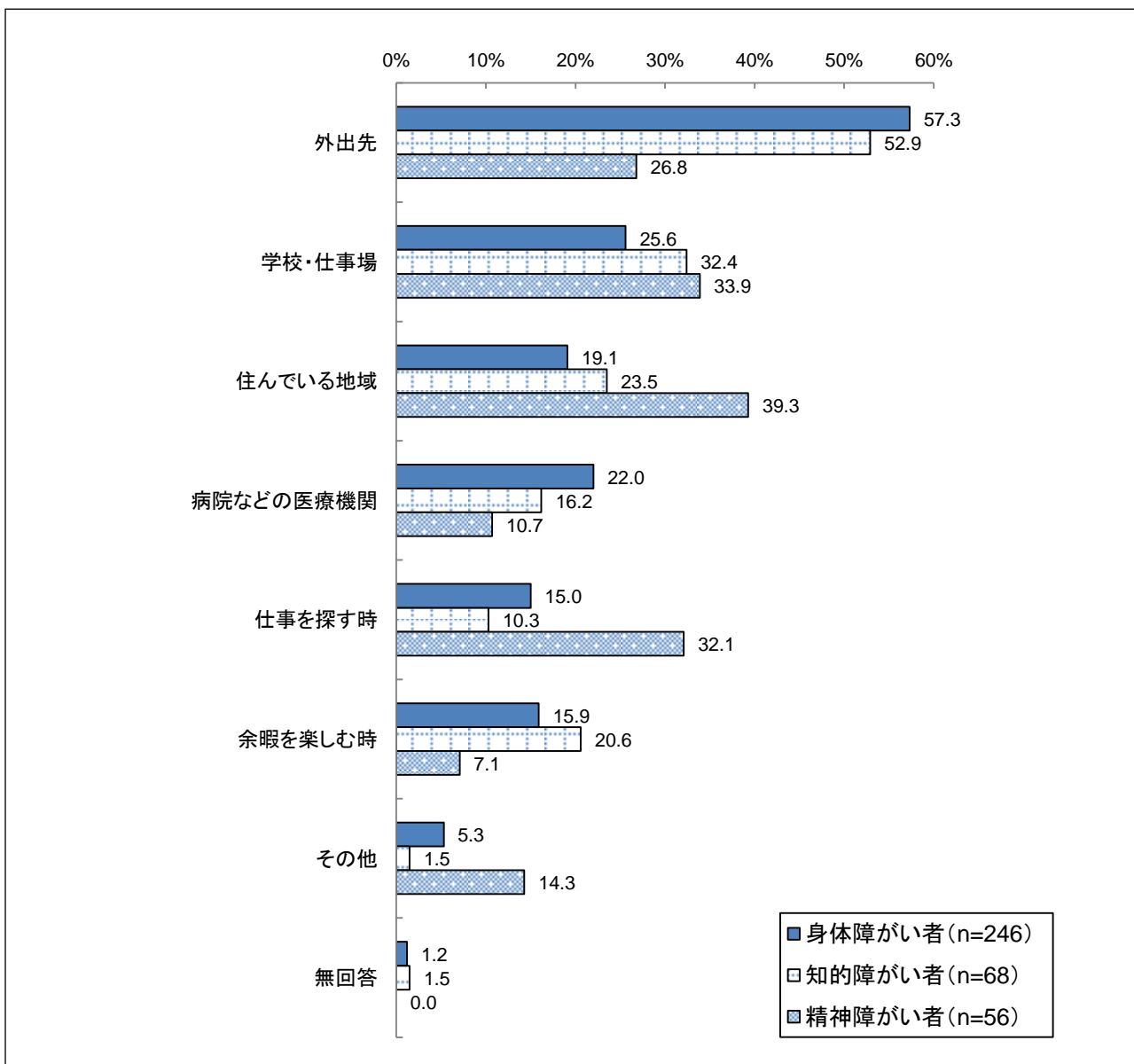
【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では、「外出先」が最も多く、次いで「学校・仕事場」、「病院などの医療機関」などが多くなっています。

知的障がい者でも同様に「外出先」、「学校・仕事場」が多く、次いで、「住んでいる地域」、「余暇を楽しむ時」も多くなっています。

精神障がい者では「住んでいる地域」が最も多く、次いで「学校・仕事場」、「仕事を探す時」などとなっています。

図表 102 差別を受けた場所（障がい別／複数回答）



(4) 成年後見制度について

問 43 あなたは、「成年後見制度」について知っていますか。(1つに〇)

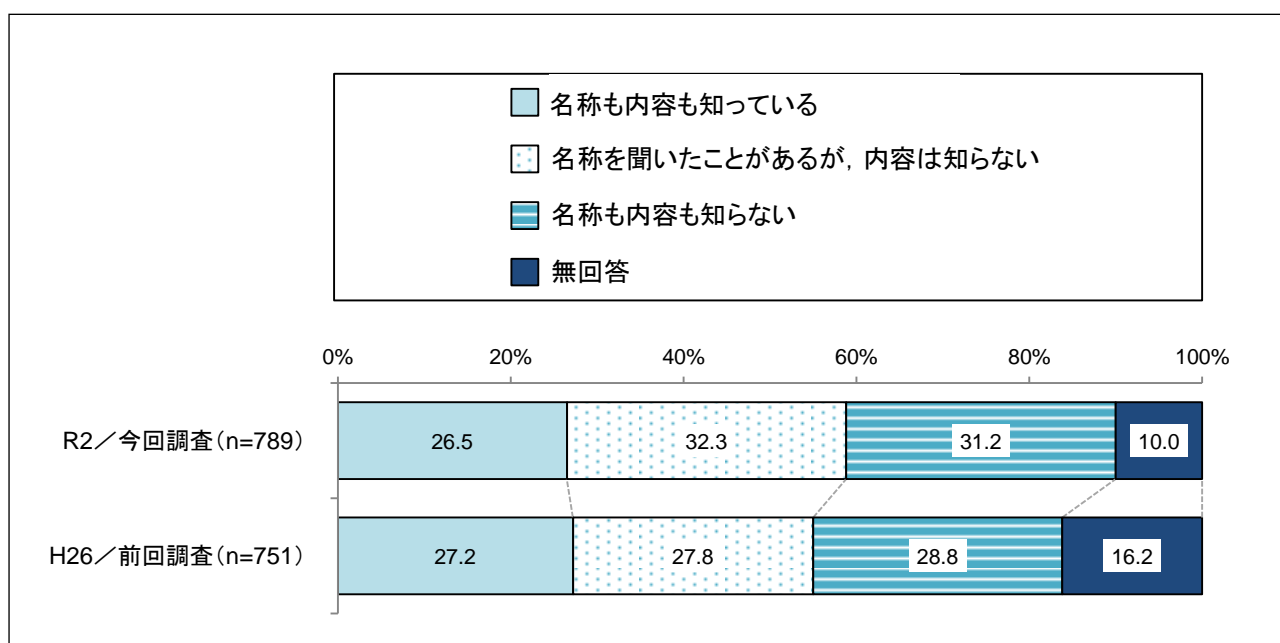
【全体の傾向】

成年後見制度の認知状況についてみると、「名称も内容も知っている」は 26.5%、「名称を聞いたことがあるが、内容は知らない」が 32.3%、「名称も内容も知らない」は 31.2%となっています。

前回調査と比較すると、「名称を聞いたことがあるが、内容は知らない」が 4.5 ポイント増加しています。

また、「名称も内容も知っている」の割合と合わせると、名称を知っている、または聞いたことがある人の割合は、前回調査での 55.0%から今回調査では 58.8%となっています。

図表 103 成年後見制度の認知状況（全体、前回比較）



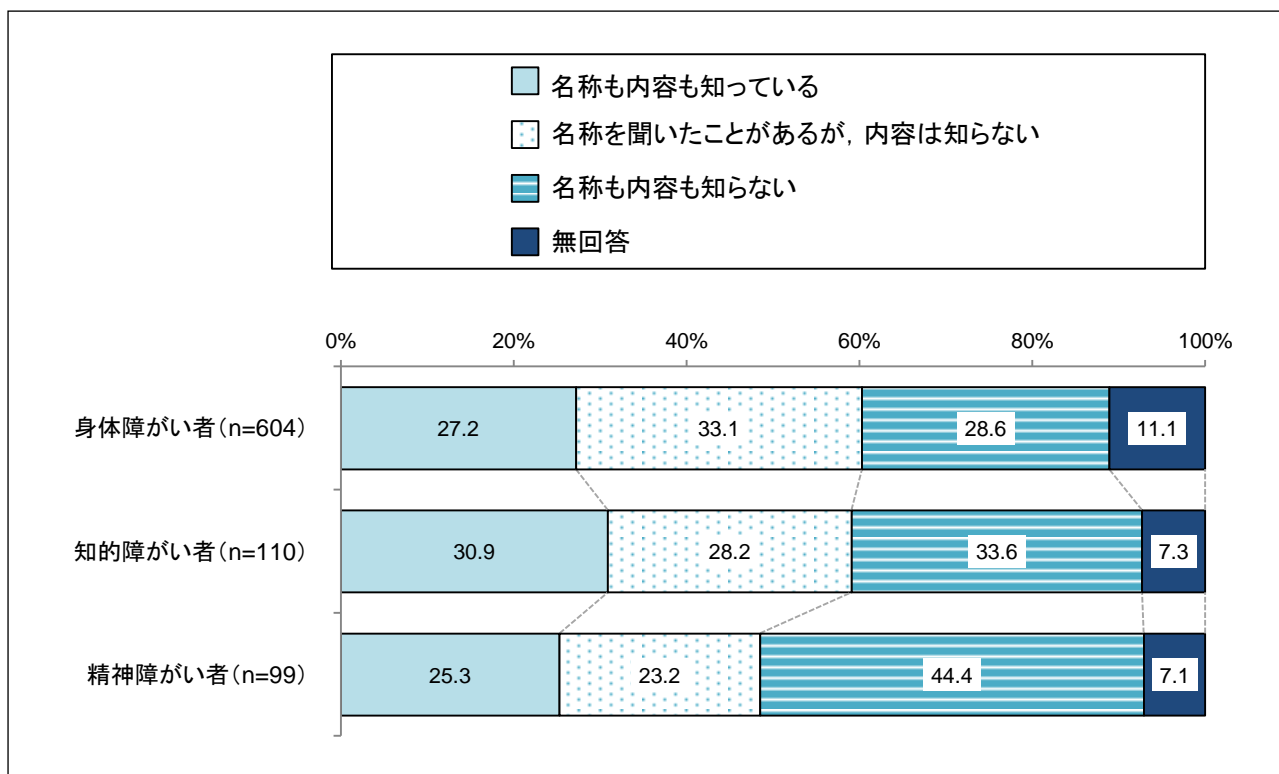
【属性別の傾向】

障がい別にみると、「名称も内容も知っている」は、身体障がい者で27.2%、知的障がい者で30.9%、精神障がい者で25.3%と、知的障がい者で最も高くなっています。

一方、「名称を聞いたことがあるが、内容は知らない」は、身体障がい者で33.1%と最も高く、次いで知的障がい者で28.2%、精神障がい者で23.2%となっています。

名称を知っている、または聞いたことがある人の割合は、身体障がい者、知的障がい者では5割を超えています。

図表 104 成年後見制度の認知状況（障がい別）



※問 43 で「名称も内容も知っている」と回答した方

問 43-1 あなたは、「成年後見制度」を利用していますか。(1つに○)

【全体の傾向】

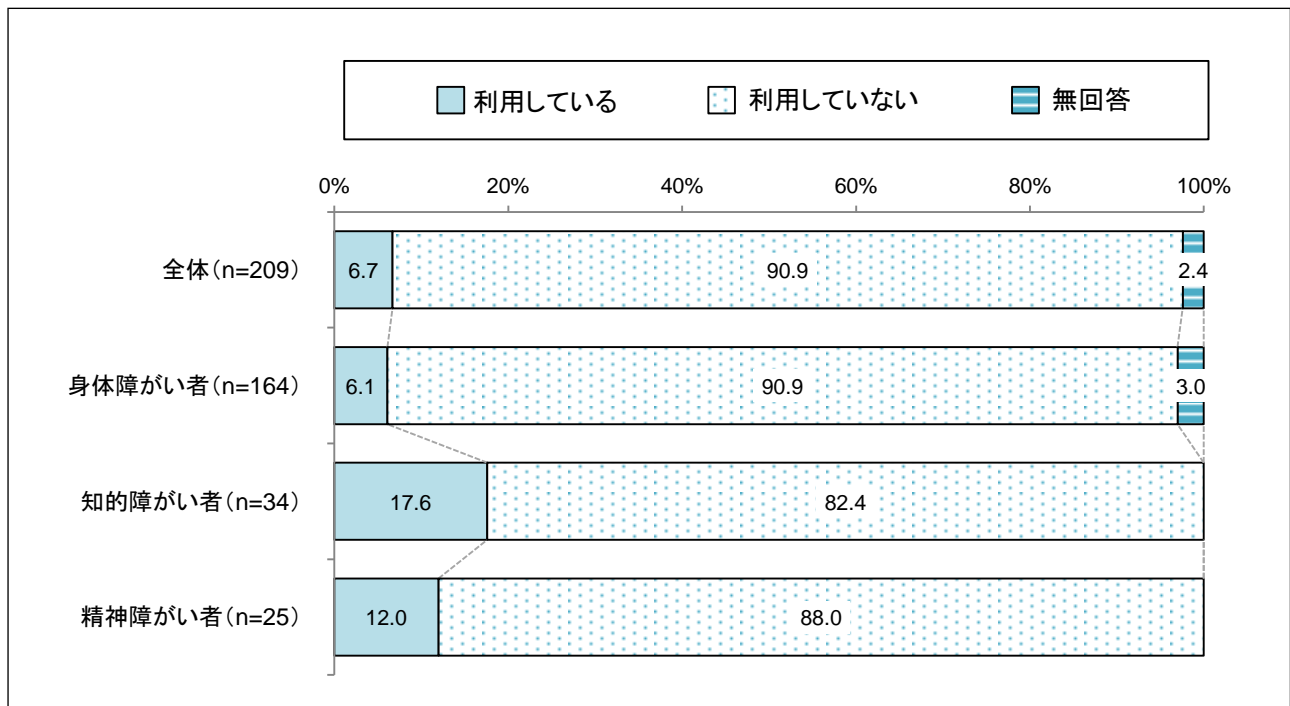
成年後見制度の名称も内容も知っている人の制度の利用状況についてみると、「利用している」は6.7%と低くなっています。

一方、「利用していない」が90.9%となっており、制度は知っているが、利用していない人が大半を占めています。

【属性別の傾向】

障がい別にみると「利用している」は、身体障がい者で6.1%、知的障がい者で17.6%、精神障がい者で12.0%となっており、利用者の割合は、知的障がい者で最も高くなっています。

図表 105 成年後見制度の利用状況（全体，障がい別）



※問 43で「名称も内容も知っている」と回答した方

問 43-2 あなたは、自分自身では判断ができなくなった場合、「成年後見制度」を利用し、後見人に財産管理などを任せることについて、どう思いますか。(1つに〇)

【全体の傾向】

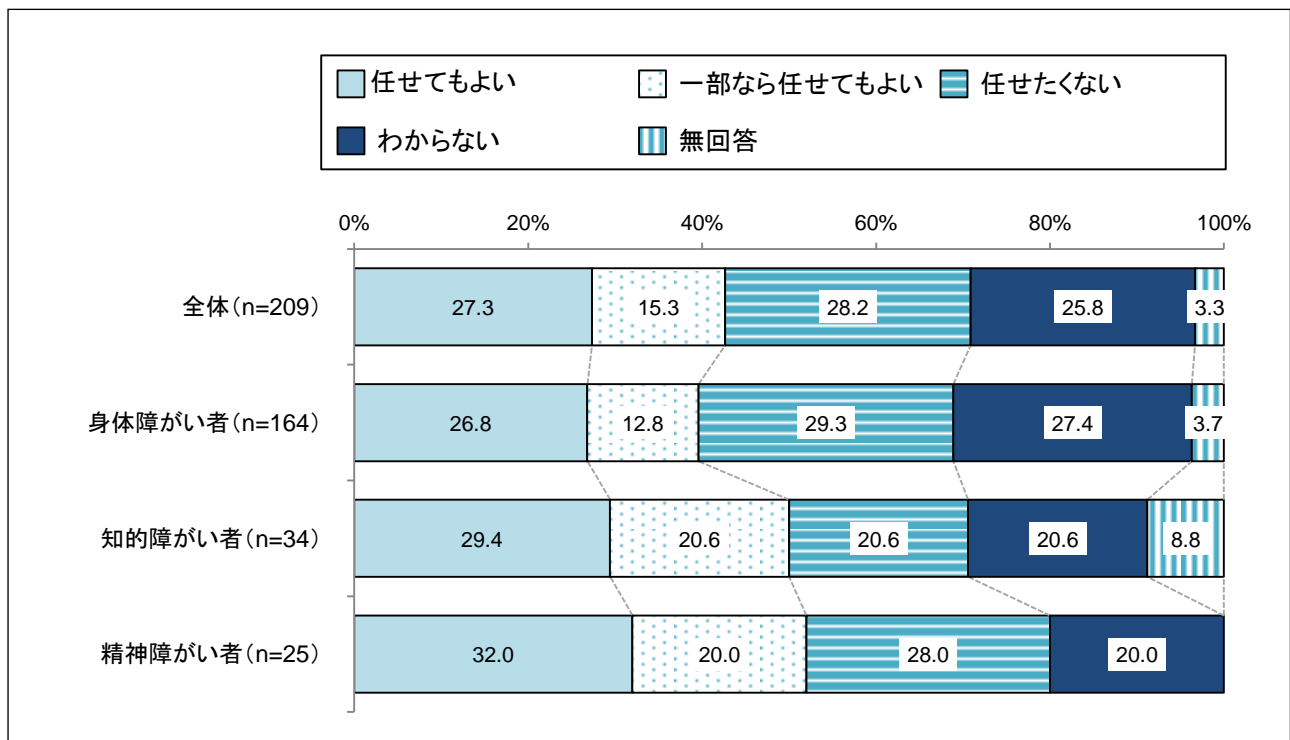
成年後見制度を利用し、後見人に財産管理などを任せることをどう思うかについてみると、「任せたくない」が28.2%と最も高いものの、「任せなくてもよい」が27.3%、「わからない」が25.8%と僅差となっており、意見が分かれる結果となっています。

【属性別の傾向】

障がい別にみると、身体障がい者では、「任せたくない」が29.3%と最も高く、次いで、「わからない」が27.4%、「任せなくてもよい」が26.8%となっており、割合に大差はみられません。

一方、知的障がい者、精神障がい者では「任せなくてもよい」が最も高くなっています。

図表 106 後見人に財産管理を任せることについて（全体、障がい別）



(5) 近所づきあいについて

問 44 あなたは、近所づきあいをどの程度していますか。(1つに○)

【全体の傾向】

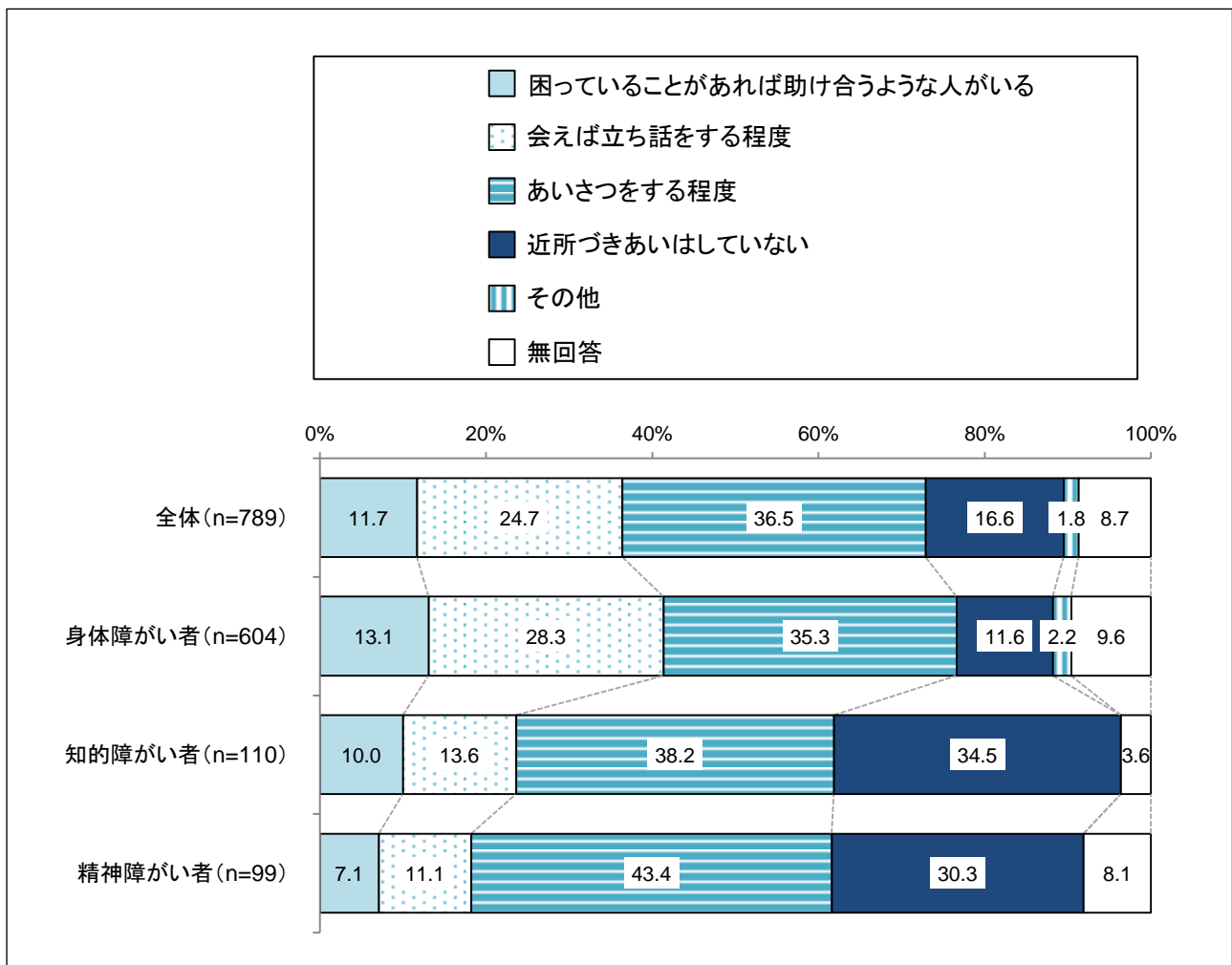
近所づきあいの程度についてみると、「あいさつをする程度」が36.5%と最も高く、次いで「会えば立ち話をする程度」が24.7%、「近所づきあいはしていない」が16.6%となっています。

【属性別の傾向】

障がい別にみると身体障がい者では、「あいさつをする程度」が35.3%と最も高く、次いで「会えば立ち話をする程度」が28.3%となっています。

一方、知的障がい者、精神障がい者でも同様に「あいさつをする程度」が最も高い傾向は同様ですが、「近所づきあいはしていない」の割合が高く、3割を超えています。

図表 107 近所づきあいの頻度（全体、障がい別）



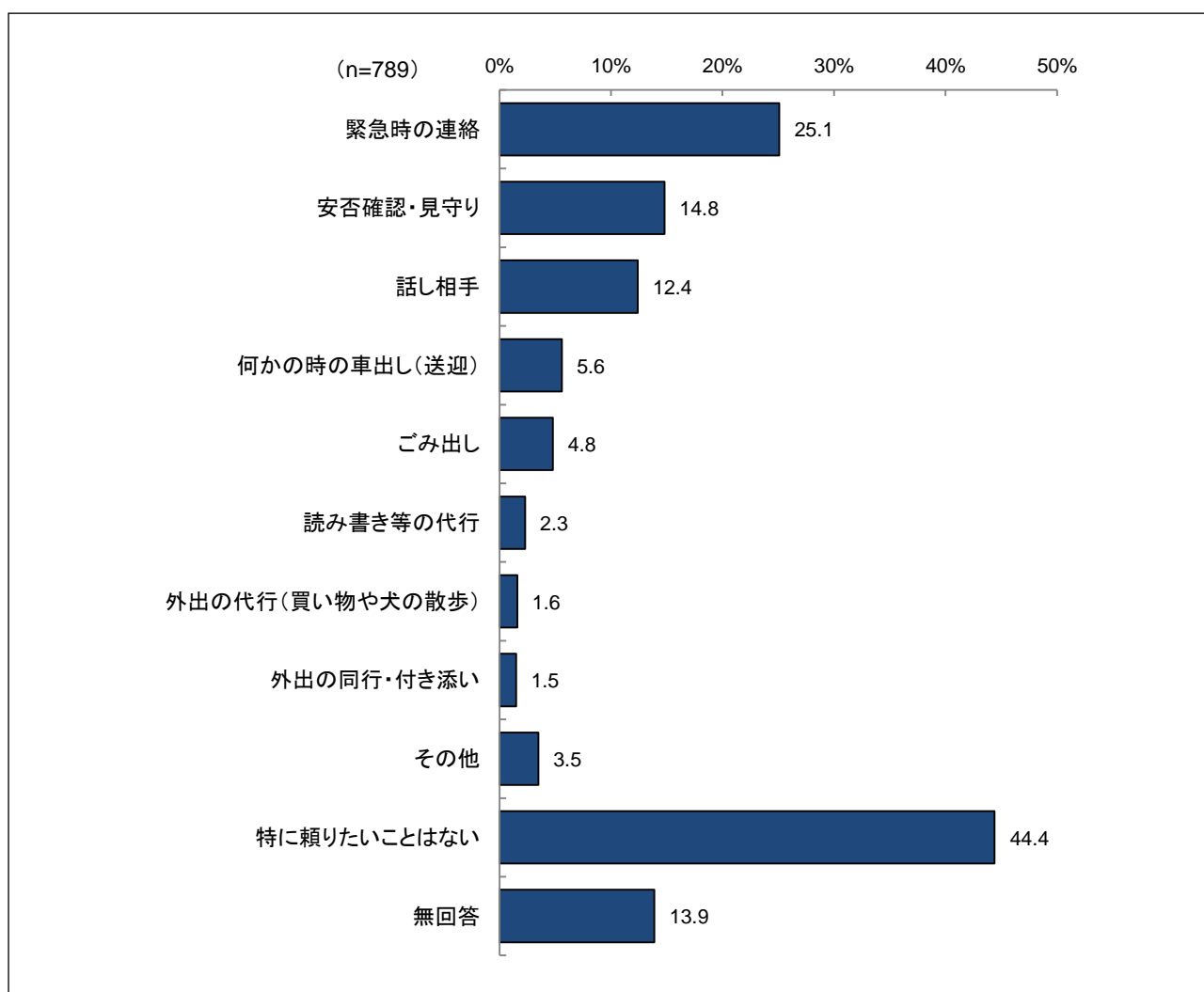
問 45 あなたが日頃の生活でご近所に頼りたいことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体の傾向】

日頃の生活で近所に頼りたいことについてみると、「緊急時の連絡」が 25.1%と多く、「安否確認・見守り」が 14.8%、「話し相手」が 12.4%、「何かの時の車出し(送迎)」が 5.6%、「ごみ出し」が 4.8%などとなっています。

また、「特に頼りたいことはない」は 44.4%となっており、4割以上の人が、近所に頼りたいことは特にないと回答しています。

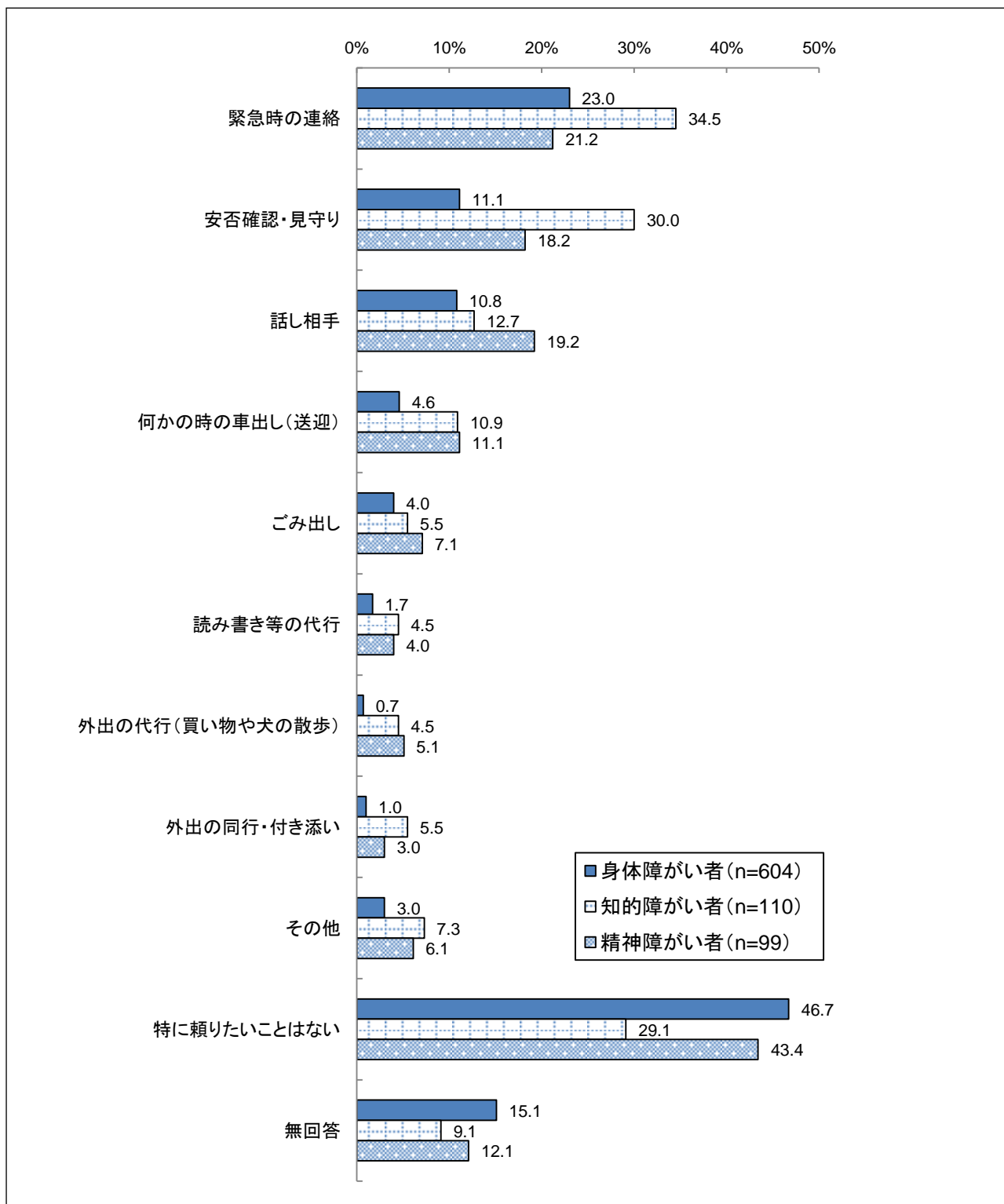
図表 108 近所に頼りたいこと (全体/複数回答)



【属性別の傾向】

障がい別にみると、上位3位までは障がいの種類に関わらず、「緊急時の連絡」、「安否確認・見守り」、「話し相手」となっています。特に知的障がい者では、「緊急時の連絡」、「安否確認・見守り」の割合は突出しています。また、「特に頼りたいことはない」については、身体及び精神障がい者では4割を超えているのに対し、知的障がい者では29.1%とやや低くなっています。

図表 109 近所に頼りたいこと（障がい別／複数回答）



(6) 災害時の行動について

問 46 火事や地震などの災害発生時に、あなたは自力で避難できますか。(1つに〇)

【全体の傾向】

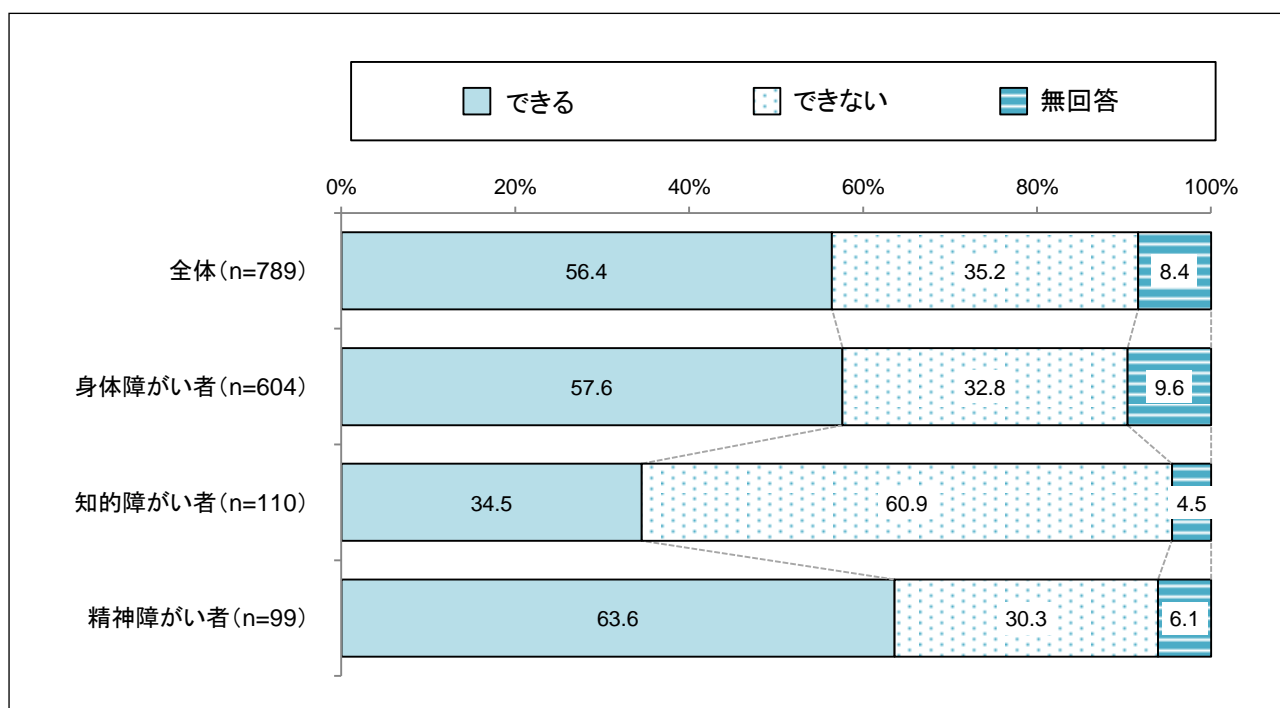
火事や地震などの災害発生時に、自力で避難できるかについてみると、「できる」が56.4%と過半数を占め、「できない」は35.2%となっています。

【属性別の傾向】

障がい別にみると、自力で避難「できる」の割合は、身体障がい者では57.6%、精神障がい者では63.6%と半数を超えています。

一方、知的障がい者では自力で避難「できる」割合は34.5%にとどまっており、「できない」が60.9%と約6割を占めています。

図表 110 自力で避難ができるかについて (全体, 障がい別)



問 47 火事や地震などの災害発生時に、あなたは周囲の人に知らせることができますか。(1つに○)

【全体の傾向】

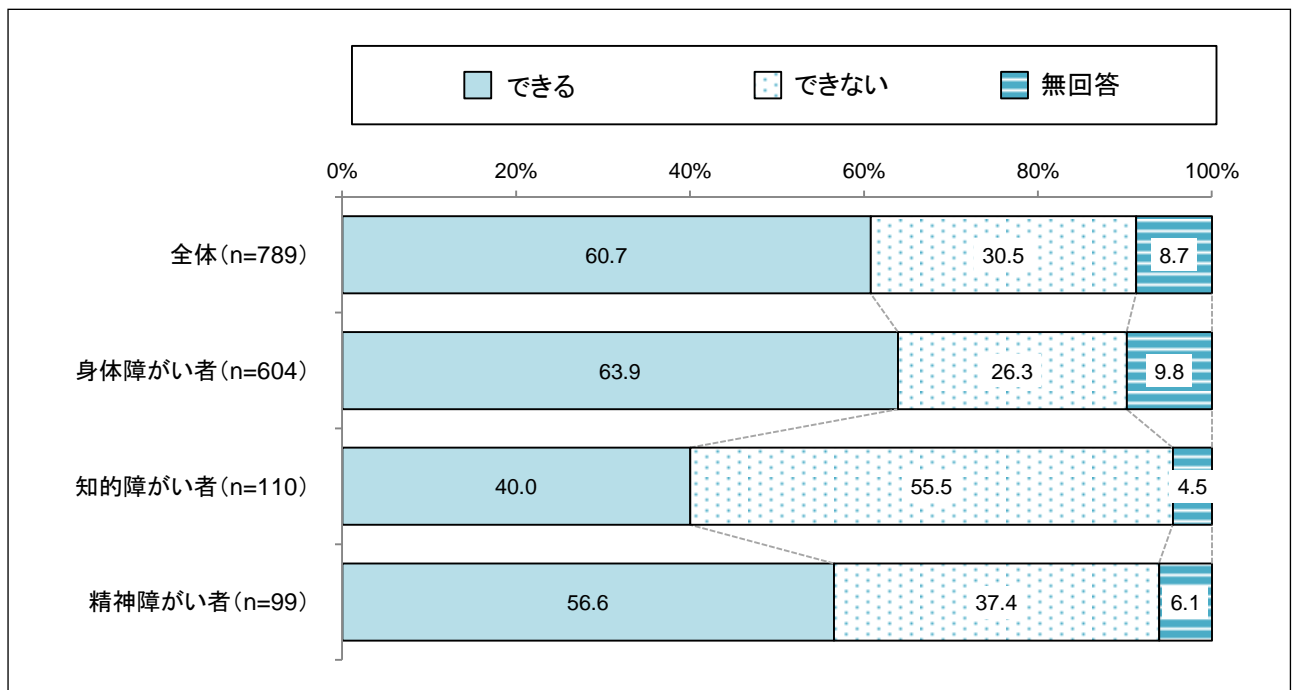
火事や地震などの災害発生時に、周囲の人に知らせることができるかについてみると、「できる」が60.7%と約6割を占めています。

【属性別の傾向】

障がい別にみると、周囲の人に知らせることが「できる」の割合は、身体障がい者では63.9%、精神障がい者では56.6%と半数を超えています。

一方、知的障がい者では、周囲の人に知らせることが「できる」割合は40.0%にとどまっており、「できない」が55.5%と過半数を占めています。

図表 111 災害時に周囲へ知らせることができるかどうか（全体、障がい別）



問 48 火事や地震などの災害発生時に、家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなただを助けてくれる人はいますか。(1つに〇)

【全体の傾向】

災害時に近所に助けてくれる人がいるかについてみると、「いる」は 23.8%に対し、「いない」は 28.9%と 5.1 ポイント上回っています。また、「わからない」は 39.3%と最も高くなっています。

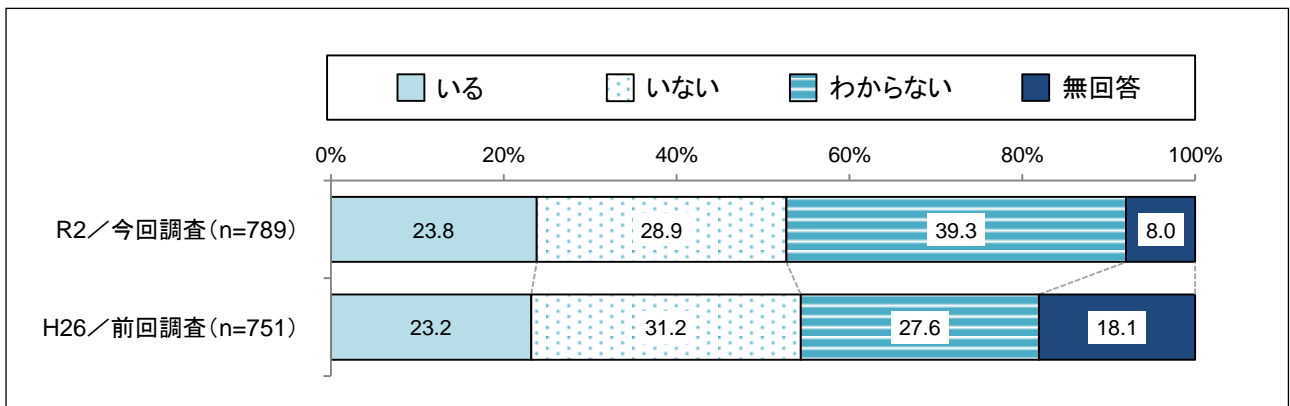
前回調査と比較すると、「いない」が 2.3 ポイント減少し、「わからない」が 11.7 ポイント増加しています。

【属性別の傾向】

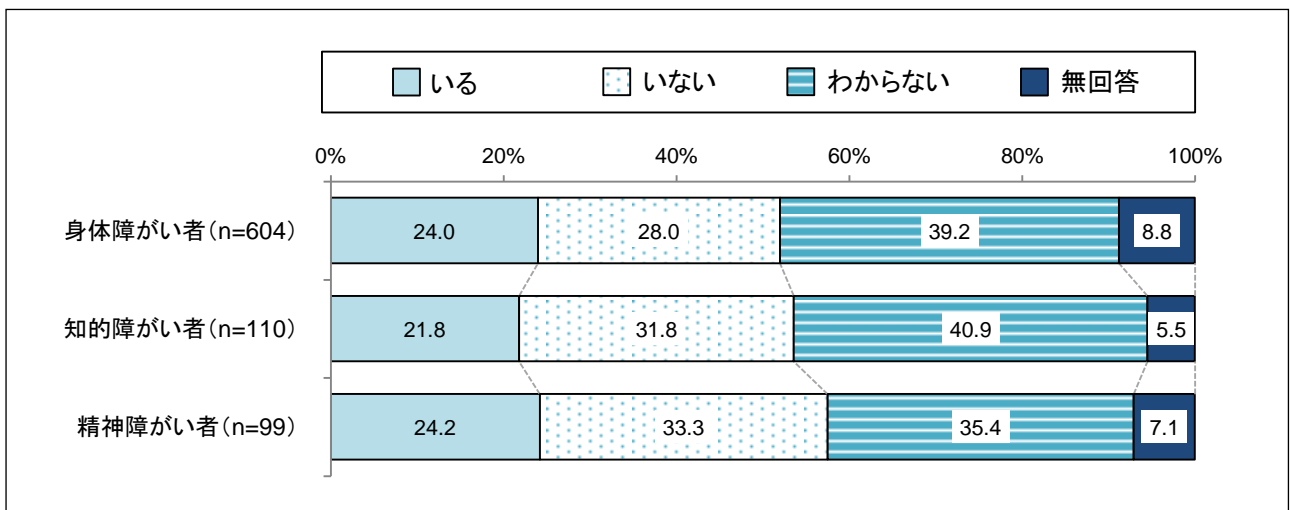
障がい別にみると、障がいの種類に関わらず概ね同様の傾向がみられ、「わからない」が最も高く、次いで「いない」、「いる」の順となっています。

また、近所に助けてくれる人が「いない」割合は、知的障がい者、精神障がい者では3割を超えています。

図表 112 災害時に近所に助けてくれる人がいるかどうかについて（全体，前回比較）



図表 113 災害時に近所に助けてくれる人がいるかどうかについて（障がい別）



問 49 あなたは災害時に地域の方に避難を手伝ってもらいたいと思いますか。(1つに〇)

【全体の傾向】

災害時に地域の方に避難を手伝ってもらいたいと思うかについてみると、「思う」が39.7%と最も高く、次いで「わからない」が36.2%、「思わない」が15.5%となっています

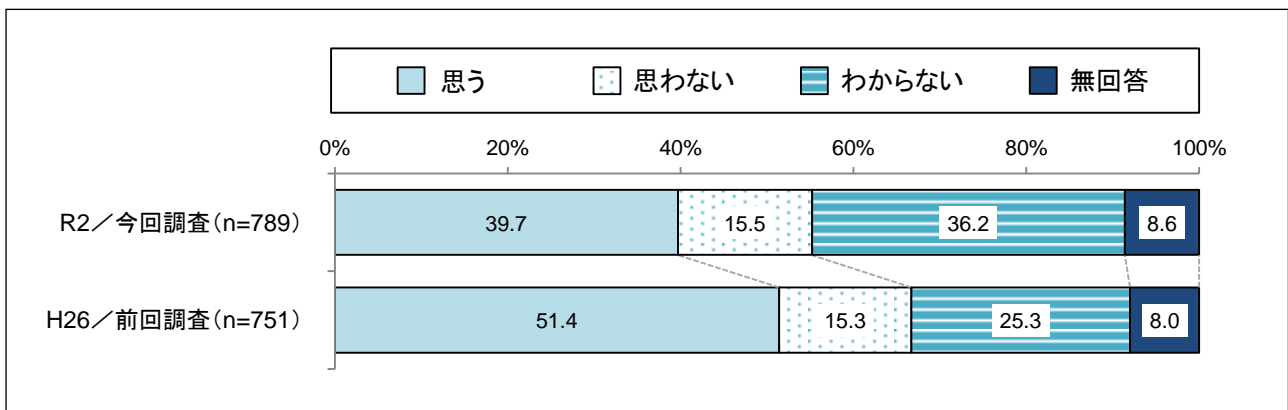
前回調査と比較すると、避難を手伝ってもらいたいと「思う」が11.7ポイント減少し、「わからない」が10.9ポイント増加しています。

【属性別の傾向】

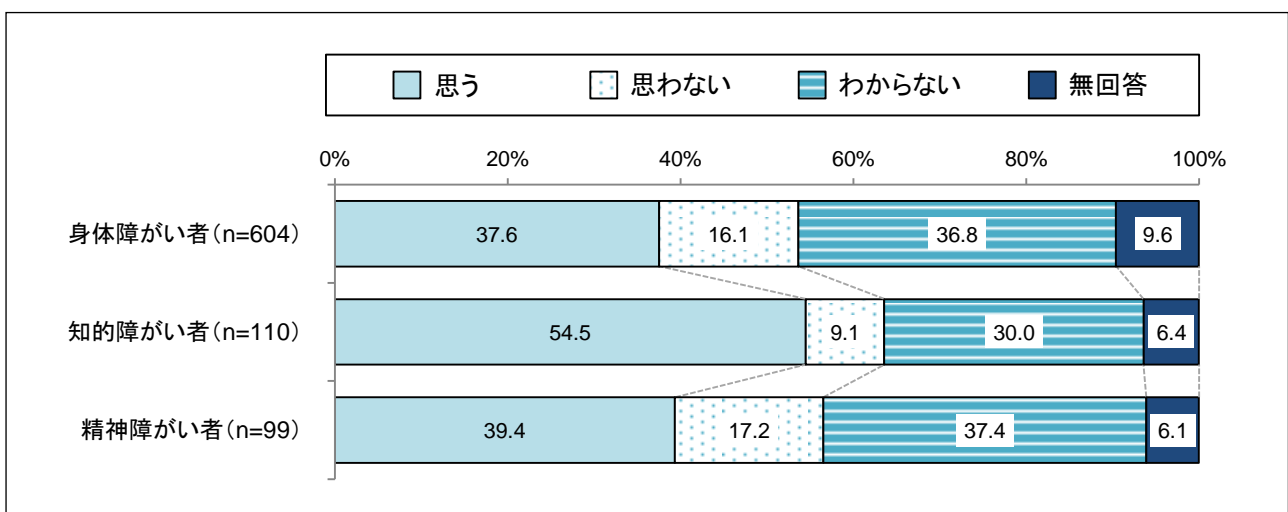
障がい別にみると、身体障がい者、精神障がい者では概ね同様の傾向がみられ、地域の人に避難を手伝ってほしいと「思う」と「わからない」の割合が僅差となっています。

一方、知的障がい者では、地域の人に避難を手伝ってほしいと「思う」が54.5%となっており、半数以上の方が避難時の支援が必要だと感じています。

図表 114 災害時に地域の人に避難を手伝ってほしいかどうかについて（全体、前回比較）



図表 115 災害時に地域の人に避難を手伝ってほしいかどうかについて（障がい別）



(7) 地域共生社会について

問 50 あなたは、世の中が地域共生社会に向けて前進していると感じますか。(1つに○)

【全体の傾向】

世の中が地域共生社会に向けて前進していると感じるかについてみると、「あまり前進していると感じない」が43.6%と最も高くなっています。さらに「全く前進していると感じない」(14.3%)を合わせた『前進していると感じない』の割合は、57.9%と5割を超えています。

一方、「とても前進している」(1.9%),「少しずつ前進していると感じる」(27.9%)を合わせた『前進していると感じる』の割合は、29.8%となっています。

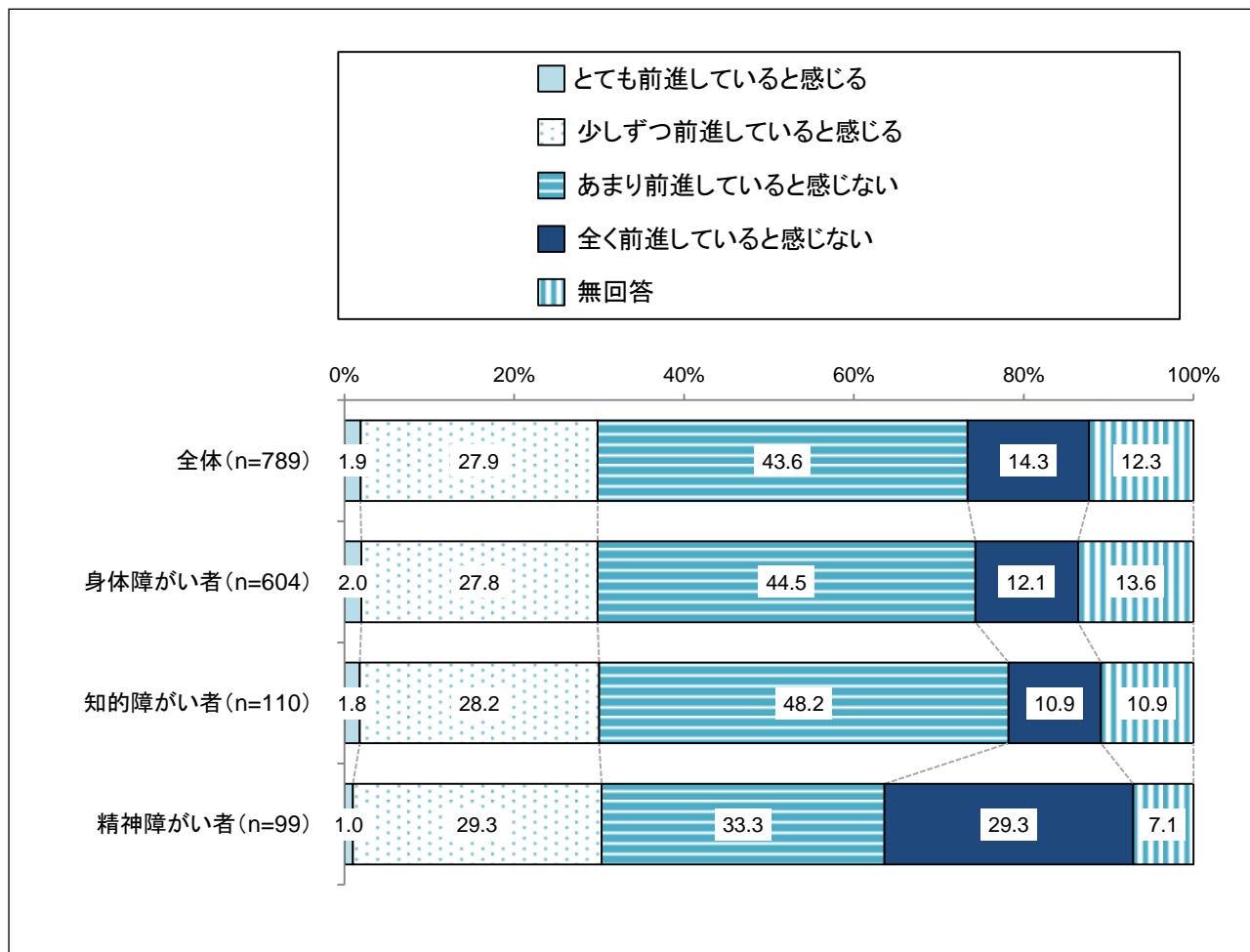
【属性別の傾向】

障がい別にみると、『前進していると感じる』の割合に大差はみられません。

一方、『前進していると感じない』の割合は、身体障がい者で56.6%、知的障がい者で59.1%、精神障がい者で62.6%となっており、精神障がい者で最も高くなっています。

また、精神障がい者では「全く前進していると感じない」の割合が29.3%となっており、身体障がい者、知的障がい者の2倍以上となっています。

図表 116 地域共生社会について（全体、障がい別）



(8) 障がい者にとって住みよいまちづくり

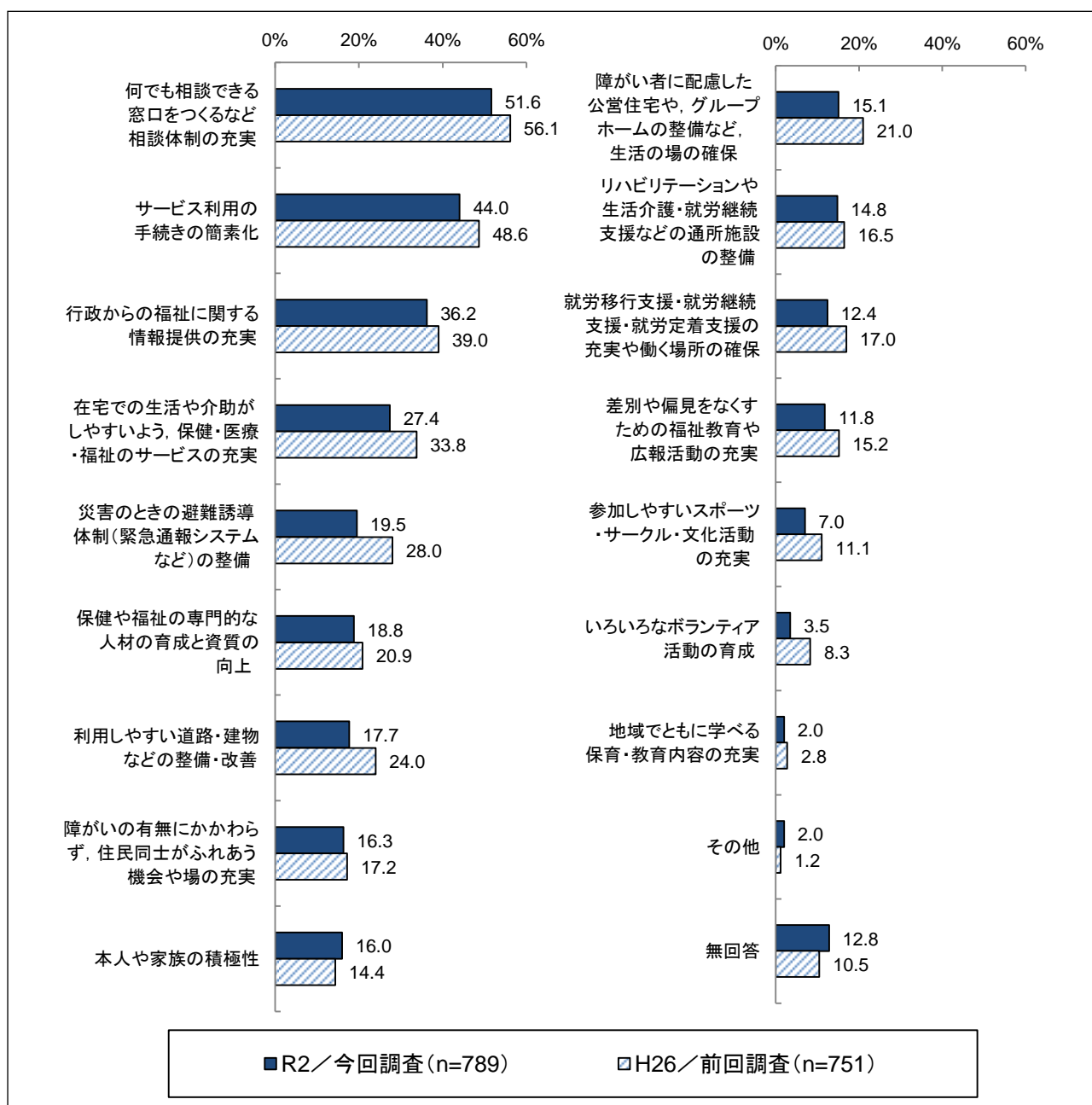
問51 障がいのある人にとって住みよいまちをつくるために、どのようなことが必要だと考えますか。(〇は5つまで)

【全体の傾向】

障がい者が住みよいまちづくりに必要なことについては、「何でも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実」(51.6%)が最も多く、次いで「サービス利用の手続きの簡素化」(44.0%)となっています。

前回調査と比較すると、「災害のときの避難誘導體制の整備」が8.5ポイント、「在宅での生活や介助がしやすいよう、保健・医療・福祉のサービスの充実」は6.4ポイント減少しています。

図表 117 障がい者が住みよいまちづくりに必要だと思うこと(全体、前回比較/複数回答)

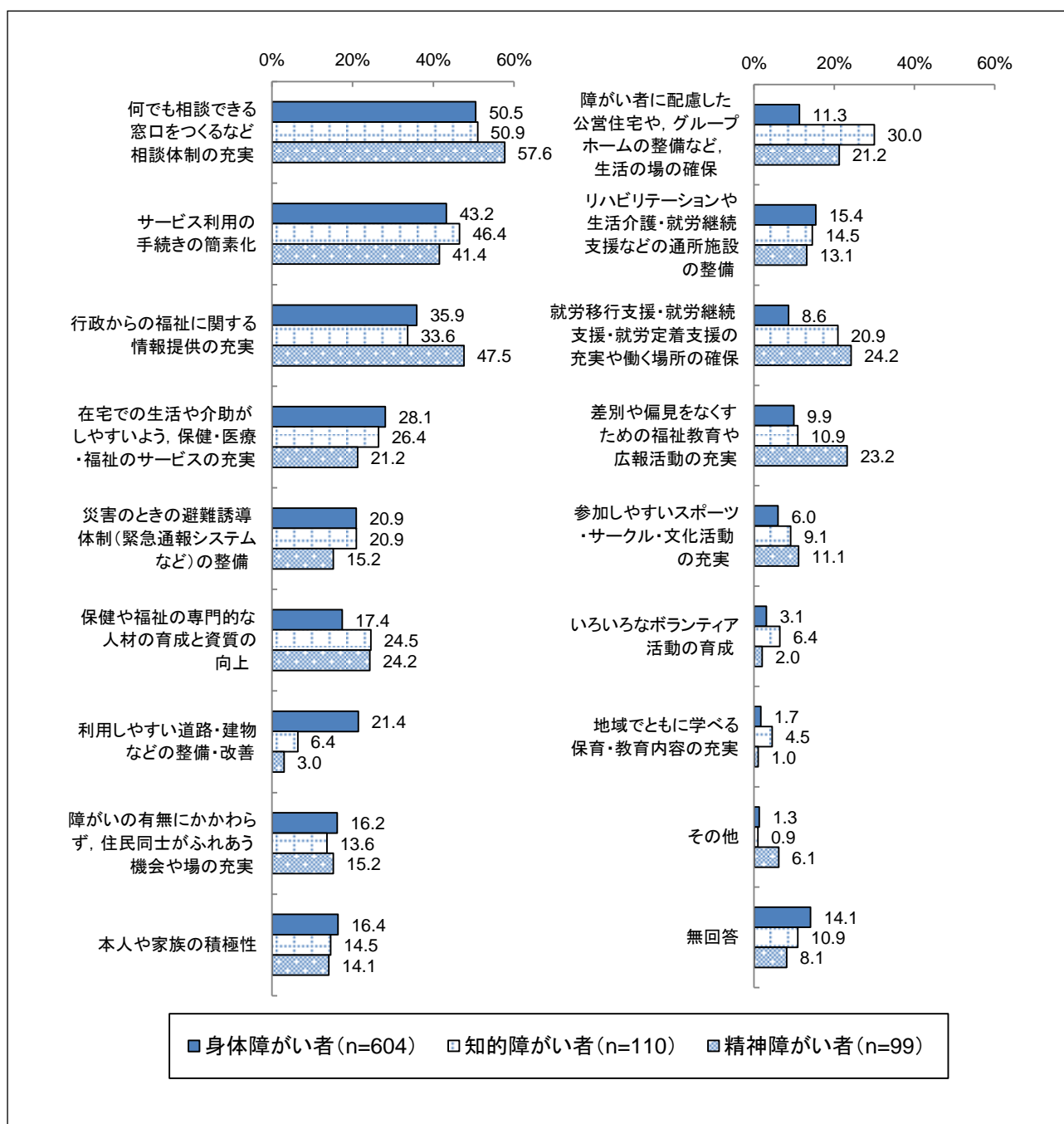


【属性別の傾向】

障がい別にみると、上位3位までの項目は障がいの種類に関わらず、全体の傾向と概ね同様となっています。

第4位の項目については、身体障がい者では「在宅での生活や介助がしやすいよう、保健・医療・福祉のサービスの充実」、知的障がい者では「障がい者に配慮した公営住宅や、グループホームの整備など、生活の場の確保」、精神障がい者では「保健や福祉の専門的な人材の育成と資質の向上」、「就労移行支援・就労継続支援・就労定着支援の充実や働く場所の確保」（同率）となっています。

図表 118 障がい者が住みよいまちづくりに必要だと思うこと（障がい別／複数回答）



9 自由記述

自由記述については、合計 94 件の意見が寄せられました。「福祉施設・設備について」が 24 件、「社会や将来についての不安など」が 20 件、「福祉サービスについて」が 17 件、「情報提供について」が 9 件、「アンケートについて」が 7 件、「行政について」が 7 件、「経済的支援について」が 6 件、「その他」が 4 件となっています。

1. 福祉施設・設備について 24 件

No.	意見	障がい種別
1	地元の駅の電車とホームの間が空いていて落ちやすくなっています。20年ほど前に私も何度か落ちて近くの駅員にお伝えしましたが、未だ何も動いてくれません。他の方も数名落ちたという話を聞きました。何とかならないでしょうか。	身体
2	今は生活保護で生活をしていますが、自宅が不便なため週に一度娘が来てくれています。スーパーも遠く左半身不随のため坂を下りたり上ったりが難しいです。	身体
3	車椅子生活ではあるが、いろいろな人にちょっとした助けを受けています。感謝しています。よく出かけるのですが道がガタガタでタイヤが滑ります。	身体
4	身体障がい者用駐車場の利用者枠を増やしてほしい(6級は対象外)。	身体
5	香川県にも聴覚障がいの人が入居できる老人ホームがほしい。	身体
6	今は自家用車に乗れるが、いずれ乗れなくなる。ぜひ家の近くに循環バスの停留所がほしい。	身体・精神
7	移動支援を家からスタートする以外にも、学校からとんでも利用できるようにしてほしい。市内にもグループホームや働く場所などを作ってほしい。	精神
8	私がかかっている病院は本当にいい病院です。是非協力を仰いでほしいし、意見を求めてほしい。	精神
9	10月に80才になりますのでいろいろな調査の問いに答えるには、年がいていて合わない間もあります。今のところ私は元気です。西庄からの連絡バスがあれば何も困ることはありません。バスをお願いします。	身体
10	坂出駅前から加茂地区までのバスがない。昔からバスが出ていなく、路線がないから外出が不便。	身体
11	災害時、車でしか避難の手段がなく避難場所もなく、途中電柱の配線が無数に張り巡らされ、行く手を阻む現状を不安に思う。(避難できない)リスク管理者の知見が不十分で対応できてない。自己判断も情報不足で不安。地域内避難場所が縄張り争いなのをご存知か？市の対応(指導を期待し)課題を考えて頂きたい。	身体・知的
12	障がい者として就職しても、健常者の1、2倍位の仕事をこなさなければならぬが、それが普通、能力不足と思う上司がいた。ですが、それを理解してくれる上司に出会い、管理職になった時、障がい者を雇用する際、事務所を車いす対応などにする改造費用などを考えると、採用に躊躇しました。	身体
13	ショートステイを利用したいが固定利用者がいる為なかなか利用できない。夜中のトイレや発作の可能性がある為事業者の方と一緒に部屋で寝てもらえるようなタイプの施設がほとんどなく、利用できない。	身体・知的
14	ベンチや夏場の日よけなど、バス待ちの際に安心して居られる、座れる場所・休める場所がないと不安で外出できない。ベンチにも日よけがないので、バス利用者が減っているのは、そのせいもあるので何とかしてほしい。	不明
15	デパートや公共施設で、赤ちゃんだけでなく大人のオムツ交換が楽にできるように配慮してほしい。障がい者用の駐車場を増やしてほしい。砂利があると車いすでは困難なので配慮してほしい。	身体・知的
16	高齢となり通院にバスを利用するので、無料化や運行の利便性の向上を切に願います。	身体
17	避難する場所がない。歩道の、段差や坂になっている所を整備してほしい。	身体
18	坂出市内にもっとグループホームを増やしてほしい。自宅に近い方が、安心感もあり挑戦もしやすい。	知的
19	障がい者虐待防止法の適用範囲に精神科病院も含めてほしい。精神科病院の閉鎖病棟こそ、虐待の温床になる可能性が高い。	精神
20	親が健康なうちに子どもを自立させたい。知的障がい者の生活の場がないので、仕事をしながら共同生活ができるような場所を整備してほしい。	知的

No.	意見	障がい種別
21	自立支援法により、高松の施設から坂出のグループホームに転所したが、戻れなくなった。坂出市では、給付金もない。入浴を週2回から3回に増やしてほしい。	知的
22	入所している施設が老朽化している。	知的
23	養護施設の充実	身体
24	市街地はバスの交通便が悪いので1日1便でもあればいいと思います。	身体

2. 社会や将来についての不安など 20件

No.	意見	障がい種別
1	風通しの良い家族福祉、医療。本音で語り合い子どもたちから学び、大人の態度、学ぶ姿勢など、背中を見つつ、声をかけあえる環境。安全な生活を皆さんとともにつなげていければいいと思います。	精神
2	他人に本人の痛みがわかってもらえない。	身体
3	メンタルの薬を服用していることを、精神科以外の病院で正直に言えません。言うと看護師さんなどの態度が悪く急変したことが、今までに何度かあったからです。でも薬の飲み合わせなどはメンタルの薬を頂いている薬局さんに尋ねますので大丈夫です。	精神
4	軽度発達障がい、グレーゾーンの子は怠けているとみられたり、とても生きづらいです。小、中、高も大学のように「クラス分け」というものが無くなればよいと思います。「地域で声を掛け合おう」「人と交わることはいいことだ」という言葉をよく聞きますが、交わることを苦手とする人をダメな人間と思う社会の雰囲気嫌です。	精神
5	会話の際に発語、発音がスムーズにできないので伝えることに困ることがあります。	知的
6	今は会社員だが、歳をとったらどうなるか少し不安。	身体
7	公共施設、コンビニなどの障がい者用駐車場に健常者が車を停めていることが多いので、一人ひとりが障がい者に配慮した行動をとってほしい。	身体
8	障がいがあるが自分のことは自分でできている。何が不自由とか感じることはない。しかし10年後15年後の自分を考えると不安は山ほどあり心配は尽きない。一方で、このようなアンケートがあると未来も明るい。未来ある子どもたちにより目を向けてあげてほしい。	身体
9	なりたくなかった障がいではありません。でも受け入れて生活していても偏見はあります。いつ、障がい者になってもいい様な世の中になればいいです。	身体
10	たまに近所で自治会活動には参加していますが、未だに近所の人から「理解が出来ないから参加は控えてくれ」と言われます。正直、自宅にて本人のみでというのも難しいと思います。自立生活は家族のみでやっていて、家族の私自身も「市のふくし課」という感じです。定年や解雇された時の再支援活動においても「不安でしかありません」というのを切実に感じます。	不明
11	現在は特に困っていることはないが、10年後80歳近くになるとどうなっているか少し不安はある。体力的な事もあるが、社会の変化についていけるか心配。	身体
12	自分がなりたくて障がい者になった人はいません。みんな頑張っています。	身体
13	私の障がいは心臓なので外見ではわからないため、障がい者の駐車場に札をつるして停めてもじろじろ見られる。階段をゆっくり歩いていたら、若いのにと言われた。	身体
14	内部障がい者に対する理解がなく、見た目判断されることが多くストレスを感じる時が多々ある。どうにかしてほしい。	身体
15	今は介護には行きたくない。様変わりし、人を変えるような事があるため行きたくない。家の事をして過ごしたい。	精神
16	定年まで40年間、民間企業で勤めましたが、頭は悪い、身体も悪い、家に資産もない。企業は利益を上げないといけないので、障がい者が生きていくのは大変です。障がい者が活躍できる社会を望みます。	身体
17	子どもが未婚なので、お互いに病気になったら共倒れになってしまう。気軽に結婚の相談ができる場所があればと思う。	身体
18	綺麗事を言っても仕方ない。その日を生きるので精一杯。	知的
19	生活する上で、色々な問題があるが解決することはない。淡々と平凡な日々を穏やかに過ごしていきたい。	知的
20	今は健聴でも、これから難聴になる人も多い。聴覚障がい者にとって住みやすい社会を作ることが、誰にとっても困らない社会を作ることになる。	身体

3. 福祉サービスについて 17件

No.	意見	障がい種別
1	難病ではありますが、固定された病状ではなく進行性で徐々に行動範囲も制限されています。時折心不全を起こしますが、病院に入院させてもらえないのが実情です。ストレスも自分で思っている以上に過剰になっているのが症状の一つであり、そういう日は一人静かに宿泊できる場所を探していますが、全くないのが10数年前からの現状です。そういった声にも耳を傾けていただきたいと思います。	身体
2	精神障がい者向けのサービスがとても少ないです。情報などもほしい。自立支援の紙が大きすぎる(お薬手帳サイズが好ましい)。障がい者手帳のパスケースがほしいが適切なサイズのものがない。障がい者年金に入りたいがどうすればよいのかわからない。坂出市は要介護の判定が厳しいと聞きました。これでは施設に入れなくて困るお年寄りが増えそう。	精神
3	他市の医療機関を受診した場合、建て替え支払いが必要。自分で手続きしないとお金が返ってこない。	身体
4	障がい者といってもタイプは多様である。サービスや福祉施設などが整っていてもそれを受け入れられない障がい者もいる。本人の行動や意識がそれを受け入れるために時間が必要な場合もある。家族の努力も大事だと思うが、支援やサービスを提供する側も忍耐力が必要である。	知的
5	デイサービスなどの利用にかかる費用を軽減してほしい。	知的
6	両親が老いた時、または亡くなった後に一人で生活する際に、様々なサービスを受け、自宅で過ごすことができるか。	知的
7	公共交通機関に精神障がい割引が何故ないのか。精神障がいの場合、病気復帰後のフォローが一年未満ぐらいで、まだ通院していて治療中なのに健常者と同じ扱いにされてつらい思いをしている。	精神
8	通院するのにタクシーチケットがほしい。	身体
9	身体上、定期的に通院する必要があり、医療費の心配をすることなく治療できるのは、とてもありがたいと痛感しています。	身体
10	民生委員の訪問が、ここ数年間一度もない。	身体
11	安否確認だけお願いします。助けが必要な際は少し寄り添ってくれたら十分、死んだらすぐ見つけてほしい。外出の際、付き添いの方の運賃も割引になるとありがたい。	身体
12	障がい者ですが、自分のことは自分でする信念で日々頑張っていますが、身体能力がだんだんなくなっているのを感じています。動けなくなってきたら、福祉サービスの充実を望む身勝手な自分が出てきます。でも、若い者に全てをすがりつくという暮らし方は嫌です。残された機能をフル回転して、最後まで頑張る決意です。どうしても何も出来なくなった時は「お願いします」と素直に言える年寄りになりたいです。	身体
13	緊急通報システムの運用開始について連絡がない。聴覚障がい者向け磁気ループは使用できるのか。携帯型ヒアリングループやコミュニケーションを積極的に活用してほしい。郵便に電話番号だけではなくFAX番号も記載してほしい。	身体
14	身体障がい者手帳を取得しても、肢体不自由の場合、介護保険の認定を受けなければ使えないサービスが多い。病名によって担当部署が変わるのは、相談や利用がしにくいので一本化してほしい。年に一回は福祉サービスの情報を郵送してほしい。	身体
15	精神障がい者のため就労に関する充実した支援。働く場所の充実、確保。精神障がい者に具体的で専門的な支援ができるスタッフの拡充。	精神
16	独居の方が認知症になったことに気が付いた時、近くに身内の人がない場合は、民生委員に市のふくし課へ連絡してもらおうと、介護保険利用などに繋げてもらえるのか。	身体
17	親も高齢化し、重度の障がい者の生活や入所先などが心配。地域の人も高齢で、頼める状態ではない。最近では災害も多いので、どうしたらいいのかと不安。このアンケートもわからない事がたくさんあった。ショートステイできる場所がない。	身体・知的

4. 情報提供について 9件

No.	意見	障がい種別
1	現在においても、発達障がいへの理解が乏しく思います。どんな困難があるのか、もっと知ってもらいたいです。	精神
2	本人が小さいので何が必要かはまだわかりませんが、ふくし課に相談した際に「今はこれが申請できます」など教えていただけたらいいなと思いました。	知的
3	情報提供がほしい。	精神
4	現在は不自由なく過ごせているが、将来不自由になった時、生活が上手に出来るように支援してくれる制度の事を教えてほしい。	精神
5	障がいを持った家族にしかわからないことがたくさんあります。日々の生活の中で、第三者がはかり知れない事ばかりです。学校でも障がい者に対する学習をしてほしい。小学生に「あいつアホや。」と目の前で言われたことが何度もあります。その子の祖父母まで、物珍しそうにこちらを見てきました。本当に支援してほしいのに、法律で認められていない等細かな規約があり、もっと現場を見てほしい。	知的
6	市・保険・医療・福祉等のサービスについて、広報を通じて相談日の周知伝達を行い、なお一層の住民との密着を図り、大いに活性化してほしい。	身体
7	身体障がい者が受けることができるサービスは、積極的に伝えてほしい。聞かなければ教えないというのは、不親切だと感じる。	身体
8	精神的な病は目に見えずらく、偏見の目がある。政府やマスコミが多くの人に「心の病」の事を伝えることが重要と強く思う。国民に「心の目」を広げることが障がい者の生きやすい日々になると思う。	精神
9	現時点では自分自身でいろんなことができています。症状が悪くなった時に積極的に利用できるサービスを受けたいです。現在私がどんなサービスを受けられるのかわからない。	身体

6. アンケートについて 7件

No.	意見	障がい種別
1	無記名回答といっても、性別、年齢、地区名、身体障がい内容を記入すれば特定できるのでは。	身体
2	自分や家族のことは、自分たちで処理できており、障がいのことは将来のこととしてあまり実感がなく、想像では回答しませんでした。	身体
3	Ⅳ問20の「今後利用したいか」については「いいえ」が多くなりましたが、現実的に今後お願いする状況になる可能性は大きいと思います。今現在はまだなんとなくかなっているのと、とにかくずっと一人で自立した生活を続けて、そのまま逝けたらという思いが強いです。Ⅵについては、よくわからないので記入できませんでした。	身体
4	設問が多すぎ、アンケートをされる側にとって大きい負担を強いたのでは。見返すエネルギーもなくなりました。Ⅳの間については専門的過ぎ、今後については特に答えられないものがある。一般的な傾向をつかみなかったのですが、特に障がいの程度は種々様々です。	身体
5	アンケートには毎回協力していますが、それでどうなったのかかも、何の役に立ったかとかのお知らせもない。少しはこうしますなど報告がほしい。わかりづらい箇所があります。	身体
6	こういうアンケートは大変時間も取られ労力を使っています。しかし、全くフィードバックもなく、協力してませんが不満です。解答すべきかわかりやすくしてほしい。途中わかりにくく、やめたくになります。	身体
7	調査内容についてわかりにくい部分があった(問19、27Ⅵ障がい児の部分)。	身体

7. 行政について 7件

No.	意見	障がい種別
1	障がい者福祉を充実させたいのならばPTAなどの活動は全て行政で管理してほしい。行政が関わらない強制的な社会参加で期待値の高い参加を求められても非常に困る。本当にきつい。	精神
2	私は障がい者ではあるが、普通に暮らしている。体調には気を配り、食事も自分で管理できているが、最近、地震や大雨などの災害が多く一人で遠くまで走って逃げることはできない。自治会などでそういった体制がとれていないのが不安である。それと、生体肝移植をして免疫抑制剤を服用しているので、坂出の病院の先生方は診察を嫌がる。仕方がないと思うが、喘息が出た時でも今は高松まで通院している。坂出市立病院がどんな病でも十分機能してくれるとありがたい。ボランティアで要約筆記をしているが、坂出からの依頼は少ないので難聴者は大丈夫なのか心配している。アンケートの集計後はひとつずつでもいいので何か行動を起こしてほしい。	身体
3	災害が起こった時に一人暮らしの人に対し、市の職員が救助してほしい。	身体
4	何故、労災年金の定期報告はなくなったのですか。	身体
5	アンケートが完了したのち、実行を急いでください。	身体
6	1.マイナンバーカードと障がい者手帳の一体化。2.法定雇用率を達成法人を独自の基準で公表してもらいたい。3.反社会的勢力の福祉サービス利用に対して厳しい姿勢を 4.坂出市独自のサービスが見えない。	身体
7	自治会の加入を断られているので、市の広報が届かず図書館などに取りに行っている。他の市町村は災害時に向けて訓練をしたり、地域で助け合えるようになってきているが住んでいる地域は家を建てた後、自治会には入れないといわれた。このような地区があることも知ってほしい。もし災害が起きた時、近くの避難所に避難しても自治会員優先などには絶対にしないでほしい。	身体

8. 経済的支援について 6件

No.	意見	障がい種別
1	精神障がい者2級認定を受けているにもかかわらず、せめて他人に迷惑をかけなくてもいいような金銭支援をしてもらいたい。母の年金と父の遺産があるのだからいいだろうと決めつけられるのはつらいです。生活は相当努力して克服しようとしても苦しいです。	精神
2	坂出市の福祉年金が「1000円/月」では少なすぎる。体調が悪いときにタクシーを使う料金にもならない。月に1000円とは何用として考えて決まったのか、子どもの小遣いより少ない。	身体
3	特に困っていることは、月に一度の通院にタクシーを使わなければならず金銭的に負担が大きいことです。遠い場所への買い物なども手段が無く困っています。	精神
4	障がいに対する偏見がまだまだ強いので、地域において障がいがあることを言いにくい環境である。もっと普通に生活が送れたいと思う。就労に関しても障がいがあることで自己都合の退職となるケースもある。経済面の不安は生活していく上で一番大きい。	精神
5	助成金を増やしてほしい。	身体
6	行動が出来ない人には、お金の支援をお願いします。	身体

9. その他 4件

No.	意見	障がい種別
1	これから夫婦ともに高齢になるのでなるべく若い人に負担をかけないように、自分のことは自分でできるように今から気を付けていきたいものです。	身体
2	新型コロナウイルス感染症に関する検査体制の強化をお願いしたい。	身体
3	私自身がもう少し若く健全な体であればボランティアで話し相手や家事の補助などをしたいと思う。60歳の時にヘルパーの資格を取ったが、飾りになってしまった。さみしいですね。	身体
4	坂出市がもっと住みやすい町になりますように。	精神